

KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v

KN2132/KN4116/KN4132

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン 株式会社において、KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v および KN2132/KN4116/KN4132 の取り扱いの便宜を図るため、製品同梱 英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、製品同梱の英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術サポート部

TEL :03-5323-7178

MAIL :support@atenjapan.jp

2009 年 9 月 8 日

ファームウェア Ver. 1.1.106 版

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付随的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～3 年間	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～2 年間	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類は DOA・初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。

※本保証期間は 2007 年 9 月 1 日以降にご購入された製品に適用されます。それ以前に購入された製品については、保証期間は 1 年間です。

【補足】

- ・本規定は ATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。が、それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を、必ずしも満たすものではございません。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予想できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品の KVM スイッチ、キーボード・マウスコンバータ、キーボード・マウスエミュレータ、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術サポート部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業推進部 TEL:03-5323-7170 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術サポート部 TEL :03-5323-7178 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
FCC	9
RoHS	9
SJ/T 11364-2006	10
安全にお使い頂くために.....	11
一般的な注意事項	11
ラックマウントに関する注意事項	13
同梱品.....	14
本マニュアルについて.....	15
マニュアル表記について.....	17
用語について.....	18
第1章 はじめに.....	19
製品概要.....	19
特長	23
全モデル共通.....	23
バーチャルメディア対応モデルのみ.....	25
システム要件	26
リモートクライアントコンピューター	26
ローカルサーバー	27
ビデオ	27
コンピューターモジュール.....	28
OS	30
Web ブラウザ.....	30
製品各部名称	31
KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v フロントパネル	31
KN2132/KN4116/KN4132 フロントパネル	31
KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v リアパネル.....	34
KN2132/KN4116/KN4132 リアパネル	34
第2章 セットアップ方法.....	37

概要	37
セットアップの前に	37
デバイスの卓上設置とラックマウント	38
卓上設置	38
ラックマウント	39
単体構成でのセットアップ	45
KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v 単体構成 接続図	48
KN2132/KN4116/KN4132 単体構成 接続図	49
コンピューターモジュール 接続図	50
2 段階カスケード接続のセットアップ	51
2 段階カスケード接続 接続図	53
ホットプラグ	54
モジュール ID 機能	54
製品の電源 OFF/再起動	55
ポート ID の割り当て	55
ポートの選択	55
第 3 章 スーパーアドミニストレーターによる 初期設定	56
概要	56
初回使用時に必要なセットアップ	56
ネットワークの設定	59
スーパーアドミニストレーターのユーザーネーム/パスワードの変更	60
その他の管理メニューを操作する場合は	62
第 4 章 ログイン	63
概要	63
ローカルコンソールからのログイン	63
ブラウザからのログイン	64
Windows クライアントからのログイン	66
接続画面	67
Java クライアントからのログイン	70
第 5 章 ユーザーインターフェース	72
概要	72
Web ブラウザメイン画面	72
画面内の構成要素	73
タブメニュー	74
クライアントアプリケーションのメイン画面	76
ローカルコンソール GUI メイン画面	78

コントロールパネル	80
Windows クライアントコントロールパネル	80
コントロールパネルの機能	82
Macros	85
Video Settings	94
Message Board.....	99
Virtual Media.....	102
Zoom.....	107
On-Screen Keyboard.....	108
Mouse Pointer Type	109
Mouse DynaSync Mode	110
コントロールパネルの環境設定	113
Java コントロールパネル	116
第 6 章 Port Access.....	117
概要.....	117
Web ブラウザインターフェース.....	117
GUI インターフェース.....	118
ポート選択バー.....	119
ポート選択ツリー	119
ポートビュー	120
ポートユーティリティー.....	120
ポートネームの設定.....	126
Scan	127
Array.....	127
Filter.....	128
Connections メニュー.....	129
デバイスレベル	129
ポートレベル.....	131
History メニュー	133
Favorites メニュー	134
User Preferences メニュー	137
Log メニュー.....	140
Sessions メニュー.....	143
Access メニュー.....	144
デバイスレベル	144
ポートレベル.....	146

変更内容の保存	147
第 7 章 User Management	148
概要	148
Web ブラウザインターフェース.....	148
GUI インターフェース.....	149
Users.....	151
ユーザーの作成	151
ユーザーアカウントの編集	155
ユーザーアカウントの削除	155
Groups.....	155
グループの作成.....	156
グループの編集.....	158
グループの削除.....	158
ユーザーとグループ	159
Users メニューを使ってユーザーをグループに割り当てる場合	159
Users メニューを使ってグループからユーザーを削除する場合	160
Groups メニューを使ってユーザーをグループに登録する場合	161
Groups メニューを使ってグループからユーザーを削除する場合	162
デバイスの割り当て.....	163
Users メニューを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合	163
Groups メニューを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合	165
第 8 章 Device Management	166
概要	166
Web ブラウザインターフェース.....	166
GUI インターフェース.....	167
Device Information メニュー	168
Network メニュー	172
Service Ports	173
NIC Settings.....	174
Network Transfer Rate	175
ANMS メニュー	176
IP Installer	177
SMTP Settings	177
Log Server	178
SNMP Settings.....	178
Syslog Server.....	179

Disable Local Authentication	179
RADIUS Settings.....	180
LDAP/LDAPS Authentication and Authorization Settings.....	181
CC Management Settings	181
OOBC メニュー.....	182
Security メニュー	183
IP アドレス/MAC アドレスによるフィルタリング	184
Login String.....	185
Account Policy.....	186
Encryption	187
Private Certificate	187
Customization メニュー	189
Login Failures.....	189
Working Mode	190
その他のメニュー	191
Date/Time メニュー.....	193
Time Zone.....	194
Date	194
Network Time	194
第 9 章 Maintenance.....	195
概要.....	195
Web ブラウザインターフェース.....	195
GUI インターフェース.....	196
画面レイアウト.....	197
ファームウェアファイル	197
オプション	197
メインパネル	198
メインファームウェアのアップグレード	199
コンピューターモジュールのファームウェアアップグレード	200
ファームウェアアップグレードのリカバリー	202
コンピューターモジュールのファームウェア アップグレードリカバリー	202
Backup/Restore メニュー.....	203
第 10 章 Download	205
概要.....	205
第 11 章 ポート操作.....	207
概要.....	207

ポートツールバー	208
ツールバーアイコン	210
ツールバーホットキーによるポート切替	211
「Port Access」タブの再呼び出し	213
OSD ホットキー一覧表	213
パネルアレイモード	214
パネルアレイツールバー	215
マルチユーザーによる操作	216
ユーザーとバス	218
第 12 章 ログサーバー	219
インストール	219
ログサーバーの起動	221
メニューバー	222
Configure	222
Events	223
Options	226
Help	226
ログサーバーメイン画面	227
概要	227
リストパネル	228
イベントパネル	228
第 13 章 LDAP サーバーの設定	229
はじめに	229
Windows 2003 サポートツールのインストール	229
Active Directory スキーマスナップインのインストール	230
スタートメニューのショートカット作成	230
Active Directory スキーマの拡張・更新	231
新規属性の作成	231
新規属性によるオブジェクトクラスの拡張	233
Active Directory ユーザーの編集	236
付録	240
製品仕様	240
KN2124v/KN4124v	240
KN2140v/KN4140v	243
KN4116	246
KN2132/KN4132	249

トラブルシューティング	252
製品全般に関するトラブルシューティング	252
マウスに関するトラブルシューティング	255
バーチャルメディアに関するトラブルシューティング	257
Web ブラウザに関するトラブルシューティング	258
Windows クライアントに関するトラブルシューティング	259
Mac に関するトラブルシューティング	260
Java クライアントに関するトラブルシューティング	261
Sun に関するトラブルシューティング	262
ログサーバーに関するトラブルシューティング	263
パネルアレイモードに関するトラブルシューティング	264
IP アドレスの設定	265
ローカルコンソール	265
IP インストーラー	265
ブラウザ	267
ポートフォワード	268
PPP モデム操作	269
基本セットアップ	269
ダイヤルイン接続 セットアップ例 (Windows XP)	271
KA7140 の設定および操作	272
設定方法	272
操作方法	274
KA7140 ピンアサイン	274
その他のマウス同期方法	275
Windows	276
Sun/Linux	278
その他のビデオ解像度の設定	279
信頼された証明書	281
概要	281
証明書のインストール	282
証明書のインストール完了	283
ファンの位置と速度	284
ファンの位置	284
ファンの速度	284
温度センサーの位置	285
ログイン情報の消去	286

工場出荷時のデフォルト設定	288
シリアルアダプターのピンアサイン	288
対応 KVM スイッチ	289
バーチャルメディア対応	289
Windows クライアント (Web ブラウザ版、アプリケーション版共通)	289
Java クライアント (Web ブラウザ版、アプリケーション版共通)	290

FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

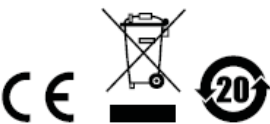
本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

- : 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。
- : 表示符合欧盟的豁免条款，但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。
- ×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



安全にお使い頂くために

一般的な注意事項

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品は相間電圧 230V の配電装置向けに設計されています。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせる適切な処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。

- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ ホットプラグ対応パワーサプライの取り付け、または取り外しする場合は、以下の注意事項に従ってください。
 - 電源ケーブルを接続する前に、パワーサプライのセットアップを行ってください。
 - パワーサプライを取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。
 - お使いのシステムが複数のパワーサプライをお使いである場合、パワーサプライからすべての電源ケーブルを抜いてお使いのシステムから切り離してください。
- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と記載されている RJ-11 ケーブルを電話回線用モジュージャックに接続しないでください。

ラックマウントに関する注意事項

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業前にフロントとサイドのスタビライザーをシングルラックに取り付けるか、多機能ラックをフロントスタビライザーに取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押してラックからデバイスの出し入れをする際にはスライドレールに指を挟まないようご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、注意してレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

本製品のパッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v、KN2132/KN4116/KN4132
KVM Over the NET™ ×1
- ◆ SA0142 シリアルアダプター(製品側 : RJ-45 メス、シリアルデバイス側 : DB9 オス) ×2
- ◆ 接地線 ×1
- ◆ 電源ケーブル(KN2132/KN4116/KN4132 のみ) ×1
- ◆ 電源ケーブル(KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v のみ) ×2
- ◆ コンソールケーブル(KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v のみ) ×1
- ◆ ラックマウントキット ×1
- ◆ フットパッドセット(4 個入) ×1
- ◆ 英語版ユーザーマニュアル ×1
- ◆ 多言語版クイックスタートガイド ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v、KN2132/KN4116/KN4132 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

- 第1章 はじめに:** 製品の機能の概要および各部名称について説明します。
- 第2章 セットアップ方法:** 製品の基本的なハードウェアセットアップの手順や簡単な操作方法について説明します。
- 第3章 スーパーアドミニストレーターによる初期設定:** 製品のネットワーク環境の設定、デフォルトユーザーのアカウント/パスワードの変更等、スーパーアドミニストレーターが製品を最初に利用する際に必要となるセットアップ方法について説明します。
- 第4章 ログイン:** ローカルコンソール、Web ブラウザ、専用アプリケーションを使った製品へのアクセス方法について説明します。
- 第5章 ユーザーインターフェース:** 製品の GUI メニューの各項目について説明します。
- 第6章 Port Access:** 「Port Access」メニューの詳細と、ポート操作に関する項目の設定方法について説明します。
- 第7章 User Management:** アドミニストレーター/スーパーアドミニストレーター向け操作である、ユーザーやグループの作成、変更、削除、また、ユーザーのグループの登録の各方法について説明します。
- 第8章 Device Management:** スーパーアドミニストレーター向け操作である、デバイスの環境設定の方法について説明します。
- 第9章 Maintenance:** 製品や、製品に接続されているコンピューターモジュールのファームウェアアップグレードの方法について説明します。

第10章 Download: スタンドアロンタイプアプリケーションである、Windows クライアント、Java クライアント、ログサーバー、Power Over the NET™のダウンロード方法について説明します。

第11章 ポート操作: 製品に接続されているデバイスへのアクセスおよび操作の詳細方法について説明します。

第12章 ログサーバー: ログサーバーのインストールおよび設定方法について説明します。

第13章 LDAP サーバーの設定: LDAP/LDAPS を使用した認証方法、Active Directory や OpenLDAP を使った権限設定の方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。



◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。



矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Runを選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

用語について

本マニュアルでは、「ローカル」、「リモート」という用語を使って製品の構成を表しています。それらの用語が示す意味は以下のとおりです。

- ◆ 「ローカル」は、ユーザーが操作する側を指します。そのユーザーが製品の脇にあるローカルコンソール側で操作しても、地球の裏側からログインしても、ローカル側から操作していることになります。
- ◆ 「リモート」は、製品にコンピューターモジュール経由で接続されているデバイス側を指します。(例:リモートサーバー)

第1章 はじめに

製品概要

KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v、KN2132/KN4116/KN4132 は、ローカル/リモートユーザーが1コンソールから複数のサーバーを参照したりアクセスしたりすることを可能にするデジタル KVM スイッチです。単体構成の場合は最大 40 台のサーバーを、また、16 ポートの対応 KVM スイッチを2段階にカスケード接続した場合は、最大 640 台のサーバーをそれぞれ操作することが可能です。

本製品は、対応バス数と KVM ポート数に応じて以下のラインナップを提供しております。

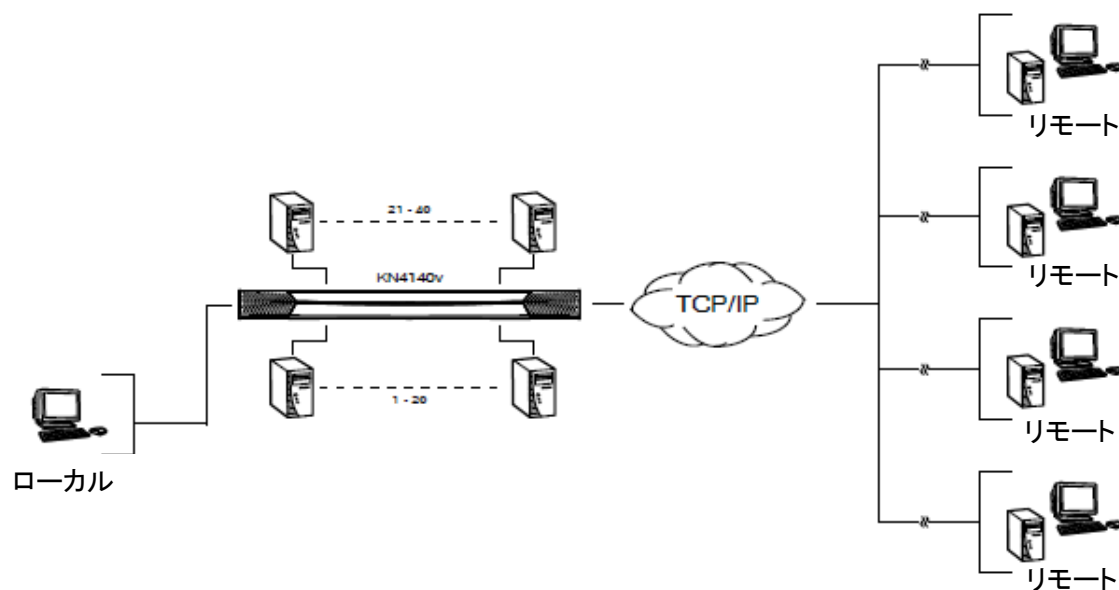
型番	対応バス数	KVM ポート
KN2124v	ローカル : 1、リモート : 2	24
KN2140v	ローカル : 1、リモート : 2	40
KN4124v	ローカル : 1、リモート : 4	24
KN4140v	ローカル : 1、リモート : 4	40
KN2132	ローカル : 1、リモート : 2	32
KN4116	ローカル : 1、リモート : 4	16
KN4132	ローカル : 1、リモート : 4	32

各バスとも個別のユーザーセッションに対応していますので、ローカルサーバーに対して、最大 3 バス(KN2124v/KN2140v/KN2132)、または 5 バス(KN4124v/KN4140v/KN4116/KN4132)の個別接続を同時に行うことができます。

製品は通信プロトコルとして TCP/IP を使用していますので、LAN、WAN、またはインターネットに接続できる環境であればどこからでも - オフィスや街角からでも IP アドレスひとつでアクセスすることができます。リモートユーザーは Web ブラウザやスタンドアロンアプリケーションである Windows クライアント、Java クライアントの各専用ツールを使って製品にログインすることが可能です。とりわけ、Java クライアントは Sun Java Runtime Environment(JRE)が動作するプラットフォームであれば、どのような OS であっても動作が可能です。クライアントツールを使用することによって、製品に接続されているコンピューターとキーボード、ビデオ、マウスの各信号を、ローカルに

セットアップされた KVM スイッチを直接操作しているときと同様の感覚でやり取りすることが可能です。

リモートバスは最大 32 ユーザーで共有することができます。ユーザー間でのポート共有をスムーズに行えるように、メンバー間の対話を可能にするメッセージボード機能を提供しています。



本製品の導入によって、アドミニストレーターは GUI アプリケーションのインストールや実行から、BIOS レベルのトラブルシューティング、定期モニタリング、同時メンテナンス、システム管理、再起動、起動前の機能に至るまで、あらゆる運用業務を簡単に行うことができます。

ローカルコンソールは、キーボードによるホットキー、または、フルスクリーン対応の GUI 画面を使って操作することができます。

製品に接続されたサーバーの画面のモニタリングを容易にするために、便利なオートスキャン機能を提供し、ユーザーが定義した時間間隔でポートを自動的に切り替えて表示します。また、パネルアレイモードを利用すると、最大 40 ポートのサーバーのデスクトップ画面を同時に表示することも可能です。

製品は RJ-45 コネクタを有し、カテゴリ 5e 以上に対応した LAN ケーブルを使用してサーバーを接続します。この省スペース設計によって、わずか 1U の KVM スイッチに 16/24/32/40 ポートを搭載することに成功しました。またネットワーク接続にも LAN ケーブルを使用しますので、TCP/IP ネットワークが利用できる環境であれば、簡単に導入いただけます。

セットアップに必要な作業は、必要なケーブルを適切に接続するだけです。簡単で時間もかかりません。キーボードの入力信号はそのまま製品に送られますので、ソフトウェアの複雑なセットアップも不要。互換性の問題に悩まされることもありません。

ファームウェアはインターネット経由でアップグレードできますので、最新版を弊社 Web サイトからダウンロードし、製品に適用することで、新しい機能をご利用いただけます。

先端のセキュリティ機能を搭載した本製品を導入することで、スピード、信頼性、費用対効果のいずれの点においても、最も優れた方法で各地に分散する多数のサーバーのリモート管理を実現します。

本製品には、アダプターID、OS、キーボード言語、アダプター名、オプションモード等のポート情報を格納できるアダプターID 機能に対応していますので、コンピューターモジュールを別のポートに付け替えると、本体側で設定を変更することなくそのまま使用することができます。

最新のバーチャルメディア機能対応モデル KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v では、リモートアクセスしているコンピューター上の DVD、CD-ROM 等のメディアを、KVM スイッチ配下のサーバーにマウントして使用することが可能です。この機能によって、ファイル転送、アプリケーションや OS の更新、診断プログラムの実行が簡単に実行できます。TCP/IP ネットワークが利用できる環境であれば、ユーザーがどこにいても、製品に接続されたサーバーのアップグレードが可能です。

また、KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v はデュアル電源対応にも対応していますので、片方の電源に問題が生じた場合でも、もう片方の電源が自動的に連動し、製品への電源供給が継続されます。さらに、電源の二重化によってサーバールームの電源障害による影響を避けることも可能です。お使いのサーバールームに 2 つ以上の電源がある場合、製品の電源ケーブルを別の電源に接続しておくと、電源を二重化することが可能ですので、サーバールームの電源が電力不足になった場合でも、自動的にもう片方の電源を使うことで、動作を続けることができます。

KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v は、温度センサーを 4 つ搭載し、6 つのファンを制御します。これらのセンサーは、サーバールームの気温に応じてファンが適切なスピードで稼働するように自動的に調節しますので、エネルギーを有効活用できるだけでなく、ファンやスイッチをより長い間お使いいただくこともできます。

また、KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v は、オーディオ信号にも対応しています。ローカル側はスピーカーとマイク、また、リモート側はスピーカーの使用がそれぞれ可能です。

特長

全モデル共通

- ◆ 16/24/32/40 ポート搭載リモートアクセス対応デジタル KVM スイッチ - 単体構成の場合は 16/24/32/40 台のサーバーを、2 段階のカスケード接続の構成の場合は最大 640 台のサーバーをそれぞれ操作することが可能
- ◆ 10/100/1000Mbps 対応ネットワークインターフェースを 2 ポート搭載 - ネットワークの二重化や異なる IP アドレスの設定が可能
- ◆ 最大 5 バスセッション - ローカルは 1 名、リモートは 2 名(KN2132/KN2124v/KN2140v) / 4 名(KN4116/KN4132/KN4124v/KN4140v)のユーザーが別々のポートに同時接続することが可能。最大 32 ユーザーによるリモートバスの共有が可能
- ◆ マルチユーザー(最大 64 アカウント)対応 - 最大 32 ユーザーによるリモートバスの共有が可能
- ◆ LAN、WAN、インターネット経由でサーバーへのリモートアクセス - 時間や場所を問わず、製品にアクセスすることが可能
- ◆ マルチプラットフォーム対応 - Windows、Mac、Sun、Linux、VT100 ベースのシリアルデバイス対応
- ◆ RJ-45 コネクタとカテゴリ 5e 対応 LAN ケーブルを使用する設計により、作業効率の向上に貢献する快適な作業環境を提供 - PS/2、USB、Sun Legacy(13W3)、シリアル(RS-232) 各種インターフェースとの接続が可能
- ◆ ローカルコンソールは PS/2、USB のキーボード・マウスの使用が可能
- ◆ マルチレベルのユーザー権限 - スーパーアドミニストレーター/アドミニストレーター/ユーザー/ビューワー。製品の最大設定可能ユーザー数の範囲であれば、各レベルのユーザー数の上限なし
- ◆ 外部認証対応 - RADIUS、LDAP、LDAPS、Active Directory
- ◆ パスワード保護や暗号化技術等の高度なセキュリティ機能 - 1024 bit RSA、168-bit 3DES、256 bit AES、128 bit SSL
- ◆ 柔軟性の高い暗号化機能 - キーボード/マウス、ビデオ、バーチャルメディアの各信号は個別に暗号化が可能 (56-bit DES、168-bit 3DES、256-bit AES、128-bit RC4、ランダムより選択)
- ◆ 対応プロトコル - 10Base-T、100Base-T、1000Base-T 自動認識、TCP/IP、HTTP、DNS、DHCP、PPP、UDP、ARP、Ping
- ◆ Web ブラウザを使ったリモートアクセス - 事前に Active X や Java をインストールしなくても、

Web ブラウザだけで製品の操作が可能

- ◆ トータル Web ソリューション - Windows Active X 版と Java 版のビューワーを提供。同一セッションからでも複数のビューワーを起動し、複数のポートを操作することが可能
- ◆ クライアント側の Web ブラウザを自動検出し、環境に応じて Java ビューワーまたは Active X ビューワーを起動 - ビューワーの種類はユーザーが選択することも可能
- ◆ ブラウザアクセスの無効化が可能 - ブラウザを使用しない環境のために、Windows/Java 版の GUI プログラムを提供
- ◆ ユーザーフレンドリーで使いやすいフルスクリーン GUI、マジックコントロールパネル、ツールバー
- ◆ フルスクリーン表示やリサイズが可能なデスクトップ画面 - フルスクリーンモードではサーバーのデスクトップ画面をユーザーのモニターに合うように調整が可能
- ◆ USB マウスの自動同期機能 - ローカル/リモートのマウスは自動同期するため、手動による再設定が不要
- ◆ パネルアレイモード - リモートアクセス時のディスプレイ表示を最大 40 分割(単体構成)/42 分割(カスケード接続)して、複数のサーバーの画面を同時に表示
- ◆ リモートユーザー間のコミュニケーションツールとして使用できるメッセージボード機能
- ◆ 多言語対応ソフトウェアキーボード搭載
- ◆ 帯域制御機能 - ビデオ画質は帯域幅の変化に応じて自動調整。モノクロ色深度設定、データ圧縮率の閾値/ノイズ設定は環境に合わせて変更が可能
- ◆ 解像度 - 1,600×1,200@60Hz、32-bit 色深度(ローカルコンソール)/1,600×1,200@60Hz、24-bit 色深度(リモートコンソール)
- ◆ ALTUSEN CC(Control Center)統合管理システム対応
- ◆ Java 経由でリモート電源管理デバイス Power Over the Net™へのアクセスが可能
- ◆ PPP モデムダイヤルイン/ダイヤルバック接続対応 - 低帯域環境での使用も可能
- ◆ セッション終了機能 - アドミニストレーターはユーザーセッションを手動で終了することが可能
- ◆ Windows ベースのログサーバー、イベントログ保存、Syslog 対応
- ◆ システム設定やユーザーアカウントの設定情報はバックアップ/リストア可能
- ◆ SNMPトラップ、SMTP アラート通知対応
- ◆ プライベート CA 認証対応
- ◆ RTC 搭載 - 製品に電源が入っていない場合でもタイマーを作動
- ◆ リモート管理ツールによるファームウェアのアップグレードに対応
- ◆ アダプターID、終了マクロ、キーボードパススルー、BIOS レベルの操作に対応

バーチャルメディア対応モデルのみ

バーチャルメディア対応 KVM Over the NET™(KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v)の特長は以下のとおりです。

- ◆ オーディオ対応 - ローカルコンソール側はマイク・スピーカーが、ローカルクライアントコンピュータ側はスピーカーがそれぞれ使用可能
- ◆ デュアル電源対応 - ログおよびユーザーインターフェースには電源状態を表示
- ◆ バーチャルメディア対応
- ◆ ファンスピード自動調整機能 - 温度に応じてファンスピードを自動調整

システム要件

リモートクライアントコンピューター

リモートクライアントコンピューターとは、インターネット経由で製品にログインする際に使用されるコンピューターのことを指します (p.18「用語について」参照)。これらのコンピューターには以下のハードウェア環境が必要です。

- ◆ プロセッサが Pentium III 1GHz 以上、解像度が 1,024×768 以上のコンピューターをお使いください。
- ◆ 128-bit SSL 暗号化通信に対応している Web ブラウザをお使いください。
- ◆ ネットワーク転送速度が 512kbps 以上の環境を推奨します。
- ◆ アプリケーション版 Windows クライアントの動作環境には、Direct X 8 がインストールされ、セットアップ後の空きメモリが 90MB 以上であることを確認してください。
- ◆ アプリケーション版 Java クライアントの動作環境には、Sun Java Runtime Environment(JRE) がインストールされ、セットアップ後の空きメモリが 145MB 以上であることを確認してください。
- ◆ Web ブラウザで動作する Windows クライアント Active Xビューワーの動作環境には、Direct X 8 がインストールされ、セットアップ後の空きメモリが 150MB 以上あることを確認してください。
- ◆ Web ブラウザで動作する Java アプレットビューワーの動作環境には、Sun Java Runtime Environment(JRE)がインストールされ、セットアップ後の空きメモリが 205MB 以上あることを確認してください。
- ◆ ログサーバーの動作環境には、Microsoft Jet OLEDB 4.0 以上のドライバーがインストールされていることを確認してください。

ローカルサーバー

ローカルサーバーとは、コンピューターモジュール経由で製品に接続されているコンピューターのことを指します(p.18「用語について」参照)。これらのコンピューターには以下のハードウェア環境が必要です。

- ◆ VGA、SVGA、マルチシンクポート
- ◆ USB タイプ A ポートおよび USB ホストコントローラー(USB タイプのコンピューターモジュールを使用する場合)
- ◆ ミニ DIN6 ピンに対応したキーボードポート、マウスポート(PS/2 タイプのコンピューターモジュールを使用する場合)

ビデオ

本製品が対応するノンインタレース信号は以下のとおりです。

解像度	リフレッシュレート
640×480	60、70、72、75、85
720×400	70、75
800×600	56、60、70、72、75、85
1,024×768	60、70、75、85
1,152×864	60、70、75、85
1,152×900	66、76
1,280×1,024	60、70、75、85
1,600×1,200	60

コンピューターモジュール

- ◆ 本製品とコンピューターモジュール間の接続にはカテゴリ 5e 以上の LAN ケーブルが必要です。(p.45 参照)
- ◆ 本製品に対応しているコンピューターモジュールは下表のとおりです。

製品画像	機能	型番	コネクター仕様
	PS/2タイプコンソールポートを持つコンピューターとの接続	KA9120 KA7120	キーボード用ミニ DIN6 ピン オス マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニター用 D-sub15 ピン オス
	USB コンソールポートを持つコンピューターとの接続	KA9170 KA7170	USB タイプ A オス モニター用 D-sub15 ピン オス
	Sun 13W3 コンソールポートを持つコンピューターとの接続	KA9130 KA7130	ミニ DIN8 ピン オス 13W3 オス
	VT100 ターミナル対応	KA9140	D-sub15 ピン メス ミニ DIN6 ピン メス RS-232C DB-9 ピン メス
	シリアル対応	KA7140	RS-232C DB-9 ピン メス
	USB2.0 タイプコンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用	KA7175*	USB タイプ A オス D-sub15 ピン オス
	USB2.0 タイプコンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用(オーディオ対応)	KA7176*	USB タイプ A オス D-sub15 ピン オス オーディオプラグ×2

-
- 注意:**
1. * 印 の つ い た 製 品 は 、 バ ー チ ャ ル メ デ ィ ア 対 応 モ デ ル (KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v) に の み 対 応 し て い ま す。
 2. 既にお使いのコンピューターモジュールを本製品で使用する場合は、ファームウェアを最新のバージョンにアップグレードしてください。ファームウェアのアップグレードは「Maintenance」タブから実行することができます。(p.200 参照)
-

OS

- ◆ 製品にログインする際に使用するリモートクライアントコンピューターの対応 OS は、Windows2000 以降です。また、Sun の Java Runtime Environment(JRE) 6 Update 3 以降のバージョンが動作可能であることをご確認ください。
- ◆ 製品の KVM ポートに接続できるリモートサーバーの対応 OS は以下のとおりです。

OS		バージョン
Windows		2000 以降
Linux	Red Hat	7.1 以降
	Fedora	Core 2 以降
	SuSE	9.0 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
UNIX	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	4.2 以降
	Sun	Solaris8 以降
Novell	Netware	5.0 以降
Mac		OS 9 以降
DOS		6.2 以降

Web ブラウザ

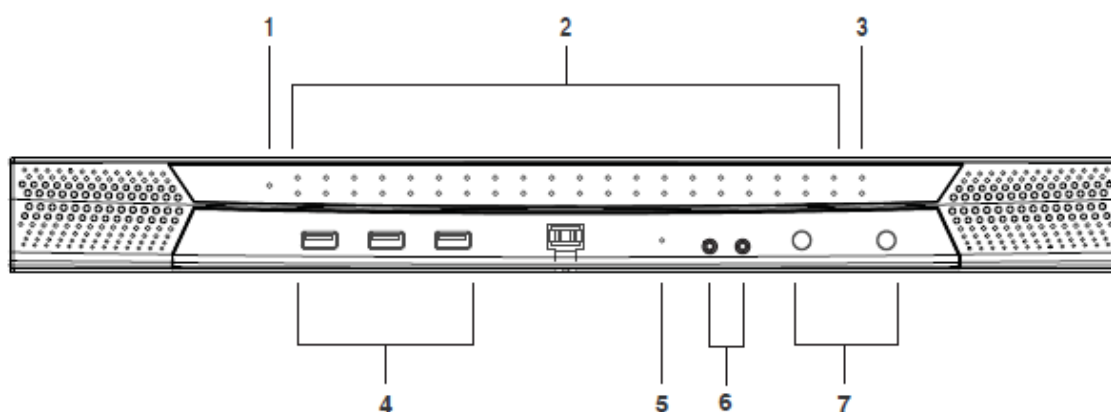
本製品にリモートログインするには以下の Web ブラウザを使用してください。

ブラウザ	バージョン
IE	6 以降
Firefox	1.5 以降
Mozilla	1.7 以降
Safari	2.0 以降*
Opera	9.0 以降
Netscape	8.1 以降

* 詳細については p.260 をご参照ください。

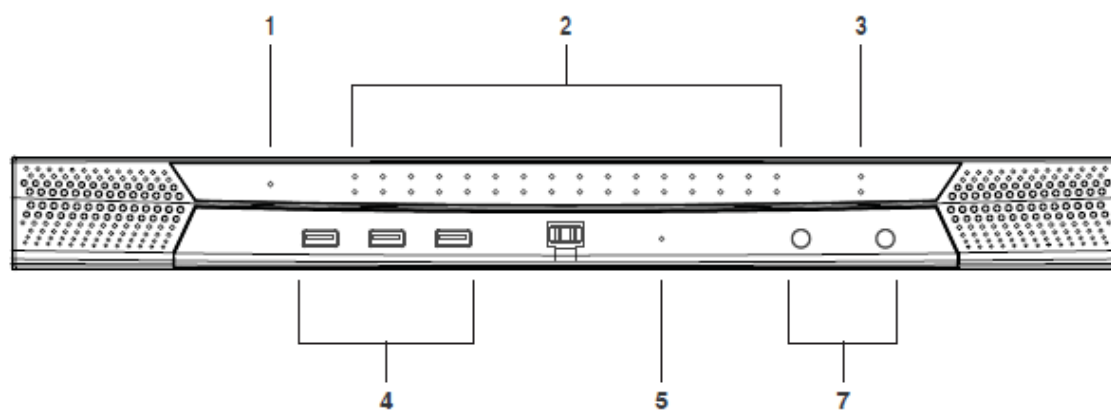
製品各部名称

KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v フロントパネル



注意： 上図は KN2140v/KN4140v のフロントパネルを表しています。KN2124v/KN4124v のフロントパネルの外観は LED ランプの個数が異なるだけで、基本的にはこれと同じです。

KN2132/KN4116/KN4132 フロントパネル



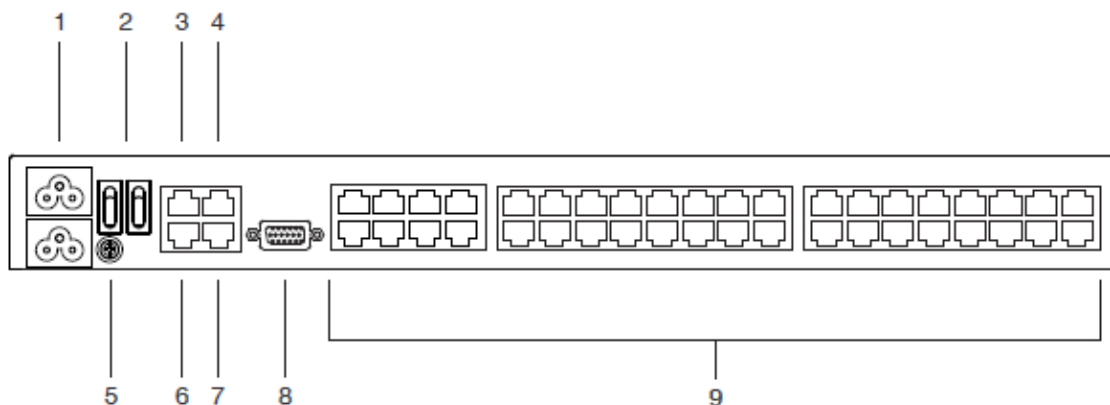
注意： 上図は KN2132/KN4132 のフロントパネルを表しています。KN4116 のフロントパネルの外観は LED ランプの個数が異なるだけで、基本的にはこれと同じです。

No.	名称	説明
1	電源 LED ランプ	製品に電源が入り、操作可能になるとこの LED ランプが点灯します。
2	ポート LED ランプ	各 LED ランプは、対応する KVM ポートの状態を表します。 ◆ グリーン: 該当ポートに接続されているコンピューターがオンラインであることを表します。 ◆ レッド: 該当ポートに接続されているコンピューターが製品に選択されていることを表します。 ◆ グリーン+レッド(オレンジ): 該当ポートに接続されているコンピューターがオンラインで、かつ製品に選択されていることを表します。 通常、この LED ランプは点灯していますが、ポートがオートスキャンモード、またはスキップモードでアクセスされている間は 0.5 秒間隔で点滅します。(p.211、p.212 参照)
3	LAN LED ランプ	プライマリ、セカンダリの各インターネットインターフェースのデータ転送速度を表す LED ランプです。 ◆ レッド: 10Mbps ◆ レッド+グリーン(オレンジ): 100Mbps ◆ グリーン: 1000Mbps ◆ 製品がネットワーク経由でアクセスされている間はこの LED ランプが点滅します。
4	USB ポート	USB キーボード、USB マウスを接続するポートです。リアパネルのポートの代わり、もしくはリアパネルのポートに追加してキーボードやマウスを接続することができます。(バーチャルメディア対応モデルの場合のみ、このポートに USB フラッシュメモリを接続することができます。)

(表は次のページに続きます)

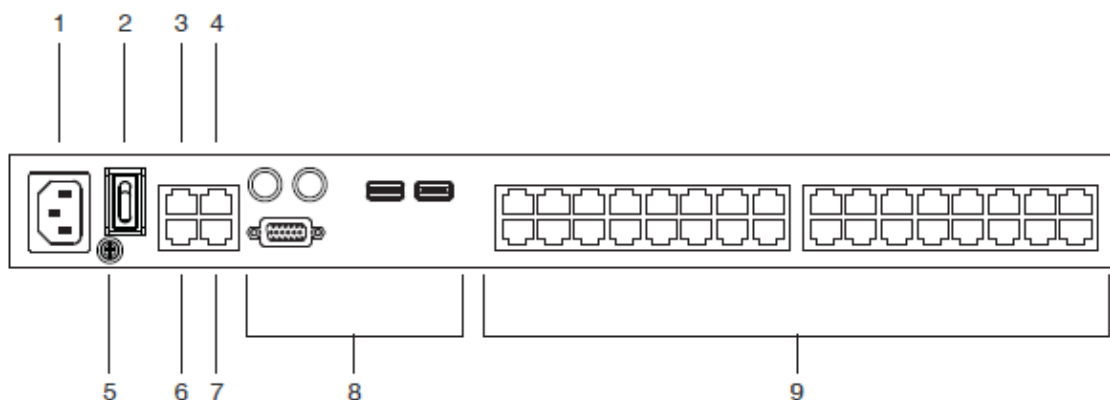
No.	名称	説明
5	リセットスイッチ	注意:このスイッチは、クリップやボールペンのような先の尖った物を使って押してください。 ◆ 製品の動作中にこのスイッチを押して離すとシステムリセットを実行します。 ◆ 製品の動作中にこのスイッチを3秒以上長押しすると、システム設定を工場出荷時のデフォルト値にリセットします。 注意:この操作でユーザーアカウントの情報は消去されません。ユーザーアカウントの消去に関する詳細は p.286「ログイン情報の消去」をご参照ください。 ◆ このスイッチを押しながら製品に電源を入れると、工場出荷時にインストールされたバージョンのファームウェアに戻ります。ファームウェアアップグレードに失敗した場合でも、この操作を行うことで作業をやり直すことができます。 注意:この操作は、ファームウェアアップグレードの結果、製品が操作できなくなった場合にのみ行ってください。
6	オーディオポート	スピーカー、マイクを接続します。 (バーチャルメディア対応モデルのみ)
7	ポート切替ボタン	◆ 「PORT DOWN」ボタンを押すと、現在選択されているポートの前のポートに切り替えます。 ◆ 「PORT UP」ボタンを押すと、現在選択されているポートの次のポートに切り替えます。

KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v リアパネル



注意: 上図は、KN2140v/KN4140v のリアパネル(16 個の KVM ポートが 2 箇所、8 個の KVM ポートが 1 箇所の計 40 ポート)を表しています。KN2124v/KN4124v リアパネルの外観は KVM ポート数が異なるだけ(16 個の KVM ポート、8 個の KVM ポートが各 1 箇所の計 24 ポート)で、基本的にはこれと同じです。

KN2132/KN4116/KN4132 リアパネル



注意: 上図は、KN2132/KN4132 のリアパネル(16 個の KVM ポートが 2 箇所の計 32 ポート)を表しています。KN4116 リアパネルの外観は KVM ポート数が異なるだけ(16 個の KVM ポート 1 箇所)で、基本的にはこれと同じです。

No.	名称	説明
1	電源ソケット	電源ケーブルを接続するソケットです。 注 意： バーチャルメディア対応モデル (KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v) では、上部の電源ソケットは左側の電源スイッチに、下部の電源ソケットは右側の電源スイッチにそれぞれ対応しています。
2	電源スイッチ	ユニットの電源の ON/OFF を操作するスイッチです。
3	セカンダリ LAN ポート	このポートに LAN ケーブルを接続すると、セカンダリのバックアップネットワークとして認識されます。
4	PON ポート	電源管理デバイス (Power Over the NET™) と接続することで、製品に接続されたサーバーの電源をリモート操作することができます。セットアップの詳細については p.46 の手順 6 をご参照ください。なお、電源管理デバイスに関する詳細は、販売店にお問い合わせください。
5	接地ターミナル	接地線をここに接続し、製品を接地します。
6	プライマリ LAN ポート	このポートに LAN ケーブルを接続すると、マスター側となるプライマリネットワークとして認識されます。
7	モデムポート	TCP/IP ネットワークが利用できない場合、このポートを使ってダイヤルイン接続することで製品を利用することが可能です。セットアップの詳細については p.46「単体構成でのセットアップ」の手順 7 をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
8	ローカルコンソールポート	製品は、TCP/IP ネットワーク経由、またはローカルコンソールからアクセスすることができますが、ローカルコンソールで使用する場合は、キーボード、モニター、マウスをこの部分に接続します。キーボード、マウスはUSBタイプ、PS/2 タイプの両方が使用可能です。 注 意： バ ー チ ャ ル メ デ ィ ア 対 応 モ デ ル (KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v) には、製品同梱のコンソールケーブルを使ってコンソールデバイスを接続してください。
9	KVM ポート	コンピューターモジュールに接続されているカテゴリ 5e 以上に対応した LAN ケーブルをここに接続します。

第2章 セットアップ方法

概要

PS/2 と USB インターフェースが混在したマルチプラットフォームの環境でもお使いいただけるように、製品とサーバーの間の接続には各サーバーのインターフェースに対応したコンピューターモジュールと呼ばれるデバイスを使用します。

コンピューターモジュールは製品に接続するサーバーごとに必要となります。本製品に対応しているコンピューターモジュールの型番の詳細については p.28「コンピューターモジュール」に記載されていますので、そちらをご参照ください。

セットアップの前に



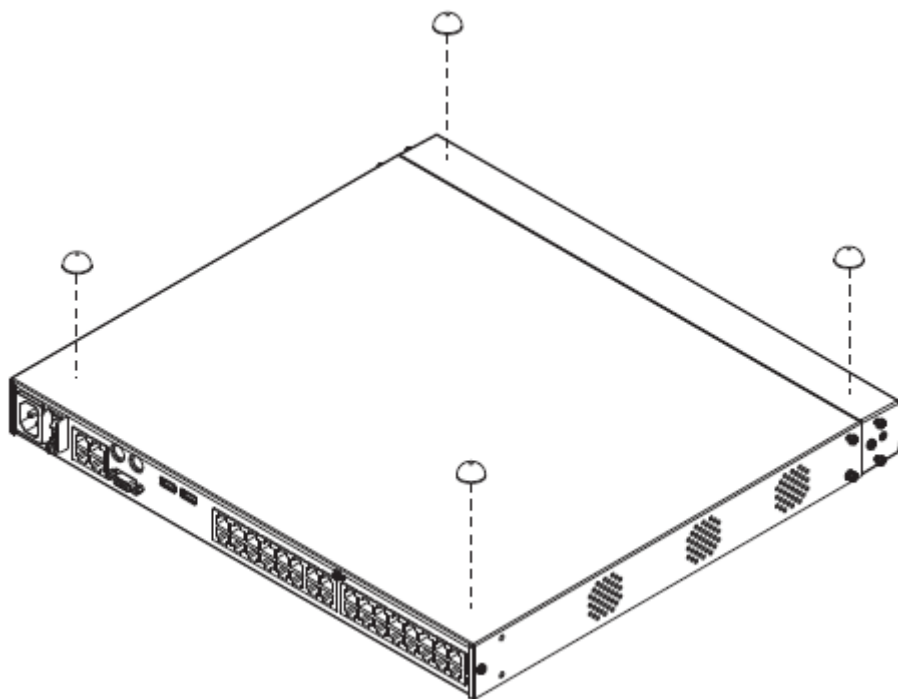
1. 機器の設置に際し重要な情報を p.11 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピューターの電源ケーブルも抜いてください。

デバイスの卓上設置とラックマウント

製品は卓上に置いたり、ラックのフロント側・リア側にマウントしたりして使用することができます。以下のセクションでは製品の卓上設置とラックマウントの方法について説明します。

卓上設置

本体と接続されるケーブルの重量に耐えられる安定した水平な場所であれば、どんな場所にも製品を設置することが可能です。製品本体や、製品にデイジーチェーン接続されたユニットを置く際には、同梱ゴム製フットパッドの裏面のはくり紙をはがし、下図のように製品底面の四隅に貼り付けてください。



注意: 機器への通気を確保するために、製品の両側面は 5.1cm 以上、また、背面は配線のスペースを考慮して 12.7cm 以上の空間を設けるようにしてください。

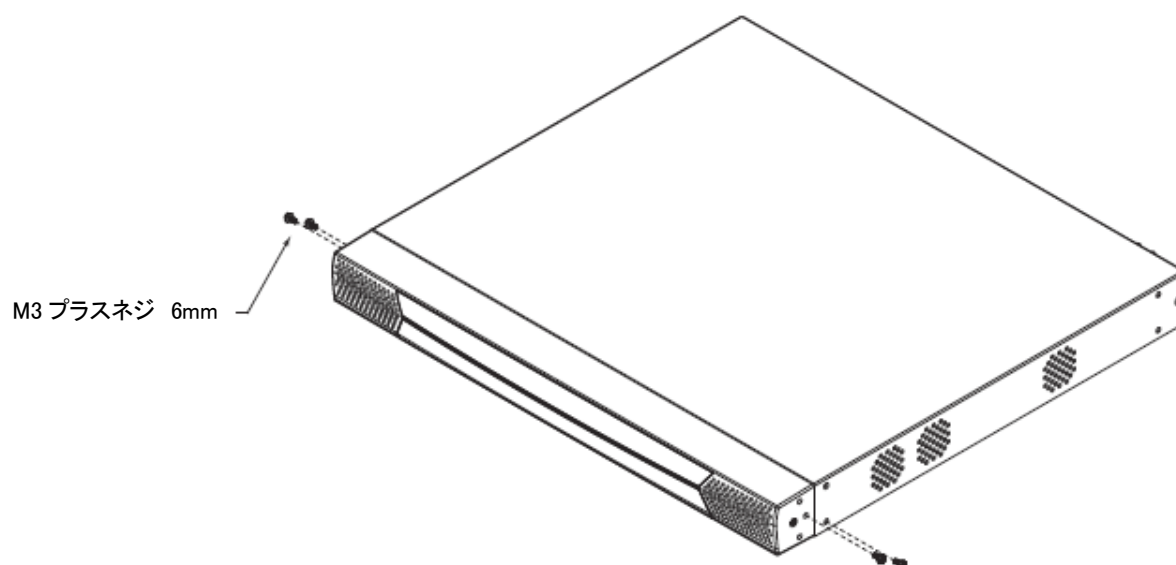
ラックマウント

本製品は EIA 規格 19 インチラックの 1U サイズでマウントできる製品です。マウントブラケット用のネジ穴は機器のフロント側とリア側に設けてありますので、用途に応じて製品本体をラックのフロント側、リア側のどちらにでも設置することが可能です。

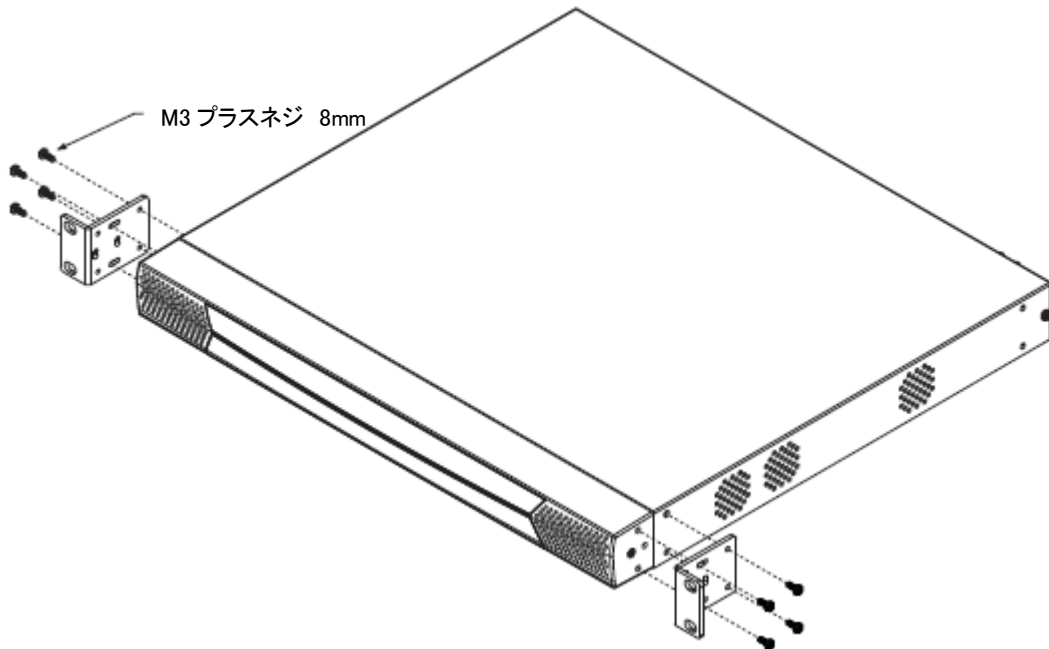
ラックのフロント側にマウントする場合

製品をラックのフロント側にマウントする場合は、以下の手順で作業を行ってください。

1. 下図のように、ブラケットを取り付ける側についているネジをはずします。

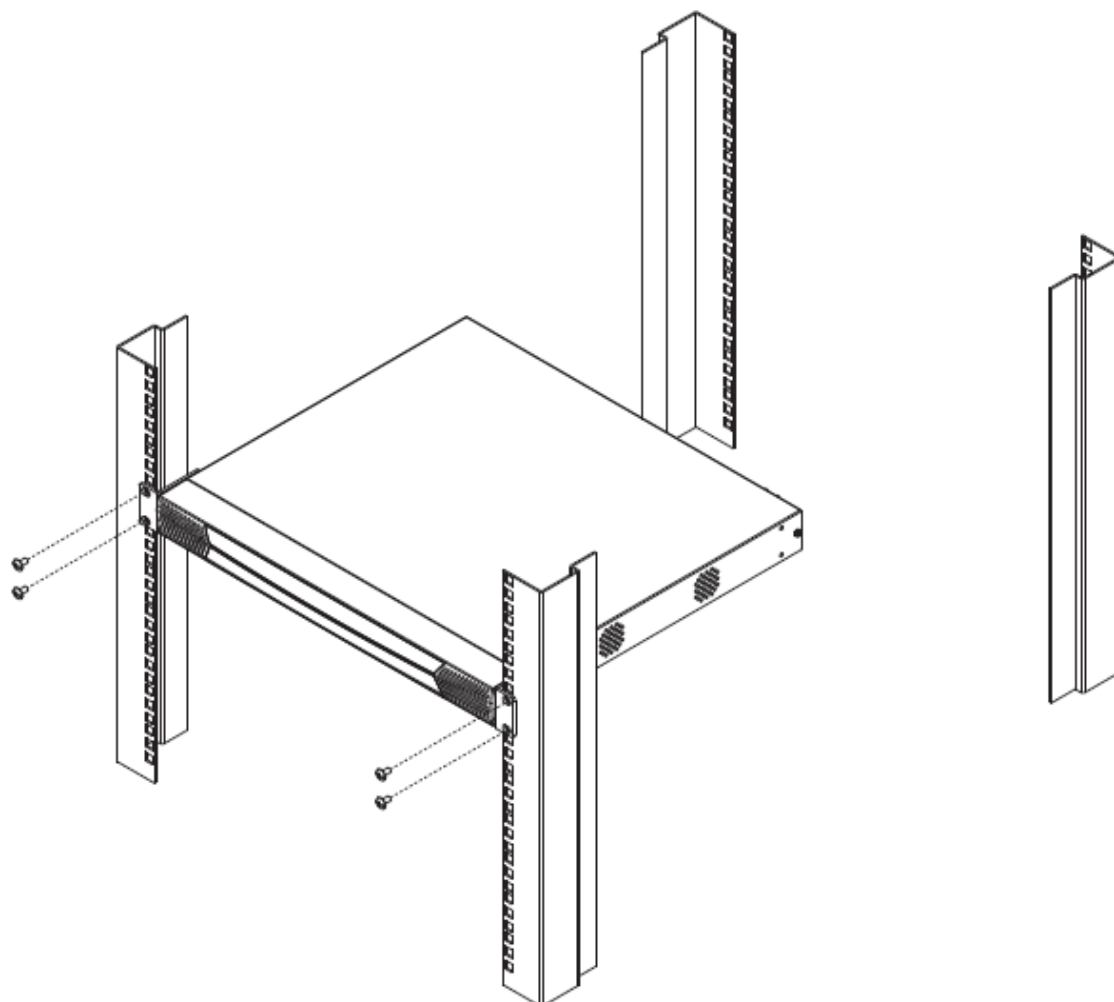


2. マウント用ブラケットを下図のようにフロント側に取り付けます。



3. ブラケットを取り付けた製品を、ラックのフロント側にスライドさせて、ブラケットのねじ穴がラックのねじ穴に合うように位置を調節してください。

4. ブラケットをネジでラックに固定してください。

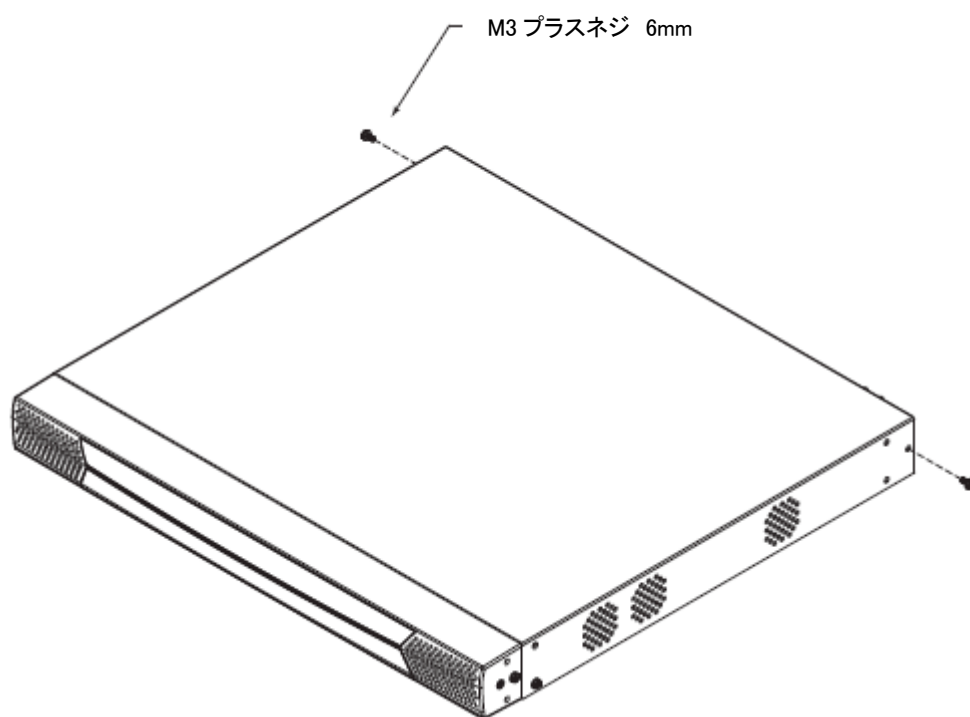


注意: ケージナットは製品には同梱されていないので、お手数ですが別途ご用意ください。

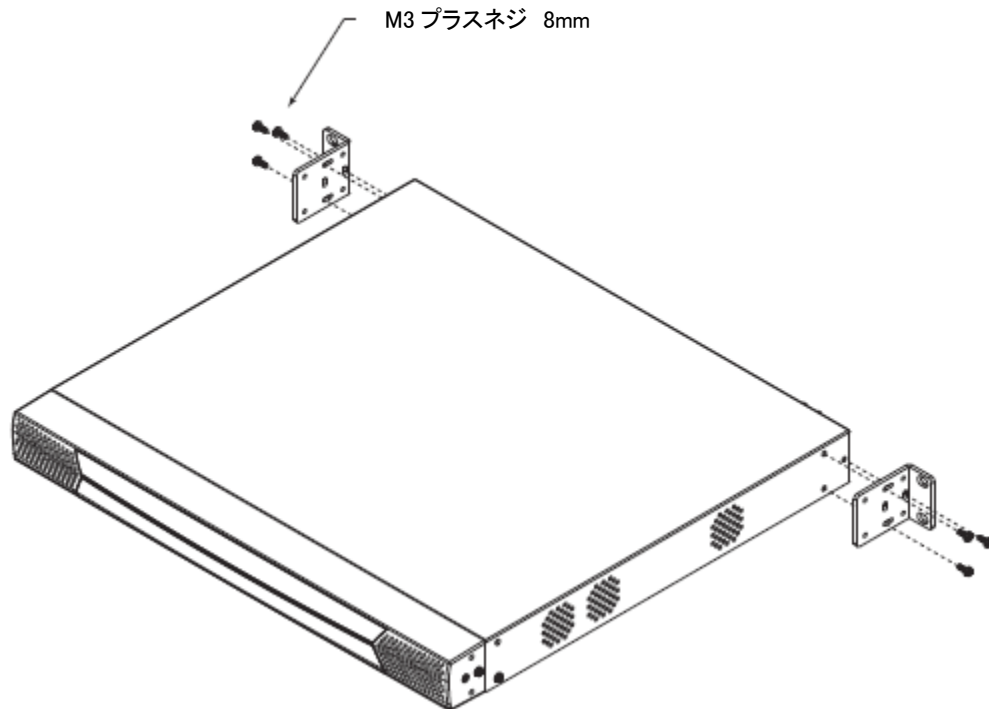
ラックのリア側にマウントする場合

製品をラックのリア側にマウントする場合は、以下の手順で作業を行ってください。

1. 下図のように、ブラケットを取り付ける側についているネジをはずします。

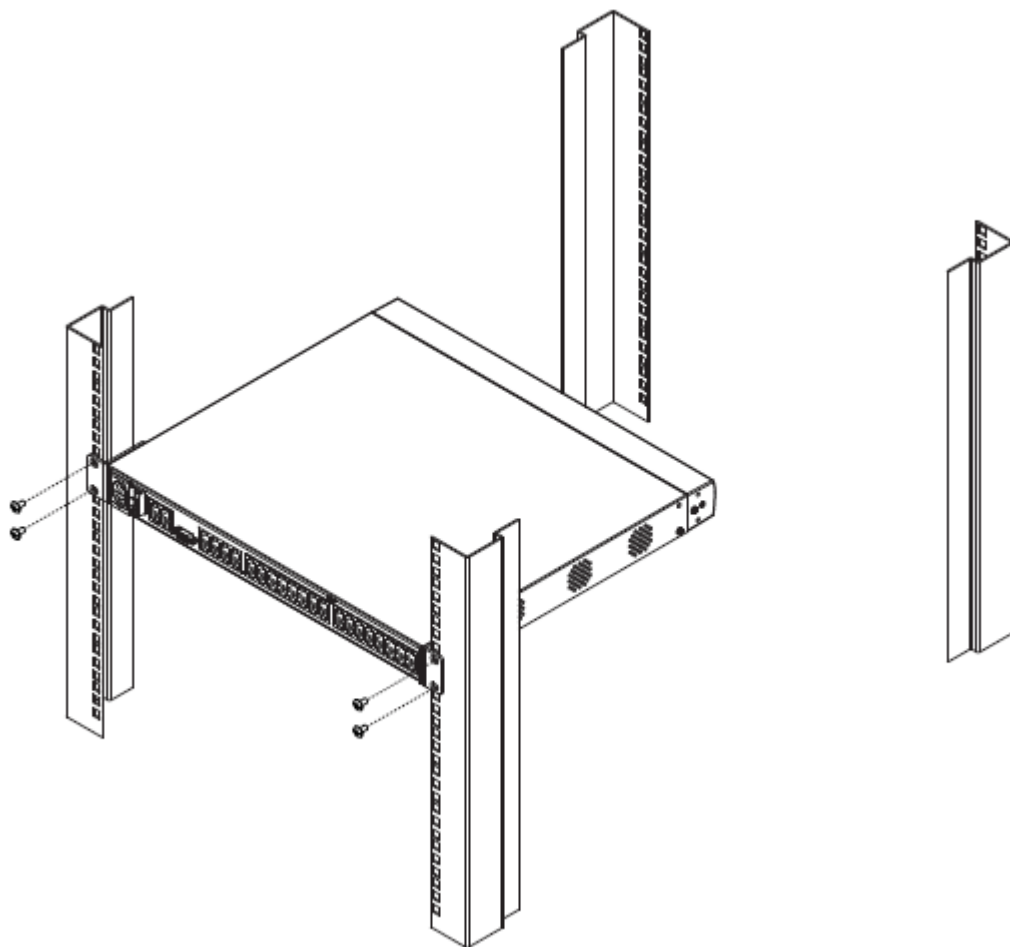


2. マウント用ブラケットを下図のようにフロント側に取り付けます。



3. ブラケットを取り付けた製品を、ラックのフロント側にスライドさせて、ブラケットのねじ穴がラックのねじ穴に合わせてください。

5. ブラケットをネジでラックに固定してください。



注意: ケージナットは製品には同梱されていないので、お手数ですが別途ご用意ください。

単体構成でのセットアップ

製品を単体構成で使用する場合は、他の KVM スイッチをカスケード接続する必要はありません。単体構成で使用する場合は、p.48 の接続図(図内における番号は手順に対応)をご参照の上、以下の手順でセットアップしてください。

1. バーチャルメディア対応モデル (KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v) の場合は、製品に同梱されているコンソールケーブルを使ってローカルコンソールデバイス(キーボード、モニター、マウス)を製品に接続してください。

それ以外のモデル(KN2132/KN4116/KN4132)の場合は、ローカルコンソールデバイスを製品の該当ポートに直接接続してください。ポートには容易に識別できるように接続するデバイスのアイコンと PC99 準拠のカラーリングが施されています。

-
- | | |
|------------|--|
| 注意: | <ol style="list-style-type: none">1. キーボード、マウスは PS/2、USB であればどちらでも使用することができます。例えば、ローカルコンソールデバイスとして、キーボードは PS/2 タイプのものを、マウスは USB タイプのものを使用することも可能です。2. USB キーボードと USB マウスは、ローカルコンソールポートの他に、フロントパネルの USB ポートにも接続してお使いいただけます。3. 製品とローカルモニターの距離が 20m 以内になるようにセットアップしてください。 |
|------------|--|
-

2. サーバーに接続されているコンピューターモジュールと製品の KVM ポートを、カテゴリ 5e 以上に対応した LAN ケーブルで接続してください。(コンピューターモジュールの詳細については p.28 をご参照ください。)

-
- 注意:**
1. コンピューターモジュール KA7120、KA7130、KA9120、KA9130、KA9131 を使用する場合は、p.275 のマウスポインターの同期方法をご確認の上、設定を行ってください。
 2. コンピューターモジュール KA9131 を使用する場合、p.262 のビデオとマウスの調整方法をご確認の上、設定を行ってください。
 3. コンピューターモジュール KA7140 を使用する場合、p.272 の内容をご確認の上、設定を行ってください。
 4. 製品とコンピューターモジュール間の距離が以下の範囲内になるようにセットアップしてください。
KA7140 使用時:300m、KA71XX 使用時(KA7140 を除く):50m、
KA91XX:40m
-

3. コンピューターモジュールの各コネクタをコンピューターの該当ポートに接続してください。
(p.50「コンピューターモジュール接続図」参照)
4. プライマリの TCP/IP ネットワークに接続されている LAN ケーブルを製品のプライマリ LAN ポートに接続してください。
5. (オプション)セカンダリの TCP/IP ネットワークに接続されている LAN ケーブルを製品のバックアップ(セカンダリ)LAN ポートに接続してください。
6. (オプション)カテゴリ 5e 以上に対応した LAN ケーブルを使って、リアパネルの PON ポートと、製品同梱の SA0142 を接続し、SA0142 を電源管理デバイス PN0108 の PON IN ポートに接続してください。
7. (オプション)カテゴリ 5e 以上に対応した LAN ケーブルを使って、リアパネルのモデムポートと、製品同梱の SA0142 を接続し、SA0142 のシリアルコネクタをモデムの DB-9 ポートに接続してください。
8. 製品同梱の接地線の片方を製品の接地ターミナルに、もう片方を適当な接地物にそれぞれ接続し、製品を接地してください。

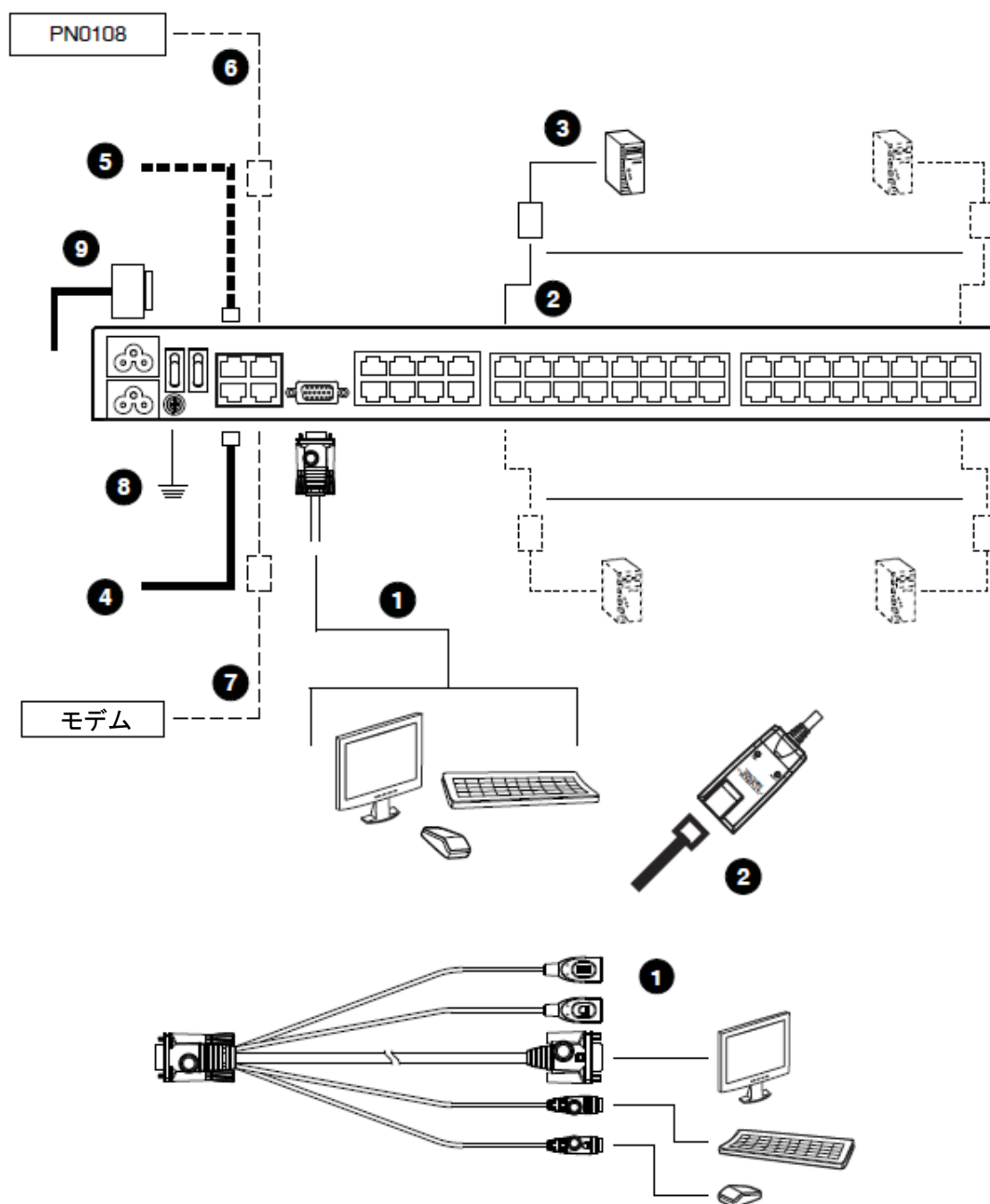
注意: 製品を接地することで、急激な電圧変化や静電気に起因する製品へのダメージを避けることができますので、この手順は省略せず必ず行ってください。

9. 製品に同梱されている電源ケーブルを製品の電源ソケットに接続し、電源ケーブルを電源に接続してください。

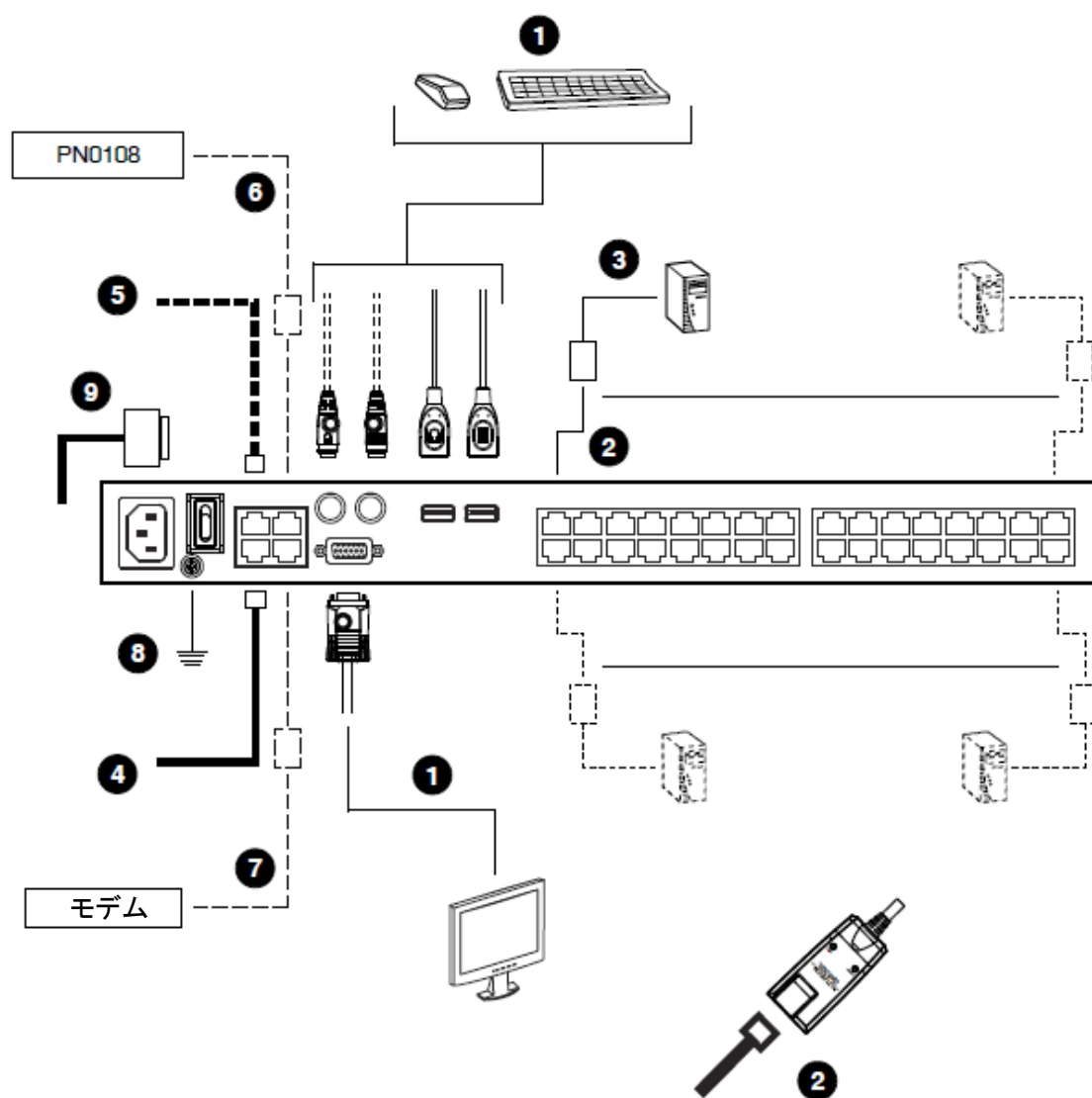
バーチャルメディア対応モデル(KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v)で片方の電源ソケットのみを使用する場合は、そのソケットに対応する電源スイッチを使って製品に電源を入れてください。(p.35「電源スイッチ」参照)両方の電源ソケットを使用する場合、片方のスイッチを使うと製品に電源が入り、両方のスイッチを使うとデュアルパワーを有効にすることができます。

必要なケーブルの配線が完了したら、製品に電源を入れてください。製品に電源が入ったら、製品に接続されているサーバーに電源を入れることができます。

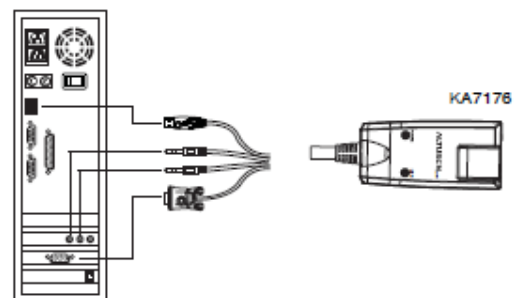
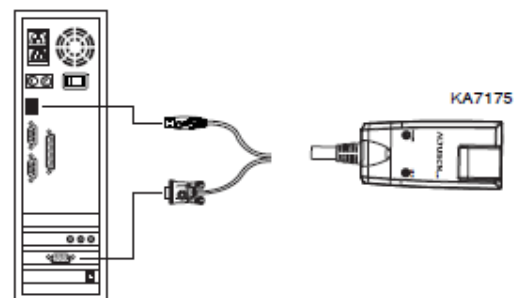
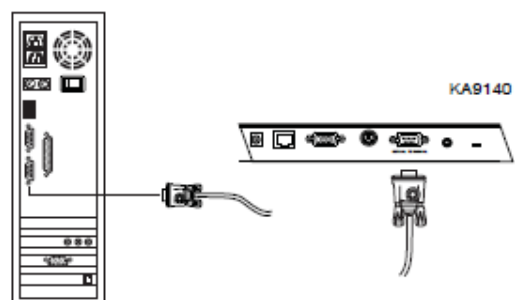
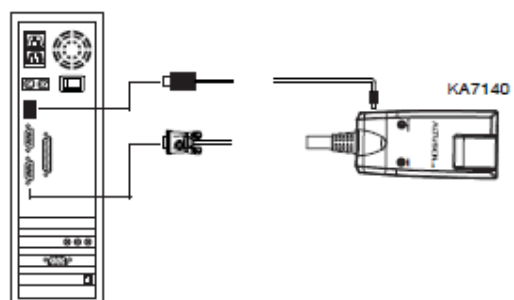
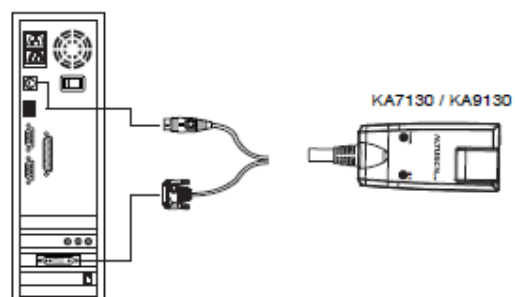
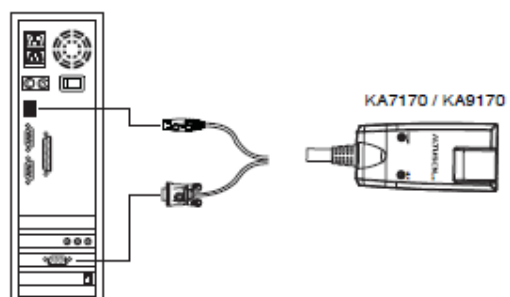
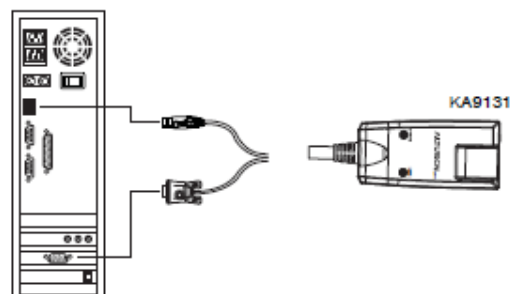
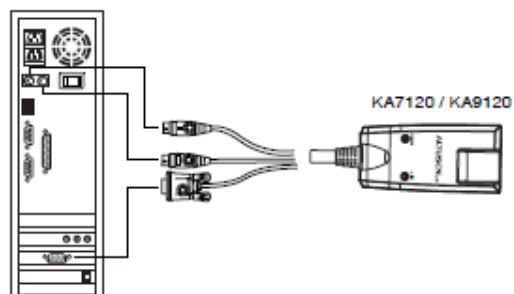
KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v 単体構成 接続図



KN2132/KN4116/KN4132 単体構成 接続図



コンピューターモジュール 接続図



2 段階カスケード接続のセットアップ

KVM スイッチの最大ポート数を超えるサーバーを操作した場合は、最大 40 台の KVM スイッチをカスケード接続することで対応が可能です。2 段階のカスケード接続によって、最大 640 台のコンピューターを操作することができます。

カスケード接続の構成では、KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v または KN2132/KN4116/KN4132 が 1 段階目のユニットとして、また、本製品とのカスケード接続に使用する KVM スイッチは 2 段階目のユニットとしてそれぞれ使用されます。

注意: 本製品には KH1516 等の KVM スイッチをカスケード接続することができます。対応 KVM スイッチの詳細については p.289 をご参照ください。

製品を 2 段階のカスケード接続の構成でセットアップする場合は、p.53 の接続図を参考にしながら以下の手順で作業を行ってください。

1. 製品以外の既存のデバイスを含め、セットアップするすべてのデバイスの電源が切られていることを確認してください。
2. カテゴリ 5e に対応した LAN ケーブルで、1 段階目の KVM スイッチの使用可能なポートにコンピューターモジュール(p.28 参照)を接続してください。
3. 手順 2 で接続したコンピューターモジュールのキーボード、モニター、マウスの各コネクタを、2 段階目のユニットのコンソール部分の対応するポートにそれぞれ接続してください。

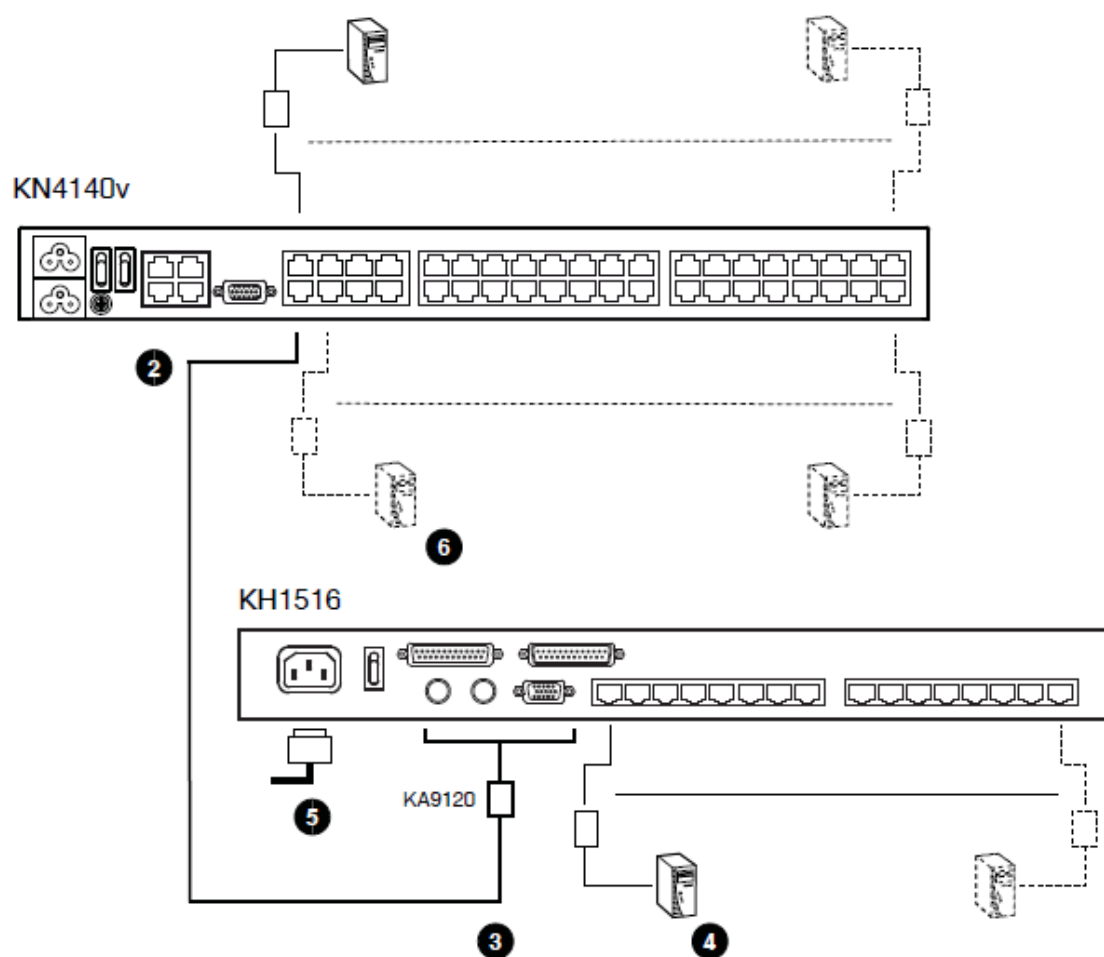
注意: 1 段階目のユニットと 2 段階目のユニットの距離が 40m(または 50m)を超えないようにセットアップしてください。(最大延長距離はコンピューターモジュールの種類により異なりますので、詳細はコンピューターモジュールの仕様をご確認ください。)

4. KVM ケーブル(詳細はカスケード接続する KVM スイッチのマニュアルを参照)を使って、2 段階目のユニットとセットアップするコンピューターのキーボード、モニター、マウスの各ポートを接続してください。

5. 製品同梱の電源ケーブルを 2 段階目のユニットの電源ソケットに接続してから電源に接続してください。
6. 他の KVM スイッチも 2 段階目のユニットとしてセットアップする場合は、同様の方法でセットアップを行ってください。
7. 2 段階目のユニットに電源を入れたら、1 段階目のユニットに電源を入れてください。
8. 製品に接続されているコンピューターに電源を入れてください。

注意: デバイスに電源を入れる場合は、まず 2 段階目のユニットすべてに電源を入れ、2 段階目のユニットに電源が入っていることを確認してから 1 段階目のユニットに電源を入れてください。すべてのユニットに電源が入ったら、ユニットに接続されているコンピューターに電源を入れることができます。

2 段階カスケード接続 接続図



ホットプラグ

本製品はホットプラグに対応していますので、製品をシャットダウンすることなく、ケーブルを抜き差しするだけでデバイスを付け替えることができます。

注意: 製品に接続されているコンピューターの OS 自体がホットプラグに対応していない場合、この機能はご利用いただけない場合があります。

モジュール ID 機能

モジュール ID、ポートネーム、OS、キーボード言語、アクセスモード等のコンピューターモジュールの情報はコンピューターモジュール本体に格納されています。このモジュール ID 機能は、上記のコンピューターモジュールの情報以外に、アクセス権限等のコンピューターモジュールの設定内容を KVM スイッチのデータベース内に保存します。

この機能を使うことで、コンピューターとコンピューターモジュールを同時に別のポートに接続した場合は、これらの項目を再設定する必要がありません。

ただし、これらを別の KVM スイッチに接続した場合は、コンピューターモジュール内に格納されている情報のみが引き継がれますので、それ以外の項目は再設定するか、ポートユーティリティーのエクスポート機能 (p.120 参照) でリストアする必要があります。

ポートの設定はコンピューターモジュール内に格納されていますので、コンピューターモジュールを含めずコンピューターのみを新しいポートに変更した場合、また、使用中のアダプターに新しいコンピューターを接続した場合は、手動でそのコンピューターのポート設定を行う必要があります。ポート設定の詳細については p.120「ポートユーティリティー」の内容をご参照ください。

製品の電源 OFF/再起動

製品の電源を切る必要がある場合、また、製品が電力不足で再起動が必要になった場合は、電源を切ってから 10 秒程待機したあとで製品に電源を入れなおしてください。なお、この操作は接続されているコンピューターに影響を与えることはありませんが、万が一、コンピューターの挙動に異常が見られた場合は、そのコンピューターを再起動してください。

ポート ID の割り当て

製品に接続されているコンピューターには固有のポート ID が割り当てられます。ポート ID は、コンピューターが接続している KVM スイッチのカスケード接続のレベルと、接続に使用している KVM ポートのポートナンバーから構成されています。

ポート ID の前半は 1 段階目のユニットにおけるポートナンバーを、また、後半は 2 段階目のユニットにおけるポートナンバーをそれぞれ表しています。

1 台目のユニットに直接接続されているコンピューターは、KVM スイッチ上でそのコンピューターが接続しているポートナンバー(1~40)をポート ID として使用します。

2 段階のカスケード接続の構成の場合、ポート ID は前半と後半の 2 つの番号から構成されます。

- ◆ 後半の部分(1~16)は、2 段階目のユニット上で該当のコンピューターが接続している KVM ポートのポートナンバーを表します。また、最初の部分(1~40)は、1 段階目のユニット上でその 2 段階目のユニットが接続している KVM ポートのポートナンバーを表します。
- ◆ 例えば、「12-3」というポート ID の場合、2 段階目のユニットが 1 段階目のユニットのポート 12 に接続されており、コンピューターが 2 段階目のユニットのポート 3 に接続されていることを表します。

ポートの選択

ポートの選択は GUI メニューを使って行います。詳細については第 6 章をご参照ください。

第3章

スーパーアドミニストレーターによる 初期設定

概要

本製品で提供しているユーザーの種類は下表のとおりです。

ユーザータイプ	役割
スーパーアドミニストレーター	ポート/デバイスへのアクセスおよび管理、ユーザー/グループの管理、システム設定全般、個人の作業環境の設定が可能です。
アドミニストレーター	権限のあるポート/デバイスへのアクセスおよび管理、ユーザー/グループの管理、個人の作業環境の設定が可能です。
ユーザー	権限のあるポート/デバイスへのアクセス、権限のあるポート/デバイスへの管理、個人の作業環境の設定が可能です。

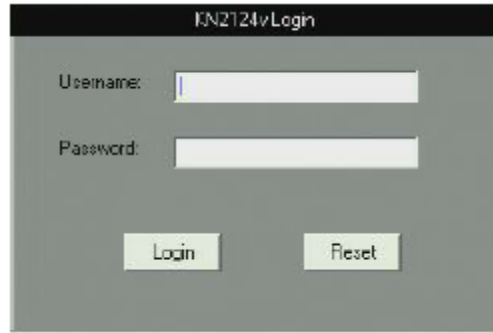
本章では、スーパーアドミニストレーターが実行できる管理手順について説明します。

初回使用時に必要なセットアップ

製品のハードウェアのセットアップが完了すると、スーパーアドミニストレーターは他のユーザーが製品を利用できるようにセットアップする必要があります。セットアップには、ネットワーク関連のパラメーターの設定やユーザーの追加といった作業が含まれます。この作業はローカルコンソールから簡単に行うことができます。

注意： ネットワークの設定をリモートから行う場合は、p.265「IP アドレスの設定」をご参照ください。

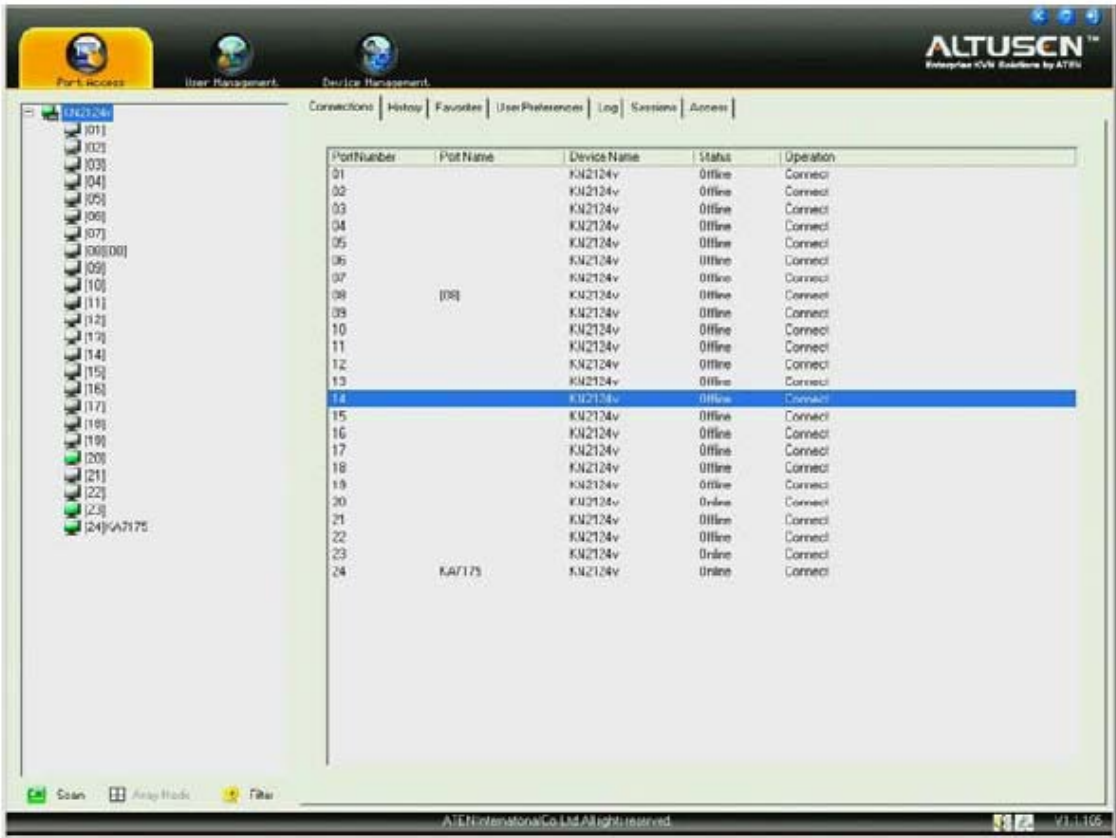
ローカルコンソールをセットアップ (p.45 参照) し、製品に電源が入ると、コンソールモニターに以下のようなログイン画面が表示されます。

A screenshot of a login screen titled "KN2124vLogin". It features two input fields: "Username:" and "Password:". Below the fields are two buttons: "Login" and "Reset". The background is a dark gray, and the text is white.

製品に最初にログインする際には、デフォルトのユーザーアカウントを使用してください。ユーザーネームは administrator、パスワードは password です。

注意: 製品へのセキュリティを確保するために、このデフォルトユーザーアカウントは任意のユーザーネームとパスワードに変更してください。(詳細については p.60「スーパーアドミニストレーターのユーザーネーム/パスワードの変更」をご参照ください。)

ログインに成功すると、以下のようなローカルコンソールのメイン画面が表示されます。



ネットワークの設定

ネットワークの設定は、以下の手順で操作してください。

1. 「Device Management」メニューをクリックしてください。
2. 「Network」タブ(下図の赤い丸で囲まれた部分)をクリックしてください。

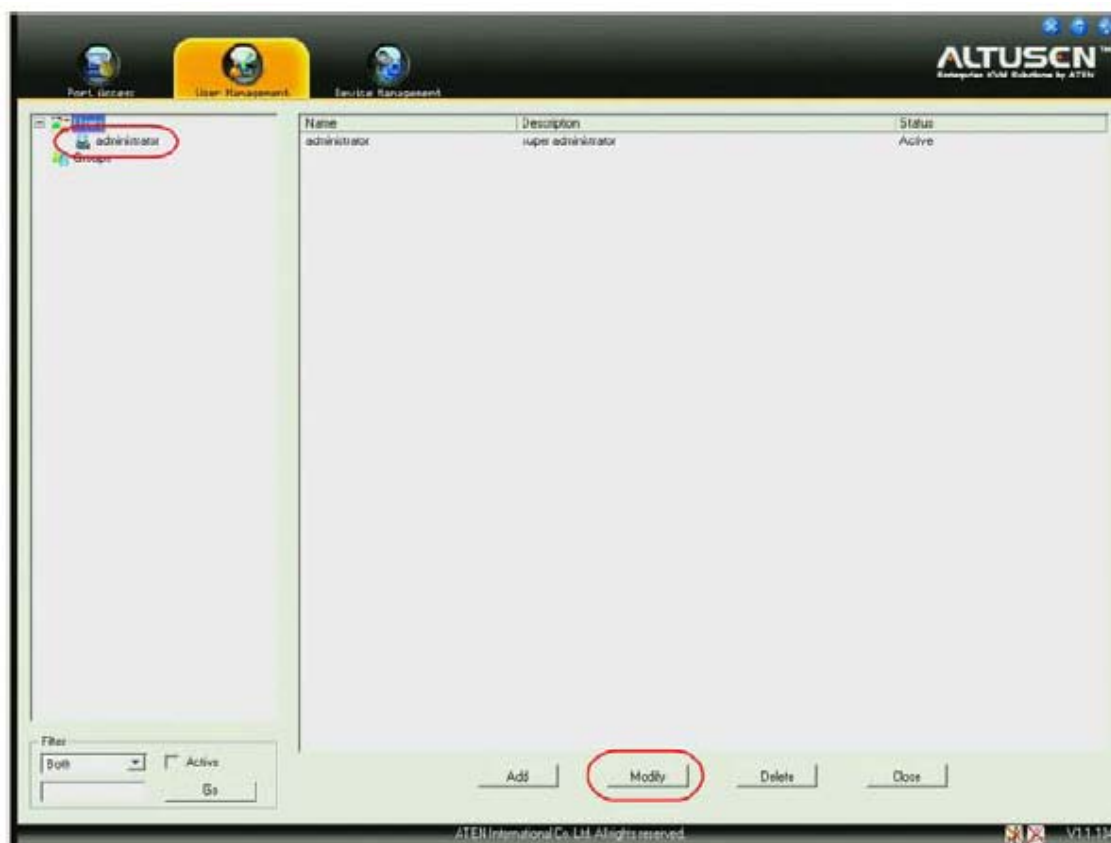


3. p.172「Network メニュー」に記載されている例を参考にしながら、お使いの環境に適した値を入力してください。

スーパーアドミニストレーターのユーザーネーム/パスワードの変更

デフォルトのスーパーアドミニストレーターのユーザーネームやパスワードを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 画面最上部のメニューにある「User Management」メニューをクリックしてください。
このメニューでは、左側のパネルにはユーザーおよびグループの一覧が、また、中央の大きなパネルにはユーザーの概要が記された一覧がそれぞれ表示されます。最初にこのページにアクセスする際には他のユーザーは作成されていないので、下図のように一覧にはスーパーアドミニストレーターしか表示されません。



2. 左側のパネルから「administrator」ユーザーをクリックするか、中央パネルの「administrator」を選択し、画面中央下部の「Modify」ボタンをクリックしてください。

「User Information」画面が表示されます。

User Information

Username: administrator

Password: XXXXXXXXXX

Confirm Password: XXXXXXXXXX

Description: super administrator

Role

☒ Super Administrator ☐ Administrator ☐ User

Permissions:

☒ Windows Client ☒ Java Client ☐ View only

☒ Power Management ☐ Force to Grayscale

Status

☐ Disable account

☒ Account never expires

☐ Account expires on:

☐ User must change password at next login

☐ User cannot change password

☒ Password never expires

☐ Password expires after: 0 days

Save

3. 「Username」の欄に新しく変更するユーザーネームを、「Password」の欄に新しく変更するパスワードをそれぞれ入力してください。
4. 「Confirm Password」の欄に確認用パスワードを入力してください。
5. 「Save」ボタンをクリックしてください。
6. 変更成功という内容のメッセージのダイアログが表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。

7. ローカルコンソールのメイン画面の別のメニューをクリックすると、このメニューでの操作を終了します。

その他の管理メニューを操作する場合は

ネットワークの設定と、デフォルトスーパーアドミニストレーターのパスワードの変更が完了すると、上記以外の管理メニュー(「User Management」、「Device Management」、「Firmware Upgrade Maintenance」)を操作することができます。

これらのメニューは、製品の GUI ユーティリティ(ブラウザ版の Windows Active X ビューワーおよび Java アプレットビューワー、アプリケーション(スタンドアロン)版の Windows クライアントおよび Java クライアント)からアクセスできます。お使いの環境に適したユーティリティを選んでご利用ください。

注意: ファームウェアのアップグレードはローカルコンソールからは実行することができませんので、製品にリモートアクセスしてアップグレードを行ってください。

第4章 ログイン

概要

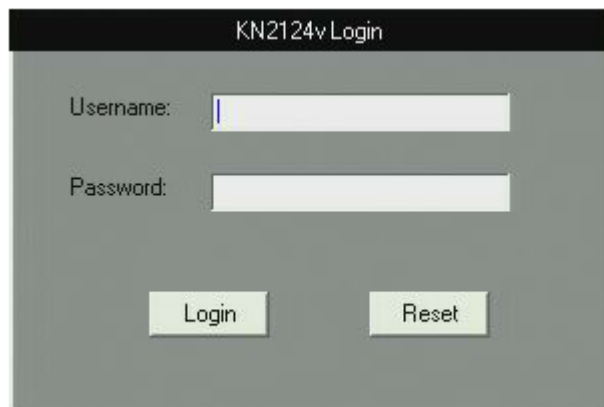
製品へのアクセスは、ローカルコンソール、またはリモートアクセスするクライアントコンピュータ上から Web ブラウザ、Windows アプリケーション、Java アプリケーションで行うことができます。

上記のどの方法でも、製品にアクセスする際には有効なユーザーネームとパスワードが必要です。無効なアカウントでログインした場合、画面上には「Invalid Username or Password」または「Login Failed」のエラーメッセージが表示されます。このような場合は、ユーザーネームとパスワードを正しく入力し、再ログインしてください。

注意: ログインに連続して失敗した回数が、スーパーアドミニストレーターによって設定されたログイン再試行可能回数を超えると、タイムアウト機能が作動しますので、その場合は、次のログインまでである一定の時間待機しなければなりません。詳細については p.189「Login Failures」をご参照ください。

ローカルコンソールからのログイン

ローカルコンソールのセットアップ (p.45 参照) が完了し、どのユーザーもローカルコンソールを使用していない場合、モニターには以下のようなログイン画面が表示されます。



The image shows a login window titled "KN2124v Login". It has a dark grey background. At the top, the title "KN2124v Login" is displayed in white. Below the title, there are two input fields: "Username:" followed by a text box with a blue cursor, and "Password:" followed by a text box. At the bottom, there are two buttons: "Login" and "Reset", both with a light green background and black text.

ローカルコンソールのメイン画面を呼び出す場合は、ログイン画面にユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」ボタンをクリックしてください。ローカルコンソールのメイン画面は、Web ブラウザ、Windows クライアント、Java クライアントの各メイン画面と同様の構成です。Web 画面のメイン画面に関する詳細は p.72 をご参照ください。

ブラウザからのログイン

製品には、どんなプラットフォームの Web ブラウザからでもアクセスすることができます。製品にアクセスする場合は、以下の手順で操作してください。

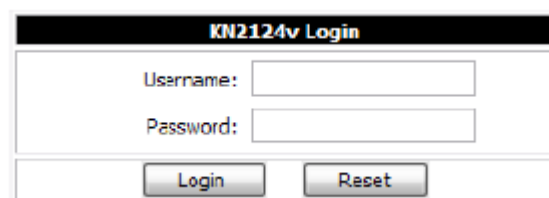
1. リモートアクセスするクライアントコンピュータ上で Web ブラウザを起動し、アクセスする製品の IP アドレスを URL バーに入力して[Enter]キーを押してください。

注意: セキュリティ上の理由から、アクセスする際に必要となるログイン文字列が製品に設定されている場合があります。(詳細は p.185 参照)この文字列が設定されている場合は、Web ブラウザの URL バーに IP アドレスを入力した後でスラッシュを続け、ログイン文字列を入力してください。以下、ログイン文字列が「kn4140v」に設定されている場合の入力例です。

192.168.0.100/kn4140v

IP アドレスやログイン文字列が不明な場合は、お使いの製品の管理者にご確認ください。

2. セキュリティ証明書に関する警告メッセージが表示される場合がありますが、本製品の証明書は信頼できるものですので、これを受け入れてください。(詳細は p.281「信頼された証明書」参照)同様のメッセージが再表示された場合も、同じように受け入れてください。証明書を受け入れると、以下のようなログイン画面が表示されます。

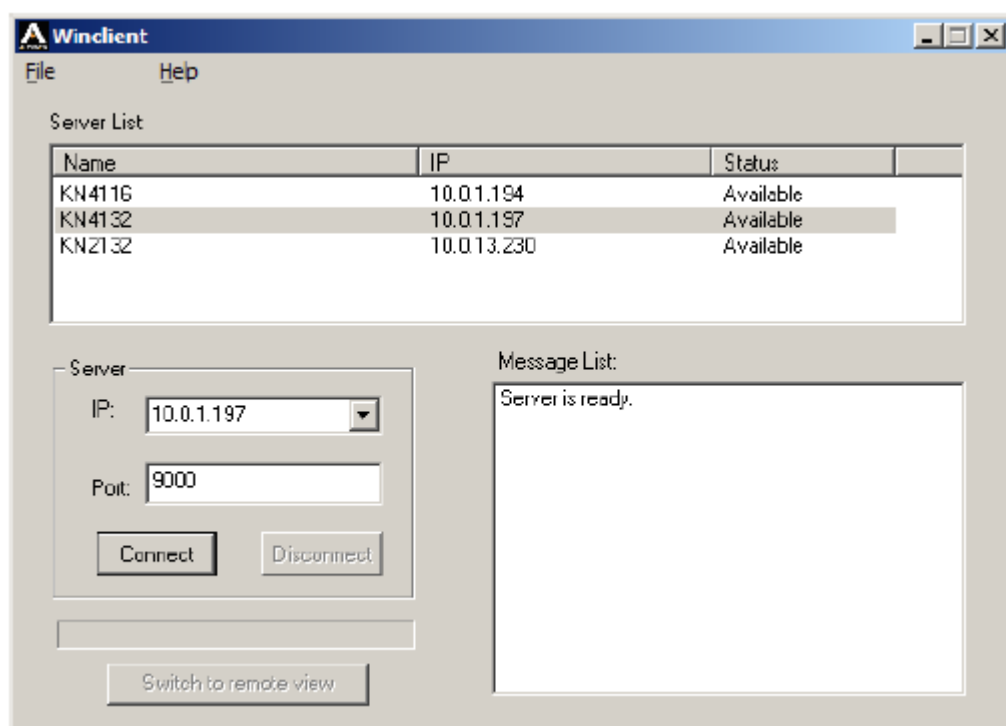
A screenshot of a web login interface for a device labeled 'KN2124v'. The title bar at the top says 'KN2124v Login'. Below it, there are two input fields: 'Username:' and 'Password:'. At the bottom, there are two buttons: 'Login' and 'Reset'.

3. 製品で有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」ボタンをクリックしてログインしてください。Web ブラウザのメイン画面に関する詳細は、p.72 をご参照ください。

Windows クライアントからのログイン

Web ブラウザによる製品へのアクセスが許可されていない環境で、Windows をお使いのユーザーは Windows クライアントアプリケーションを使うことで製品に直接リモートアクセスすることができます。

このアプリケーションを使用する場合は、事前に Web ブラウザメニューから Windows AP クライアントプログラムをダウンロードしておいてください。製品にアクセスする際には、事前にお使いのコンピュータにダウンロードしておいたアプリケーション版 Windows クライアントのフォルダーに移動し、プログラムのアイコン(WinClient.exe)をダブルクリックしてください。この操作で以下のような Windows クライアント接続画面が起動します。



接続画面

接続画面に表示される項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
メニューバー	メニューバーには「File」、「Help」の2つのメニューを提供しています。 ◆ 「File」メニューでは、ユーザーが作成した作業ファイルを新規作成したり、保存したり、開いたりすることができます。(p.69 参照) ◆ 「Help」メニューでは、Windows クライアントのバージョンを確認することができます。
Server List	Windows クライアントを起動すると、そのツールがインストールされているコンピュータと同じネットワークセグメントにある製品を自動検出し、リストに表示します。製品にアクセスする場合は、対象となるデバイスをダブルクリックしてください。 注意: 1. 「Enable Device List」の設定が有効になっていないデバイスは一覧に表示されません。詳細については、p.190「Working Mode」の内容をご確認ください。 2. このリストに表示されるのは、「Device Management」→「Network」→「Access Port」の「Program」の設定が、このダイアログボックスの「Server」の「Port」に設定された番号と一致しているユニットのみです。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Server	製品にリモートアクセスする際にこの欄を使用します。IP アドレスのリストボックスに目的のデバイスがない場合は、対象デバイスの IP アドレスをこのリストに、ポート番号を「Port」欄にそれぞれ入力してアクセスすることもできます。(ポート番号が不明な場合は、お使いの製品の管理者にご確認ください。) ◆ IP アドレスとポート番号を入力したら、「Connect」ボタンをクリックしてください。この操作でログインダイアログボックスが表示されますので、ユーザーネームとパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックして Windows クライアントのメイン画面を起動してください。Windows クライアントのメイン画面の詳細については p.76 をご参照ください。 ◆ 製品での操作が終了し、セッションを切断する場合は「Disconnect」ボタンをクリックしてください。
Message List	製品との接続に関するステータスメッセージが表示されます。
Switch to Remote View	製品との接続が確立して初めて、このボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、Windows クライアントのメイン画面に切り替わります。Windows クライアントのメイン画面の詳細については p.76 をご参照ください。

File メニュー

「File」メニューでは、ユーザーが作成した作業ファイルの新規作成を行ったり、また、そのファイルを保存したり開いたりすることができます。この作業ファイルはクライアントセッションで定義された全情報から構成されており、「Server List」と「Server IP」の項目やホットキーの設定が保存されています。

ユーザーがクライアントプログラムを起動すると、現在の作業ファイルに書き込まれている値を読み込みます。なお、現在の作業ファイルには、前回プログラムが終了した際に有効だった値が保存されています。

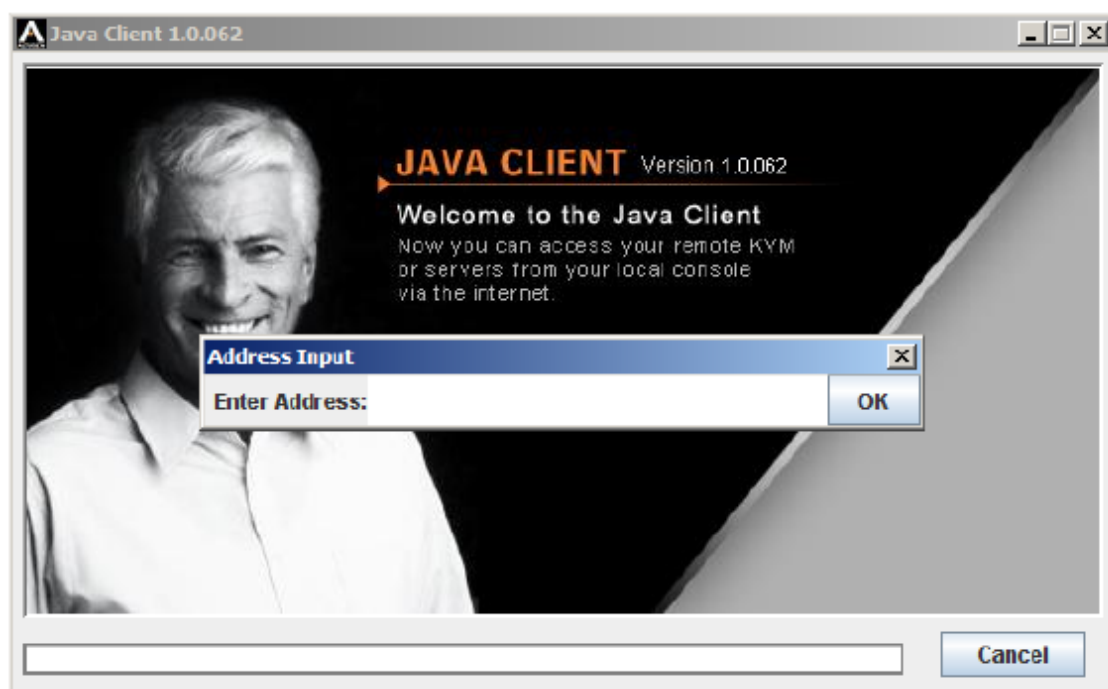
「File」メニューのサブメニューは下表のとおりです。

メニュー	説明
New	ファイルの新規作成を行います。このファイルに現在の値を保存しておくことで、後でその値を呼び出して使用することができます。
Open	過去に保存された作業ファイルを開き、その値を読み込みます。
Save	現在有効な値を使用中の作業ファイルに保存します。
Exit	Windows クライアントプログラムを終了します。

Java クライアントからのログイン

Web ブラウザによる製品へのアクセスが許可されていない環境で、Windows 以外の OS をお使いのユーザーは、Java クライアントアプリケーションを使うことで製品に直接リモートアクセスすることができます。

このアプリケーションを使用する場合は、事前に Web ブラウザメニューからアプリケーション版 Java クライアントをダウンロードしておいてください (p.205 参照)。製品にアクセスする際には、事前にお使いのコンピューターにダウンロードしておいた Java クライアントのフォルダーに移動し、プログラムのアイコン (JavaClient.jar) をダブルクリックしてください。この操作で以下のような Java クライアント接続画面が起動します。



1. 接続する製品の IP アドレスをダイアログに入力してください。以下、入力例です。
192.168.0.132

注意: Java クライアントが使用するポートをデフォルト以外の値で設定している場合は、このダイアログでそのポートも指定してください。以下、ポートを 9111 に設定している場合の例です。 例: 192.168.0.132:9111
詳細については、p.173「Program」をご参照ください。

「OK」ボタンをクリックすると、以下のようなログインダイアログが表示されます。



このダイアログでユーザーネームとパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックすると、Java クライアントのメイン画面に切り替わります。この画面は Windows クライアントのメイン画面と同様の構成です。メイン画面の説明については、p.76 をご参照ください。

第5章

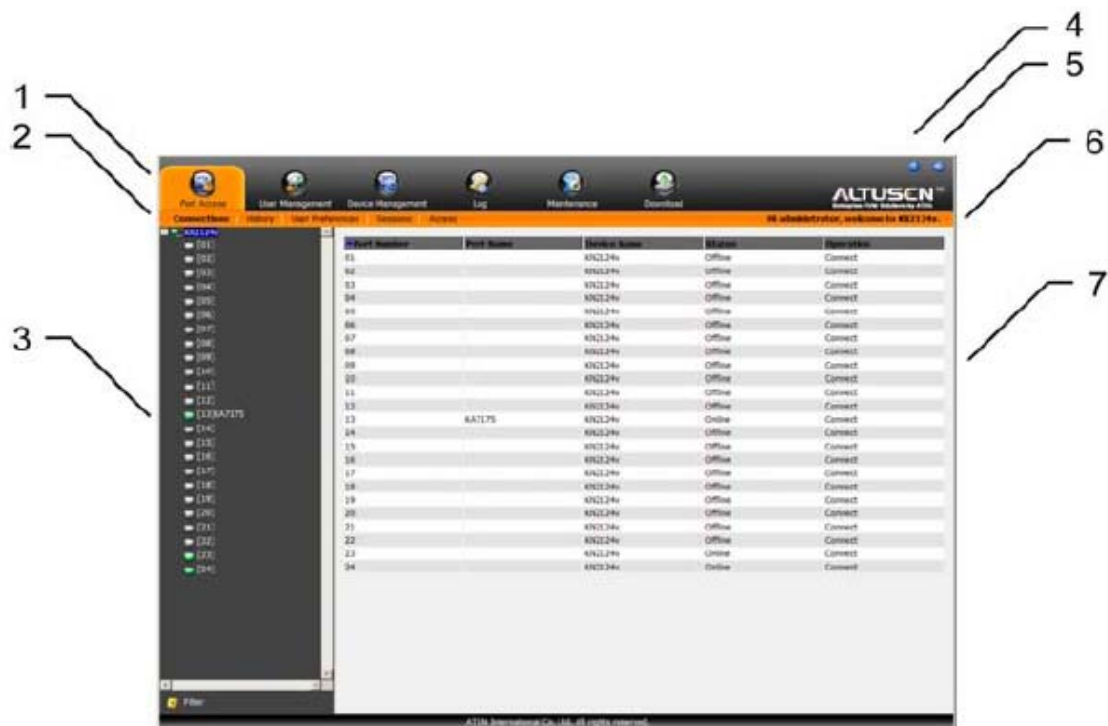
ユーザーインターフェース

概要

製品へのログインに成功すると、メインメニューの画面が表示されます。製品へのアクセス方法によって画面の表示は若干異なりますが、基本機能は共通しています。各インターフェースは次のセクションで説明しています。

Web ブラウザメイン画面

マルチプラットフォーム環境からの操作を考慮し、製品へのアクセスは標準的な Web ブラウザを使って行います。ユーザーのログイン認証 (p.64 参照) が完了すると、Web ブラウザのメイン画面の「Port Access」メニューが初期表示されます。



- 注意:**
1. 上図はスーパーアドミニストレーターでログインした場合の表示画面です。ユーザーの種類や権限によっては、表示されないメニューもあります。
 2. ローカルコンソールからログインした場合、「Maintenance」、「Download」の各タブは表示されません。また、パネルアレイモード機能は無効になります。

画面内の構成要素

Web メニューの項目は下表のとおりです。

No.	アイテム	説明
1	タブ	操作のメインカテゴリーがメニュー別にタブ表示されます。表示タブはユーザータイプやユーザーに与えられている権限によって決まります。
2	メニューバー	タブで選択された操作に関連するサブカテゴリーが表示されます。この部分に表示される項目はユーザータイプやユーザーに与えられている権限によって決まります。
3	サイドバー	操作中のタブやメニューバーに対応したポートリストがこの部分に表示されます。サイドバーのノードをクリックすると、その詳細画面が表示されます。 サイドバーの下にある「Filter」ボタンを使うと、ツリーに表示されるポートの範囲を変更することができます。フィルター機能については p.128 をご参照ください。
4	About(バージョン情報)	製品に現在インストールされているファームウェアのバージョンに関する詳細が表示されます。
5	Logout(ログアウト)	現在のセッションからログアウトします。
6	ウェルカムメッセージ	この機能が有効になっている場合 (p.139 参照)、ウェルカムメッセージがこの部分に表示されます。
7	対話式表示パネル	メインの作業領域です。選択されたメニューやサイドバーのノードに応じたメニューが表示されます。

タブメニュー

ページ上部のタブバーに表示されるアイコンの数およびタイプは、ユーザータイプ(スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザー)や、ユーザーに付与された操作権限によって決めます。各アイコンが表す機能は下表のとおりです。

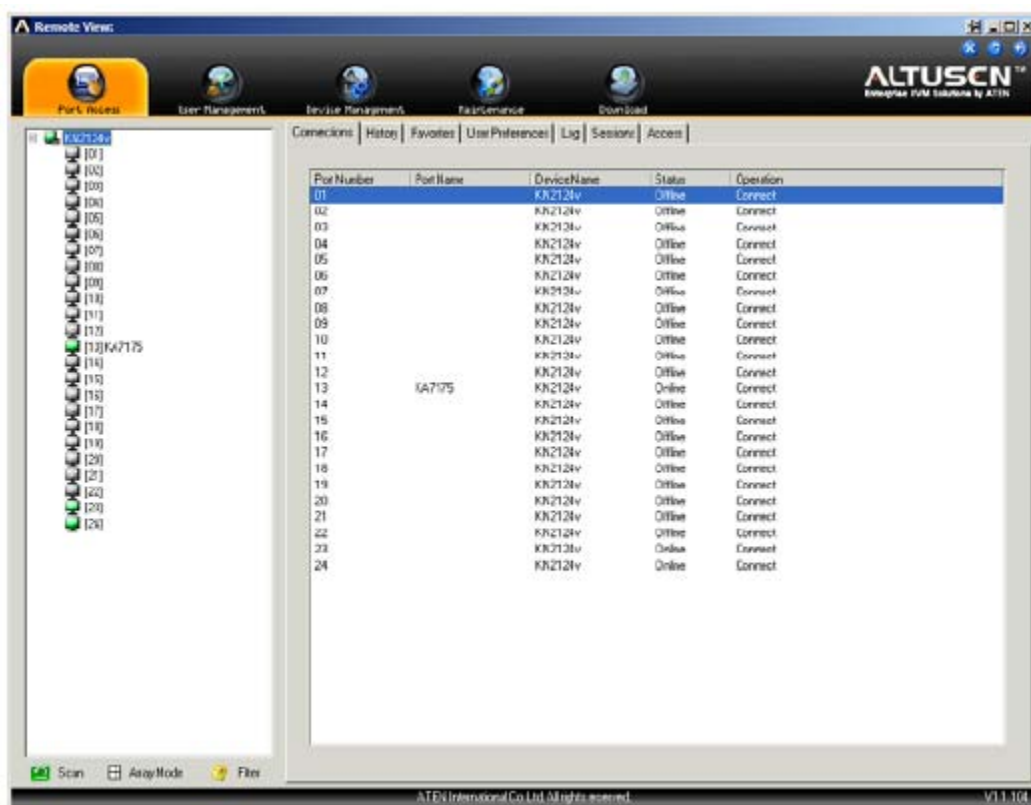
アイコン	機能
	Port Access : 製品に接続されているデバイスへのアクセス・操作を行います。このメニューはすべてのユーザーがアクセス可能です。
	User Management : ユーザーやグループの作成・管理を行います。また、デバイスをユーザーやグループに割り当てることもできます。本メニューの詳細については p.148 をご参照ください。なお、これは、スーパーアドミニストレーターとアドミニストレーターのみアクセス可能なメニューです。一般ユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。
	Device Management : 製品の操作に関する項目の設定・管理を行います。なお、これはスーパーアドミニストレーター、および設定権限のあるアドミニストレーターとユーザーのみがアクセス可能なメニューです。それ以外のユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。
	Log : ログファイルの内容を表示します。このメニューの詳細については p.140 をご参照ください。
	Maintenance : 製品のファームウェアアップグレードを行います。詳細については p.199「本体のファームウェアアップグレード」をご参照ください。なお、これはスーパーアドミニストレーター、および設定権限のあるアドミニストレーターとユーザーのみがアクセス可能なメニューです。それ以外のユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。
	Download : 権限のあるユーザーはこのメニューから Windows クライアント、Java クライアント、ログサーバー、PON ツール(電源管理デバイス操作ツール)をそれぞれダウンロードすることができます。なお、これはすべてのユーザーがアクセス可能なメニューですが、ダウンロードできるのは操作権限のあるアプリケーションのみです。

これ以外に、画面右上には、以下のアイコンが表示されます。各アイコンが表す機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	現在、製品にインストールされているファームウェアのバージョン情報を表示します。
	現在のセッションからログアウトします。

クライアントアプリケーションのメイン画面

アプリケーション版の Windows クライアント、Java クライアントから製品にアクセスした場合、ログイン(p.63 参照)すると下図のようなメイン画面が表示されます。



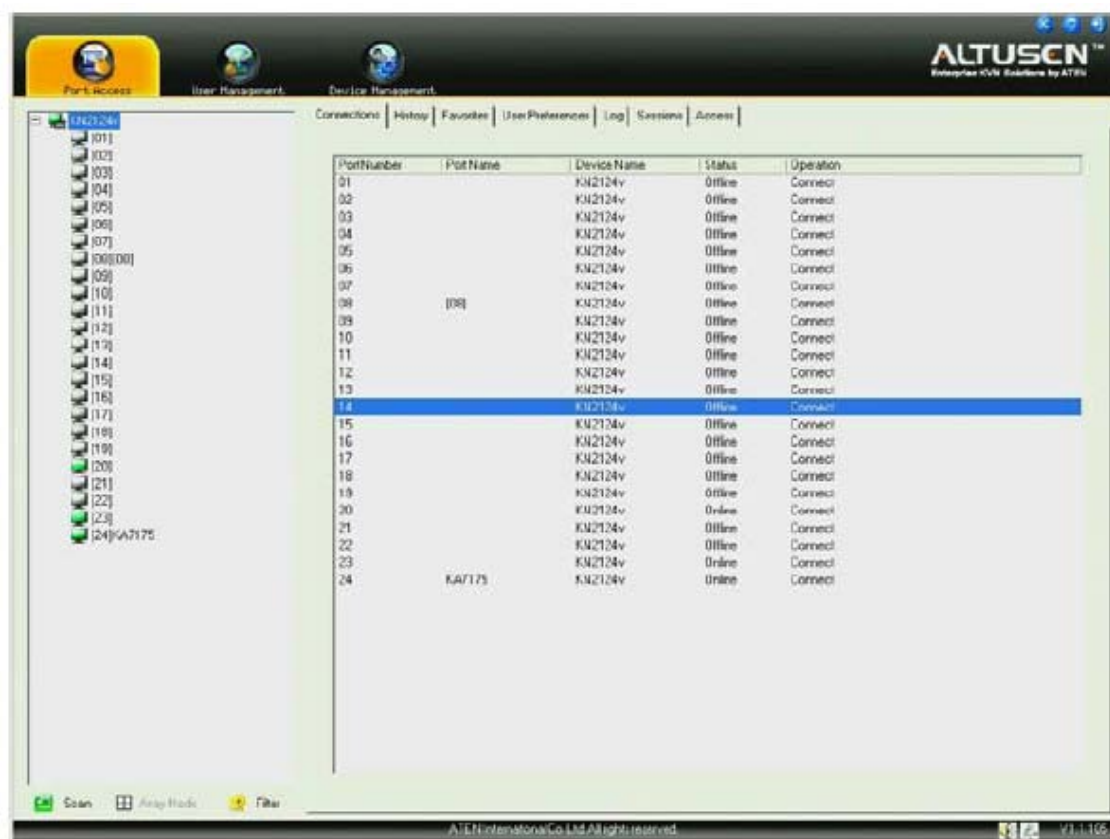
アプリケーション版のメイン画面は Web ブラウザのメイン画面と基本的に同様ですが、以下の点が異なりますので、ご注意ください。

1. アプリケーション版ではタブの下メニューバーがありません。Web ブラウザ版のメニューバーに表示されているものはタブメニューとして表示されます。なお、このタブメニューは上部のタブに対応したメニューが表示されます。
2. アプリケーション版では、「Log」メニューのタブが表示されません。アプリケーション版のクライアント画面でログを確認したい場合は、「Port Access」タブの「Log」メニュー (p.140 参照) にアクセスしてください。
3. アプリケーション版では、「Filter」ボタンの他に、「Scan」、「Array Mode」の各ボタンがサイドバー下部に表示されます。これらの機能については第 6 章「Port Access」をご参照ください。
4. アプリケーション版では画面の上部、または下部にマウスカーソルを移動させると表示されるコントロールパネルを提供しています。
5. アプリケーション版では画面右上に「閉じる」ボタン  があります。このアイコンをクリックすると、GUI メイン画面を終了し、最後に選択したポートを表示します。
6. アプリケーション版では以下のホットキーを使用することができます。

キー	アクション
Ctrl + P	「Port Access」メニューを開きます。
Ctrl + U	「User Management」メニューを開きます。
Ctrl + C	「Device Management」メニューを開きます。
Ctrl + F	「Maintenance」メニューを開きます。
Ctrl + D	「Download」メニューを開きます。
F1	「About」(バージョン情報)を参照します。
F2	選択されたポートのポート名前を編集します。
F4	サイドバー(左)パネルを選択します。
F5	メイン(右)パネルを選択します。
F7	GUI を終了します。
F8	ログアウトします。

ローカルコンソール GUI メイン画面

ローカルコンソールの GUI メイン画面は Java クライアント、Windows クライアントのメイン画面と基本的に同じです。



ただし、ローカルコンソールのメイン画面には「Maintenance」、「Download」の各タブは表示されません。また、「Array Mode」ボタンはご利用になれません。

これ以外に、画面右下には、以下のアイコンが表示されます。各アイコンが表す機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	スピーカーを表します。製品に接続しているコンピューターから出力された音声をローカルコンソールコンピューターで聞くことができます。スピーカー機能を有効または無効にする場合は、このアイコンをクリックしてください。無効になっている場合、このアイコンに赤い×印が表示されます。
	マイクを表します。ローカルコンソールコンピューターから入力された音声を製品に接続しているコンピューターに取り込むことができます。マイク機能を有効または無効にする場合は、このアイコンをクリックしてください。無効になっている場合、このアイコンに赤い×印が表示されます。

コントロールパネル

Windows クライアントコントロールパネル

Windows クライアントのコントロールパネルには、Web ブラウザ版、アプリケーション版共にすべてのユーザーインターフェースのコントロールパネルの機能を網羅していますので、本セクションでは Windows クライアントのコントロールパネルについて説明します。他のコントロールパネルは、Windows クライアントのコントロールパネルに比べて機能が少ないですが、使用方法は同じですので、このセクションを参考にしてください。

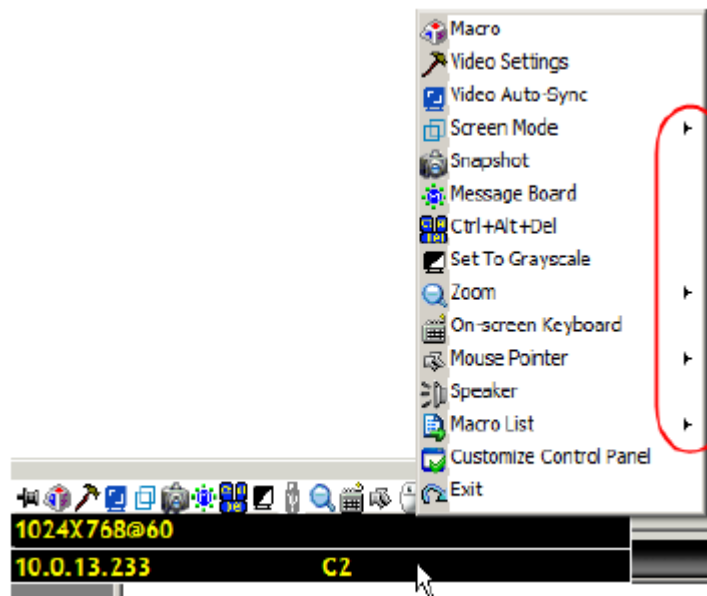
Windows クライアントコントロールパネルは、上段のアイコン、下段のテキストバー(2 行)から構成されています。



通常、中央のテキストバーにはリモート画面の解像度が表示され、最下段のテキストバーの左端には現在アクセス中のデバイスの IP アドレスがそれぞれ表示されます。また、最下段中央の番号においてスラッシュの前にはユーザーが使用中のバス番号が、後ろにはそのバスを使用中のユーザー数がそれぞれ表示されます。

-
- 注意:**
1. 上図は、全機能のアイコンを表示した場合のコントロールパネルを表しています。コントロールパネルに表示するアイコンはカスタマイズ可能です。詳細については、p.113 の「コントロールパネルの環境設定」をご参照ください。
 2. 製品のバスアサインメント機能の詳細については、p.216「マルチユーザーによる操作」をご参照ください。
-

- ◆ マウスポインターがアイコンの上に重なると、そのアイコンが表す機能の内容が中央のテキストバーに表示されます。また、メッセージボードの使用中に未読メッセージがあると、そのメッセージの内容が中央のテキストバーに表示されます。
- ◆ テキストバーでマウスを右クリックするとコントロールパネルの項目がメニューとして表示され、「Screen Mode」、「Zoom」、「Mouse Pointer」、「Mouse Sync Mode」の各項目のサブメニューを直接操作することができます。これらの機能については、後のセクションで詳しく説明します。



- ◆ コントロールパネルを画面上の別の場所に移動させたい場合は、テキストバーの部分をドラッグしてください。

コントロールパネルの機能

コントロールパネルの各機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	このアイコンをクリックすると、コントロールパネルを常に前面に表示します。もう一度このアイコンをクリックすると、通常の状態に戻します。
	マクロダイアログ (p.85 参照) を起動します。
	ビデオオプションダイアログを起動します。また、右クリックでクイックオートシンク (p.94「Video Settings」参照) を実行します。
	ビデオとマウスの自動同期を実行します。これは、「Video Options」ダイアログ (p.94 参照) の「Auto-sync」ボタンと同じ機能を提供します。
	画面表示をフルスクリーンモードまたはウィンドウモードに切り替えます。
	リモート画面のスナップショット(画面キャプチャ)を取得します。スナップショットの設定項目に関する詳細は p.115「Snapshot」をご参照ください。
	メッセージボード (p.99 参照) を起動します。
	[Ctrl] + [Alt] + [Delete] の信号をリモートコンピューターに送信します。
	画面表示をカラーまたはモノクロに変更します。
	「Virtual Media」ダイアログを起動します。バーチャルメディアデバイスがポートで利用可能になると別のアイコンに変わります。詳細については p.102「Virtual Media」をご参照ください。 注意: - このアイコンはバーチャルメディア対応モデル (KN2124v/KN2140v/KN4124v/KN4140v) 上でのみ表示されます。 - バーチャルメディア機能が無効、または利用不可の状態になると、このアイコンはモノクロで表示されます。
	リモート画面をズーム表示します。 注意: この機能はウィンドウモード(フルスクリーンモードが OFF)の場合にのみご利用いただけます。詳細については p.107「Zoom」をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

アイコン	機能
	オンスクリーンキーボード(p.108 参照)を起動します。
	マウスポインターの種類を選択します。 注意: このアイコンは選択されたマウスポインターの種類に応じて変わります。(p.109 「Mouse Pointer Type」参照)
	マウス同期を自動または手動で行います。 ◆ 「Automatic」(自動)を選択すると、アイコンに緑色のチェックマークが表示されます。 ◆ 「Manual」(手動)を選択すると、アイコンに赤色の×マークが表示されます。 この機能に関する詳細については、p.110「Mouse DynaSync Mode」をご参照ください。
	ローカルコンピュータのスピーカーを ON または OFF に切り替えます。スピーカーが OFF になるとアイコンに禁止マーク(赤い円に斜線が入ったもの)が表示されます。
	ユーザーマクロのドロップダウンリストを表示します。マクロへのアクセスやマクロの実行は、「Macro」ダイアログを使うよりもこの機能を使った方が簡単です。「Macro」ダイアログについては表の上部にあるマクロの項目、または p.85 のマクロに関する記載をご参照ください。
	コントロールパネルの環境設定ダイアログを起動します。コントロールパネルの環境設定に関する詳細は、p.113 をご参照ください。
	リモートビューを終了します。 ◆ Web ブラウザから操作している場合は、Web ブラウザのメイン画面に戻ります。 ◆ アプリケーション版 Windows クライアントのセッションから終了した場合は、現在のセッションからログアウトし、Windows クライアントのログインダイアログ(p.66 参照)に戻ります。 ◆ アプリケーション版 Java クライアントのセッションから終了すると、現在のセッションからログアウトし、Java クライアントを終了します。

(表は次のページに続きます)

アイコン	機能
	現在選択しているサーバーの[Num Lock]キー、[Caps Lock]キー、[Scroll Lock]キーの状態を表します。アイコンをクリックすると、その部分に対応するキーの状態を ON または OFF に切り替えます。 注意:初回接続時には LED ランプの表示状態が正確でない場合があります。このような場合には、アイコンをクリックして正しい状態に設定してください。



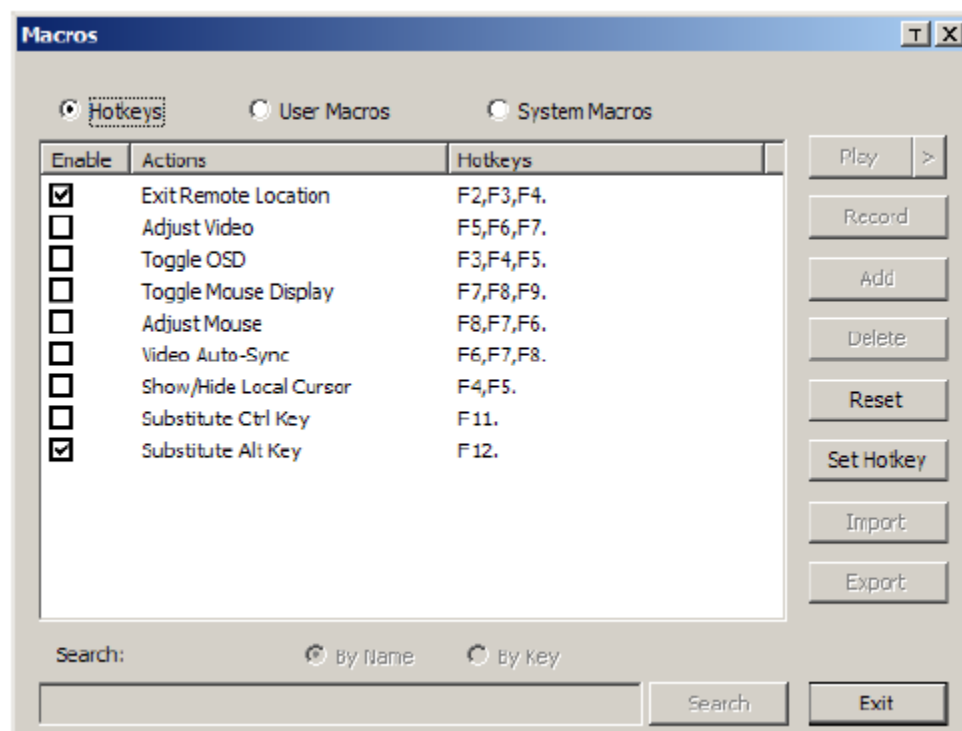
Macros

この機能を使うと、「Macro」ダイアログが起動し、ホットキー、ユーザーマクロ、システムマクロの管理を行うことが可能です。これらの機能の詳細については以下のセクションで説明します。

Hotkeys

KVM スイッチへの様々な操作はホットキーを使って実行することができます。ホットキーセットアップユーティリティ(このアイコンをクリックして起動)を使えば、ホットキーがどの操作を実行するのかを設定することができます。

左パネルにはホットキーが実行する操作が、また、右パネルには実行時のホットキーがそれぞれ表示されます。操作名の左にあるチェックボックスを操作するとホットキーを有効または無効に切り替えることができます。



デフォルトのホットキーでは不都合が生じる場合は、デフォルトの設定を変更することができます。変更手順は以下のとおりです。

1. 変更の対象となるアクションの行を選択し、「Set Hotkey」ボタンをクリックしてください。
 2. 新しいホットキーを入力してください(キーは一つずつ押してください)。キーを押すと、そのキーの名前は「Hotkeys」の欄に表示されます。
 3. キーの入力が終わったら、「Save」ボタンを押してください。
- ◆ すべてのホットキーの設定をデフォルト値にリセットする場合は「Reset」ボタンを、ホットキーの設定をキャンセルする場合は「Cancel」ボタンを、また、「Hotkeys」フィールドをクリアする場合は「Clear」ボタンをそれぞれ押してください。
 - ◆ 最初のキーが異なっていれば、同じキーの組み合わせを複数のアクションのホットキーに割り当てることができます。例えば、1 つ目のアクションのホットキーは[F1] + [F2] + [F3]に、2 つ目のアクションのホットキーは[F2] + [F1] + [F3]に、3 つ目のアクションのホットキーは[F3] + [F2] + [F1]にそれぞれ割り当てることが可能です。

注意: ホットキーを実行する際には、必ずキーを押して離してから次のキーを操作するようにしてください。1 度に操作できるのは 1 つのキーだけです。

ホットキーが実行できる操作は以下のとおりです。

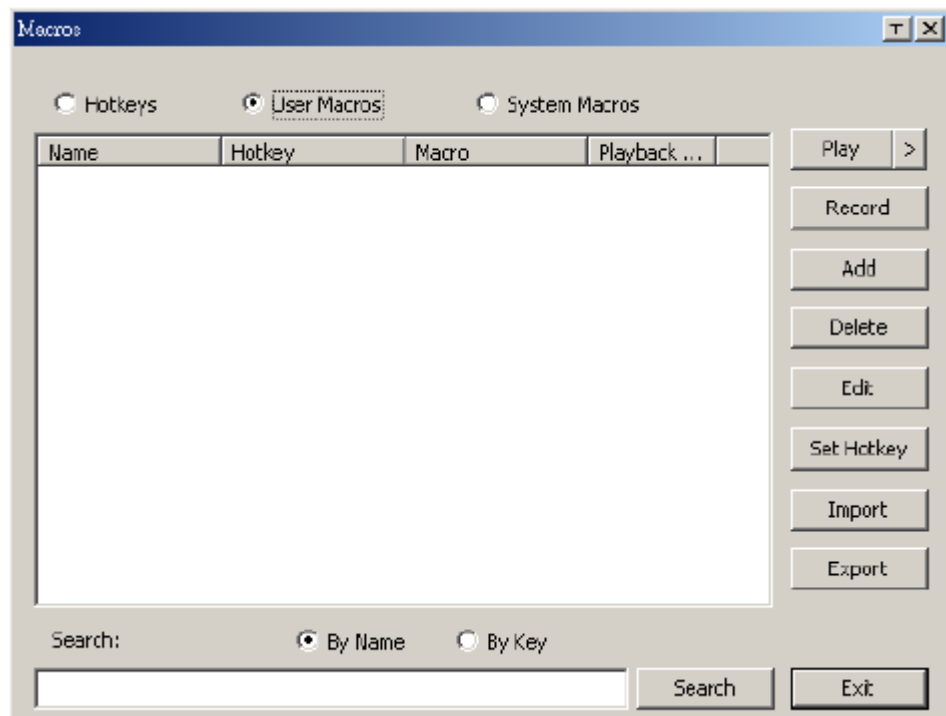
アクション	説明
Exit remote location	製品との接続を終了しクライアントコンピューター操作に戻ります。
Adjust Video	ビデオアジャストユーティリティの画面を起動します。
Toggle OSD	コントロールパネルを OFF または ON に切り替えます。
Toggle mouse display	ローカル/リモートの 2 つのマウスポインターが表示されて操作しづらい場合は、この機能を使って片方のポインターを小さい円にすることができます。もう一度この機能を実行すると、元のカーソルの状態に戻ります。 注意: このホットキーは、コントロールパネルの「Mouse Pointer」メニューで「Dot」を選択した場合と同じ機能を提供します (p.109 参照)。なお、Java コントロールパネルにはこの機能はありません。

(表は次のページに続きます)

アクション	説明
Adjust mouse	ビデオ解像度の変更に応じてローカルとリモートのマウスの動作を同期させます。このホットキーを実行した後、クライアントコンピューターのマウスポインターをリモートサーバーのマウスポインターに重ねてクリックすると、マウスが同期します。
Video Auto-sync	ビデオの自動同期を行います。このホットキーは、コントロールパネルの「Video Settings」メニューで起動したダイアログで「Auto Sync」ボタンを押した場合と同じ機能を提供します (p.94 参照)。
Show/Hide Local Cursor	クライアントコンピューターのマウスポインターを OFF または ON に切り替えます。
Substitute Alt key	キーボードの入力信号はキャプチャされ製品に送られますが、[Alt] + [Tab] と [Ctrl] + [Alt] + [Del] の各組み合わせはローカル側で実行されてしまいます。これらのキーをリモートコンピューター側で実行したい場合、他のキーを [Alt] キーの代替キーとして使用することで解決します。例えば、[F12] キーを代替キーとして使用した場合、上記の 2 つのキー操作は [F12] + [Tab]、[Ctrl] + [F12] + [Del] でそれぞれ実行できます。
Substitute Ctrl key	[Ctrl] キーを使った操作がクライアントコンピューター上でキャプチャされてしまい、サーバー側に送られない場合は、[Ctrl] キーの代替キーを使用することで解決します。例えば、[F11] キーを代替キーとして使用する場合、[F11] + [5] のキー操作はリモート側で [Ctrl] + [5] のキー操作として認識されます。

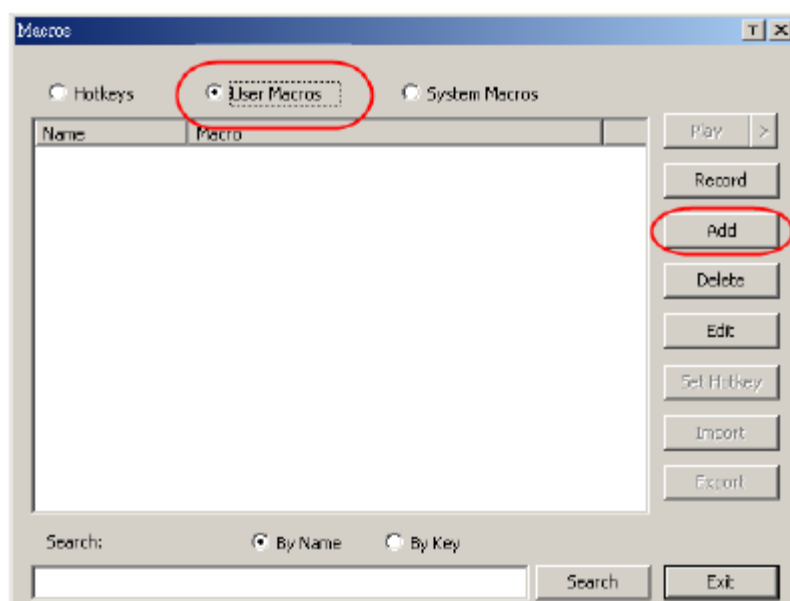
User Macros

ユーザーマクロはサーバーで特定のアクションを実行する際に使用します。

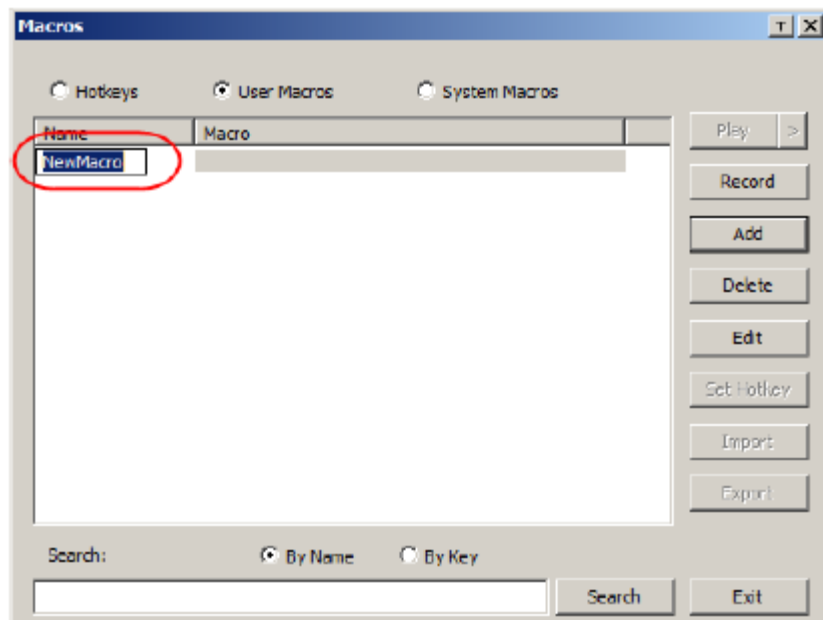


マクロを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

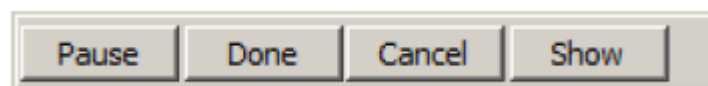
1. 「User Macros」を選択し、「Add」ボタンをクリックしてください。



- 作成するマクロの名前をダイアログに入力してください。ここでは例として、「New Macro」という名前で新しいマクロを作成します。



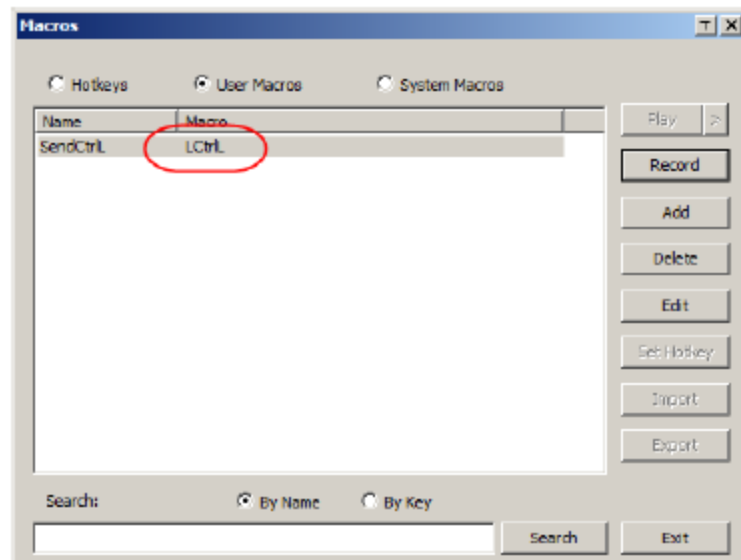
- 「Record」ボタンをクリックしてください。ダイアログが非表示になると、以下のようなパネルが画面の左上に表示されます。



- マクロキーを入力したら、「Done」ボタンをクリックしてください。

注意: マクロの記録を一時停止する場合は「Pause」ボタンをクリックしてください。また、記録を再開する場合はもう一度「Pause」ボタンをクリックしてください。

操作が終了すると、「Macros」ダイアログが表示され、登録したキーが「Macro」の列に表示されます。

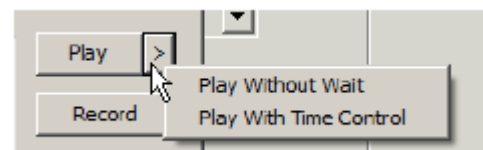


登録したキーを変更したい場合は、対象となるマクロを選択し、「Edit」ボタンを押してください。

5. 他にも作成したいマクロがある場合は、上記の操作を繰り返してください。

作成したマクロは、このダイアログで「Play」ボタンをクリックするか、コントロールパネルのマクロリストからその項目を選択することで実行することができます。(p.83 参照)

このダイアログでマクロを実行する場合、マクロの実行方法を選択することができます。



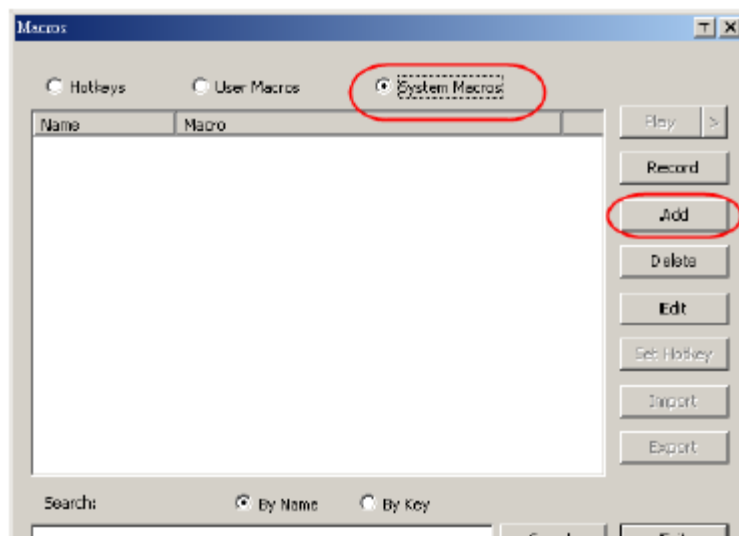
- ◆ 「Play Without Wait」を選択すると、マクロとして登録された各キーを連続して実行します。
- ◆ 「Play With Time Control」を選択すると、マクロ作成時のキー入力の時間を再現してマクロを実行します。なお、これらのオプションは「Play」ボタンの右側にある三角ボタンで選択可能です。

注意: ユーザーマクロは各ユーザーのクライアントコンピューターに保存されますので、マクロの数、マクロ名の長さ、マクロホットキーの構成には特に制限がありません。

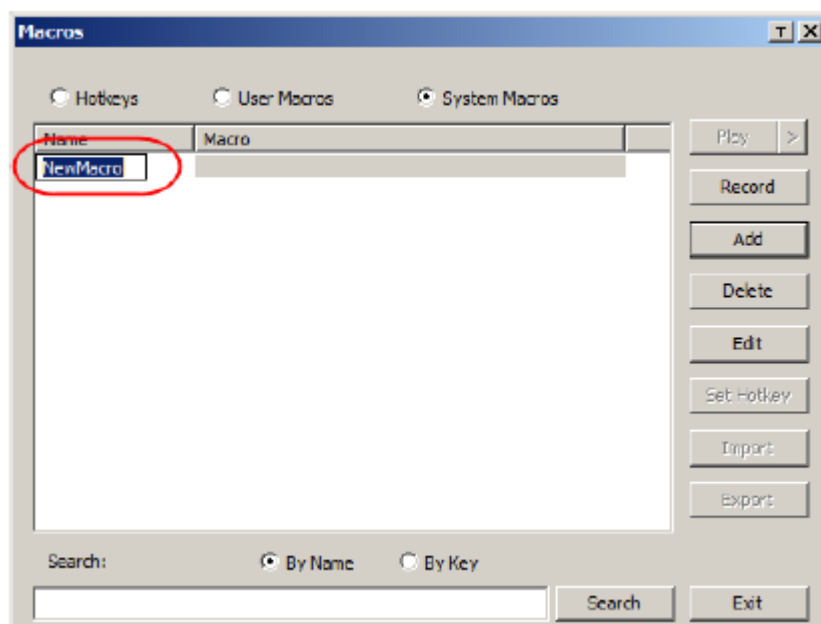
System Macros

システムマクロはセッション終了時に起動するマクロを作成する際に使用します。例えば、セキュリティ強化のために[Win] + [L]キーを送信するマクロを作成し、次にそのサーバーにログインした際に Windows ログイン画面を表示することもできます。マクロを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

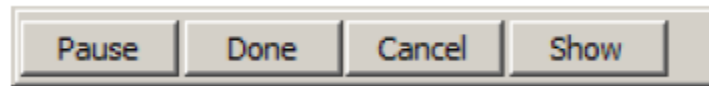
1. 「System Macros」を選択し、「Add」ボタンをクリックしてください。



2. 作成するマクロの名前をダイアログに入力してください。ここでは例として、「New Macro」という名前で新しいマクロを作成します。



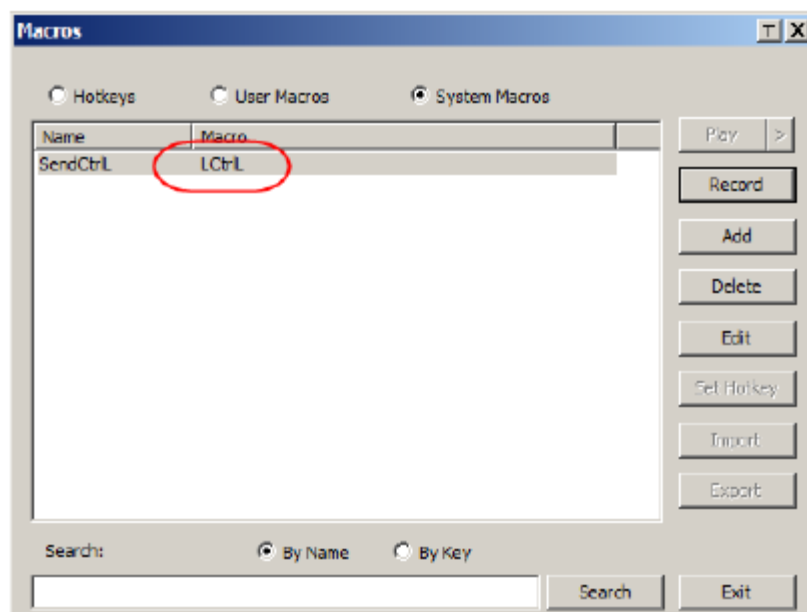
3. 「Record」ボタンをクリックしてください。ダイアログが非表示になると、以下のようなパネルが画面の左上に表示されます。



4. マクロキーを入力したら、「Done」ボタンをクリックしてください。

注意: マクロの記録を一時停止する場合は「Pause」ボタンをクリックしてください。もう一度「Pause」ボタンをクリックすると、記録を再開します。

操作が終了すると、「Macros」ダイアログが表示され、登録したキーが「Macro」の列に表示されます。



登録したキーを変更したい場合は、対象となるマクロを選択し、「Edit」ボタンを押してください。

5. 他にも作成したいマクロがある場合は、上記の操作を繰り返してください。

作成されたシステムマクロは、各ポートで実行することができます。「Port Access」メニューをクリックし、マクロを実行するポートをポートリストから選択して、「Connection」タブで実行するマクロを選択してください。(p.132 参照)

-
- 注意:**
1. 各ポートでは 1 つのシステムマクロしか選択することができません。
 2. システムマクロは製品内部で保持しますので、マクロ名は 64 バイト以下で、また、ホットキーは 256 バイト以下で設定してください。(1 つのキーにつき 3～5 バイト 使用します)
-

Search

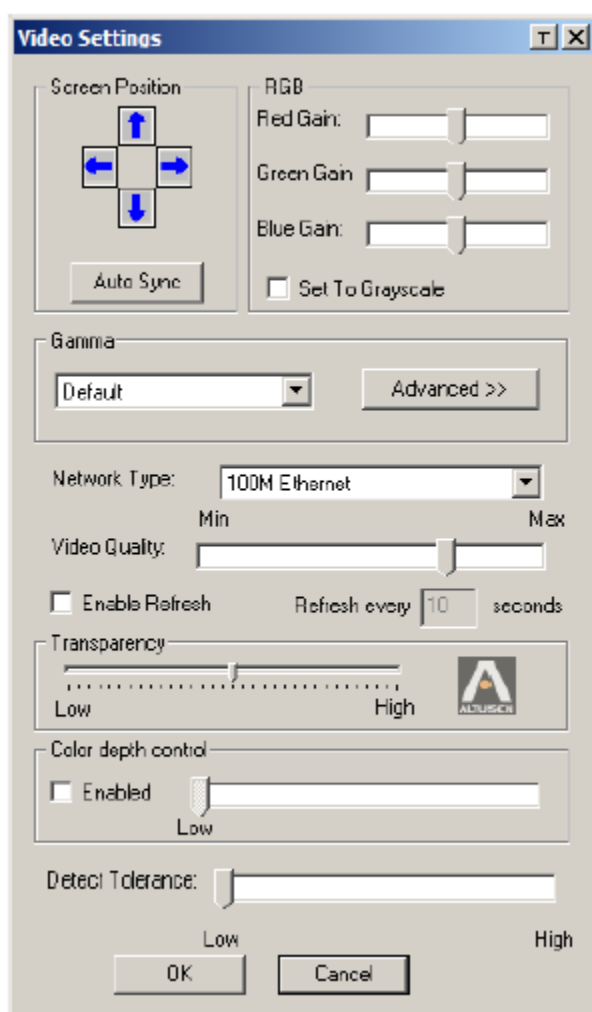
この機能を使用すると、既に作成したマクロを検索し、結果を一覧表示して、マクロの実行や編集を行うことができます。

この機能を使用する場合、マクロの名前で検索する場合は「By Name」を、また、マクロで使用するキーで検索する場合は「By Key」を選択し、検索したい文字列をテキストボックスに入力して「Search」ボタンをクリックしてください。条件に一致するマクロがパネルに表示されます。



Video Settings

コントロールパネル上のこのアイコンをクリックすると、「Video Settings」ダイアログが起動します。このダイアログでのオプションを使うことによって、お使いのモニター上に表示されるリモート画面の位置や画質を調節することができます。



このダイアログの項目の内容は以下のとおりです。

オプション	機能
Screen Position	矢印ボタンをクリックすることでサーバーのウィンドウの水平位置と垂直位置を調整します。
Auto-Sync	クリックすると、リモート画面の垂直、水平各方向のオフセット値を検出し、ローカル側の画面に自動的に同期します。 注意: - ローカルとリモートのマウスポインターが同期を失った場合、大半のケースではこの機能を使用することで再び同期します。 - この機能は明るい画面で実行すると最大の効果を発揮します。 - 満足のいく調整結果が得られなかった場合は、「Screen Position」ボタンでリモート画面の位置を手動で調整してください。
RGB	スライドバーをドラッグして RGB(赤、緑、青)の値を調整します。RGBの値の増加に伴って、イメージの RGB 要素も増加します。 「Set to Grayscale」の項目を有効にすると、リモート画面をグレースケールで表示します。
Gamma	ビデオ表示のガンマレベルを調節します。この機能については次のセクション(Gamma Adjustment)で詳しく説明します。
Network Type	クライアントコンピューターが使用するインターネット接続タイプを選択します。製品はここで選択した項目によって、「Video Quality」、「Detect Tolerance」の各項目を自動的に調整し、ビデオの表示画質を最適化します。 ネットワークの状態は変化しますので、プリセットの選択項目では不都合が生じる場合があるかもしれません。その際は、「Customize」を選択し、「Video Quality」、「Detect Tolerance」のスライドバーを使ってお使いの環境に適した値に調節してください。
Video Quality	スライドバーをドラッグしてビデオ画質を調整します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワークのバンド幅によっては、高い値を設定すると逆にレスポンス時間に影響を与える可能性があります。

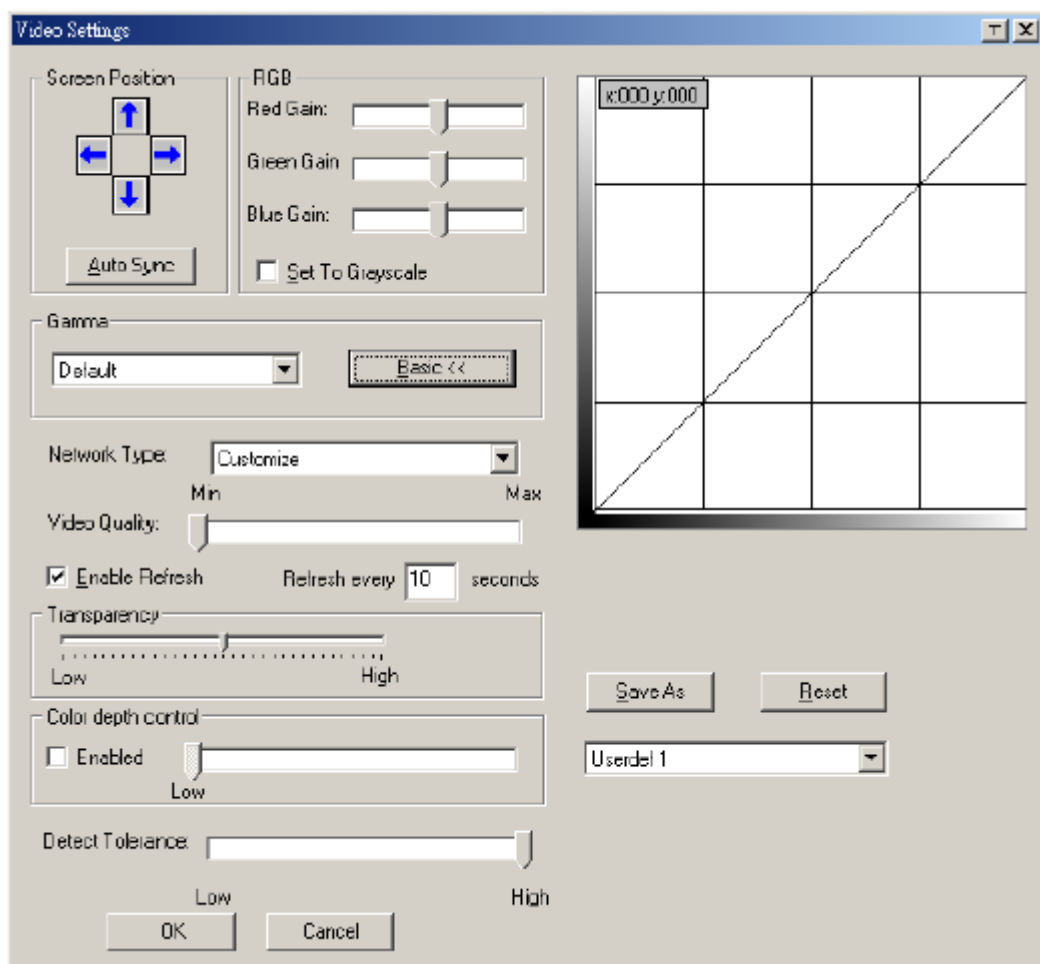
(表は次のページに続きます)

オプション	機能
Enable Refresh	本製品は、1～99 秒毎に画面を再描画し、ブロックノイズ等歪みを除去します。「Enable Refresh」の項目にチェックを入れて、再描画の時間間隔を1～99の整数で入力してください。製品はここで設定された時間間隔で、画面を再描画します。この機能はデフォルトでは無効になっていますので、有効にしたい場合は「Enable Refresh」の隣にあるチェックボックスをクリックしてチェックを入れてください。 注意： 1. マウスの動作が止まった時に製品はインターバル時間の計測を開始します。 2. この機能を有効にするとネットワーク上に送信されるビデオデータの量が増加します。また、設定するインターバル時間の値が小さくなるに従って、ビデオデータの転送頻度が高くなります。この値を小さくしすぎると処理全体のレスポンスに影響を与える可能性がありますので、ご注意ください。
Transparency	コントロールパネルおよびその他のツールバーの透明度を調節します。お好みの透明度になるようにバーをスライドして調整してください。
Color Depth Control	色情報の値を調整し、ビデオ画面の色深度を調節します。
Detect Tolerance	ビデオ画質に関連する設定項目です。この項目の値を変更することでピクセル変化の検出を行ったり、変化を無視したりすることができます。設定値を高くすると、データ転送量が少なくなり、表示画質が低くなります。また、設定値を低くすると高い表示画質を提供することができますが、設定値が低すぎるとデータの転送量が増えすぎて、逆にネットワークのパフォーマンスに悪影響を及ぼす場合があります。

Gamma Adjustment

リモート表示画面のガンマレベルを調整する必要がある場合は、「Video Adjust」ダイアログの「Gamma」機能を使用してください。

- ◆ 「Basic」設定の場合、10 種類の既定値、4 種類のユーザー定義値を選択することができます。リストボックスをドロップダウンして、最適な値を選択してください。
- ◆ さらに細かい設定を行う場合は、「Advanced」ボタンをクリックしてください。クリックすると以下のようなダイアログが表示されます。



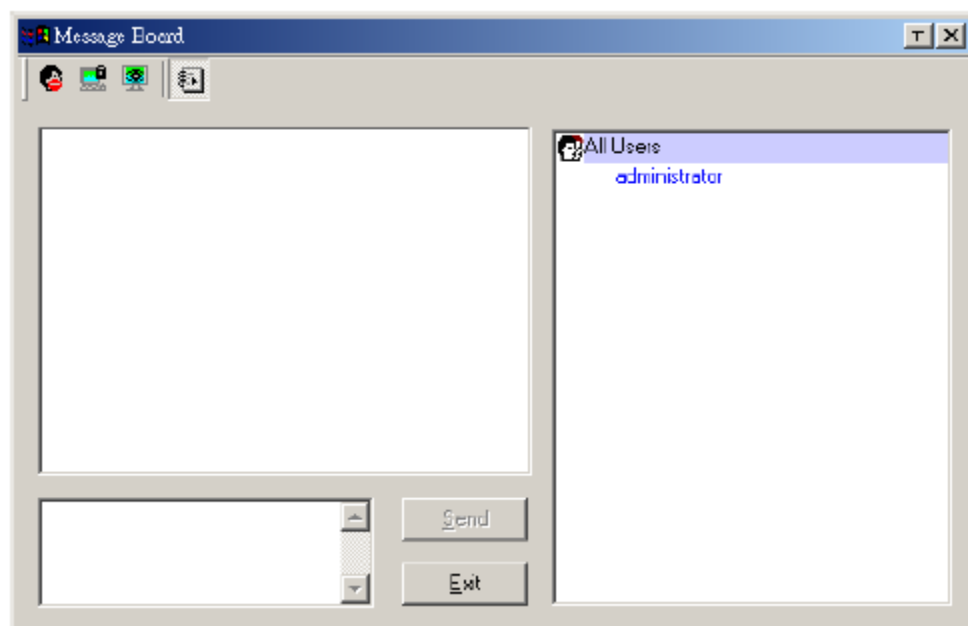
- ◆ 画面出力の値を調節する場合は、斜線の部分をクリックしドラッグしてください。(複数箇所操作することが可能)
- ◆ 上記の方法で変更した値をユーザー定義の設定として保存する場合は「Save As」をクリックしてください。ユーザー定義の値は最大 4 種類までの保存することができます。設定された値はリストボックスから選択することができます。
- ◆ 変更内容を破棄し、ガンマラインを元の状態に戻す場合は「Reset」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 変更内容を保存し、ダイアログを終了する場合は「OK」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 変更内容を破棄し、ダイアログを終了する場合は「Cancel」ボタンをクリックしてください。

注意: 最適な値で設定するために、リモート画面を見ながら設定値の変更を行ってください。



Message Board

本製品はマルチユーザーログインに対応している為、メッセージボード機能を提供しています。これによって、ログインユーザーは相互にコミュニケーションを取ることができます。



ボタンバー

ボタンバーにあるボタンは各機能の ON/OFF を交互に切り替えるトグルボタンです。各ボタンの機能は下表のとおりです。

ボタン	アクション
	チャット機能を有効/無効にします。チャット機能が無効になると、メッセージボードに送信されたメッセージは表示されなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、この機能を無効にしているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザーネームの隣にチャット無効のアイコンが表示されます。
	キーボード/ビデオ/マウスの専有/開放を行います。ポートが専有モード(p.273 参照)に設定されていると、このボタンを使ってキーボード/ビデオ/マウス操作を専有することができます。あるユーザーがこれらを専有すると、他のユーザーは画面の参照やキーボード/マウスの操作ができなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、操作を専有しているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザーネームの隣にアイコンが表示されます。
	キーボード/マウスの専有/開放を行います。ポートが専有モード(p.273 参照)に設定されていると、このボタンを使ってキーボードとマウスの操作を専有することができます。あるユーザーがこれらを専有すると、他のユーザーは画面の参照はできますが、キーボード/マウスの操作ができなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、操作を専有しているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザーネームの隣にアイコンが表示されます。
	ユーザーリストを表示/非表示にします。ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルが閉じます。また、ユーザーリストが開いている場合、このボタンは網がけされた状態になります。

メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに送信したメッセージやシステムメッセージはパネルに表示されますが、チャット機能を無効にしている場合は、メッセージが送信されてもメッセージボード上には何も表示されません。

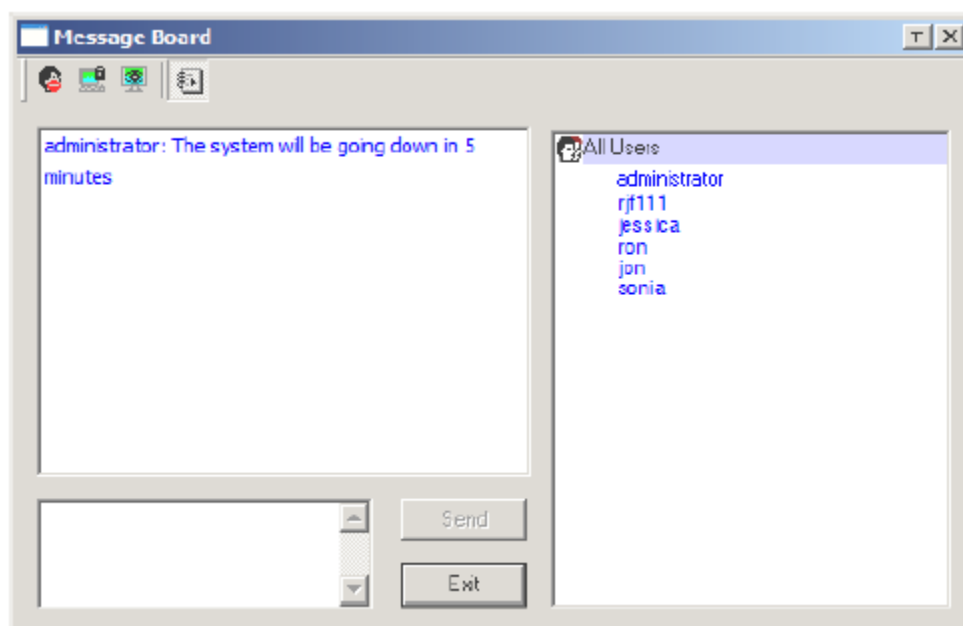
メッセージ編集パネル

メッセージボードに送信したいメッセージをこのパネルで編集してください。「Send」ボタンをクリック、または[Enter]キーを押すとメッセージがメッセージボードに送信されます。

ユーザーリストパネル

現在ログイン中のユーザーのユーザーネームはこのパネルに表示されます。

- ◆ 自身の名前は青色で、その他のユーザーの名前は黒色でそれぞれ表示されます。
- ◆ デフォルトの設定では、メッセージはすべてのユーザー宛に送信されます。特定のユーザー宛にメッセージを送信したい場合は、宛先となるユーザーを選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ 一旦、ユーザーの名前が選択された状態で再び全員宛にメッセージを送信したい場合は、「All Users」を選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがチャット機能を無効にしている場合、機能を無効にしていることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。
- ◆ ユーザーがキーボード/ビデオ/マウス、またはキーボード/マウスを専有している場合、デバイスを専有していることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。





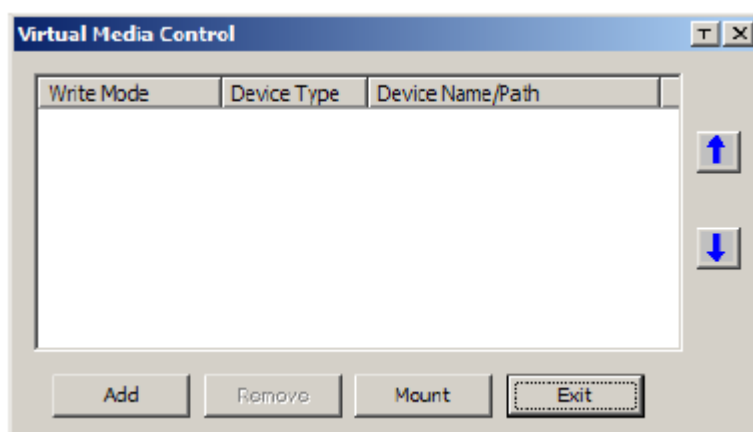
Virtual Media

バーチャルメディア機能を使うと、リモートユーザーが操作しているクライアントコンピューターのドライブ、フォルダー、イメージファイル、リムーバブルディスク等を、製品に接続されているサーバーでマウントし、仮想ドライブとして使用することができます。

注意: バーチャルメディア機能は、バーチャルメディア対応コンピューターモジュール (KA7175、KA7176) を使ってサーバーを製品に接続した場合に限りご利用いただけます。

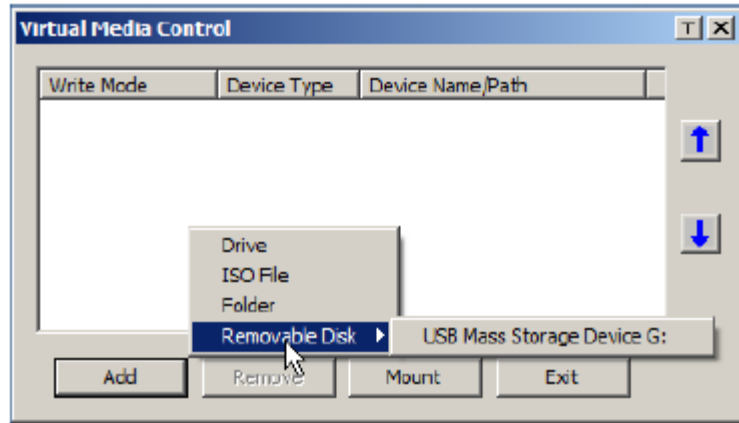
この機能を利用する場合は、以下の手順で操作してください。

1. バーチャルメディアのアイコンをクリックして「Virtual Media」ダイアログを起動してください。



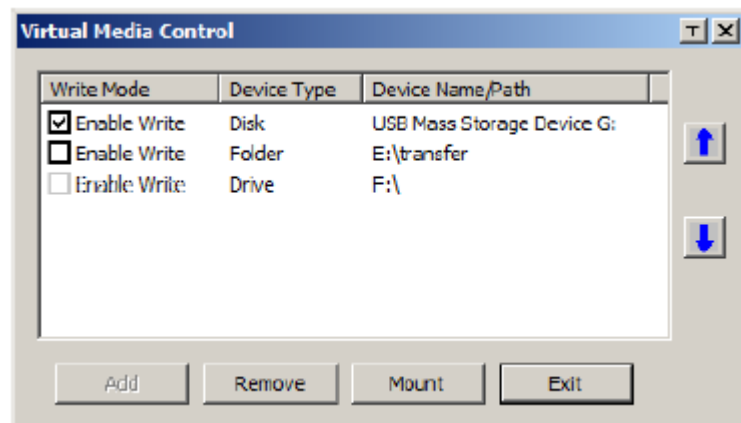
注意: 右上の「T」ボタンをクリックすると、ダイアログボックスの透明度を調整するスライダーが表示されます。調整後は、ダイアログの任意の場所をクリックしてスライダーを閉じてください。

2. 「Add」ボタンをクリックし、ソースメディアを選択してください。



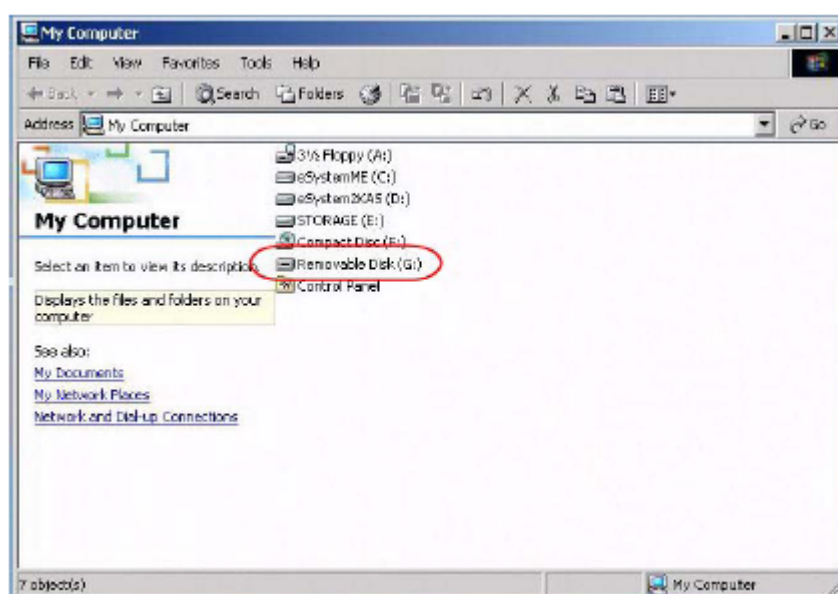
選択した項目に応じて、ドライブ、ファイル、フォルダー、リムーバブルディスクのパスを選択するダイアログが表示されます。各メディアのマウント方法に関する詳細は p.289「バーチャルメディア対応」をご参照ください。

3. そのほかのソースメディアも追加する場合は、「Add」ボタンをクリックして必要となるメディアを追加してください。
バーチャルメディアは最大 3 つまでマウントすることができます。リストにおける上から 3 つめまでの項目は選択された項目であることを表しています。選択された項目の順番を入れ替える場合は、移動させたいデバイスを選択し、上下の矢印ボタンをクリックして順序を決定してください。
4. 「Read」は、リモートサーバーにデータを送信することのできるリダイレクトされたデバイスを、また、「Write」は、リモートサーバーからのデータが書き込み可能な状態になっているリダイレクトされたデバイスを指します。デフォルトの設定では、読み取り専用になっていますので書き込みの機能は無効になっています。リダイレクトされたデバイスの読み取りと書き込みを同時に許可したい場合は、「Enable Write」の項目にチェックを入れてください。



- 注意:**
1. リダイレクトされたデバイスに書き込みができない場合は、リスト中ではグレーで表示されます。
 2. 本製品が対応しているバーチャルメディアの種類については p.289「バーチャルメディア対応」をご参照ください。

5. リストから項目を削除する場合は、対象となる項目を選択し、「Remove」ボタンをクリックしてください。
6. ソースメディアの選択後に「Mount」ボタンをクリックすると、ダイアログは終了します。このとき、選択されたバーチャルメディアのデバイスがリモートシステムにリダイレクトされ、リモートシステムのファイルシステムで認識されます。



デバイスがマウントされると、そのデバイスをサーバーに実際に挿入されているメディアと同じように扱うことができますので、ファイルのドラッグやドロップを行ったり、リモートシステムのファイルを開いて編集後にリダイレクトされたデバイスに保存したりすることもできます。

リダイレクトされたメディアに保存したファイルは、実際にはローカル側のファイルシステムに保存されます。また、リダイレクトされたメディアからドラッグしたファイルは、実際にはローカルシステム側から移動することになります。

7. リダイレクトを終了する場合は、コントロールパネルを起動してバーチャルメディアのアイコンをクリックしてください。マウントされたデバイスはすべて自動的にアンマウントされます。

バーチャルメディア機能に関連するアイコン

Windows クライアントのバーチャルメディアのアイコンは、使用ドライブの状態に応じて変化します。各アイコンが示す機能の詳細は下表のとおりです。

アイコン	機能
	バーチャルメディア機能が無効、または何らかの理由で利用できない場合、アイコンはグレーで表示されます。
	バーチャルメディア機能が利用可能である場合、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックするとバーチャルメディアのダイアログを表示します。
	バーチャルメディアデバイスがリモートサーバー側でマウントされると、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、リダイレクトされているデバイスはすべてアンマウントされます。



Zoom

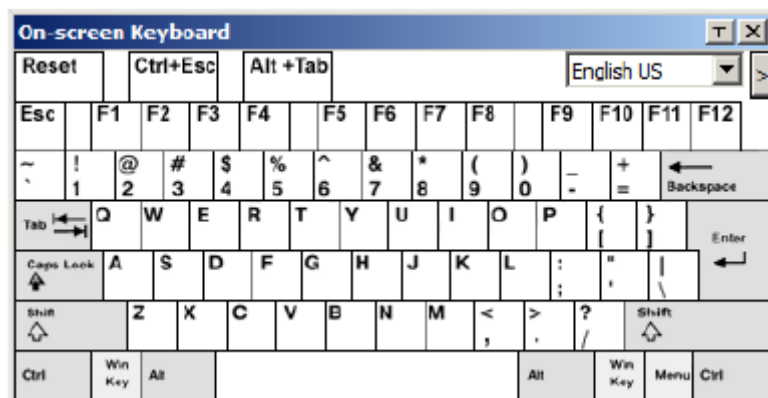
リモートビューのウィンドウをズーム表示します。製品が提供している表示倍率は下表のとおりです。

設定	説明
100%	リモートビューのウィンドウを 100%の倍率で表示します。
75%	リモートビューのウィンドウを 75%の倍率で表示します。
50%	リモートビューのウィンドウを 50%の倍率で表示します。
25%	リモートビューのウィンドウを 25%の倍率で表示します。
1:1	リモートビューのウィンドウを 100%の倍率で表示します。これは 100%の倍率で表示した場合と異なり、リモートビューウィンドウがリサイズされても、表示サイズは変更されません。表示されていない部分を操作したい場合は、マウスをウィンドウの端に移動させスクロールを使用してください。 注意: 1:1 の表示倍率は Java アプレットビューワーや Java クライアントアプリケーションではご利用いただけません。



On-Screen Keyboard

本製品は、各言語の標準的なキーボードレイアウトが利用できるオンスクリーンキーボード機能を提供しています。上のアイコンをクリックすると、オンスクリーンキーボードが起動します。

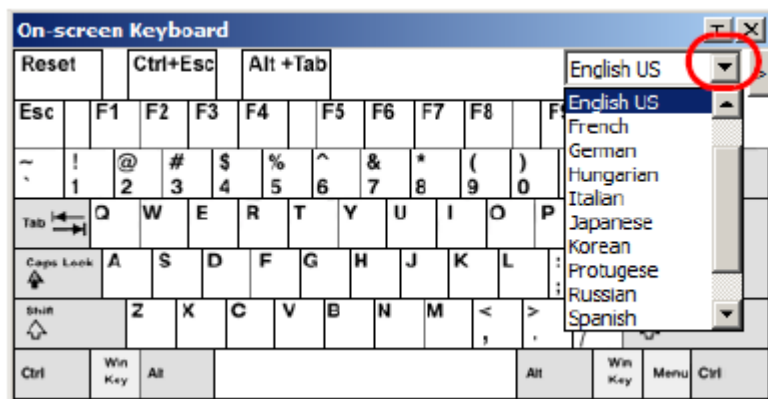


オンスクリーンキーボードを利用するメリットの一つとして、リモート側とローカル側のキーボード言語が異なる場合でも、片方のキーボードの設定を変更することなく操作ができるという点が挙げられます。ユーザーはオンスクリーンキーボードを起動し、アクセス中のポートに接続されているコンピュータで使用されている言語を選択するだけでオンスクリーンキーボードの利用が可能です。

注意: オンスクリーンキーボードの操作はマウスで行ってください。

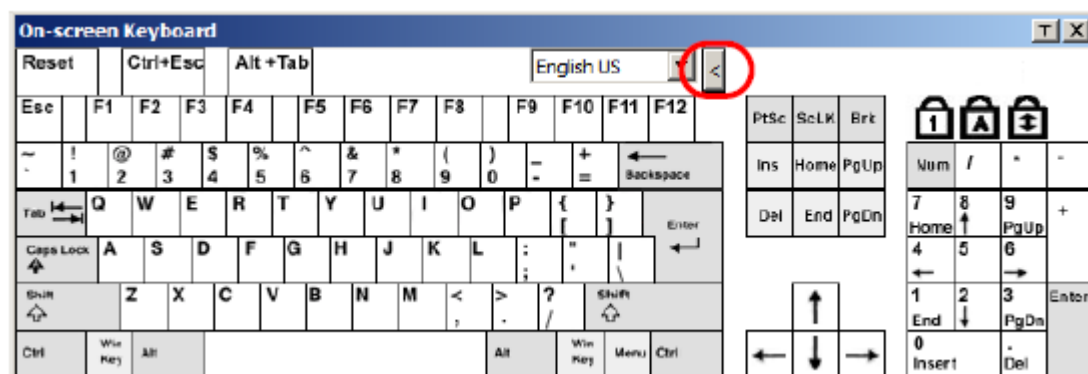
言語を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 現在選択されている言語の隣にある三角ボタンをクリックし、リストを展開してください。



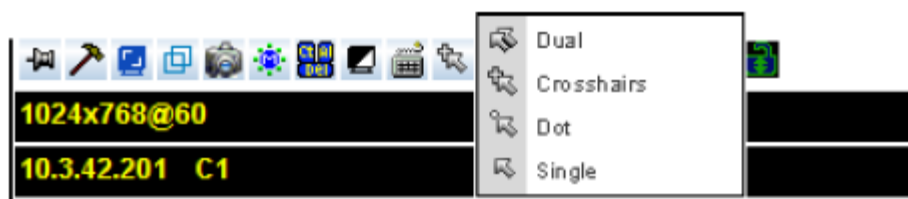
2. 新しい言語をリストから選択してください。

拡張したオンスクリーンキーボードを表示または非表示にする場合は、言語選択リストの右隣にある矢印ボタンをクリックしてください。



Mouse Pointer Type

本製品は、リモート画面で使用するマウスカーソルのポインターを数種類提供しています。ポインターを変更する場合は、アイコンをクリックして、リストからポインターを選択してください。



-
- 注意:**
1. ポートがアクセスされていない場合、デュアルと十字以外のポインターはご利用になれません。ポートがアクセスされると、上図の 4 種類のポインターがご利用いただけます。
 2. コントロールパネルのアイコンは、現在使用しているポインターの種類に応じて変わります。
 3. ドットポインターを選択すると、マウスポインターは「Toggle mouse display(マウス表示の切替)」のホットキーを実行した時と同じ状態になります。(p.86 参照)
 4. ドットポインターは Java アプレットビューワー、Java クライアントではご利用になれません。
-



Mouse DynaSync Mode

ローカル/リモートのマウスのポインターは自動または手動で同期させることができます。

Automatic Mouse Synchronization (DynaSync)

「Mouse DynaSync」機能を使用すると、リモート/ローカルマウスのポインターを自動的に同期しますので、定期的にマウスの再同期を行う手間が軽減されます。

注意: この機能は、使用 OS が Windows または Mac(G4 以降)で、使用しているコンピューターモジュールの属性 OS(attribute OS)の値が Win または Mac に設定されている場合にのみご利用いただけます。この場合、使用モジュールが KA7170、KA7175、KA7176、KA9170 のいずれかであることを確認してください。
これ以外の環境の場合は、手動でマウスの同期を行ってください。(詳細は次のセクションで説明します)

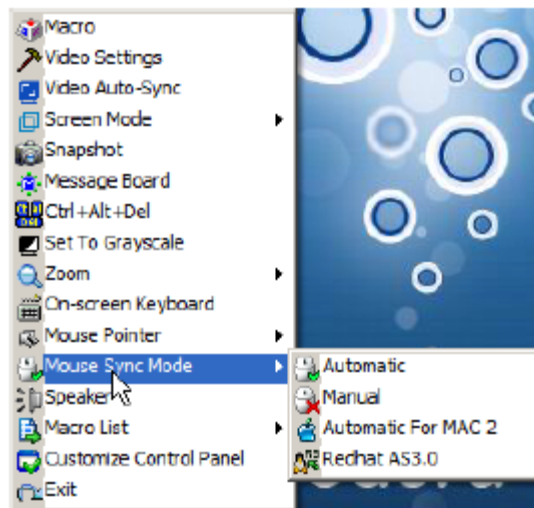
マウスの同期モードを表すツールバーのアイコンは、下表のとおりです。

アイコン	機能
	マウスダイナシンク機能が利用不可であることを表します。この場合は、手動でマウスを同期させてください。KA7170、KA7175、KA7176、KA9170 以外のモジュールをお使いの場合は、これがデフォルト設定になっています。
	マウスダイナシンク機能が利用可能かつ有効になっていることを表します。マウスダイナシンク機能が利用可能である場合は、これがデフォルト設定になっています。(上記の注意書きを参照)
	マウスダイナシンク機能が利用可能であるものの、無効であることを表します。

マウスダイナシンクが利用可能である場合、このアイコンをクリックするとマウスダイナシンクを有効または無効に切り替えます。マウスダイナシンクを無効に選択した場合は、次のセクションの手動同期を行う必要があります。

Mac/Linux 環境の場合

Mac をお使いの場合、マウスダイナシンク機能が有効であれば、別の方法でダイナシンク機能の設定を行うことができます。デフォルト設定の同期方法では満足いく結果が得られなかった場合は、「Mac 2」の設定をお試ください。「Mac 2」の項目を選択する場合は、コントロールパネルのテキスト部分を右クリックし、「Mouse Sync Mode」→「Automatic for Mac 2」を選択してください。



Linux をお使いの場合、ダイナシンクモードはサポート対象外ですが、マウスシンクモードメニュー (Red hat AS3.0) の設定を行うことで同期が可能です。USB タイプのコンピューターモジュール(前頁の注意書き参照)をお使いで、デフォルトのマウス同期の方法では満足いく結果が得られなかった場合は、Red hat AS3.0 の設定をお試ください。ただし、上記のどちらの場合においても次のセクションに記載されている手動によるマウス同期の方法で設定を行う必要があります。

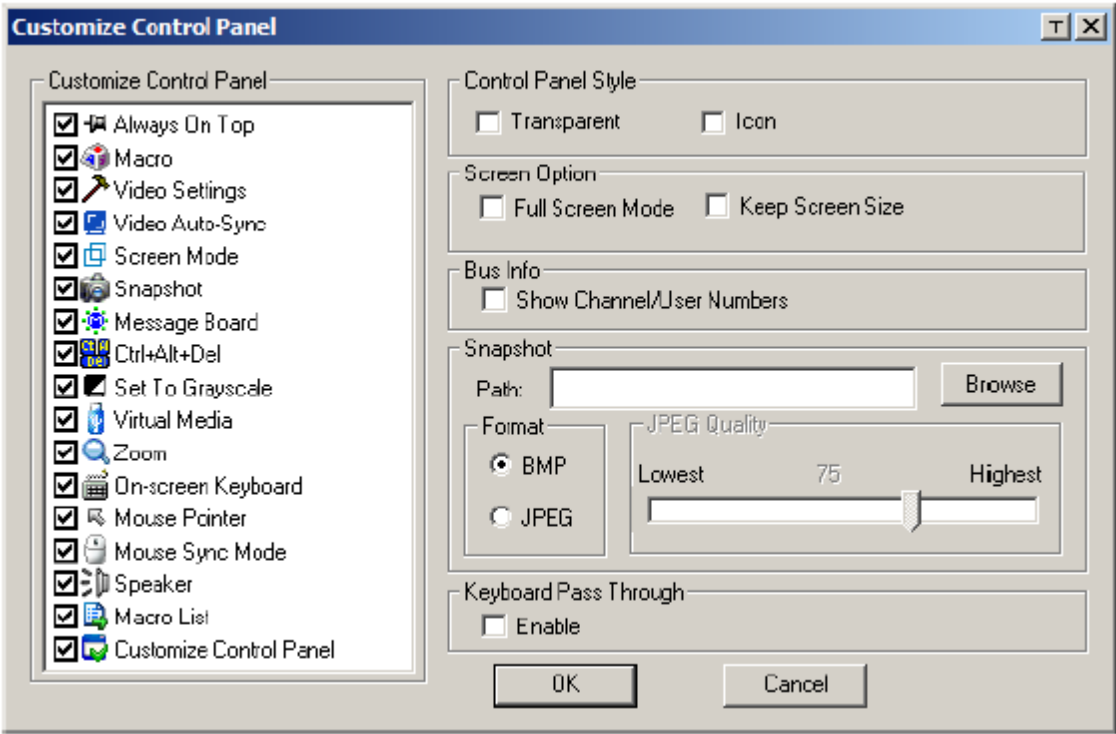
手動設定によるマウス同期

ローカルとリモートのマウスポインターが同期を失った場合、いくつかの方法で再同期することができます。

1. コントロールパネルの「Video Settings」のアイコンをクリックして、ビデオとマウスのマウス同期を実行してください。
2. 「Video Settings」の「Auto Sync」ボタン(p.94 参照)を使って自動同期を実行してください。
3. 「Adjust Mouse」ホットキー (p.87 参照) を使って「Adjust Mouse」機能を起動してください。
4. 画面の四隅にマウスポインターを動かしてください。(動かす順序は問いません)
5. 画面上のコントロールパネルを別の位置に移動させてください。
6. 製品に接続されているコンピューターのうち、マウスの同期に問題のあるものを対象に、マウスポインターのオプション(速度、精度)の設定を行ってください。手順の詳細については p.275 「その他のマウス同期の設定方法」をご参照ください。

コントロールパネルの環境設定

コントロールパネルのアイコンをクリックすると、コントロールパネルに表示するアイコンや、コントロールパネルの外観の設定を行うことができます。



ダイアログは主に 6 箇所に分かれています。各部分の詳細は以下のとおりです。

アイテム	説明
Customize Control Panel	コントロールパネルで表示するアイコンを選択することができます。
Control Panel Style	◆ 「Transparent」の項目にチェックを入れると、コントロールパネルは半透明になります。半透明にすることで、コントロールパネルの下にあるオブジェクトを確認することができます。 ◆ 「Icon」の項目にチェックを入れると、通常はアイコンとして表示されます。マウスをアイコンの上に移動させると、パネル全体が表示されます。

(表は次のページに続きます)

アイテム	説明
Screen Options	◆ 「Full Screen Mode」の項目にチェックが入っている場合、リモート画面はお使いのモニターにフルサイズで表示されます。 ◆ 「Full Screen Mode」の項目にチェックが入っていない場合、リモート側の画面はウィンドウ形式で表示されます。リモート画面の解像度が大きくてウィンドウに表示されない部分がある場合は、操作したい部分の近くにあるウィンドウ枠にマウスポインターを動かしてください。画面がスクロールします。 ◆ 「Keep Screen Size」の項目にチェックが入っている場合、リモート側の画面はリサイズされません。 ➤ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度よりも小さい場合、リモート側のデスクトップ画面はウィンドウの状態で画面の中央に表示されます。 ➤ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度よりも大きい場合、リモート側のデスクトップ画面はモニターの中央部に表示されます。画面に表示されていない部分を操作する場合は、その部分の近くにあるウィンドウ枠にマウスポインターを動かしてください。画面がスクロールします。 ◆ 「Keep Screen Size」の項目にチェックが入っていない場合、リモート側のデスクトップ画面はローカルモニターの解像度に合わせてリサイズされます。
Bus Info	この項目にチェックが入っている場合は、コントロールパネルのテキストバー下段に、現在使用しているバスの番号と、そのバスを使用しているユーザー数の合計が左から順に表示されます。(表示例は p.80 のコントロールパネルの図を参照)

(表は次のページに続きます)

アイテム	説明
Snapshot	この部分は、製品の画面キャプチャに関連する設定項目です。(スナップショットの説明については p.82 参照) ◆ 「Path」は、キャプチャされた画面が自動的に保存されるフォルダーのパスを設定します。パスを指定する場合は、テキストボックスの隣にある「Browse」ボタンをクリックし、フォルダーの選択ダイアログから適当なフォルダーを選択して「OK」ボタンをクリックしてください。ここでパスを指定していない場合は、スナップショットがリモート側のデスクトップ上に保存されます。 ◆ キャプチャした画面のイメージの保存形式(BMP、JPEG)をラジオボタンで選択してください。 ◆ JPEG を選択した場合は、キャプチャした画像の画質をスライドバーで調整することができます。画質を上げるとより鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが大きくなります。
Keyboard Pass Through	この項目が有効になっていると、[Alt] + [Tab]のキー入力のリモートデバイスに送られて実行されます。この項目が有効になっていないと、[Alt] + [Tab]のキー操作はローカルクライアントコンピュータ上で実行されます。

Java コントロールパネル

Java アプレットビューワーと Java クライアントコントロールパネルは基本的に Windows クライアントのコントロールパネルと同じです。



主な相違点は以下のとおりです。

- ◆ 「Macro」ダイアログでは、「Toggle Mouse Display」の機能はご利用になれません。
 - ◆ 「Dot」のマウスポインターはご利用になれません。
 - ◆ 1:1 のズーム機能はご利用になれません。
 - ◆ メッセージボード機能に関する制限事項は以下のとおりです。
 - ユーザーリストを表示/非表示にする「Show/Hide」ボタンはありませんが、この機能はユーザーリストとメインパネルの間にあるバーの上部にある三角ボタンをクリックすることで同じ機能が使用できます。
 - メッセージがメッセージボードに入力され、そのセッションで未読のメッセージがある場合は、メッセージボードのウィンドウが画面上に表示されます。
 - ◆ バーチャルメディア機能では、ユーザー側のコンピューターにある ISO ファイルおよびフォルダーのみリモート側にマウントすることができます。詳細については、p.290「Java アプレットビューワー/Java クライアントアプリケーション」をご参照ください。
 - ◆ コントロールパネルの設定では以下の機能がご利用になれませんので、ご注意ください。
 - コントロールパネルの透明化機能
 - 「Screen Options」機能(p.114 参照)
 - 「Keyboard Pass through」機能(p.115 参照)
- また、スナップショットのフォーマットは BMP の代わりに PNG がご利用いただけます。



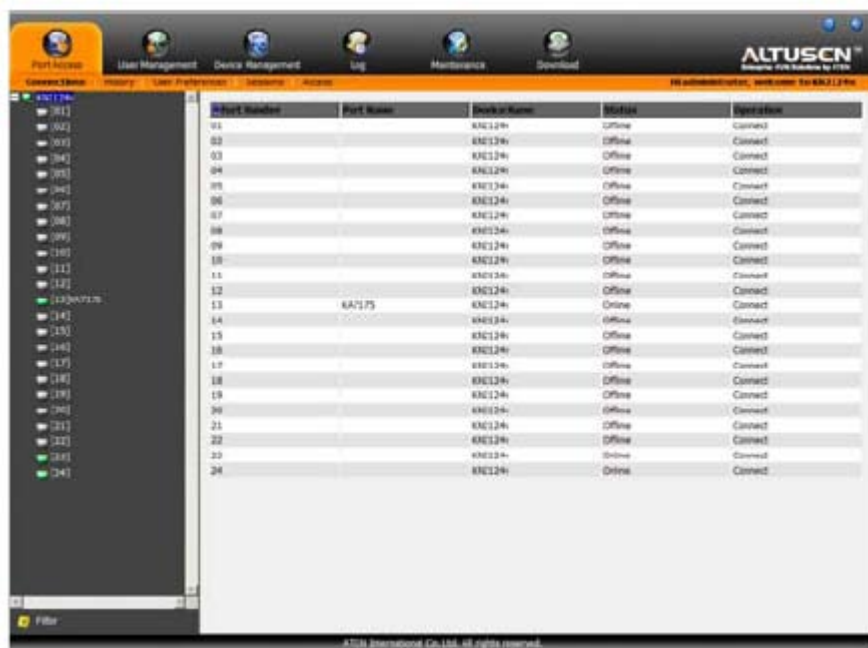
第6章

Port Access

概要

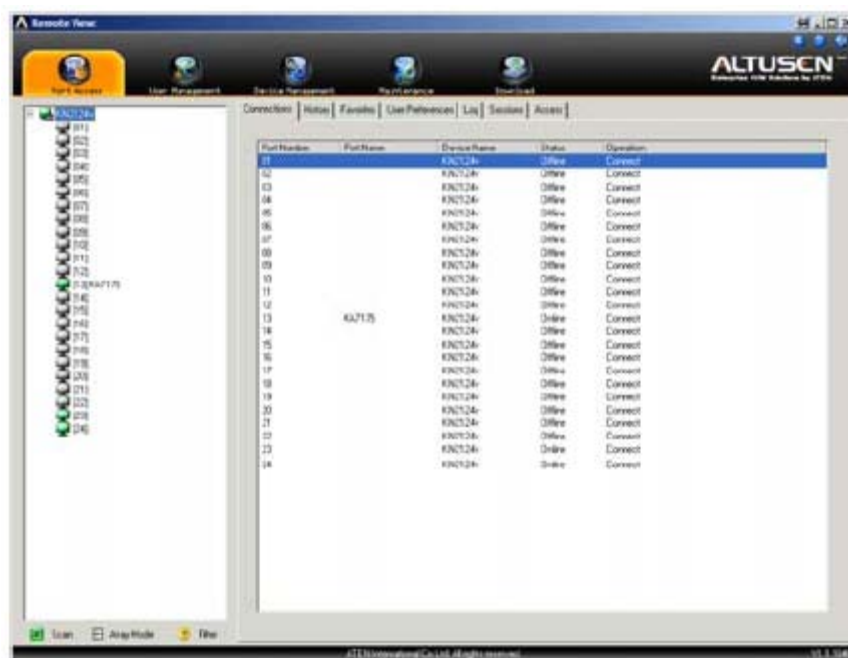
製品にログインすると、「Port Access」タブの「Connections」メニューの画面が初期表示されます。

Web ブラウザインターフェース



Port Number	Port Name	Device Name	Status	Operation
01		KAC1294	Offline	Connect
02		KAC1294	Offline	Connect
03		KAC1294	Offline	Connect
04		KAC1294	Offline	Connect
05		KAC1294	Offline	Connect
06		KAC1294	Offline	Connect
07		KAC1294	Offline	Connect
08		KAC1294	Offline	Connect
09		KAC1294	Offline	Connect
10		KAC1294	Offline	Connect
11		KAC1294	Offline	Connect
12		KAC1294	Offline	Connect
13		KAC1294	Offline	Connect
14		KAC1294	Offline	Connect
15		KAC1294	Offline	Connect
16		KAC1294	Offline	Connect
17		KAC1294	Offline	Connect
18		KAC1294	Offline	Connect
19		KAC1294	Offline	Connect
20		KAC1294	Offline	Connect
21		KAC1294	Offline	Connect
22		KAC1294	Offline	Connect
23		KAC1294	Offline	Connect
24		KAC1294	Offline	Connect

GUI インターフェース

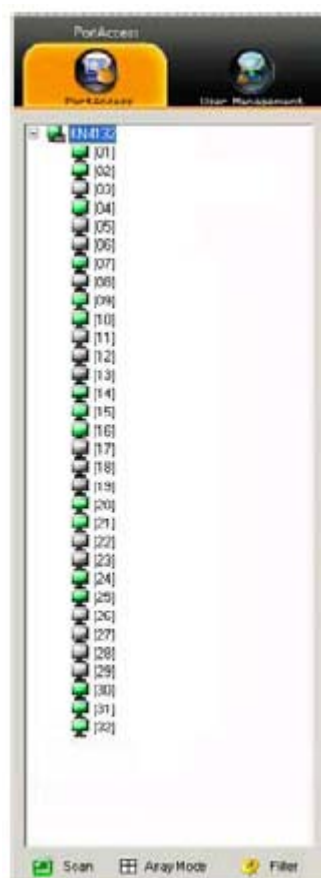


ページは大きく数箇所に分かれており、ユーザーがアクセスできるポートがすべて左側のポート一覧に表示されます。また、サイドバーの下には、ポートの表示方法を切り替えるボタンがあります。

メインパネルの上部にあるタブをクリックすると、そのポートに関連した情報や設定オプションのメニューに移動します。中央のメインパネルには、各ポートの詳細一覧およびポートアクセスの方法を表示します。

ポート選択バー

すべてのスイッチとポート(カスケード接続された KVM スイッチおよびそのスイッチ上のポートを含む)は、画面左側のサイドバーにツリー形式で一覧表示されます。



ポート選択ツリー

- ◆ ユーザーは自身がアクセス権限を持っている KVM スイッチおよびポートのみ参照することができます。
- ◆ ポートおよび子機となる KVM スイッチは親機となる KVM スイッチの下に表示されます。ツリーを展開し、子機のポートにアクセスする場合は KVM スイッチの前に表示されている「+」をクリックしてください。また、ツリーを折りたたんで子機側のポートを非表示にする場合は「-」をクリックしてください。

- ◆ 各ポートのポートIDはポートアイコンの隣にあるカッコの中に表示されます。ポートにそれぞれ固有の名前をつけると簡単に識別することができます。(p.126「ポートネームの設定」参照)
- ◆ オンラインの KVM スイッチやポートには、モニターが薄緑色になったアイコンが表示されます。モニターが灰色のアイコンはそのデバイスがオフラインであることを表しています。
- ◆ ポートにアクセスする場合は、対象となるポートのアイコンをダブルクリックしてください。ポートの操作方法に関する詳細は第 11 章で説明します。

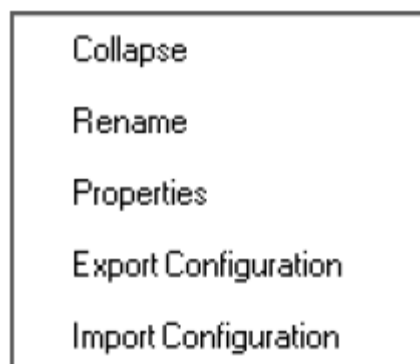
ポートビュー

Web ブラウザを使ってアクセスした場合、ポートの数だけポートビューワーを起動することができますが、参照できるポートの数は、現在使用している KVM スイッチが対応しているバス数に応じて変わります。例えば、使用している KVM スイッチが最大 4 バスに対応している場合、5 番目のビューワーには最初のビューワーがアクセスしているポートが、6 番目のビューワーには 2 番目のビューワーがアクセスしているポートがそれぞれ表示されます。

GUI アプリケーションツールを使用した場合は、一度に 1 ポートしかアクセスすることができません。2 つのポートに同時にアクセスする場合は、ツールを別々に起動する必要があります。

ポートユーティリティ

アプリケーション版の「Port Access」タブには、デバイスツリーを操作する便利な方法があります。サイドバーでアイテムを右クリックすると、サブメニューリストがポップアップ表示されます。リストのアイテムは、現在ログインしているユーザーのタイプや、選択されているデバイスの種類(KVM スイッチまたはポート)によっても変わります。下図はこのリストで表示されるメニューの一覧です。



設定項目の詳細は下表のとおりです。

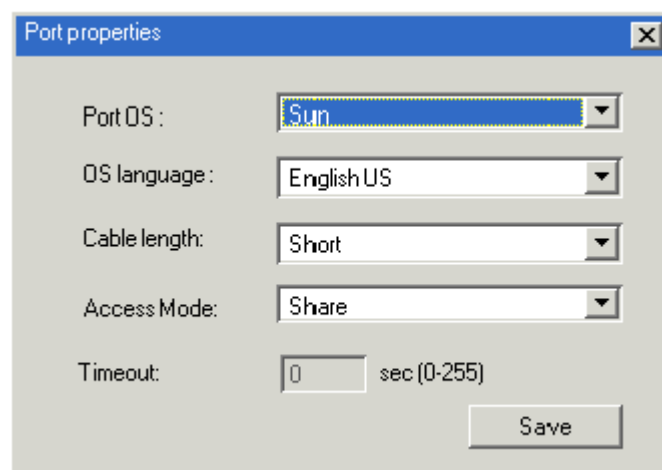
アイテム	ユーザータイプ	説明
Expand/Collapse	Administrator User	◆ デバイスのポートがネストしている(表示されていない)場合、メニューリストには「Expand」が表示されます。ツリーを開いてポートを表示する場合は「Expand」をクリックしてください。 ◆ デバイスのポートが表示されている場合、メニューリストには「Collapse」が表示されます。ポートを非表示にする場合は「Collapse」をクリックしてください。 注意: 1. この項目は KVM スイッチ、またはその先に子機の KVM スイッチが接続しているポートの場合にのみ表示されます。 2. これはツリービューのアイコンの隣にある「+」または「-」を操作した場合と同じ機能を提供します。
Rename	Administrator User	デバイスの識別を容易にするために、KVM スイッチ、ポートはそれぞれ名前を設定することができます。この機能は、特に大規模なサーバーシステムを管理する際に便利です。ポートネームの設定に関する詳細は p.126 をご参照ください。
Properties	Administrator	KVM スイッチやポートのプロパティを設定します。 ◆ KVM スイッチの場合、このメニューを選択すると「Device Management」タブを表示します。設定の詳細に関しては p.166 をご参照ください。 ◆ ポートの場合、そのポートの設定ダイアログが表示されます。詳細に関しては p.123 をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

アイテム	ユーザータイプ	説明
Export Configuration	Administrator	KVM スイッチのアイコンを右クリックしたときのみこのメニューが表示されます。KVMスイッチの設定を外部ファイル(SysConfig.cfg)にエクスポートします。ファイルを保存する場合は、このメニューをクリックし、ファイルの保存フォルダーをダイアログから選択して「Save」ボタンをクリックしてください。
Import Configuration	Administrator	KVM スイッチのアイコンを右クリックしたときのみこのメニューが表示されます。過去に保存した設定ファイルをインポートすることができます。このメニューをクリックし、インポートする設定ファイルを選択し、インポートする項目を選択してから「Import」ボタンをクリックしてください。

ポートプロパティ

ポップアップメニューから「Properties」を選択すると、以下のような選択ポートの設定を行うダイアログが表示されます。



注意: 複数のポートに対し同時に設定を行いたい場合は、「Device Management」タブの「Customization」メニューにある「Adapter Attributes」機能を使うと作業が簡単に行えます。詳細に関しては p.189「Customization メニュー」をご参照ください。

各設定項目の詳細に関しては下表をご参照ください。

項目	説明
Port OS	ポートに接続されているコンピューターで使用されている OS を設定します。設定できる項目は、Win、Mac、Sun、Other(その他)です。デフォルトでは Win に設定されています。
OS Language	ポートに接続されているコンピューターで使用されている OS 言語を設定します。設定できる項目は、リストから選択してください。デフォルトでは English US に設定されています。
Cable Length	コンピューターモジュールとポートの接続に使用されているカテゴリ 5e LAN ケーブルの長さを設定します。設定できる項目は、ショート(10m 未満)、ミディアム(10～25m)、ロング(25m 以上)です。デフォルトではショートに設定されています。 注意: ケーブルの長さはビデオの画質に影響を与える可能性があります。一般的に、短いケーブルの方が高い画質を提供することができます。この項目は、ケーブルの長さに応じて信号を補正するためのものです。お使いの環境に最適な状態になるように、この項目を調節してください。
Access Mode	複数ユーザーでログインした場合のポートのアクセス方法について定義します。設定できるアクセス方法は以下のとおりです。 Exclusive (除外): ポートに最初に切り替えたユーザーは、そのポートに対して排他的にアクセスすることができます。他のユーザーはこのポートを参照することができません。また、このモードに設定されている場合、タイムアウト機能は適用されません。 Occupy (専有): ポートに最初に切り替えたユーザーは、そのポートに対して排他的にアクセスすることができますが、他のユーザーはそのポートを参照することができます。ポートを操作しているユーザーからの入力がないまま、「Timeout」の項目に設定された時間が経過すると、次にマウスやキーボードの入力があったユーザーにそのポートの操作権限が移動します。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Access Mode (続き)	Share (共有): 複数のユーザーで同時にポートを共有することができます。ユーザーからの入力はキューに格納され、古いものから順に実行されます。Occupy、Share の各モードでは、ユーザーはメッセージボード機能を使って共有ポートのキーボード/マウス、またはキーボード/モニター/マウスの操作を行うことが可能です。(p.99 参照)
Timeout	ユーザーが、アクセスモードが「Occupy」に設定されているポートを使用できる時間の閾値を設定します。(同表の「Access Mode」参照) ここで設定された一定の時間、ユーザーからそのポートに対する入力がない場合は、そのユーザーの操作がタイムアウトとなり、ポートが開放されます。そのユーザーがタイムアウトした後で最初にキーボードやマウスを使ったユーザーがそのポートを専有することができます。 この項目には 0～255 秒の整数値を入力してください。デフォルトでは 3 秒に設定されています。0 を設定すると、入力がない場合は即座にポートが開放されます。

各項目の設定が終わったら、「Save」ボタンをクリックして内容を保存し、ダイアログを終了してください。

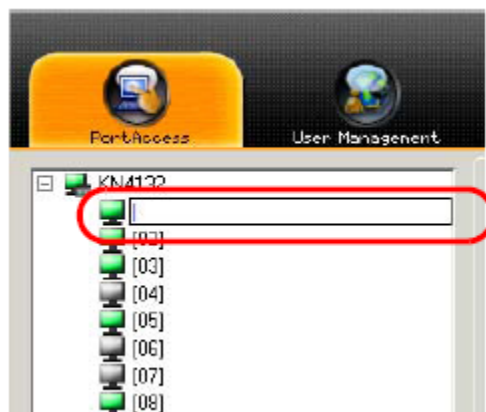
ポートネームの設定

デバイスの識別を容易にするために、KVM スイッチ、ポートにはそれぞれ名前を設定することができます。この機能は、特に大規模なサーバーシステムを管理する際に便利です。ポートネームの新規作成、編集、削除は以下の手順で行ってください。

1. 名前を編集したいポートを一度クリックし、しばらくしてからもう一度そのポートをクリックするか、名前を編集したいポートを選択して[F2]キーを押してください。

-
- 注意:**
1. この操作はいわゆるダブルクリックとは異なり、シングルクリックを 2 回にわけて行います。ポートをダブルクリックすると、そのポートに表示を切り替えます。
 2. アプリケーション版の Windows クライアント、Java クライアントでは、名前を編集したいポートを右クリックし、ポップアップメニューから「Rename」を選択してください。
-

1～2 秒経過すると、ポートネームが入力できるテキストボックスが表示されます。



2. 新しいポートネームを入力、または既存のポートネームを変更または削除してください。ポートネームには最大 20 バイトまで入力できます。英語(US)キーボードで提供されている文字であれば、どのような組み合わせの文字列でも設定することができます。

3. ポート名の編集が終わったら、[Enter]キーを押すか、テキストボックスの外側の任意の場所をクリックして操作を終了してください。



Scan

「Scan」はサイドバーの下部左側にあるメニューで、サイドバー (p.128 参照) に表示されている全ポートを一定の時間間隔で切替表示を行う機能(オートスキャン)を提供します。この機能により、ユーザーはポート切替を行うことなく自動的にコンピューターの状態を監視することができます。(p.211「オートスキャン」参照)

注意: Web ブラウザで製品にアクセスした場合、このアイコンは表示されません。オートスキャン機能を利用する場合は、リモート画面を表示したあと、ツールバーを起動してください。詳細に関しては p.208 をご参照ください。

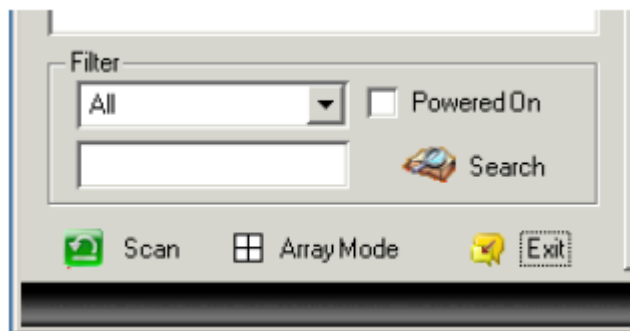
Array

「Array」はサイドバーの下部中央にあるメニューで、画面を分割し、複数のコンピューターの画面を同時に出力します。(パネルアレイモード機能) 出力対象となるのは、サイドバーのツリー (p.128 参照) に表示されている、オンライン状態のコンピューターです。それ以外のコンピューターは空白で表示されます。詳細に関しては p.214 をご参照ください。

注意: Web ブラウザで製品にアクセスした場合、このアイコンは表示されません。パネルアレイモード機能を利用する場合は、リモート画面を表示したあと、ツールバーを起動してください。詳細に関しては p.208 をご参照ください。

Filter

このセクションでは、サイドバーに表示されるポートの数や種類、また、オートスキャンやパネルアレイモードが起動した場合にスキャンの対象とするポートを操作することができます。「Filter」アイコンをクリックすると、サイドバーの下部は以下のように展開されます。



各項目の詳細は下表のとおりです。

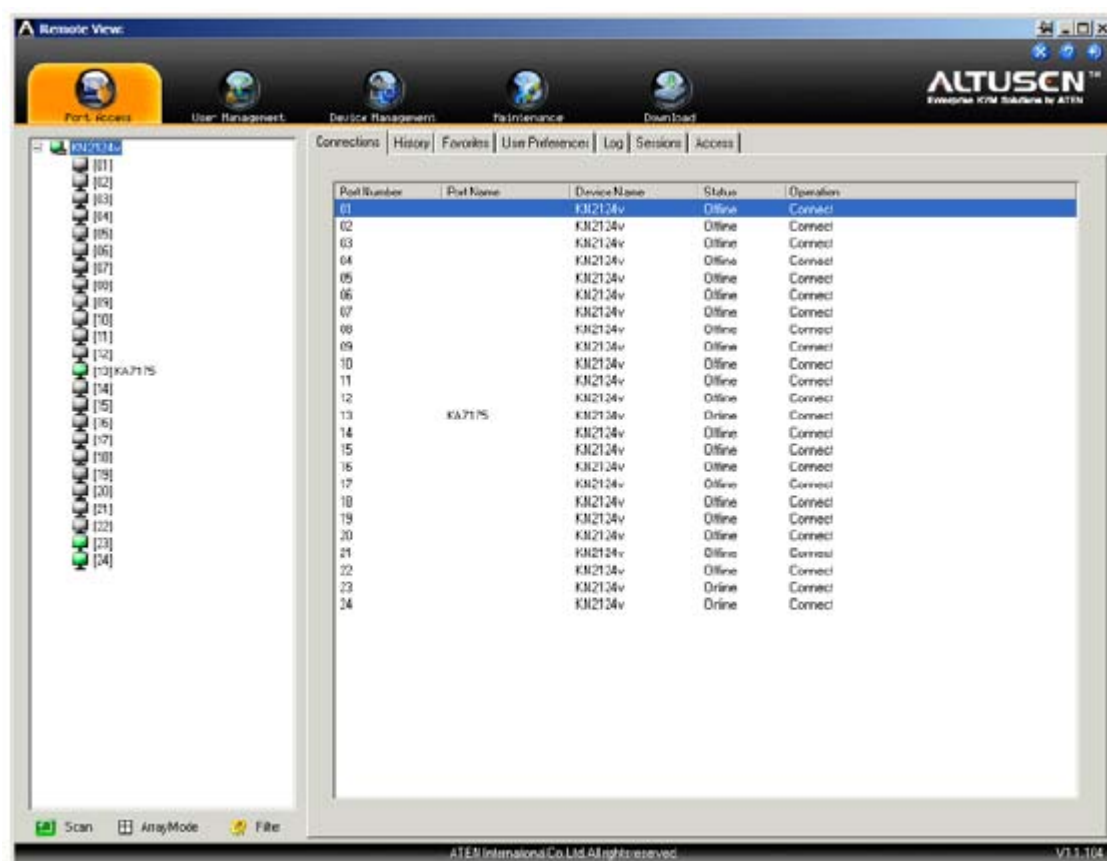
項目	説明
All	デフォルトの表示形式です。フィルターオプションが選択されていない場合は、そのユーザーがアクセス可能である全ポートがサイドバーのツリーに表示されます。 お気に入り設定されている場合(p.134 参照)、リストボックスを展開してお気に入りだけを選択することもできます。お気に入りを選択すると、お気に入りとして選択されたアイテムだけがツリーに表示されます。
Powered On	「Powered On」の項目を有効にする(チェックをつける)と、コンピューターに電源が入っているポートのみがツリーに表示されます。
Search	検索したい文字列を入力して「Search」ボタンをクリックすると、ポートネームがその文字列に一致するポートだけがツリーに表示されます。ワイルドカード(?および*)の使用が可能ですので、複数のポートを表示することができます。例えば、「Web*」という文字列を入力して検索した場合、「Web Server 1」というコンピューターと「Web Server 2」というコンピューターがリストに表示されます。
Exit	このアイコンをクリックするとフィルターダイアログを終了します。

Connections メニュー

「Connections」メニューには、各ポートの状態や、ポートにおける接続関連の設定オプションが表示されます。

デバイスレベル

KVM スイッチがポート選択パネルで選択されると、ユーザーがアクセス権限や参照権限を持っているデバイスのポート一覧が「Connections」メニューのページに表示されます。



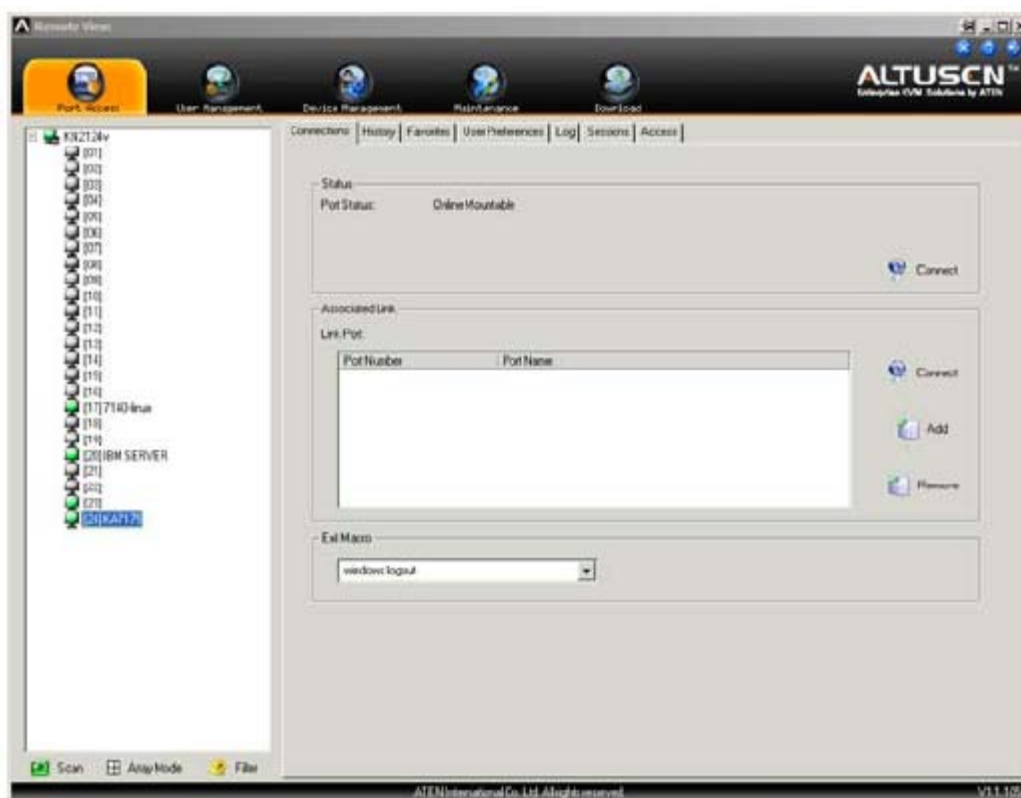
各デバイスとも以下の属性が一覧に表示されます。

- ◆ Port Number - KVM スイッチ 上のポートナンバーです。
- ◆ Port Name - ポートに名前が設定されている場合は、この欄に表示されます。
- ◆ Device Name - デバイスに名前が設定されている場合は、この欄に表示されます。
- ◆ Status - KVM スイッチの現在のステータス(オンラインまたはオフライン)です。
- ◆ Operation - Connect と表示されているポートの行をダブルクリックすると、そのポートにアクセスすることができます。

注意: Web ブラウザのメニューでは、表のタイトルの各項目をクリックすると、その項目で昇順または降順に並べ替えます。

ポートレベル

サイドバーのツリーでポートが選択されると、「Connections」メニューはポートの接続と設定に関する情報を表示する画面に切り替わります。



画面は主に 3 つの部分から構成されています。各部分の詳細は下表のとおりです。

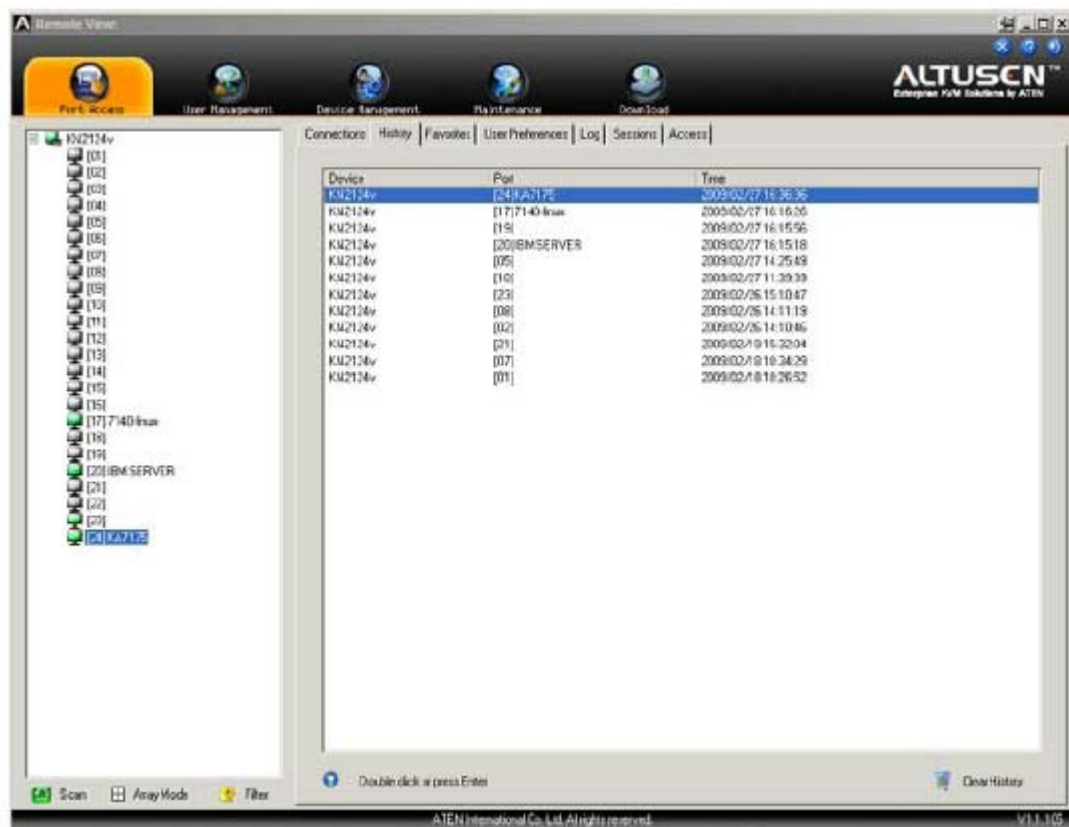
パネル	説明
Status	ポートのオンライン状況、マウント状況等、ポートの現在のステータスに関する情報が表示されます。 製品に組み込まれている Windows ビューワー(Windows Internet Explorer を使用の場合)、または Java ビューワー(その他の Web ブラウザを使用の場合)を使って、ポートに接続されているコンピューターの画面を参照したい場合は、「Connect」ボタンをクリックしてください。

(表は次のページに続きます)

パネル	説明
Associated Link	同一 KVM スイッチ上でポートを相互に関連付けることができます。この機能は、同一のコンピューターの KVM とシリアルポート (KA7140、KA9140) を製品に接続している場合、それらを製品上で関連付ける際に使用します。関連ポートを追加する場合は「Add」ボタンをクリックしてください。また、関連ポートを削除したい場合は対象となる行を選択して「Remove」ボタンをクリックしてください。ポートに接続する場合は、対象となる行を選択して「Connect」ボタンをクリックしてください。
Exit Macro	システムマクロがドロップダウンリストに一覧表示されます。ポートでの作業を終了する際に実行したいマクロをリストから選択してください。終了マクロの作成方法に関する詳細は p.91「System Macros」をご参照ください。 なお、マクロは最後にポートにアクセスしたユーザーが、そのポートでの作業を終了した際に実行されます。

History メニュー

「History」メニューには、ポートへのアクセス時間の履歴が表示されます。

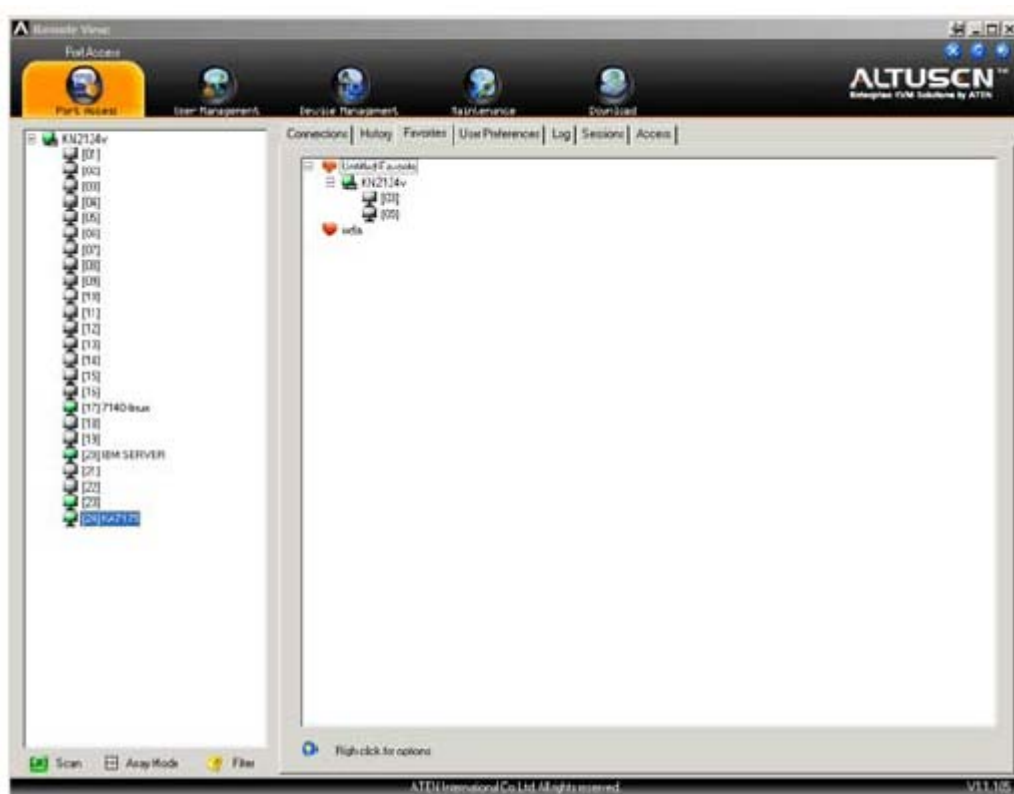


- ◆ 画面に表示されるアイテムが 1 画面を超える場合は、スクロールバーが表示されます。下に表示されるアイテムはスクロールして表示してください。
- ◆ 履歴を消去する場合は、画面右下にある「Clear History」ボタンをクリックしてください。

-
- 注意:
1. Web ブラウザのメニューでは、表のタイトルの各項目をクリックすると、その項目で昇順または降順に並べ替えます。
 2. ポートをダブルクリックすると、そのポートにアクセスすることができます。
-

Favorites メニュー

「Favorites」メニューは、Web ブラウザのブックマークのように、頻繁にアクセスするポートを一覧に
登録する機能を提供します。この機能を利用することで、ポートをツリーから探すことなく、簡単にポ
ートを選択することができます。この機能は特に、大規模なシステムで便利にお使いいただけま
す。

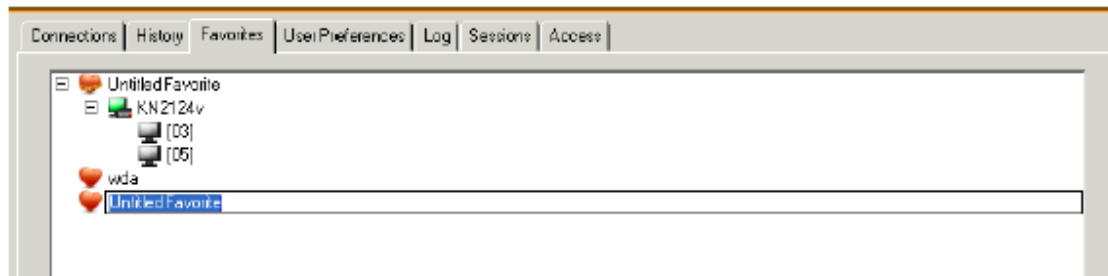


注意: この機能はアプリケーション版 Windows クライアントおよび Java クライアントでのみ利用可能です。

お気に入りへの追加

ポートをブックマークに追加する場合は、以下の手順で操作してください。

1. メインパネルで右クリックし、「Add Favorite」をクリックしてください。
「Untitled Favorite」という名前で新規作成されます。



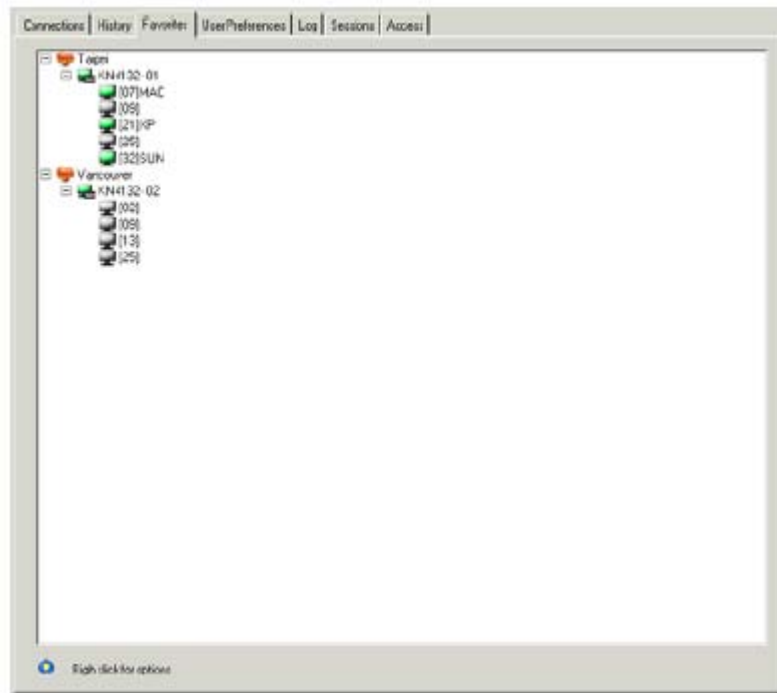
これは複数のポートをまとめて管理するコンテナのような役割を果たしますので、用途に応じてお好みの名前を設定してください。

2. 手順 1 で作成したアイテムのテキストの部分で 2 回クリックし、名前を入力してください。
3. 左側のポート選択リストからお気に入りに登録したいポートをドラッグし、先ほど作成したコンテナの上でドロップするか、登録したいポートを右クリック後、メニューから「Copy」を選択し、登録先のコンテナの上で再び右クリックして、メニューから「Paste」を選択して、ポートを追加してください。

そのポートが属している KVM スイッチがコンテナに登録されます。ポートにアクセスする場合はコンテナに登録された KVM スイッチを展開してください。

注意: 手順 1～3 では 1 ポートずつお気に入りに追加する方法を紹介しましたが、複数のポートを同時に追加することもできます。複数のポートを追加する場合は、[Shift]キーまたは[Ctrl]キーを使って複数のポートを選択し、それらのポートをドラッグするか、コピー&ペーストしてください。

4. 他にもお気に入りに登録したいポートがある場合は、手順 3 の操作を繰り返してください。



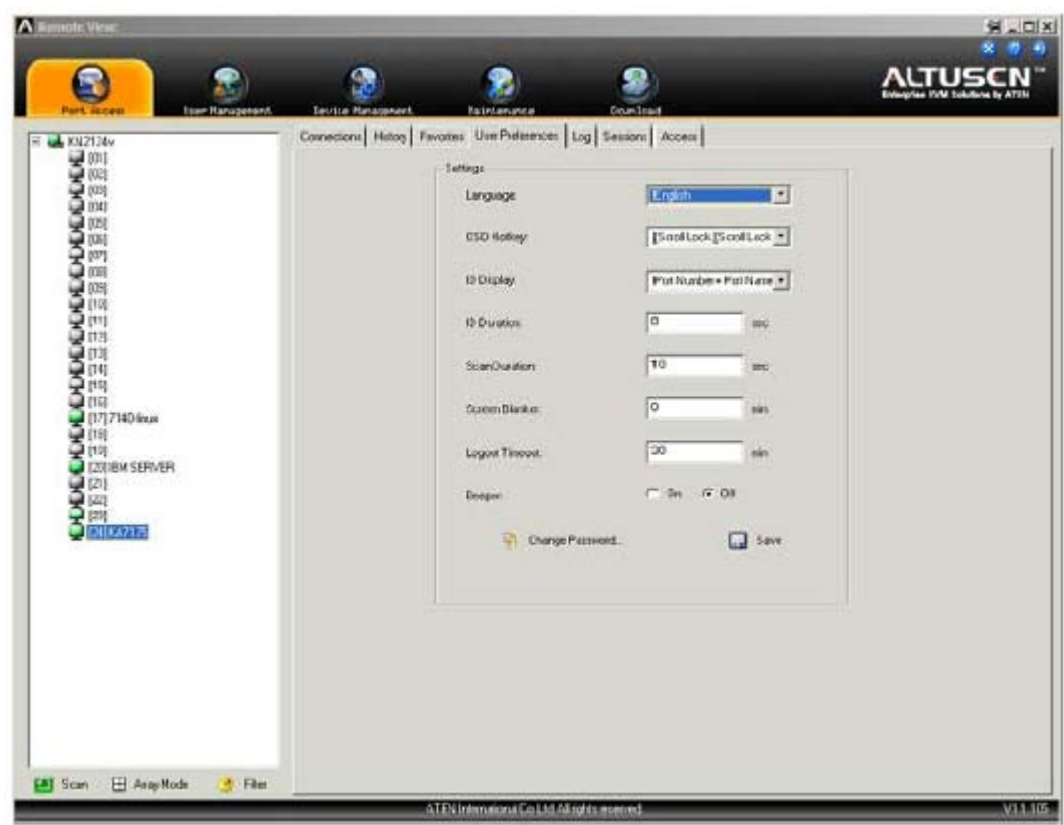
注意: お気に入りの項目はサイドバーツリーの検索の条件としても使用することができます。
詳細に関しては p.128「Filter」をご参照ください。

お気に入りの編集

- ◆ お気に入りを編集する場合は、右クリックで表示されるリストから該当の操作メニューを選択してください。
- ◆ お気に入りの名前を編集する場合は、名前を一度クリックしてしばらくたってからもう一度クリックしてください。お気に入りの名前の表示欄がテキストボックスになると、名前を編集することができます。方法はポートネームの編集と同様です。(p.126 参照)

User Preferences メニュー

「User Preferences」メニューでは、ユーザー個別の作業環境の設定を行うことができます。製品は、ユーザープロフィールをユーザー別に内部に保存し、ログインユーザーのユーザーネームに基づいて作業環境を構築します。



個人の作業環境で設定可能な項目は下表のとおりです。

項目	機能
Language	メニューの表示言語を選択することができます。
OSD Hotkey	クライアントアプリケーションで OSD を起動するホットキーを選択することができます。ホットキーは[Scroll Lock]キー2 度押し、または[Ctrl]キー2 度押しが使用できます。[Ctrl]キーを使用した場合、他のプログラムの操作と競合する可能性がありますので、デフォルトでは、[Scroll Lock]キー2 度押しに設定されています。

(表は次のページに続きます)

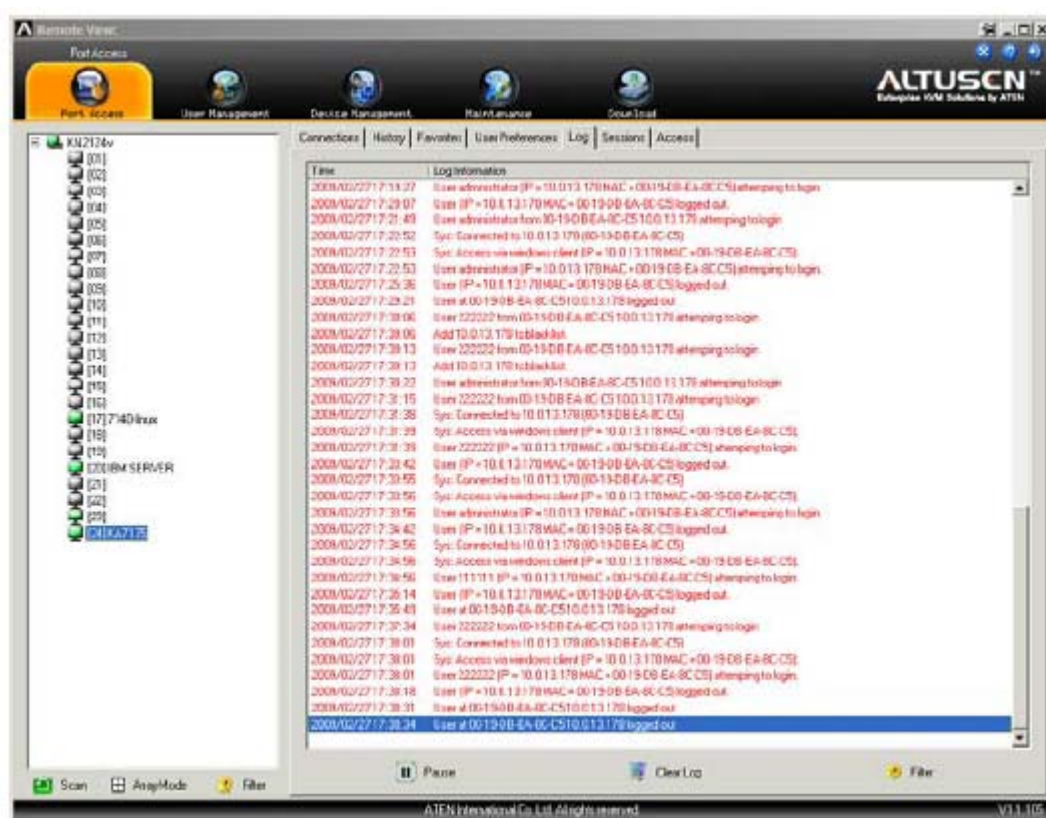
項目	機能
ID Display	ポート ID の表示形式を選択することができます。表示方法は、ポートナンバーのみ(PORT NUMBER)、ポートネームのみ(PORT NAME)、ポートナンバーとポートネーム(PORT NUMBER + PORT NAME)のいずれかを選択することができます。デフォルトでは、ポートナンバーとポートネーム(PORT NUMBER + PORT NAME)に設定されています。
ID Duration	ポート切替後のポート ID の表示時間を設定することができます。表示時間は 1～255 秒の整数値を入力してください。デフォルトでは 3 秒に設定されています。なお、0 を設定すると、ポート ID を常に画面上に表示します。
Scan Duration	オートスキャンモード(p.211 参照)における、各ポートの表示時間を設定することができます。表示時間は 1～255 秒の整数値を入力してください。デフォルトでは 5 秒に設定されています。なお、0 を設定すると、スキャン機能を無効にします。
Screen Blanker	コンソールからの入力がないまま、この項目で設定された時間が経過すると、画面はブランク表示になります。ブランクまでの時間は 1～30 分の整数値を入力してください。なお、0 を設定するとこの機能を無効にします。デフォルトでは 0(無効)に設定されています。 注意:この項目は、ローカル/リモートの両方から設定することができますが、この機能が適用されるのはローカルコンソールのみです。
Logout Timeout	ユーザーからの入力がないまま、この項目で設定された時間が経過すると、ユーザーは自動的にログアウトさせられます。この場合、製品にアクセスするには再ログインが必要です。
Beeper	この項目を「ON」に設定すると、ポートが切り替えられた場合、オートスキャン(p.211 参照)が実行された場合、また、片方の電源しか使用されていない場合に、それぞれビープ音が鳴ります。(p.168 参照) デフォルトでは ON に設定されています。

(表は次のページに続きます)

項目	機能
Viewer*	リモートコンピュータへのアクセス時に使用するビューワーを選択することができます。 ◆ Auto Detect - ユーザーが使用している Web ブラウザに適したビューワーを自動選択します。Windows の Internet Explorer を使用している場合は Windows クライアントを、その他の Web ブラウザ (例:Firefox)を使用している場合は Java クライアントを使用します。 ◆ Java Client - ユーザーが使用している Web ブラウザの種類にかかわらず、Java クライアントを起動します。
Welcome Message*	サブメニューバーに表示されるウェルカムメッセージを表示または非表示にします。デフォルトでは非表示になっています。
Save	「User Preferences」メニューで変更した内容を保存する場合は、このアイコンをクリックしてください。
Changing a Password	パスワードを変更する場合は、既存のパスワードと新しいパスワードをそれぞれ該当するテキストボックスに入力し、このアイコンをクリックして変更内容を反映させてください。
* Web ブラウザのメニューでのみご利用いただけます。	

Log メニュー

製品の内部で発生したイベントは、すべてログとして記録されます。「Log」メニューではログファイルの内容を表示します。

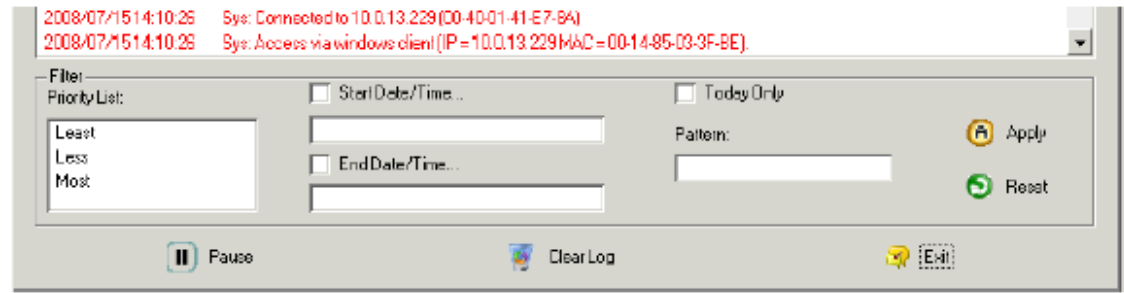


- 注意:
1. 上図のスクリーンショットは、アプリケーション版のクライアントツールを使用した際の画面の例です。Web ブラウザでアクセスした場合は、「Log」メニューは上部のアイコンバーに表示されます。
 2. 「Log」メニューは、ログファイルの参照権限のあるアドミニストレータ、またはユーザーにのみ表示されます。(p.144 参照) 権限のないユーザーはこのメニューを利用することができません。

- ◆ ログファイルには最大 2048 件のイベントを記録することができます。ログの数がこの最大数に達した場合は、古いものから順に削除され、新しいイベントがファイルに書き込まれます。
- ◆ 「Pause」のアイコンをクリックすると、新しいイベントの表示を一時中断し、アイコンは「Resume」という表示に変わります。イベントの表示を再開したい場合は、この「Resume」アイコンをクリックしてください。
- ◆ ログファイルをクリアする場合は、「Clear Log」のアイコンをクリックしてください。

Filter

この部分を使うと、日付や特定の文字列の条件に一致するイベントをログファイルから検索することができます。この機能にアクセスすると、ログフィルターダイアログがページの下部に表示されます。

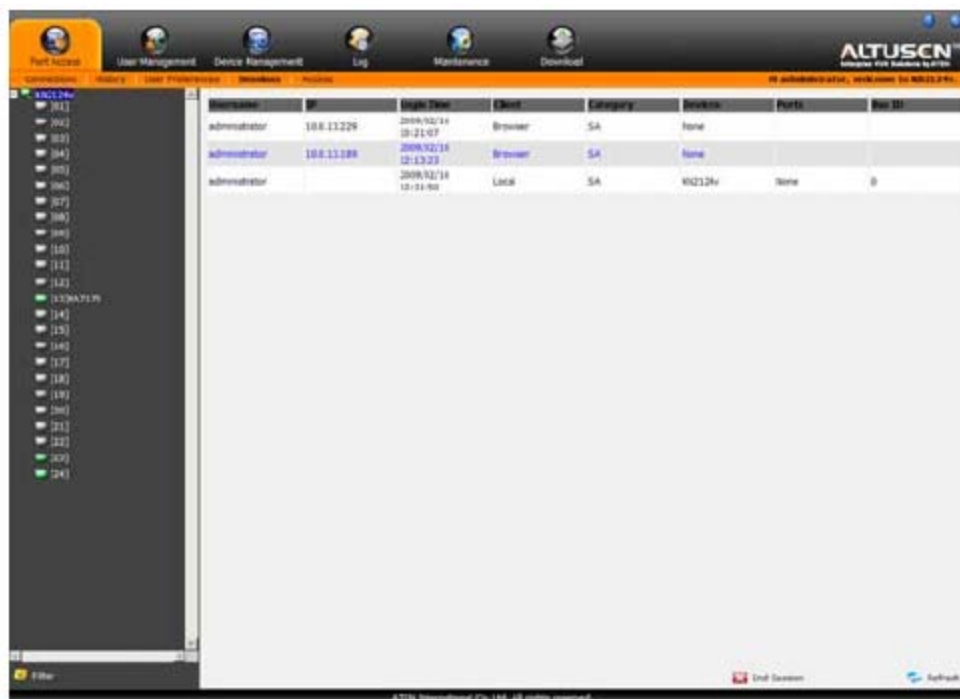


各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Priority	表示する検索結果のレベルを設定します。
Start Date/Time	この項目にチェックを入れると、カレンダーコントロールを表示します。日付で検索する場合は、条件の始点となる日付と時刻をこのカレンダーで設定してください。
End Date/Time	この項目にチェックを入れると、カレンダーコントロールを表示します。日付で検索する場合は、条件の終点となる日付と時刻をこのカレンダーで設定してください。
Today Only	今日発生したイベントを検索します。
Pattern	指定した文字列が含まれているイベントを検索します。ワイルドカード(?および*)を使った検索に対応しています。 例:「h*ds」という文字列を指定した場合、「hands」または「hoods」という文字列が含まれているログが表示されます。
Apply	入力された検索条件でログを検索します。
Reset	ダイアログボックスの検索条件をクリアし、初期の状態に戻します。
Exit	ログフィルター機能を終了します。

Sessions メニュー

アドミニストレーターは、現在製品にログインしている全ユーザーと、各ユーザーのセッションに関する情報を「Sessions」メニューで確認することができます。



- 注意:**
1. 「Sessions」メニューはアドミニストレーターでログインした場合にのみ表示されます。一般ユーザーの方々のご利用になれません。
 2. 表中の「Category」の欄には、ログインユーザーの種類が表示されます。「SA」はスーパーアドミニストレーターを、「Admin」はアドミニストレーターを、「Normal User」はユーザーをそれぞれ表します。

表の「IP」欄にはログインユーザーの IP アドレスが、「Device」、「Port」の各欄には現在アクセスしているデバイスおよびポートが、「Bus ID」欄にはユーザーが現在使用しているバス(0 はローカルコンソールバス)がそれぞれ表示されます。

- 注意:**
1. Web ブラウザのメニューでは、表のタイトルの各項目をクリックすると、その項目で昇順または降順に並べ替えます。
 2. バス ID はコントロールパネルにも表示されます。(p.80 参照)
 3. ユーザーやバスに関する情報は p.218 をご参照ください。

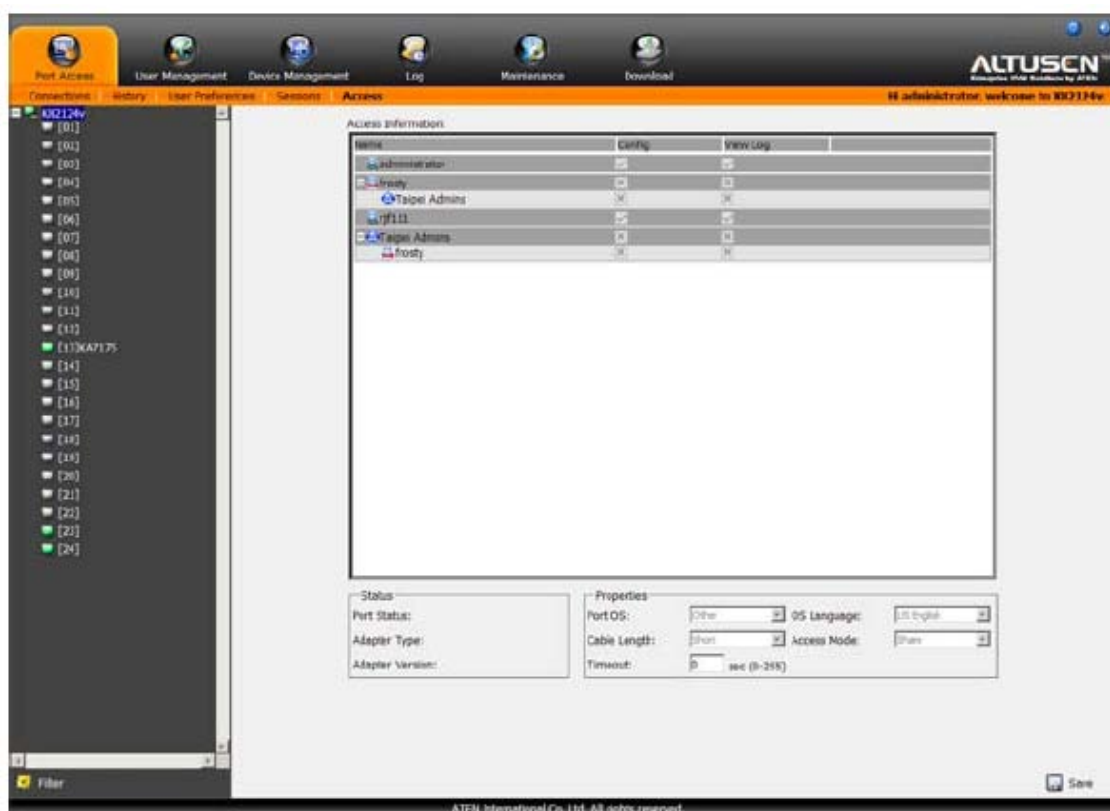
Access メニュー

アドミニストレーターは、「Access」メニューでKVMスイッチやポートに対しユーザー/グループアクセスや設定権限を定義することができます。このページは、一番大きなメインパネル、左下のステータスパネル、右下のプロパティパネルの3つの部分から構成されています。

注意： 「Access」メニューはアドミニストレーターでログインした場合にのみ表示されます。一般ユーザーの方々のご利用になれません。

デバイスレベル

KVMスイッチがサイドバーのツリーで選択されると、メインパネルは下図のように表示されます。

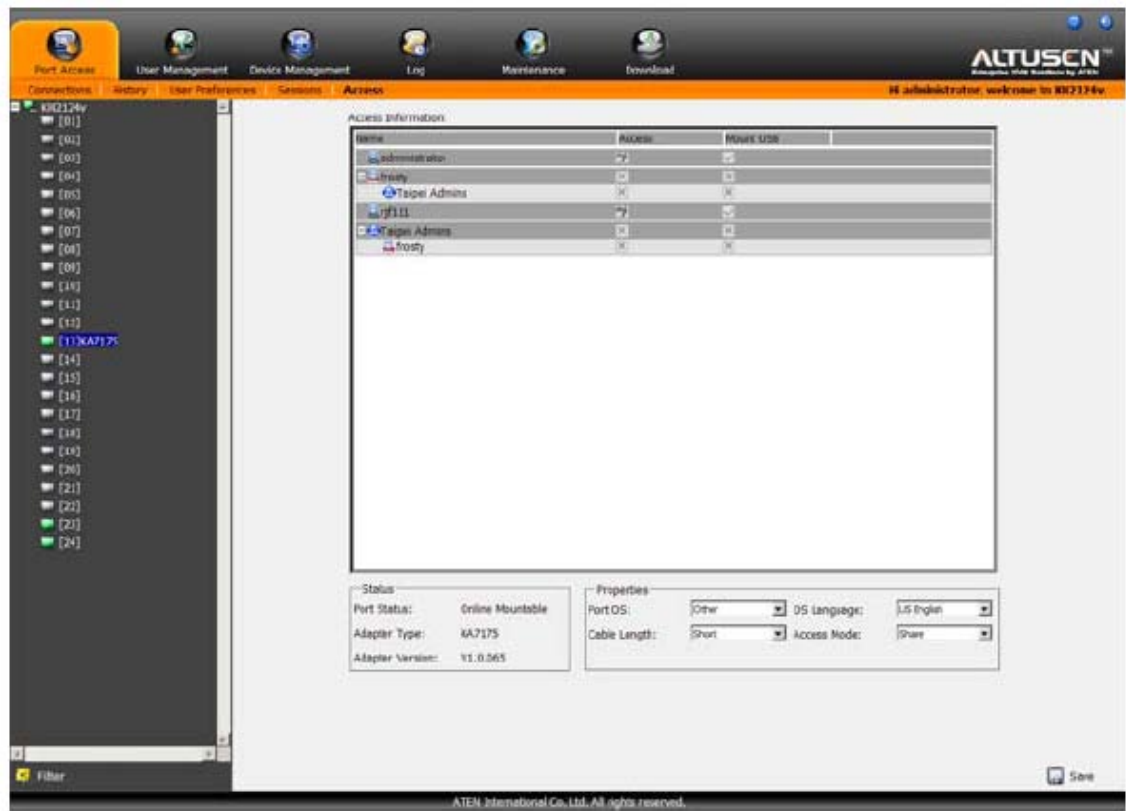


メインパネルの「Access Information」の部分は、「Name」、「Config」、「View Log」の部分から構成されます。

- ◆ 「Name」の欄には、作成されたユーザーおよびグループがすべて表示されます。
- ◆ 「Config」の欄には、各ユーザーのシステム設定権限の有無が表示されます。チェックがついている場合は、そのユーザーに製品のシステム設定の権限があることを表しています。(第 8 章参照) ×がついている場合は、そのユーザーに製品のシステム設定の権限がないことを表しています。アドミニストレーターやユーザーの権限を変更する場合は、この部分をクリックし、適当なマークに変更してください。(なお、スーパーアドミニストレーターは設定権限を持っています。)
- ◆ 「View Log」の欄には、各ユーザーのログ参照権限の有無が表示されます。チェックがついている場合は、そのユーザーにログ参照権限があることを表しています。×がついている場合は、そのユーザーにログ参照権限がないことを表しています。権限を変更する場合は、この部分をクリックし、適当なマークに変更してください。
- ◆ 画面下部の項目は「Timeout」の項目を除いて無効になっています。この「Timeout」の項目には、アクセスモードが「Occupy(専有)」に設定されたポートをユーザーが操作する場合の時間の閾値を設定します。詳細に関しては p.125 をご参照ください。

ポートレベル

サイドバーのツリーからポートが選択されると、メインパネルは下図のように表示されます。



- ◆ 「Name」の欄には、作成されたユーザーおよびグループがすべて表示されます。
- ◆ 「Access」の欄には、現在選択されているポートに対する、各ユーザーおよびグループのアクセス権限が表示されます。各アイコンの内容は下表のとおりです。

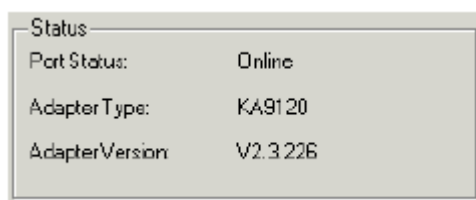
アイテム	説明
	フルアクセス: ユーザーはリモート側の画面を参照することができ、自身のキーボード/モニターからリモートコンピューターを操作することができます。
	参照のみ: ユーザーはリモート側の画面を参照することができますが、リモートコンピューターを操作することはできません。
	アクセス禁止: ポートへのアクセスが禁止されています。ユーザーがログインしてもこのポートはメイン画面の一覧には表示されません。

- ◆ 「Mount USB」の欄には、各ユーザーのバーチャルメディア機能使用権限の有無が表示されます。チェックがついている場合は、そのユーザーに使用権限があることを表しています。×がついている場合は、そのユーザーに使用権限がないことを表しています。

注意: USB バーチャルメディア非対応モデル(KN2132/KN4116/KN4132)ではこの項目は表示されません。

ステータスパネル

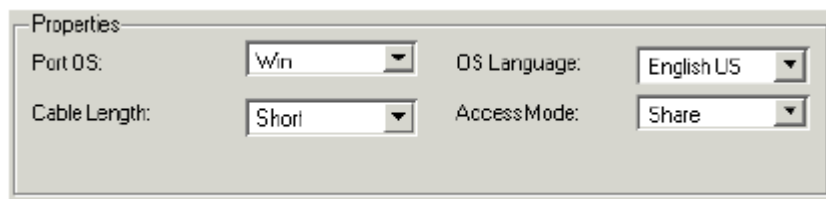
この部分には、選択されたポートのオンライン状況と、そのポートに接続されているコンピューターモジュールに関する情報が表示されます。



注意: サイドバーで、ポートではなく KVM スイッチが選択されている場合は、この欄には何も表示されません。

プロパティパネル

この部分を使って、選択されたポートの各種プロパティを設定することができます。



これらのポートプロパティの設定項目は、本章の冒頭で説明したものと同じです。詳細に関しては p.123「ポートプロパティ」をご参照ください。

変更内容の保存

「Access」メニューで変更した項目の内容を反映させる場合は、画面右下の「Save」アイコンをクリックしてください。

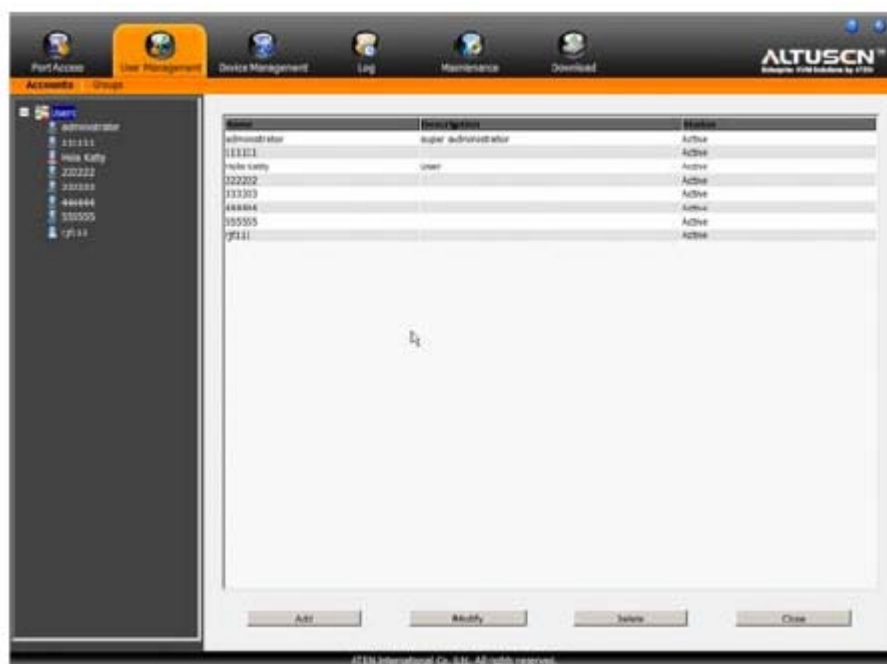
第7章

User Management

概要

「User Management」タブをクリックすると、同タブの「Accounts」メニューでサイドバーから「Users」が選択された状態で表示されます。

Web ブラウザインターフェース



GUI インターフェース



ページは主に 2 つの部分に分かれています。ページ左側のパネルにはすべてのユーザー/グループが、右側の大きいパネルには左側のパネルで選択された項目のさらに詳しい内容が一目でわかるように表示されます。

- ◆ 製品はデフォルトのスーパーアドミニストレーターアカウントを提供しており、このアカウントを使って、製品のセットアップ、ユーザーやグループの新規作成を行うことができます。このアカウントのユーザーネームは administrator、パスワードは password です。セキュリティの観点から、これらのデフォルト設定を任意の文字列に変更されることを推奨します。
- ◆ クライアントアプリケーションを使ってアクセスした場合、サイドバーの「Users」、「Groups」の下にはサイドバーの一覧を操作するフィルターボックスを提供しています。



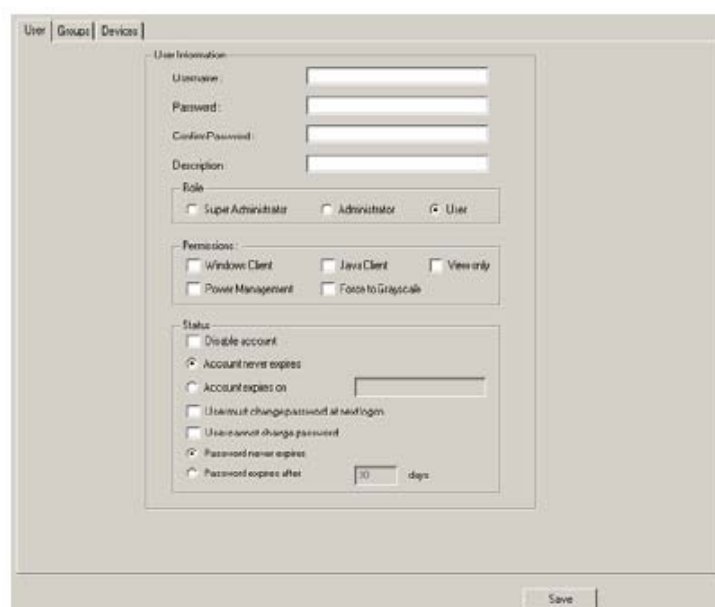
- リストボックスの右側の三角ボタンをクリックすると、表示するカテゴリを選択することができます。選択できるカテゴリは、「Users」(ユーザーのみ)、「Groups」(グループのみ)、「Both」(ユーザー、グループの両方)です。
 - 「Active」の項目にチェックを入れると、アカウントが非アクティブなユーザーを除外することができます。
 - ユーザーネームが特定の文字列に一致したユーザーまたはグループを検索したい場合は、検索文字列を「Go」ボタンの左隣にあるテキストボックスに入力し、「Go」ボタンをクリックしてください。条件に一致したユーザーとグループだけが表示されます。ワイルドカード(?および*)を使って検索することも可能です。
-
- ◆ Web ブラウザでアクセスした場合は、「User Management」タブの中にある「Accounts」(Users)、「Groups」の各サブメニューを操作してください。
 - ◆ Web ブラウザのメニューでは、表のタイトルの各項目をクリックすると、その項目で昇順または降順に並べ替えます。
 - ◆ メインパネルの下にあるボタンは、ユーザーやグループの登録/編集/削除に使用するものです。詳細については以下のセクションをご参照ください。

Users

ユーザーの作成

ユーザーを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. リストパネルから「Users」を選択してください。
2. メインパネル下部にある「Add」ボタンをクリックしてください。以下のような画面が表示されます。



The screenshot shows a 'User Information' dialog box with the following fields and options:

- User Information:**
 - Username: [text input]
 - Password: [password input]
 - Confirm Password: [password input]
 - Description: [text input]
- Role:**
 - ☐ Super Administrator
 - ☐ Administrator
 - ☒ User
- Permissions:**
 - ☐ Windows Client
 - ☐ Java Client
 - ☐ View only
 - ☐ Power Management
 - ☐ Force to Grayscale
- Status:**
 - ☐ Disable account
 - ☒ Account never expires
 - ☐ Account expires on: [date input]
 - ☐ User must change password at next login
 - ☐ User cannot change password
 - ☒ Password never expires
 - ☐ Password expires after: [30] days

A 'Save' button is located at the bottom right of the dialog.

3. 必要な項目を入力してください。各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Username	「Account Policy」の設定に応じて、1～16 文字で設定してください。 (p.186 参照)
Password	「Account Policy」の設定に応じて、0～16 文字で設定してください。 (p.186 参照)
Confirm Password	パスワードの誤設定を防ぐために、パスワードを再入力してください。ここにはパスワードの欄に入力された文字列と同じものを入力してください。
Description	ユーザーに関する付加情報があれば、この欄に入力してください。
Role	スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザーのカテゴリの中から選択することができます。システム上作成可能なユーザー数の範囲内であれば、各カテゴリとも作成するアカウントの数に上限はありません。 ◆ スーパーアドミニストレーターは、システム全体の設定や保守、ユーザー管理、デバイスやポートの割り当てがそれぞれ可能です。 ◆ アドミニストレーターには、ユーザー管理の権限が与えられています。また、スーパーアドミニストレーターによって権限を与えられたポートやデバイスにアクセスすることができます。 ◆ ユーザーは、スーパーアドミニストレーターによって権限を与えられたポートやデバイスにアクセスすることができます。 注意:デフォルトの設定では、ユーザーのアカウントは非アクティブになっています。管理者によって操作権限が与えられなければ、製品にログインすることはできません。
Permissions	スーパーアドミニストレーターとアドミニストレーターは、Windows クライアント、Java クライアント、電源管理ツールの各操作権限が付与されます。一般ユーザーの操作権限と制限については、各操作のチェックボックスで個別に設定を行ってください。 ◆ 「Windows Client」の項目にチェックを入れると、Windows クライアントのダウンロードや、Windows クライアントを使った製品へのアクセスが可能になります。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Permissions (続き)	◆ 「Java Client」の項目にチェックを入れると、Java クライアントのダウンロードや、Java クライアントを使った製品へのアクセスが可能になります。 ◆ 「View Only」の項目にチェックを入れると、ユーザーは製品に接続されたデバイス画面の参照しかできなくなります。ポートへのアクセスや、キーボードやマウスを使ったポート操作はできません。 ◆ 「Power Management」の項目にチェックを入れると、電源管理デバイス(Power Over the NET™)を使った電源操作が可能になります。 ◆ 「Force to Grayscale」の項目にチェックを入れると、ユーザーが表示しているリモート画面をグレースケールに変更します。この操作によって、低帯域のネットワーク環境でのレスポンス向上を図ることができます。
Status	ユーザーアカウントとデバイスへのアクセスを管理することができます。詳細は以下のとおりです。 ◆ 「Disable Account」の項目にチェックを入れると、そのユーザーアカウントの使用を停止することができます。この機能ではユーザーは実際には物理的に削除されませんので、後に必要となった場合でも簡単に設定を戻すことができます。 ◆ アカウントに有効期限を設けたくない場合は「Account never expires」の項目を選択してください。また、アカウントに有効期限を設ける場合は「Account expires on」の項目を選択し、有効期限の日付をテキストボックスに入力してください。 ◆ ユーザーが次回ログインする際にパスワードの変更を要求する場合は、「User must change password at next login」の項目にチェックを入れてください。初回ログインは管理者によって発行された仮のパスワードを使用し、2 回目以降はユーザー自身が設定したパスワードを使うという方法で運用したい場合は、この項目を使って設定してください。 ◆ パスワードに永続的にし、ユーザーに変更されないようにしたい場合は、「User cannot change password」の項目にチェックを入れてください。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Status (続き)	◆ セキュリティのために、管理者はユーザーに定期的なパスワードの変更を要求することも可能です。 ➤ パスワードに有効期限を設けない場合は、「Password never expires」の項目を選択してください。これによって、ユーザーはパスワードの変更するタイミングの制限を受けることはありません。 ➤ パスワードに有効期限を設ける場合は、「Password expires after」の項目を選択し、パスワードの有効日数を入力してください。ここで設定した日数が経過すると、新しいパスワードを設定しなければなりません。

4. ユーザーの作成時に、メインパネルの「Groups」タブで新しいユーザーをグループに登録することもできます。（「Groups」タブについては p.159 参照）「Device」タブではユーザーにポートアクセス権限を割り当てることができます。（「Devices」タブについては p.163 参照）

注意: グループの設定はここでは必須ではありませんので、この手順を省略し、先にユーザーやグループを作成しておいてから、後でユーザーをグループに登録したり、ユーザーに権限を与えたりすることもできます。

5. 各項目への入力が終わったら「Save」ボタンをクリックしてください。
6. 操作に成功すると、メッセージボックスに「Operation Succeeded」と表示されます。ダイアログの「OK」ボタンをクリックして、操作を終了してください。
7. メイン画面に戻る場合は、リストパネルの「Users」をクリックしてください。リストとメインパネルにも新しいユーザーが表示されます。
- ◆ ユーザーリストは展開したり閉じたりすることができます。リストが展開されている場合は、「Users」の隣にある「-」をクリックするとツリーが閉じます。また、リストが閉じている場合は「+」をクリックするとリストが展開します。
 - ◆ 首に黒い二重のバンドがついているアイコンはスーパーアドミニストレーターを、また、首に赤い一重のバンドがついているアイコンはアドミニストレーターをそれぞれ表します。
 - ◆ 大きいメインパネルにはユーザーの名前、アカウント作成時に設定された説明、アカウントの状態(有効/無効)が表示されます。

ユーザーアカウントの編集

ユーザーアカウントを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Users」のツリーから、編集対象となるユーザーの名前をクリックするか、メインパネルで、編集対象となるユーザーの名前を選択した後で「Modify」ボタンをクリックしてください。
2. メイン画面の「User」タブで内容を変更したら、「Save」ボタンをクリックしてその内容を反映させてください。

注意: 「User」タブに関する詳細は p.151 に、「Groups」タブに関する詳細は p.159 に、「Devices」タブに関する詳細は p.163 にそれぞれ表示されています。

ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. メインパネルで、削除対象となるユーザーの名前を選択し、「Delete」ボタンをクリックしてください。
2. 「OK」ボタンをクリックしてください。

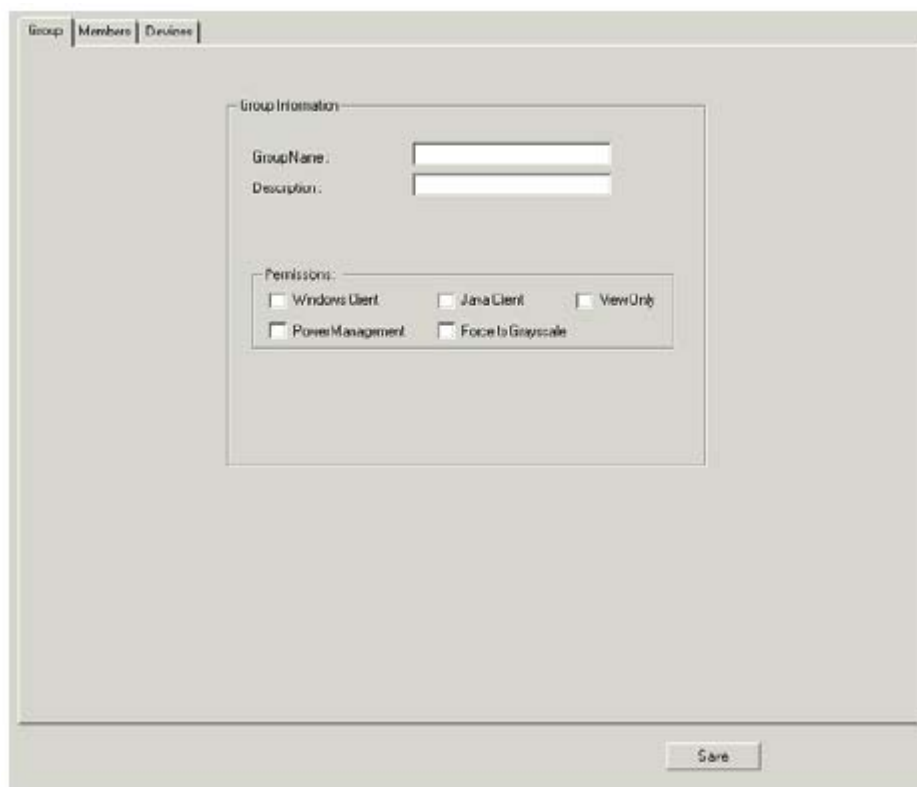
Groups

管理者はこのメニューを使ってユーザーやデバイスを簡単かつ効率的に管理することができます。グループ単位で設定を行うことで、デバイスのアクセス権限はグループの全メンバーに適用されますので、管理者は個々のユーザーに設定をする手間が省けます。複数のグループを定義して、複数のユーザーに特定のデバイスへのアクセスを許可したり、反対に、特定のデバイスへのアクセスを禁止したりすることができます。

グループの作成

グループを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. リストパネルから「Groups」を選択してください。
2. メインパネル下部にある「Add」ボタンをクリックしてください。以下のような画面が表示されます。



3. 必要な項目を入力してください。各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Group Name	最大 16 文字で設定してください。
Description	グループに関する付加情報があれば、最大 63 文字でこの欄に入力してください。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Permissions	グループに対する操作許可と操作制限は、各操作のチェックボックスで個別に設定を行ってください。 ◆ 「Windows Client」の項目にチェックを入れると、Windows クライアントのダウンロードや、Windows クライアントを使った製品へのアクセスが可能になります。 ◆ 「Java Client」の項目にチェックを入れると、Java クライアントのダウンロードや、Java クライアントを使った製品へのアクセスが可能になります。 ◆ 「Power Management」の項目にチェックを入れると、電源管理デバイス(Power Over the NET™)を使った電源操作が可能になります。 ◆ 「View Only」の項目にチェックを入れると、ユーザーは製品に接続されたデバイスの画面の参照しかできなくなります。ポートへのアクセスや、キーボードやマウスを使ったポート操作はできません。 ◆ 「Force to Grayscale」の項目にチェックを入れると、ユーザーが表示しているリモート画面をグレースケールに変更します。この操作によって、低帯域のネットワーク環境でのレスポンス向上を図ることができます。 注意:ユーザーが自身の所属グループに割り当てられた権限の範囲外の権限を個別に設定している場合は、そのユーザーはグループ単位での設定に加え、個別の設定も適用されます。

4. グループの作成時に、「Members」タブで新しいユーザーをグループに登録することができます。(「Members」タブについては p.161 参照)「Devices」タブではグループにポートアクセス権限を割り当てることができます。(「Devices」タブについては p.163 参照)

注意: グループの設定はここでは必須ではありませんので、この手順を省略し、先にユーザーやグループを作成しておいてから、後でユーザーをグループに登録したり、ユーザーに権限を与えたりすることもできます。

5. 各項目への入力が終わったら「Save」ボタンをクリックしてください。
6. 操作に成功すると、メッセージボックスに「Operation Succeeded」と表示されます。ダイアログの「OK」ボタンをクリックして、操作を終了してください。
7. メイン画面に戻る場合は、リストパネルの「Groups」をクリックしてください。リストとメインパネルにも新しいグループが表示されます。
 - ◆ グループリストは展開したり閉じたりすることができます。リストが展開されている場合は、「Groups」の隣にある「-」をクリックするとツリーが閉じます。また、リストが閉じている場合は「+」をクリックするとリストが展開します。
 - ◆ 大きいメインパネルにはグループの名前、グループ作成時に設定された説明が表示されます。（「Status」欄は無効になっています。）

グループの編集

グループを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Groups」リストで、グループの名前をクリックするか、メインパネルで、編集対象となるグループの名前を選択し、「Modify」ボタンをクリックしてください。
2. メイン画面の「Group」タブで内容を変更したら、「Save」ボタンをクリックしてその内容を反映させてください。

注意: 「Group」タブに関する詳細は p.156 に、「Members」タブに関する詳細は p.161 に、「Devices」タブに関する詳細は p.163 にそれぞれ表示されています。

グループの削除

グループを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. メインパネルで、削除対象となるグループの名前を選択し、「Delete」ボタンをクリックしてください。
2. 「OK」ボタンをクリックしてください。

ユーザーとグループ

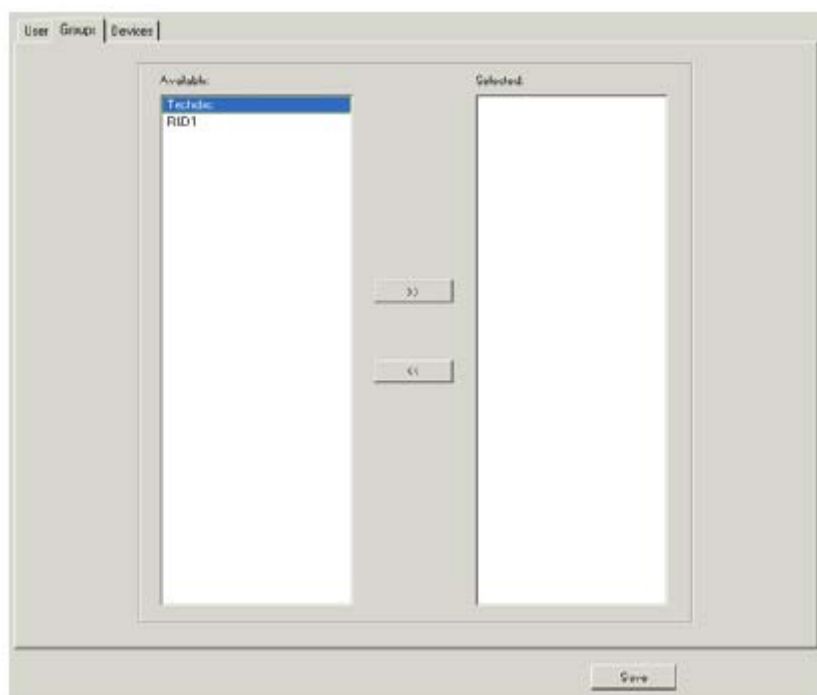
グループへのユーザー割り当て、また、グループからのユーザー削除は、リストパネルの「Users」、「Groups」のどちらのメニューからも操作することができます。

注意: ユーザーをグループに割り当てる前に、必要となるユーザーとグループを事前に作成しておいてください。詳細については p.151 をご参照ください。

Users メニューを使ってユーザーをグループに割り当てる場合

「Users」メニューの「User」タブを使ってユーザーをグループに割り当てる場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Users」ツリーで、ユーザーの名前をクリックするか、メインパネルで、グループに割り当てるユーザーの名前を選択した後で「Modify」ボタンをクリックしてください。
2. メインパネルから「Groups」タブを選択してください。以下のような画面が表示されます。



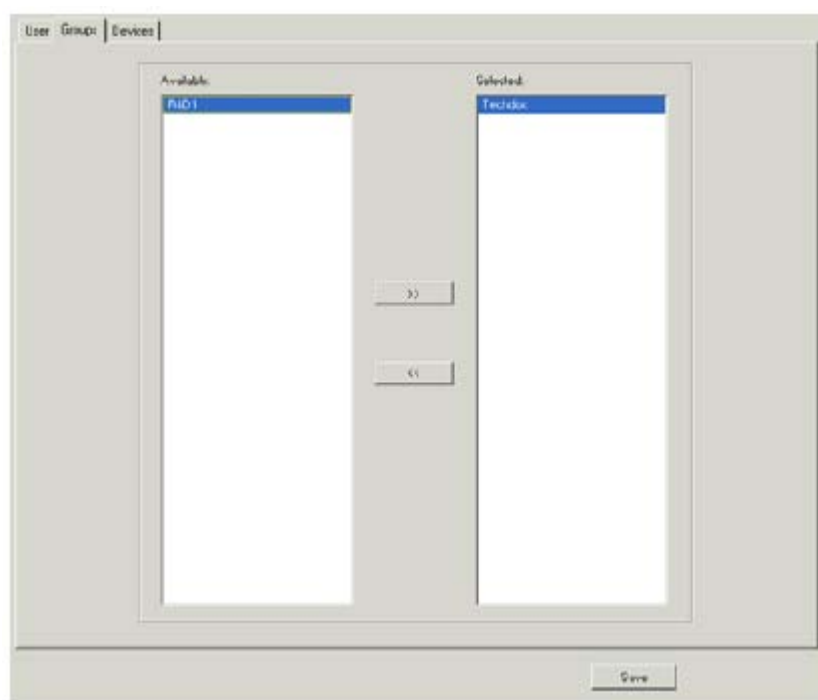
3. 「Available」のリストから、ユーザーの所属先となるグループを選択してください。

4. 右矢印のボタン(>>)をクリックして、手順 3 で選択したグループを「Selected」リストに移動させてください。
5. 他にもユーザーの所属グループがある場合は、上記の手順を繰り返してください。
6. グループの選択が完了したら、「Save」ボタンをクリックしてください。

Users メニューを使ってグループからユーザーを削除する場合

「Users」メニューの「User」タブを使ってユーザーをグループから削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Users」ツリーで、ユーザーの名前をクリックするか、メインパネルで、グループに割り当てるユーザーの名前を選択した後で「Modify」ボタンをクリックしてください。
2. メインパネルから「Groups」タブを選択してください。以下のような画面が表示されます。



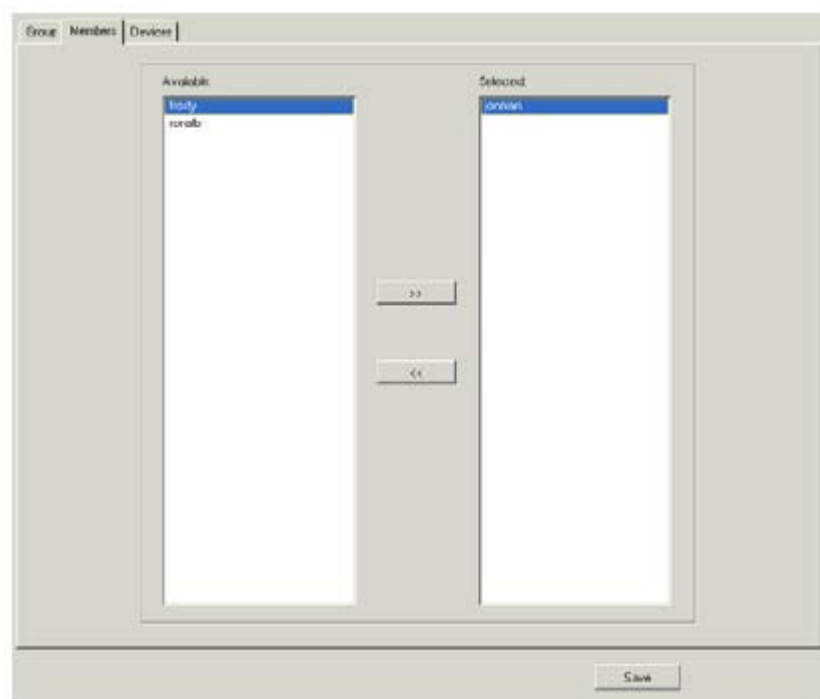
3. 「Selected」のリストから、ユーザーの登録を解除したいグループを選択してください。
4. 左矢印のボタン(<<)をクリックして、手順 3 で選択したグループを削除してください。(選択されたグループは「Available」リストに戻ります。)
5. 他にもユーザーの登録を解除したいグループがある場合は、上記の手順を繰り返してください。

6. ユーザーの選択が完了したら、「Save」ボタンをクリックしてください。

Groups メニューを使ってユーザーをグループに登録する場合

「Groups」メニューの「Group」タブを使ってユーザーをグループに割り当てる場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Groups」ツリーで、グループの名前をクリックするか、メインパネルで、ユーザーの所属先となるグループを選択し、「Modify」ボタンをクリックしてください。
2. メインパネルから「Members」タブを選択してください。以下のような画面が表示されます。

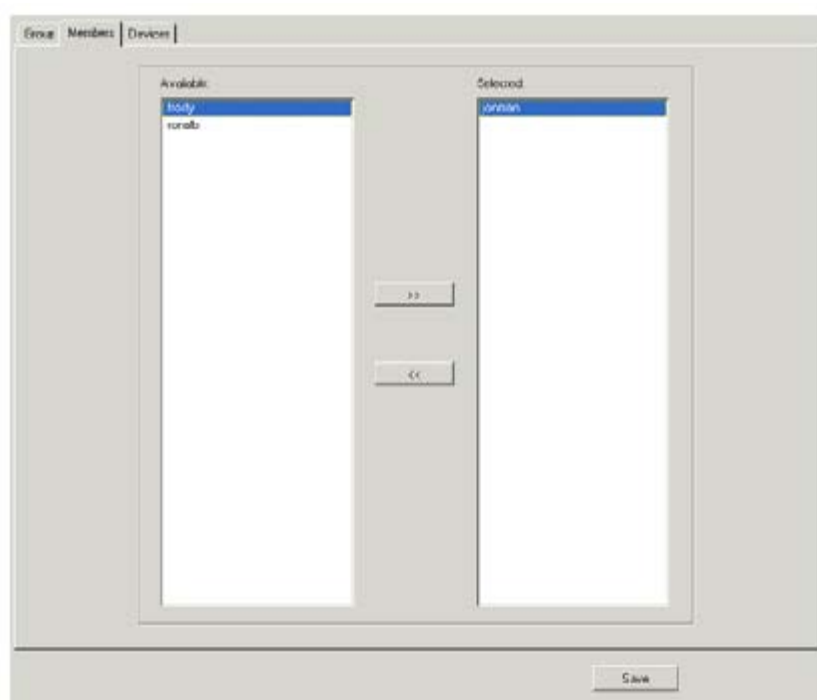


3. 「Available」のリストから、手順 1 で選択したグループのメンバーとなるユーザーを選択してください。
4. 右矢印のボタン(>>)をクリックして、手順 3 で選択したユーザーを「Selected」リストに移動させてください。
5. 他にも追加したいメンバーがいる場合は、上記の手順を繰り返してください。
6. メンバーの選択が完了したら、「Save」ボタンをクリックしてください。

Groups メニューを使ってグループからユーザーを削除する場合

「Groups」メニューの「Group」タブを使ってユーザーをグループから削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Groups」ツリーで、グループの名前をクリックするか、メインパネルで、ユーザーを削除したいグループを選択した後で「Modify」ボタンをクリックしてください。
2. メインパネルから「Members」タブを選択してください。以下のような画面が表示されます。



3. 「Selected」のリストから、削除対象となるユーザーを選択してください。
4. 左矢印のボタン(<)をクリックして、手順3で選択したユーザーを削除してください。(選択されたユーザーは「Available」リストに戻ります。)
5. 他にもユーザーの登録を解除したいグループがある場合は、上記の手順を繰り返してください。
6. ユーザーの選択が完了したら、「Save」ボタンをクリックしてください。

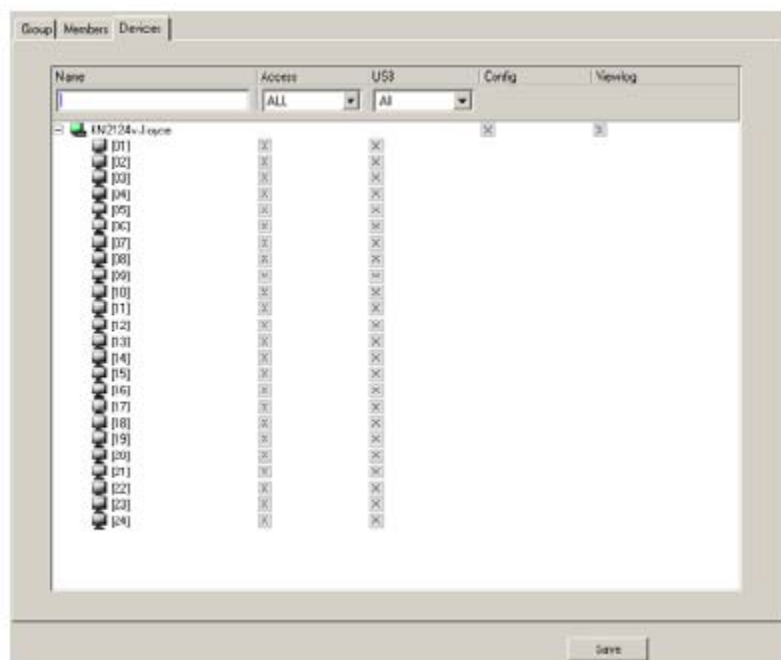
デバイスの割り当て

ユーザーが製品にログインすると、「Port Access」タブの画面が最初に表示され、そのユーザーがアクセスを許可されたポートがすべて、画面左側のポート選択パネルに一覧表示されます。ポートおよびポートに接続されたデバイスに対するアクセス権限は、「User Management」タブの「Users」(Accounts)または「Groups」メニューからポート単位で割り当てられます。

Users メニューを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合

「Users」メニューの「User」タブを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Users」ツリーでグループの名前をクリックするか、メインパネルでデバイスへの操作権限を割り当てたいユーザーを選択した後で「Modify」ボタンをクリックしてください。
2. メインパネルから「Devices」タブを選択してください。以下のような画面が表示されます。



- ◆ ポートはリスト左側「Name」列に表示されます。
- ◆ 「Access」列では、デバイスのアクセス権限を設定します。
- ◆ 「USB」列では、USB バーチャルメディアデバイスのアクセス権限が一覧表示されます。な

お、この列は、バーチャルメディア非対応モデル(KN2132/KN4116/KN4132)の環境では表示されません。

- ◆ 「Config」列では、ユーザーに製品のシステム環境の設定を許可するかどうかを設定します。
- ◆ 「View Log」列では、製品ログファイルの参照を許可/制限します。

3. 「Access」、「USB」の各列では、アイコンをクリックして設定を変更してください。設定できる項目は下表のとおりです。

アイコン	意味	説明
	フルアクセス	ユーザーはリモート画面の参照、およびキーボードやマウスを使用したリモート画面の操作が可能です。
	参照のみ	ユーザーはリモート画面の参照のみが可能です。リモート画面の操作はできません。
	アクセス禁止	アクセス権限がありません。メイン画面の一覧にもこのポートは表示されなくなります。

注意: アプリケーション版の Windows クライアント、Java クライアントでは、[Shift]キーや [Ctrl]キーを押しながらポートをクリックして、複数のポートを同じ内容に設定することができます。ポートを複数選択した状態でアイコンをクリックすると、設定内容がすべて同じものに切り替わります。

4. 「Config」列でアイコンをクリックして設定を行ってください。チェックマークは、ユーザーが製品のシステム設定の変更権限を持っていることを表します。(第 8 章「Device Management」参照) ×マークは、ユーザーがシステム設定の変更権限を持っていないことを表します。
5. 「View Log」列でアイコンをクリックして設定を行ってください。チェックマークは、ユーザーが製品のログファイルの参照権限を持っていることを表します。×マークは、ユーザーがログファイルの参照権限を持っていないことを表します。
6. 内容を設定したら、「Save」ボタンをクリックしてください。
7. 確認ダイアログが表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。

フィルター

アプリケーション版の Windows クライアント、Java クライアントから操作している場合、「Devices」タブのリストの上部には、ポートの表示範囲を絞り込むフィルターが 3 種類あります。詳細は下表のとおりです。

フィルター		説明
Name		ポートネームにフィルターを掛ける場合は、ポートネーム(すべて、または一部)やワイルドカード(*)を入力し、[Enter]キーを押してください。その文字列に一致したポートが一覧に表示されます。
Access	All	すべてのポートが一覧に表示されます。
	Full Access	フルアクセスに設定されているポートだけが一覧に表示されます。
	View Only	参照のみに設定されているポートだけが一覧に表示されます。
	No Access	アクセス禁止に設定されているポートだけが一覧に表示されます。
USB	All	すべてのポートが一覧に表示されます。
	Permitted	許可に設定されているポートだけが一覧に表示されます。
	Restricted	禁止に設定されているポートだけが一覧に表示されます。

Groups メニューを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合

「Groups」メニューの「Group」タブを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Groups」ツリーでグループの名前をクリックするか、メインパネルで対象となるグループを選択した後で「Modify」ボタンをクリックしてください。
2. メインパネルから「Devices」タブを選択してください。
3. 「User」メニューからデバイスの操作権限を割り当てる場合と同じ画面が中央に表示されますので、p.163 の手順に従ってデバイスに操作権限を割り当ててください。

p.163 の手順ではユーザー単位でしか操作権限が割り当てられないのに対し、この手順ではグループ全体に同じ操作権限を割り当てることができます。

第8章

Device Management

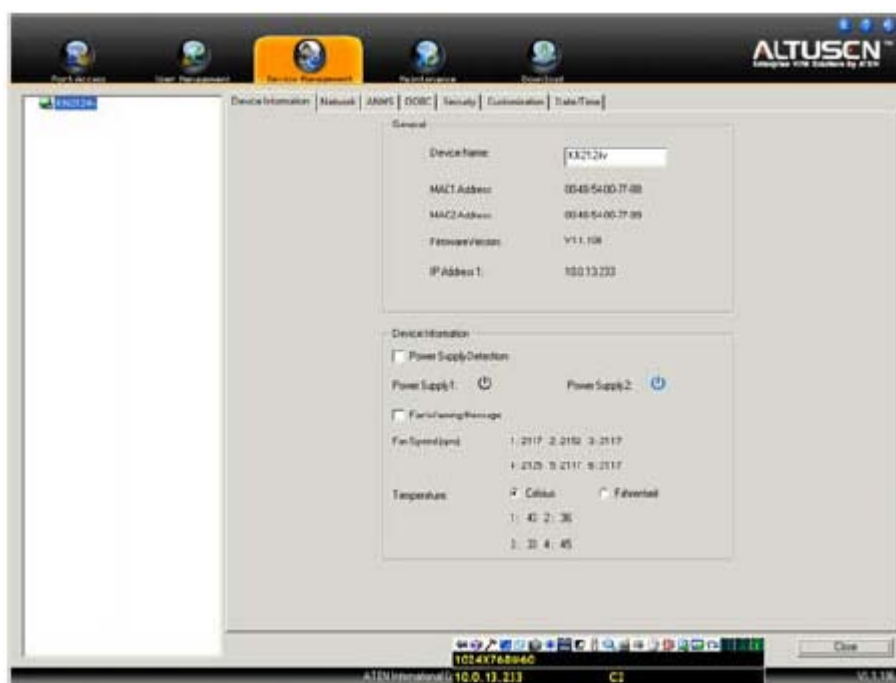
概要

スーパーアドミニストレーターは「Device Management」タブを使って製品の操作に関する設定を行うことができます。

Web ブラウザインターフェース



GUI インターフェース



Device Information メニュー

「Device Information」メニューの「General」セクションには、選択されたデバイスに関する情報が表示されます。



注意: 上図は、アプリケーション版のクライアントツールでアクセスした際の画面の例です。Web ブラウザでアクセスした場合は、一番上のタブの下にメニュー形式で表示されます。

画面の各項目の内容は下表のとおりです。

項目	内容
Device Name	KVMスイッチに固有の名前を設定することができます。特に、複数のステーションを導入している環境で個々を識別する際に役立ちます。この部分は好きな名前に変更することができます。
MAC1 Address	本製品はネットワークインターフェースを 2 ポート搭載しています。ここには第 1 インターフェースの MAC アドレスが表示されます。
MAC2 Address	本製品はネットワークインターフェースを 2 ポート搭載しています。ここには第 2 インターフェースの MAC アドレスが表示されます。
Firmware Version	現在製品にインストールされているファームウェアのバージョンが表示されます。弊社 Web サイトで新しいファームウェアがリリースされた場合、この項目を確認し、新しいバージョンのものを適用するかどうか判断することができます。
IP Address 1	第 1 ネットワークインターフェースに割り当てられている IP アドレスが表示されます。

アプリケーション版の Windows クライアント、Java クライアントを使ってアクセスした場合、画面下部パネルには、選択されたデバイスに関する情報が表示されます。各項目の内容は下表のとおりです。

項目	内容
Power Supply Detection	電源 1、電源 2 のアイコンは、電源に電流が供給されていない場合は灰色、また、電流が供給されている場合は青色でそれぞれ表示されます。 この機能が有効になっている(項目にチェックが入っている)場合、片方の電源にしか電流が供給されていないと、問題を通知するビープ音が出力されます。 ローカルコンソールから操作している場合は、片方の電源しか使用していないことを確認するメッセージが表示されます。片方の電源を実際使用している場合は、以下の方法でビープ音を止めることができます。 1) チェックボックスからチェックを外すことで電源に関する警告を無効にします。常にこの機能を無効にしたい場合は、この方法でビープ音を無効にしてください。 2) ダイアログボックスでビープ音を有効/無効にするかを選択することができます。一時的にこの機能を無効にしたい場合は、こちらの方法でビープ音を無効にしてください。この方法で無効にした場合、次にシステムリセットを行った場合に警告機能が再度有効になります。 デフォルトの設定では、この機能は有効になっています。
Fan Warning Message	ファンに関する警告メッセージを有効にする場合は、この項目にチェックを入れてください。 ファンが回転を停止すると、システムは問題を通知するビープ音を発します。また、ローカルコンソールから操作している場合は、問題を通知するメッセージが表示されます。問題がないことが確認できた場合は、「Confirm」を選択し、警告を無視してビープ音を停止してください。 注意: 温度が設定値よりも低くなるとファンが停止するように設定されている場合もあります。警告が出たからと言って必ずしもファンに問題があるとは限りませんので、ご注意ください。 デフォルトの設定では、この機能は有効になっています。

(表は次のページに続きます)

項目	内容
Fan Speed	ファンの速度が表示されます。詳細は p.284「ファンの位置と速度」をご参照ください。
Temperature	KVM スイッチ内蔵のセンサーで感知した温度が摂氏、華氏の両方の単位で表示されます。詳細は p.284「ファンの位置と速度」をご参照ください。

Network メニュー

「Network」メニューでは、製品のネットワークに関連する項目を設定することができます。

Service Ports:	
Program:	9000
HTTP:	80
HTTPS:	443
☒ Redundant NIC	
1000M Network Adapter 1	
IP Address:	
☐ Obtain IP address automatically [DHCP]	
☒ Set IP address manually [Fixed IP]	
IP Address:	10.0.13.233
Subnet Mask:	255.255.255.0
Default Gateway:	10.0.13.1
DNS Server:	
☐ Obtain DNS server address automatically	
☒ Set DNS server address manually	
Preferred DNS server:	10.0.1.23
Alternate DNS server:	0.0.0.0
Network Transfer Rate:	99999 KBps

Service Ports

セキュリティのためにファイアウォールが使用されている環境では、アドミニストレータはファイアウォールで開放するポートを設定する必要があります。また、この場合、ユーザーはアクセスする際にこのポートを指定しなければなりません。無効なポート番号が入力されていたり、ポート番号が入力されていなかったりすると、製品にアクセスできなくなる場合があります。各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Program	Windows、Java の各クライアント(Web ブラウザ、またはアプリケーション)を使って接続する場合、またはバーチャルメディア機能を使って接続する場合に使用するポートです。デフォルトでは 9000 に設定されています。この項目には 1024～65535 の整数値を設定してください。 デフォルトで設定されたポート以外のポートを使用する場合、Windows、Java の各クライアントツールを使ってログインする際には、アクセスに使用するポートを指定する必要があります。このとき、ポートが未指定であると製品に接続することができなくなります。詳細は p.66「Windows クライアントからのログイン」、p.70「Java クライアントからのログイン」をご参照ください。
HTTP	Web ブラウザによるログインで使用するポート番号です。デフォルトでは 80 に設定されています。
HTTPS	Web ブラウザによるログイン(暗号化通信)で使用するポート番号です。デフォルトでは 443 に設定されています。

注意:

- これらのポートは重複しないように別々のポートを指定してください。
- ファイアウォールをセットアップしている場合は、ユーザーがファイアウォールの外側から製品にアクセスできるように「Program」、「HTTPS」の各項目で設定したポートをファイアウォール側でも開放する必要があります。

NIC Settings

Redundant NIC

本製品にはネットワークインターフェースを 2 ポート搭載しています。「Redundant NIC」の項目が有効になっていると(デフォルト設定)、両方のインターフェースでネットワークアダプター1 の IP アドレスを使用することができます。

この設定を行った場合、セカンドインターフェースは通常、非アクティブな状態になっていますが、第 1 インターフェースにネットワーク障害が発生した場合は、製品は自動的に第 2 インターフェースに切り替わります。

◆ 冗長ネットワークを有効化 - 両方のインターフェースに同じ IP アドレスを設定

冗長ネットワークを有効にするには、以下の手順で操作してください。

1. 「Redundant NIC」の項目にチェックを入れてください。
2. 「Network Adapter 1」がネットワークアダプターリストで選択され、リストボックスは無効になります。(「Network Adapter 2」の項目は設定できません)
3. 「Network Adapter 1」で使用する IP アドレスと DNS サーバーの IP アドレスを設定してください。(下のセクションを参照)

◆ 冗長ネットワークを無効化 - 両方のインターフェースに異なる IP アドレスを設定

冗長ネットワークを無効にすると、両方のインターフェースに異なる IP アドレスを設定することができます。ユーザーは製品へのアクセスの際に両方の IP アドレスを使用することが可能です。この方法で製品をセットアップする場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Redundant NIC」の項目にチェックが入っている場合は、クリックしてチェックを外してください。
2. ネットワークアダプターのリストボックスから「Network Adapter 1」を選択してください。
3. 「Network Adapter 1」で使用する IP アドレスと DNS サーバーの IP アドレスを設定してください。(下のセクションを参照)
4. ネットワークアダプターのリストボックスから「Network Adapter 2」を選択してください。
5. 「Network Adapter 2」で使用する IP アドレスと DNS サーバーの IP アドレスを設定してください。

IP Address

製品には DHCP を使用して動的 IP アドレスを設定することも、固定 IP アドレスを設定することも可能です。

- ◆ 動的 IP アドレスを割り当てる場合は、「Obtain IP address automatically」のラジオボタンを選択してください。
- ◆ 固定 IP アドレスを設定する場合は、「Set IP address manually」のラジオボタンを選択し、お使いのネットワーク環境で有効な IP アドレスを入力してください。

注意： 「Obtain IP address automatically」の項目を選択し、DHCP を使って製品の IP アドレスを自動的に取得する場合、製品は起動後に DHCP サーバーからの IP アドレスの割り当てを待機します。30 秒経過しても IP アドレスが割り当てられない場合は、自動的に工場出荷時にデフォルトで設定された IP アドレス (192.168.0.10)に戻ります。

DNS Server

- ◆ DNS サーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「Obtain DNS Server address automatically」のラジオボタンを選択してください。
- ◆ DNS サーバーのアドレスを手動で割り当てる場合は、「Set DNS server address manually」のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークの優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーの IP アドレスをそれぞれ入力してください。

注意： 優先 DNS サーバーのアドレスは任意で設定してください。

Network Transfer Rate

製品がリモートコンピューターにデータを転送する速度を設定することで、ネットワークのトラフィック状況を最適化しデータ転送量を調節することができます。設定できる値の範囲は 4～99999Kbps です。

ANMS メニュー

「ANMS」メニューでは、ユーザーの外部認証に関する管理を行うことができます。下図のように、このページは主に 3 つのメインパネルから構成されています。

The screenshot displays the ANMS configuration interface with the following sections and fields:

- IP Installer**
 - Enabled ☐ View Only ☒ Disabled ☐
- SMTP Settings**
 - ☐ Enable report from the following SMTP Server
 - SMTP Server:
 - ☐ My server requires authentication
 - Account Name:
 - Password:
 - From:
 - To:
 - ☐ Report IP address ☐ Report system reboot
 - ☐ Report user login ☐ Report user logout
- Log Server**
 - ☐ Enable
 - MAC Address:
 - Service Port:
- SNMP Server**
 - ☐ Enable SNMP Agent
 - Server IP:
 - Service Port:
- Syslog Server**
 - ☐ Enable
 - Server IP:
 - Service Port:
- ☐ Disable Local Authentication
- RADIUS Settings**
 - ☐ Enable
 - Preferred RADIUS Server IP:
 - Preferred RADIUS Service Port:
 - Alternate RADIUS Server IP:
 - Alternate RADIUS Service Port:
 - Timeout: sec
 - Retries:
 - Shared Secret (at least 6 characters):
- LDAP Settings**
 - ☐ Enable
 - Type: ☒ LDAP ☐ LDAPS
 - LDAP Server: Port:
 - Admin DN: Timeout: sec
 - Admin Name:
 - Password:
 - Search DN:
- CC Management**
 - ☒ Enable
 - CC Server IP: CC Service Port:

IP Installer

IP インストーラーは ALTUSEN シリーズの対応製品に IP アドレスを割り当てることのできる、Windows 環境用の外部ツールです。

「IP Installer utility」の項目で、「Enable」(有効)、「View Only」(参照のみ)、「Disable」(無効)のいずれかをラジオボタンで選択してください。IP インストーラーの詳細については、p.265「IP インストーラー」をご参照ください。

-
- 注意:**
1. 「View Only」を選択した場合は、IP インストーラーのデバイスリストで製品を確認することはできますが、IP アドレスを変更することはできません。
 2. IP アドレスを設定した後は、セキュリティのために、この項目を「View Only」、または「Disable」に設定することを推奨します。
-

SMTP Settings

SMTP サーバーからのレポートをユーザーにメール通知する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Enable report from the following SMTP server」の項目にチェックを入れ、お使いの SMTP サーバーの IP アドレスを入力してください。
2. サーバーで認証が必要な場合は、「My server requires authentication」の項目にチェックを入れてください。

3. 「Account Name」、「Password」、「From」の欄に、差出人のアカウント情報を設定してください。

注意: 「From」欄に入力できるメールアドレスは一つだけです。また、メールアドレスは 64 バイトを超えないように設定してください。

4. DHCP によって割り当てられた IP アドレスやイベントレポートを通知するメールの宛先となるメールアドレスを「To」欄に入力してください。(複数アドレス指定可)

注意: 「To」欄に複数のメールアドレスを指定する場合は、メールアドレスをセミコロンで区切ってください。また、メールアドレスは全体で 256 バイトを超えないように設定してください。

5. メールを送信するレポートオプションにチェックを入れてください。選択できるオプションは「Report IP address」(IP アドレスの通知)、「Report system reboot」(システムリブートの通知)、「Report user login」(ユーザーログインの通知)、「Report user logout」(ユーザーログアウトの通知)です。

Log Server

ログインや内部ステータスメッセージ等、製品内部で発生した重要なイベントは、自動的にログファイルに記録されます。ログサーバーがインストールされているコンピューターの MAC アドレスとポート番号をこのパネルで設定してください。有効なポート番号の値の範囲は 1～65535 です。デフォルトで設定されているポート番号は 9001 です。

注意: ポート番号は、「Program」の項目で指定したポートとは異なるポートを使用してください。(p.173 参照)

ログサーバーのセットアップと操作については第 12 章で、また、ログファイルについては p.140 でそれぞれ詳しく説明します。

SNMP Settings

SNMP を使ってデバイス管理をサポートする場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Enable SNMP Agent」の項目にチェックを入れてください。
2. SNMP トラップイベントを通知されるコンピューターの IP アドレスとポート番号を入力してください。有効なポート番号の値の範囲は 1～65535 です。

注意: 通知される SNMP トラップは、システムへの電源投入、ログイン失敗、システムリセットの 3 種類です。

Syslog Server

製品内部で発生した全イベントを記録し、Syslog サーバーに書き込む場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Enable」の項目にチェックを入れてください。
2. Syslog サーバーの IP アドレスとポート番号を入力してください。有効なポート番号の値の範囲は 1～65535 です。

Disable Local Authentication

このオプションを選択すると、ローカルコンソールにおけるユーザー認証を無効にします。この設定によって、製品は LDAP、LDAPS、MS Active Directory、RADIUS、CC デバイス統合管理システム経由以外からはアクセスできなくなります。

RADIUS Settings

RADIUS サーバー経由で製品への認証を行う場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Enable」の項目にチェックを入れてください。
2. 優先 RADIUS サーバー、代替 RADIUS サーバーの IP アドレスとポート番号をそれぞれ入力してください。
3. 「Timeout」の項目に、製品が RADIUS サーバーの応答を待機する最大時間(秒)を入力してください。
4. 「Retries」の項目に、RADIUS サーバーを使ったログインの再試行可能回数を設定してください。
5. 「Shared Secret」の項目に、RADIUS サーバーとの認証で使用する共有シークレットの文字列を入力してください。
6. RADIUS サーバーで各ユーザーに以下のエントリーを設定してください。

su/xxxx

xxxx の部分には、製品でアカウントを作成した際にユーザーに与えられたユーザーネームに置き換えてください。ユーザーのアクセス権限は製品上で設定されたものと同じです。(p.151 参照)

LDAP/LDAPS Authentication and Authorization Settings

LDAP/LDAPS サーバー経由で製品への認証を行う場合は、以下の手順で操作してください。

項目	アクション
Enable	LDAP/LDAPS 経由で認証を行う場合は、「Enable」にチェックを入れてください。
Type	使用する認証方法(LDAP または LDAPS)を、ラジオボタンで選択してください。
LDAP Server IP and Port	LDAP サーバーまたは LDAPS サーバーの IP アドレスとポート番号を設定してください。LDAP サーバーと LDAPS サーバーのデフォルトポート番号はそれぞれ 389 と 636 です。
Admin DN	この項目に入力する値は LDAP/LDAPS サーバーの管理者にご確認ください。以下、設定例です。 ou=kn4132,dc=aten,dc=com
Admin Name	LDAP アドミニストレーターのユーザーネームを入力してください。
Password	LDAP アドミニストレーターのパスワードを入力してください。
Search DN	検索ベースの識別名を設定してください。これはユーザーネームの検索を開始する DNS 名です。
Timeout	製品が LDAP/LDAPS サーバーの応答を待機する時間(秒)を設定してください。

注意: 「LDAP Settings」が有効になると、MS Active Directory の LDAP スキーマを拡張する必要があります。詳細については p.229「LDAP サーバーの設定」をご参照ください。

CC Management Settings

CC(Control Center)サーバー経由で製品の認証を行う場合は、「Enable」にチェックを入れ、CC サーバーの IP アドレスと通信に使用するポートを入力してください。

OOBC メニュー

万が一、製品が通常の TCP/IP ネットワーク経由でアクセスできなくなった場合でも、製品のモデムポートを使うことでアクセスが可能です。このページを使って、PPP(モデム)ダイヤルインによる操作を有効にすることができます。

PPP Settings

☒ Enable Out of Band Access

☐ Enable Dial Back

Phone Number:

☐ Use username as dial back phone number

各項目の内容は下表のとおりです。

アイテム	アクション
Enable Out of Band Access	ダイヤルイン接続による製品へのアウトオブバンドアクセスを有効にする場合は、この項目にチェックを入れてください。
Enable Dial Back	セキュリティを更に強化するために、製品をダイヤルイン接続から切断し、下の欄に入力された電話番号にダイヤルバック接続する場合は、この項目にチェックを入れてください。
Phone Number	「Enable Dial Back」の項目にチェックを入れると、この欄には、製品がダイヤルバック接続し PPP セッションを初期化する際に使用する電話番号を設定します。この項目は、ダイヤル元となる電話番号と同じものを設定してください。
Use username as dial back phone number	「Enable Dial Back」の項目にチェックを入れ、電話番号を「Phone Number」の項目に設定し、「Use username as dial back phone number」の項目にチェックを入れた場合は、モデムでユーザー認証する際に以下の方法で認証を行ってください。 ◆ ダイヤルインユーザーネームには、KVM スイッチがダイヤルバック接続する接続先となるモデムの電話番号を使用してください。 ◆ ダイヤルインパスワードには、「Phone Number」の項目に設定された電話番号を使用してください。

PPP 接続のセットアップや操作に関する詳細は p.269 をご参照ください。

Security メニュー

「Security」メニューでは、製品のアクセスに関する項目を設定します。

Security

☐ IP Filter Enable

☒ Include

☒ Exclude

Add

Modify

Delete

Login String:

☐ MAC Filter Enable

☒ Include

☒ Exclude

Add

Modify

Delete

Account Policy

Minimum Username Length:

5

Minimum Password Length:

5

Password Must Contain At Least

☐ One Upper Case

☐ One Lower Case

☐ One Number

☐ Disable Duplicate Login

Encryption

Keyboard/Mouse

☐ DES

☐ 3DES

☐ AES

☐ RC4

☐ Random

Video

☐ DES

☐ 3DES

☐ AES

☐ RC4

☐ Random

Virtual Media

☐ DES

☐ 3DES

☐ AES

☐ RC4

☐ Random

Private Certificate

Private Key :

Browse...

Certificate :

Browse...

Upload

Restore default

IP アドレス/MAC アドレスによるフィルタリング

IP フィルターや MAC フィルターが設定されていると、IP フィルターは上のリストボックスに、MAC フィルターは下のリストボックスにそれぞれ表示されます。

製品にこれらのフィルターを設定することで、製品にアクセスしてきたコンピューターの IP アドレスや MAC アドレスとフィルターを照合してアクセスを制御します。IP アドレス、MAC アドレスのフィルターはそれぞれ最大 100 項目まで設定が可能です。

IP アドレスによるフィルター機能を有効にする場合は「IP Filter Enable」の項目に、MAC アドレスによるフィルター機能を有効にする場合は「MAC Filter Enable」の項目にそれぞれチェックを入れてください。

- ◆ 「include」のラジオボタンが選択されていると、フィルターで設定されているすべてのアドレスからのアクセスが許可され、それ以外のアドレスからのアクセスは拒否されます。
- ◆ 「exclude」のラジオボタンが選択されていると、フィルターで設定されているすべてのアドレスからのアクセスが拒否され、それ以外のアドレスからのアクセスは許可されます。

フィルターの追加

フィルターの項目を追加する場合は、以下の手順で操作してください。

1. IP アドレス、または MAC アドレスによるフィルター機能を有効にし、「Add」ボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。

The image shows two overlapping dialog boxes. The top one is titled 'IP Filter' and contains two text input fields labeled 'From :' and 'To :', both containing the value '0.0.0.0'. Below these fields are 'OK' and 'Cancel' buttons. The bottom dialog box is titled 'Mac Filter' and contains a single text input field labeled 'MAC Address:' containing the value '000000000000'. It also has 'OK' and 'Cancel' buttons at the bottom.

注意: IP アドレスのフィルターはアドレスを単独で指定することも、範囲で指定することも可能です。アドレスを単独で指定する場合は、「From」、「To」の各欄に同一の IP アドレスを指定してください。アドレスを範囲で指定する場合は、「From」の欄に始点となるアドレスを、「To」の欄に終点となるアドレスをそれぞれ指定してください。

2. アドレスの入力が完了したら、「OK」ボタンをクリックしてください。

フィルターの編集

フィルター項目を編集する場合は、対象となる項目を IP アドレスまたは MAC アドレスのフィルターのリストから選択して、「Modify」ボタンをクリックしてください。編集ダイアログは追加ダイアログと同様の外観です。変更する場合は、古いアドレスを削除して、新しいアドレスを入力してください。

フィルターの削除

フィルター項目を削除する場合は、IP アドレス、または MAC アドレスのフィルターリストボックスから対象となる項目を選択し、「Delete」ボタンをクリックしてください。

Login String

「Login String」の項目には、ユーザーが Web ブラウザでアクセスする際に必要となるログイン文字列を設定します。この文字列が管理者によって設定されていると、アクセスする URL にこの文字列を指定する必要があります。以下、「abcdefg」という文字列がログイン文字列として設定された環境でのアクセス例です。

192.168.0.126/ abcdefg

注意:

1. IP アドレスとログイン文字列の間はスラッシュ(/)で区切ってください。
2. ログイン文字列が設定されていないと、誰でも製品の IP アドレスを指定するだけで簡単にアクセスできてしまいます。セキュリティレベルを維持するためにも、この文字列の設定を推奨します。

Account Policy

システムアドミニストレーターは、このセクションでユーザーネームやパスワードの管理ポリシーを設定することができます。ポリシーを確認し、必要な項目を該当フィールドに設定してください。

項目	説明
Minimum Username Length	ユーザーネームの入力に必要な最小文字数を設定します。入力可能な値は 1～16 です。
Minimum Password Length	パスワードの入力に必要な最小文字数を設定します。入力可能な値は 0～16 です。
Password Must Contain At Least	これらの項目にチェックを入れると、パスワードにその項目を必ず含めなければなりません。指定できる文字の種類は「One Upper Case」(大文字 1 文字以上)、「One Lower Case」(小文字 1 文字以上)、「One Number」(数字 1 文字以上)です。 注意: ポリシーの設定以前に作成されたユーザーアカウントには、新しいポリシーの設定内容は適用されませんが、このポリシーの作成以降は、ユーザーの作成時や、パスワードの変更時にこのポリシーが適用されますので、ご注意ください。
Disable Duplicate Login	同一アカウントで二重にログインするのを許可しない場合は、この項目にチェックを入れてください。

Encryption

本製品では、キーボード/マウス、ビデオ、バーチャルメディアの各信号の暗号化の形式を個別に設定することができます。これらの信号はそれぞれ、DES、3DES、AES、RC4、ランダム of 各方式を単独または組み合わせて暗号化することができます。暗号化機能を有効にすると、システムパフォーマンスに影響を与え、暗号化を複雑にすればするほど、暗号化がシステムにもたらす弊害も大きくなります。暗号化を有効にする場合は、以下の点を考慮して設定を行ってください。

- ◆ システムパフォーマンスに与える影響は、RC4、DES、3DES、AES の順に大きくなります。
- ◆ 暗号化の組み合わせのうち、RC4 と DES の組み合わせが最もシステムに与える影響が小さいです。

Private Certificate

SSL 通信で製品にログインする場合、署名済み証明書を使って、ユーザーが目的の Web サイトに正しく接続されているかを検証します。SSL 通信用の証明書やプライベートキーを入手する場合は、この「Private Certificate」セクションを使用します。

暗号用秘密鍵を使用する場合

暗号用秘密鍵を使用する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Private Key」の右側にある「Browse」ボタン(p.183 の図を参照)をクリックし、ダイアログから、お使いのコンピューターに保存されている暗号用秘密鍵のファイルを選択してください。
2. 「Upload」ボタンをクリックして、ファイルをアップロードしてください。

署名済み SSL サーバー証明書をインポートする場合

ログイン時に毎回表示される証明書の警告ダイアログを表示しないようにするために、管理者はサードパーティーCA の署名済み証明書を使用することができます。

サードパーティーの署名済み証明書を使用する場合は、以下の手順で操作してください。

1. CA の Web サイトにアクセスし、SSL 証明書を申請してください。
2. CA から証明書を入手したら、その証明書をお使いのコンピューターの適当なフォルダーに保存してください。
3. 「Security」タブにアクセスし、「Private Certificate」のパネルで「Certificate」の右にある「Browse」ボタンをクリックしてください。(p.183 の図を参照)
4. 証明書のファイルが保存されているフォルダーを開いて、証明書のファイルを選択してください。
5. 「Upload」ボタンをクリックして、ファイルをアップロードしてください。

Customization メニュー

「Customization」メニューでは、ログイン再試行可能回数、動作モード等の項目の設定を行います。

The screenshot displays the 'Customization' menu with three main sections:

- Login Failures:** Contains two input fields. 'Allowed:' is set to '5' and 'Timeout:' is set to '3' with a 'min' unit indicator.
- Working Mode:** A list of checkboxes with the following states:
 - ☒ Enable ICMP
 - ☒ Enable Browser
 - ☒ Enable Multiuser Operation
 - ☐ Force All to Grayscale
 - ☒ Enable Device List
 - ☒ Enable Adapter ID
- Misc:** Contains three buttons: 'Clear Port Names', 'Reset Default Values', and 'Adapter Attributes'.

At the bottom of the menu, there is a checkbox labeled 'Reset on exit' which is currently unchecked.

Login Failures

- ◆ 「Allowed」の項目では、リモートコンピューターからのログイン再試行可能回数を設定します。
- ◆ 「Timeout」の項目では、リモートコンピューターからのログイン回数が再試行可能回数に達した場合、次にログインするまでに待機を必要とする時間(分)を設定します。

Working Mode

- ◆ ICMP が有効になっている(「Enable ICMP」の項目にチェックが入っている)と、製品は ping への応答を行い、ARP コマンドで IP アドレスを設定することができます。ICMP が有効になっていないと、製品は ping への応答を行わず、ARP コマンドでも IP アドレスの設定ができなくなります。デフォルトでは有効に設定されています。
- ◆ Web ブラウザによる製品へのアクセスを許可する場合は、「Enable Browser」の項目にチェックを入れてください。Web ブラウザによるアクセスが無効である場合は、アプリケーション版の Windows クライアントまたは Java クライアントを使ってアクセスする必要があります。デフォルトでは有効に設定されています。
- ◆ 「Multiuser operation」の項目にチェックを入れると、最大 32 ユーザーが同時ログインし、リモートバスを共有することができます。この項目が無効になっていないと、製品がリモートバスを所有しているユーザー数(2 または 4)だけが同時にログインすることができます。デフォルトでは有効に設定されています。
- ◆ 「Force all to grayscale」の項目にチェックを入れると、製品に接続されている全デバイスのリモート画面はグレースケール表示になります。グレースケール表示にすることで、低帯域のネットワーク環境での I/O 転送速度を向上させることができます。
- ◆ 「Enable Device List」の項目にチェックを入れると、Windows クライアントのサーバーリストに製品が表示されるようになります。この項目が無効になっていないと、製品がオンラインになっていても、サーバーリストには名前が表示されなくなります。
- ◆ 「Enable Adapter ID」の項目にチェックを入れる(デフォルト)と、製品には各ポートで使用しているコンピューターモジュールの情報が格納されますので、コンピューターモジュールを別のポートに接続すると、そのコンピューターモジュールの情報は移動先のポートで確認することができます。(p.54 参照)

この機能が無効になっていると、コンピューターモジュールを別のポートに接続した場合には、そのモジュールのプロパティを移動先のポートで設定しなおす必要があります。(p.123 参照)

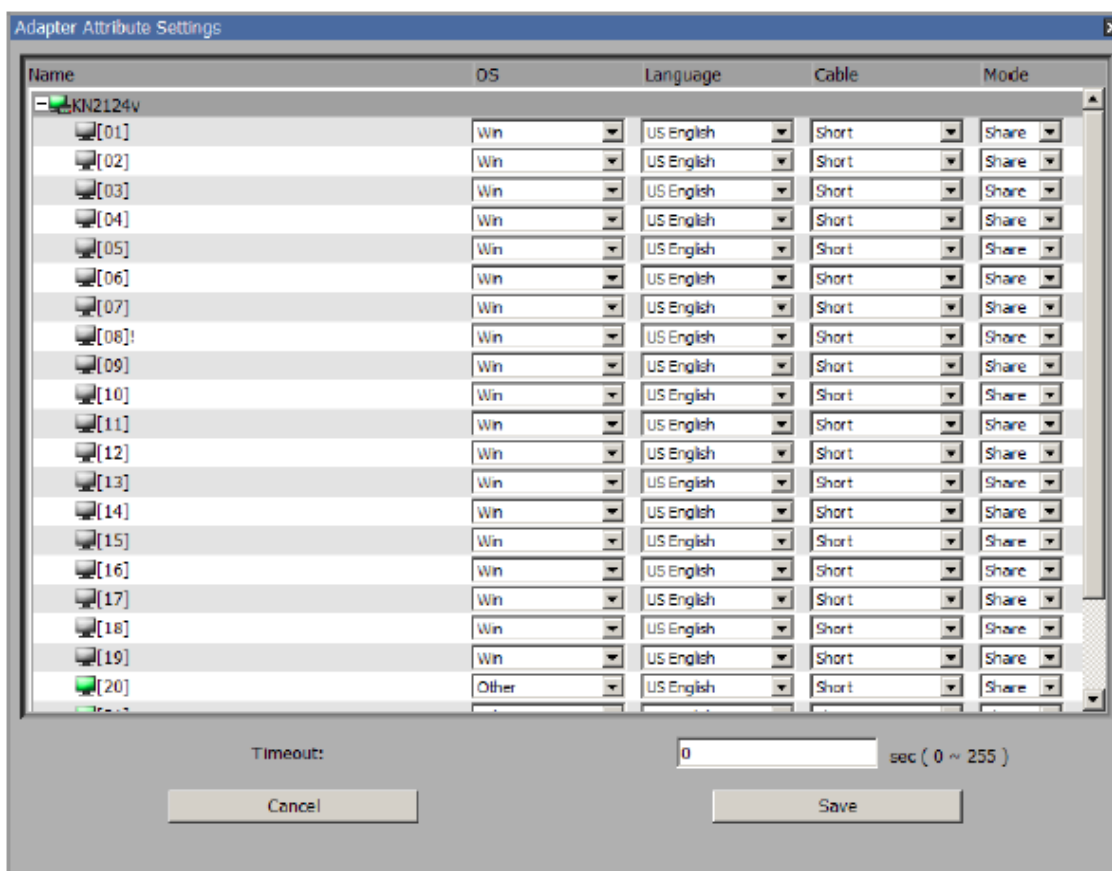
その他のメニュー

上記以外で、画面下部に表示されている各ボタンの機能は下表のとおりです。

項目	説明
Clear Port Names	ポート設定で割り当てられたポートネームを削除します。(p.126 参照)
Reset Default Values	「Customization」メニューにおけるポートネームを除いた全項目と「Network」メニューにおけるネットワーク転送速度を、工場出荷時におけるデフォルト設定の内容に戻します。
Adapter Attributes	このボタンをクリックすると、ダイアログが表示され、製品の各ポートに接続されているコンピューターモジュールの属性を定義することができます。詳細については次のセクションをご参照ください。

Adapter Attributes

「Adapter Attribute Settings」ダイアログは、以下のような外観です。



属性設定の詳細は、第 6 章「Port Access」に記載されているとおりです。必要であれば p.123 の「ポートプロパティ」をご参照ください。

各項目はドロップダウンリストからお使いの環境に適した値を選択してください。

注意: アプリケーション版のクライアントツールを使用している場合は、[Shift] キーや[Ctrl] キーを押しながらマウスをクリックすることで複数のポートの属性を同時に定義することができます。

値の設定が終わったら、「Save」ボタンをクリックし、内容を反映させて操作を終了してください。

Reset on Exit

ログアウトする際に、製品をリセットして新しい設定を適用する場合は、この項目にチェックを入れてください。リセット後は 30～60 秒程待機し、再ログインしてください。

なお、ネットワークの IP アドレスの設定変更を行うと、この項目が自動的に有効になり、ログアウトした際に製品がリセットされます。IP アドレスの設定変更後にこの項目からチェックを外してログアウトすると、新しく設定した IP アドレスは製品には適用されませんのでご注意ください。

注意: 新しい IP アドレスの内容は製品には適用されませんが、画面上には新しい IP アドレスが表示されたままになっています。この画面への次回アクセス時に、「Reset on Exit」の項目にチェックが入り、次に製品がリセットされた際に、変更されていないと思っていた IP アドレスの設定が保存されることになります。こういった問題を避けるためにも、画面に表示されている IP アドレスが保存したいものであるかを確認してください。

Date/Time メニュー

「Date/Time」メニューでは、製品内部の日付や時刻に関する項目の設定を行います。

The screenshot displays the Date/Time configuration interface, organized into four main sections:

- Time Zone:** A dropdown menu is set to "(GMT-12:00) Eniwetok Kwajalein". Below it is an unchecked checkbox for "Daylight Savings Time".
- Date:** A month/year selector shows "February" with a "< 2009 >" navigation link. Below this is a calendar for "February 2009". The calendar table is as follows:

Su	Mo	Tu	We	Th	Fr	Sa
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
- Time:** Digital time fields show "15 : 59 : 02". A "Set" button is located to the right.
- Network Time:**
 - An unchecked checkbox for "Enable auto adjustment".
 - Preferred time server:** A dropdown menu is set to "AU | ntp1.cs.mu.OZ.AU". Below it is an unchecked checkbox for "Preferred custom server IP" with a text field containing "0.0.0.0".
 - Alternate time server:** A dropdown menu is set to "AU | ntp1.cs.mu.OZ.AU". Below it is an unchecked checkbox for "Alternate custom server IP" with a text field containing "0.0.0.0".
 - At the bottom, it says "Adjust time every 1 days" with a text field containing "1". An "Adjust Time Now" button is to the right.

項目の設定は、以下の内容に従って行ってください。

Time Zone

- ◆ 製品がセットアップされている場所のタイムゾーンを設定する場合は、現在の設置場所から最も近いものを「Time Zone」のリストボックスの中から選択してください。
- ◆ 製品をお使いの地域でサマータイムが導入されている場合は、「Daylight Savings Time」の項目にチェックを入れてください。

Date

- ◆ 月をリストボックスから選択してください。
- ◆ 西暦の前にある「<」ボタンをクリックすると前年に、後ろにある「>」ボタンをクリックすると翌年に移動します。
- ◆ カレンダーから日を選択してください。
- ◆ 時刻は 24 時間制で「時 (2 桁) : 分 (2 桁) : 秒 (2 桁)」のフォーマットで入力してください。
- ◆ 「Set」ボタンをクリックして設定内容を保存してください。

Network Time

製品の時刻をネットワーク上のタイムサーバーと同期する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Enable auto adjustment」の項目にチェックを入れてください。
2. 時刻の同期に使用する優先タイムサーバーを「Preferred time server」のリストボックスから選択するか、「Preferred custom server IP」の項目にチェックを入れ、テキストボックスにタイムサーバーの IP アドレスを設定してください。
3. 代替タイムサーバーを設定する場合は、「Alternate time server」の項目にチェックを入れ、手順 2 と同じ要領で代替タイムサーバーの設定を行ってください。
4. 同期間隔の日数をテキストボックスに入力してください。
5. 今すぐ同期を行う場合は、「Adjust Time Now」ボタンをクリックしてください。

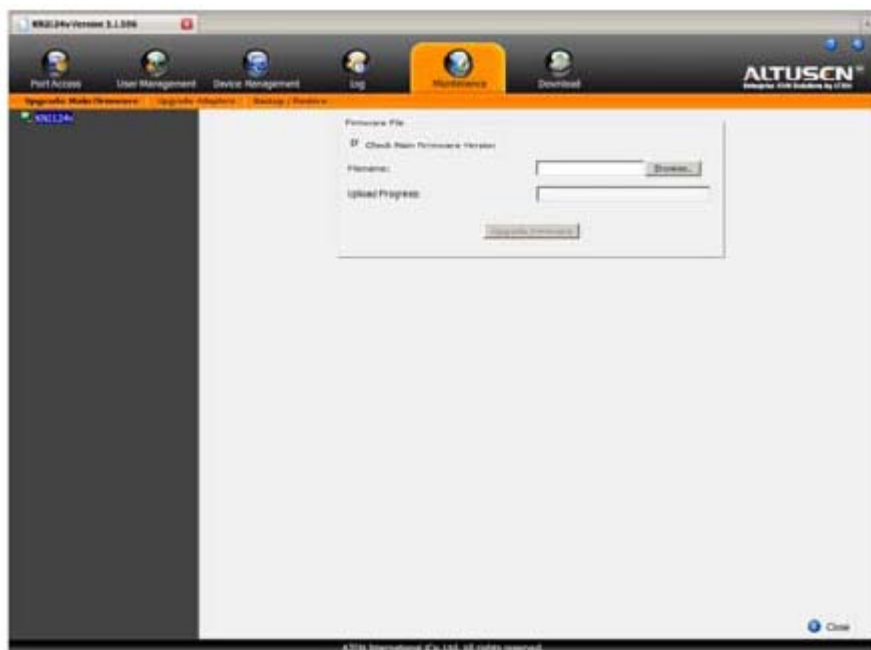
第9章

Maintenance

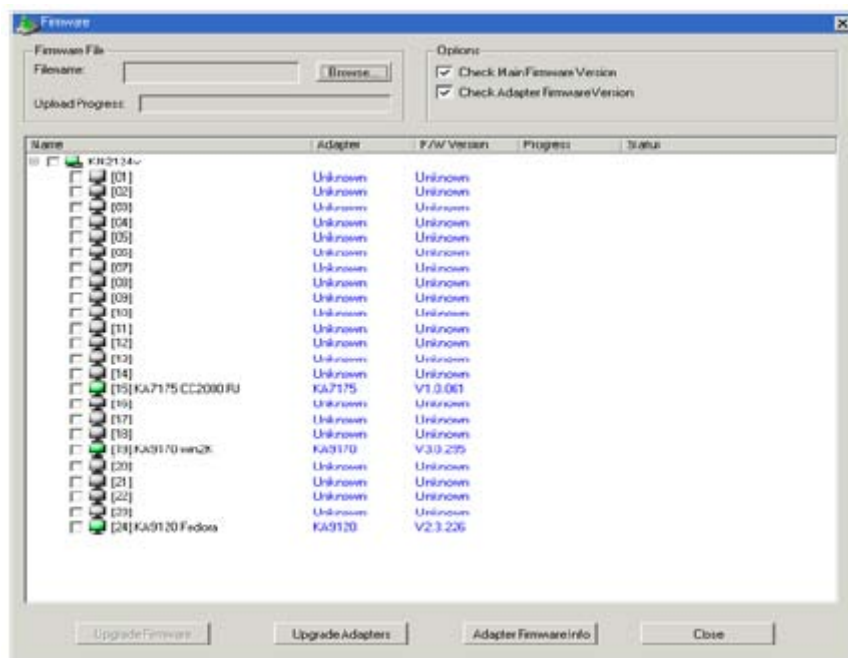
概要

「Maintenance」タブでは、製品のファームウェアおよびコンピューターモジュールのファームウェアのアップグレードを行います。

Web ブラウザインターフェース



GUI インターフェース



画面レイアウト

Web ブラウザ版、アプリケーション版の各クライアントツールの画面の構成における類似点と相違点は以下のとおりです。

- ◆ Web ブラウザ版では、製品ファームウェアのモジュールファームウェアでメニューバーが分かれています。
- ◆ Web ブラウザ版では、「Backup/Restore」のメニューがあります。
- ◆ アプリケーション版クライアントツールのバックアップ/リストア機能は、「Port Access」メニューからご利用いただけます。詳細については p.122 の「Export Configuration」、「Import Configuration」をご参照ください。

ダイアログは、「Firmware File」、「Options」、およびメインの大きいパネルから構成されています。これらについては以下のセクションで詳しく説明します。

ファームウェアファイル

新しいバージョンのファームウェアファイルがリリースされると、弊社 Web サイトに公開され、ダウンロードできるようになります。アップグレードを実行する際には、このセクションを使ってダウンロードファイルの保存場所を指定してください。

オプション

「Check Main Firmware Version」、または「Check Adapter Firmware Version」の項目にチェックを入れると、ファームウェアのアップグレードの際に、インストールしようとしているファームウェアファイルと、現在インストールされているファームウェアのバージョンの比較を行います。現在使用しているファームウェアのバージョンの方が新しい場合は、アップグレード作業を続行するかを問うメッセージが表示されます。

メインパネル

メインパネルにおける各項目の詳細は以下のとおりです。

項目	説明
Name	製品のポートが一覧で表示されます。モジュールのファームウェアをアップグレードする際には、対象となるポートにチェックを入れてください。
Adapter	ポートに接続されているコンピューターモジュールの種類が表示されます。
F/W Version	ポートに接続されているコンピューターモジュールが使用しているファームウェアのバージョンが表示されます。
Progress	ファームウェアのアップグレードを実行すると、処理の進捗状況が表示されます。
Status	アップグレードの実行後に処理結果が表示されます。
Upgrade Firmware	製品のメインファームウェアをアップグレードする場合は、このボタンをクリックしてください。ファームウェアアップグレードに関する詳細は p.199 をご参照ください。
Upgrade Adapters	選択したコンピューターモジュールのファームウェアをアップグレードする場合は、このボタンをクリックしてください。コンピューターモジュールのファームウェアアップグレードに関する詳細は p.200 をご参照ください。
Adapter Firmware Info	メインファームウェアファイルに含まれるコンピューターモジュールのファームウェアのバージョンを表示します。「F/W version」の列に表示されているバージョンが最新でない場合は、ファームウェアアップグレードが可能です。詳細については p.200 をご参照ください。

メインファームウェアのアップグレード

以下はメインファームウェアのアップグレードの方法です。アップグレードを実行する場合は、以下の手順で作業を進めてください。

1. 弊社 Web サイトから本製品のファームウェアファイルをダウンロードし、お使いのコンピュータのハードディスクの適当な場所に保存してください。
2. 「Maintenance」タブの「Firmware File」セクションで「Browse」ボタンをクリックし、手順 1 で保存したファイルをダイアログから選択してください。
3. 「Upgrade Firmware」ボタンをクリックして、アップグレードを開始してください。
 - ◆ 「Check Main Firmware Version」の項目にチェックが入っていると、現在使用しているファームウェアとインストールしようとしているファームウェアファイルとの間でバージョンの比較を行います。2 つのバージョンが同じ、もしくは現在使用しているファームウェアのバージョンが同じである場合、メッセージが表示され、アップグレードを続行するか中止するかを選択を促されます。
 - ◆ 「Check Main Firmware Version」の項目にチェックが入っていない場合は、バージョンの比較を行うことなくファームウェアのアップグレードを行います。
 - ◆ アップグレードの進捗状況は、「Progress」列で確認することができます。
 - ◆ 処理が完了すると、処理結果(成功または失敗)が「Status」列に表示されます。
 - ◆ アップグレードに成功すると、製品がリセットされます。
4. 製品に再度ログインし、ファームウェアのバージョン情報が更新されていることを確認してください。

注意: ファームウェアのアップグレードに失敗した場合は、p.202 の「ファームウェアアップグレードのリカバリー」をご参照の上、リカバリーを行ってください。

コンピューターモジュールのファームウェアアップグレード

以下は選択されたコンピューターモジュールのファームウェアのアップグレード方法です。アップグレードを実行する場合は、以下の手順で作業を進めてください。

1. 「Adapter Firmware Info」ボタンをクリックし、メインファームウェアによって保存されているコンピューターモジュールのファームウェアバージョンを確認してください。
2. コンピューターモジュールのファームウェア情報と、メインパネルの「F/W Version」列に表示されているバージョンを比較して、メインファームウェアに保存されているバージョンがコンピューターモジュールのバージョンよりも新しいことを確認してください。メインファームウェアに保存されているバージョンの方が新しい場合は、アップグレードを実行することができます。
3. メインパネルの「Name」列で、コンピューターモジュールのアップグレードを行うポートにチェックを入れてください。
4. 「Upgrade Adapters」ボタンをクリックして、アップグレードを開始してください。
 - ◆ 「Check Adapter Firmware Version」の項目にチェックが入っていると、現在使用しているファームウェアとインストールしようとしているファームウェアファイルとの間でバージョンの比較を行います。2つのバージョンが同じ、もしくは現在使用しているファームウェアのバージョンが同じである場合、コンピューターモジュールの「Progress」列にメッセージが表示され、ファームウェアの更新不要のためアップグレードを中断するという内容のメッセージが表示されます。
 - ◆ 「Check Adapter Firmware Version」の項目にチェックが入っていない場合は、バージョンの比較を行うことなくファームウェアのアップグレードを行います。
 - ◆ アップグレードの進捗状況は、「Progress」列で確認することができます。
 - ◆ アップグレードに成功すると、新しく適用されたファームウェアのバージョンが表示されます。

-
- 注意:**
1. コンピューターモジュールのファームウェアバージョンが最新でない場合でも、製品に接続してお使いいただくことは可能ですが、最適な互換性を確保するためにお使いのコンピューターモジュールのファームウェアを製品にインストールされたバージョンに合わせてアップグレードされることを推奨します。
 2. コンピューターモジュールを追加した際にアップグレードを実行し、最新バージョンのファームウェアで動作していることを確認することができます。
 3. ファームウェアのアップグレードに失敗した際のリカバリーの方法については p.202「ファームウェアアップグレードのリカバリー」をご参照ください。
-

ファームウェアアップグレードのリカバリー

製品のメインのファームウェアのアップグレードに失敗し、製品が使用できなくなってしまった場合は、以下のリカバリー方法で問題が解決する場合があります。

1. 製品の電源を切ってください。
2. リセットスイッチ (p.33 参照) を長押ししてください。
3. リセットスイッチを押したまま、製品に電源を入れてください。

上記の操作によって、製品のメインファームウェアは工場出荷時のバージョンに戻ります。製品が操作可能な状態になったら、再度ファームウェアのアップグレードを実行してください。

コンピューターモジュールのファームウェア

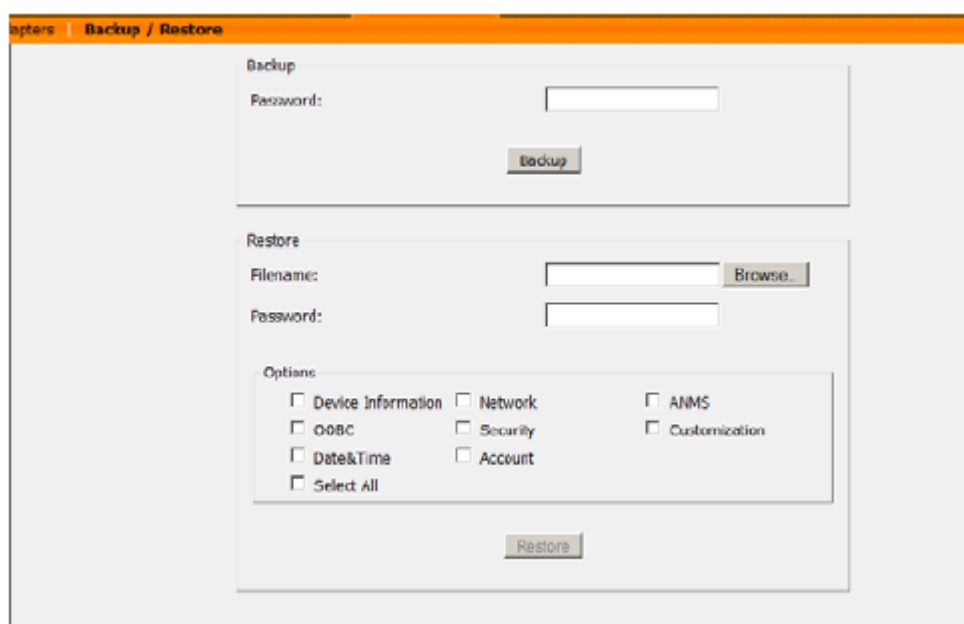
アップグレードリカバリー

コンピューターモジュールのファームウェアのアップグレードに失敗し、そのモジュールが使用できなくなってしまった場合は、以下のリカバリー方法で問題が解決する場合があります。

1. コンピューターモジュールをコンピューターから外してください。
2. RJ-45 ポートの隣にあるファームウェアアップグレードリカバリースwitchを「RECOVER」の位置にスライドさせてください。
3. コンピューターモジュールをコンピューターに接続し直してください。
4. コンピューターモジュールのファームウェアアップグレードの手順を繰り返してください。
5. コンピューターモジュールのアップグレードに成功したら、コンピューターからコンピューターモジュールを外し、ファームウェアアップグレードリカバリースwitchを「NORMAL」の位置に戻してから、コンピューターモジュールを接続し直してください。

Backup/Restore メニュー

ブラウザのメニューバーから「Backup/Restore」を選択すると、製品の設定とユーザープロファイルの情報のバックアップを作成することができます。



バックアップ

デバイスの設定のバックアップを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Password」の項目に、ファイルのリストアに必要なパスワードを入力してください。

注意： このパスワードは忘れないように記録しておいてください。

2. 「Backup」ボタンをクリックしてください。
3. ブラウザからファイルの保存方法を問うダイアログが表示された場合は、「保存」を選択し、お使いのコンピューターのドライブの適当な場所に保存してください。

リストア

バックアップの内容をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Browse」ボタンをクリックし、バックアップファイルが保存されているフォルダーを選択してください。
2. 「Password」欄に、そのファイルを保存した際に入力したパスワードと同じ文字列を入力してください。

注意: デフォルトで設定されたファイル名を変更しても、新しい名前でもそのままお使いいただけますので、元の名前に変更する必要はありません。

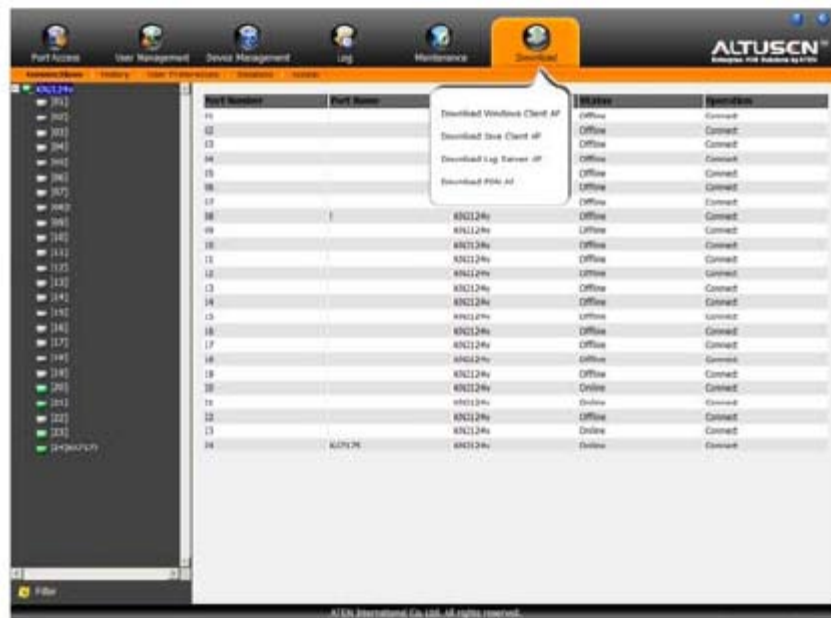
3. ファイルに保存された内容のうち、リストアしたい項目にチェックを入れてください。
4. 「Restore」ボタンをクリックしてください。
ファイルがリストアされると、処理に成功したという内容のメッセージが表示されます。

第 10 章

Download

概要

「Download」タブでは、アプリケーション版の Windows クライアント、Java クライアント、ログサーバー、電源管理デバイス (Power Over the NET™) の各ツールをダウンロードすることができます。このメニューを選択すると、以下のようにプログラムの一覧が表示されます。



注意: この一覧に表示されるプログラムは、ログインしているユーザーの権限によって変わります。

ダウンロードするツールをクリックし、お使いのコンピューターのハードディスクの適切なフォルダーに保存し、そこから起動してください。

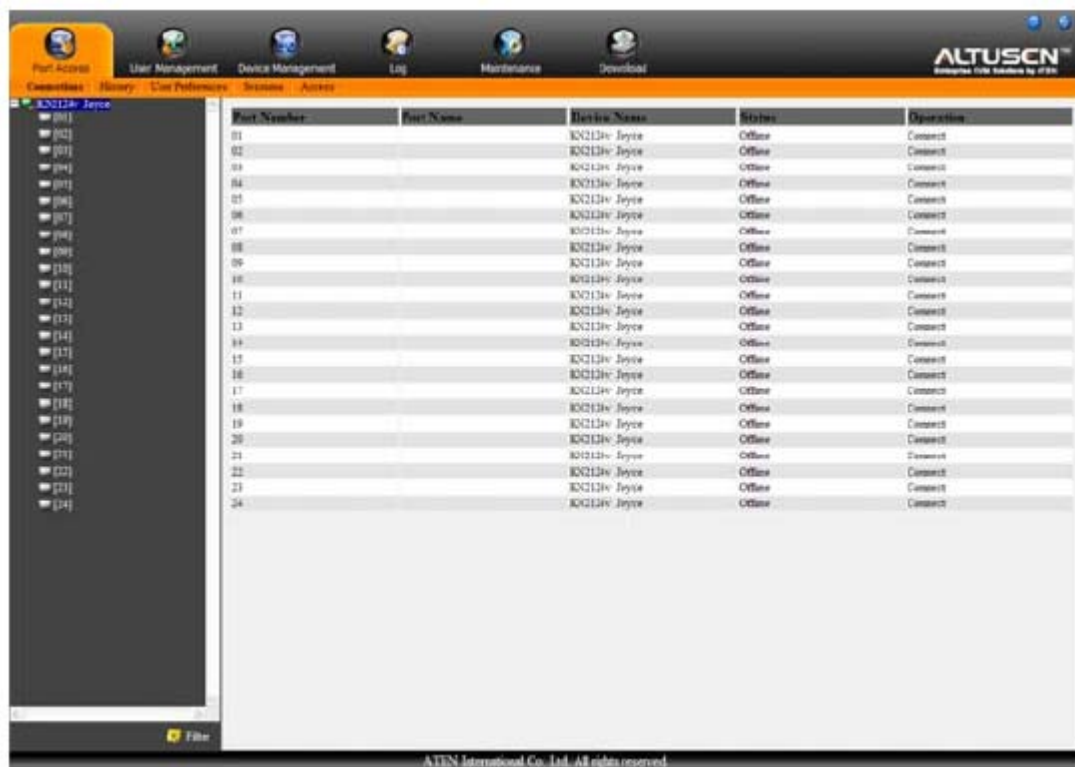
- ◆ アプリケーション版の Windows クライアントや Java クライアントは、Web ブラウザのメニューと同じ方法で操作します。ログイン方法の詳細については第 4 章を、ポートアクセスについては第 6 章を、また、ポート操作については第 11 章をご参照ください。
- ◆ ログサーバーについては第 12 章をご参照ください。
- ◆ 製品に接続されている電源管理デバイスへのアクセス権限がある場合は、PON ツールを使用することができます。

注意: PON ツールは現在のセッションでのみ使用が可能です。ログアウトするとプログラムは停止します。ログアウト後に再度このツールを使用する場合は、その都度ツールをダウンロードし、起動してください。

第11章 ポート操作

概要

ログイン(p.63 参照)に成功すると、製品のメイン画面は「Port Access」タブが選択された状態で表示されます。



- 注意:
1. アプリケーション版の Windows クライアントと Java クライアントでは、画面の上部中央または下部中央にマウスカースルを移動すると、コントロールパネルが表示されます。Web ブラウザ版のコントロールパネルはポートを切り替えた後にしか表示されません。コントロールパネルに関する詳細は p.80 をご参照ください。
 2. 「Port Access」タブに関する詳細は第 6 章「Port Access」をご参照ください。

ユーザーがアクセスできるポートはすべて、ページの左側にあるポート選択サイドバーに一覧表示されます。ポートに接続されているデバイスにアクセスする場合は、そのポートのアイコンをダブルクリックしてください。

ポートを切り替えると、リモートのデスクトップ画面がモニターに表示され、キーボードやマウスで操作できるようになります。



ポートツールバー

製品は、選択中のポートからポート操作ができるツールバー機能を提供しています。ツールバーを起動する場合は、OSD ホットキー([Scroll Lock]キーまたは[Ctrl]キー)を2回押してください。画面左上に以下のようなツールバーが表示されます。



「ID Display」(p.137 参照)の項目で選択された値に応じて、ポートナンバーやポートネームがツールバーの右に表示されます。ツールバー上の各アイコンの内容については p.210 の表をご参照ください。

注意: ツールバーの透明度は設定で変更することができます。(p.94 参照)

ツールバーが表示されると、マウスからの入力ツールバー上でのみ有効となり、キーボードからの入力はポートに接続されたコンピューター上で無効になります。そのコンピューターでの操作を実行する場合は、「×」のアイコンをクリックしてツールバーを閉じるか、「Port Access」タブを呼び出してポートを選択し直してください。

ツールバーアイコン

ツールバーにおける各アイコンの詳細は下表のとおりです。

アイコン	機能
	「Port Access」タブを呼び出すことなく、現在の機器構成における、最初にアクセス可能なポートに移動します。
	「Port Access」タブを呼び出すことなく、一つ前のアクセス可能なポートに移動します。
	オートスキャンモードを開始します。製品は、オートスキャンの対象となるポートをポート選択とフィルター機能 (p.128 参照) の条件に従って自動的に切り替えます。これによって、コンピューターを手動で切り替えることなく継続してポートの状態をモニタリングすることができます。
	「Port Access」タブを呼び出すことなく、次のアクセス可能なポートに移動します。
	「Port Access」タブを呼び出すことなく、現在の機器構成における、最後にアクセス可能なポートに移動します。
	「Port Access」タブを呼び出します。
	ツールバーを終了します。
	パネルアレイモードを起動します (p.214 参照)。 注意: ローカルコンソールにはこの機能はありません。ローカルコンソールのアイコンと機能に関しては次の行をご参照ください。
	このアイコンはローカルコンソールで操作したときにのみ表示されます。このボタンをクリックすることによって、製品とコンピューターの間で使用されているケーブルの長さに応じて、コンピューターモジュールの補正モードのを「Short」、「Medium」、「Long」のいずれかに切り替えて設定することができます。アイコンの矢印の長さは選択された値に応じて変わります。

ツールバーホットキーによるポート切替

ツールバーが表示されると、ホットキーを使ってキーボードから直接ポートを切り替えることができます。本製品のホットキーには以下の特長があります。

- ◆ オートスキャン
- ◆ スキップモードによるポート切替

オートスキャンのホットキーは[A]キーおよび [P]キーを、また、スキップモードのホットキーはカーソルキーをそれぞれ使用します。

-
- 注意:**
1. ホットキーを実行するには、ツールバーを表示しておく必要があります。(p.208 参照)
 2. ホットキーとして割り当てられているキー(例:[A]キー、[P]キー等)をホットキー以外の目的で使用する場合は、ツールバーを閉じてください。
 3. オートスキャンモードの実行が複数ユーザーの操作に与える影響については p.216 をご参照ください。
-

オートスキャン

スキャン機能によって、現在ログインしているユーザーがアクセスできる全ポートを、一定の時間間隔で自動的に切り替えて表示することができます。また、ユーザーはサイドバーのツリーでフィルター機能を利用することでスキャン対象となるポートの数を制限することもできます。スキャン機能に関する詳細は p.127 を、フィルター機能に関する詳細は p.128 をご参照ください。

スキャンインターバル

オートスキャンで各ポートを表示する時間は「Scan Duration」の項目で設定することができます。(p.138 参照)

オートスキャンの起動

オートスキャンを起動する場合は、ツールバーを表示したまま、[A]キーを押してください。オートスキャン機能は、現在の機器構成における最初のポートから順にポート切替を行います。ポート ID の前に表示された S は、そのポートがオートスキャンモードでアクセスされていることを表しています。

オートスキャンの一時停止

オートスキャンモードの実行中に[P]キーを押すと、特定のコンピューターを表示するためにスキャンを一時停止することができます。オートスキャンモードが一時停止されている間は、ポートIDの前に表示されている[S]マークが点滅します。

スキャンを停止して特定のコンピューターの画面を一旦表示させたい場合、オートスキャンモードを終了してしまうと次のスキャンの際には最初のポートからスキャンし直すのに対し、一時停止機能を利用した場合は次のスキャンの際にはそのポートからスキャンを再開しますので、後者の方法の方が便利です。

オートスキャンの一時停止後、スキャンを再開したい場合は、[Esc]キーとスペースキー以外の任意のキーを押してください。スキャンを中断したポートからスキャンを再開します。

オートスキャンの終了

オートスキャンモードの実行中は、通常のキーボードの機能はサスペンド状態になります。キーボードを通常の方法で使いたい場合は、オートスキャンモードを終了する必要があります。オートスキャンモードを終了する場合は[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。オートスキャンモードを終了するとオートスキャンは停止します。

スキップモード

スキップモードでは、コンピューターを手動で切り替えて表示することができます。オートスキャンモードでは一定のインターバルで自動的にポートを切り替えるのに対し、スキップモードでは時間の制限を受けることなく、特定のポートを表示させておくことができます。スキップモードで使用できるホットキーは上下左右の4種類のカーソルキーです。各キーの機能については下表のとおりです。

カーソルキー	動作
←	現在のポートから、一つ前のアクセス可能ポートに移動します。
→	現在のポートから、次のアクセス可能ポートに移動します。
↑	現在のポートから、現在の機器構成で最初にアクセス可能なポートに移動します。
↓	現在のポートから、現在の機器構成で最後にアクセス可能なポートに移動します。

「Port Access」タブの再呼び出し

ツールバーを終了し、「Port Access」タブに再度アクセスする場合は、以下のいずれかの方法で操作してください。

- ◆ OSD ホットキーを一度押す。
- ◆ ツールバーから「Port Access」タブを呼び出すアイコン(p.210 参照)をクリックする。

ツールバーが終了すると、「Port Access」タブが表示されます。

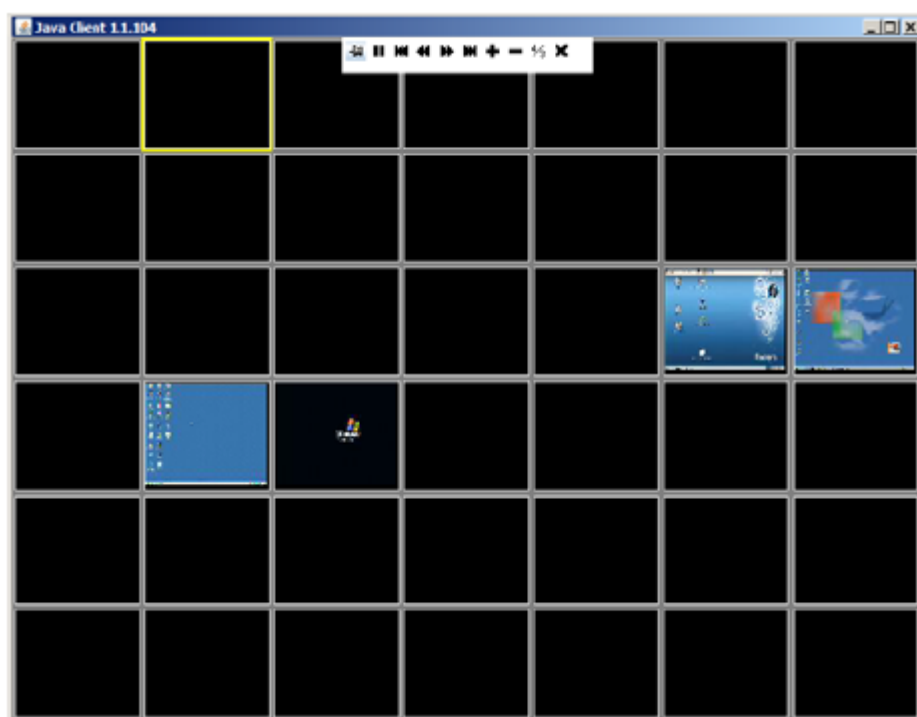
OSD ホットキー一覧表

下表は、ポートアクセス後の OSD ホットキーの動作についてまとめたものです。OSD ホットキーの設定方法については p.137「OSD Hotkey」をご参照ください。

目的		操作
ツールバーを開く		OSD ホットキーを 2 回押す。
「Port Access」タブを開く	ツールバーが表示されている場合	OSD ホットキーを 1 回押す。
	ツールバーが表示されていない場合	OSD ホットキーを 3 回押す。

パネルアレイモード

ツールバーのパネルアイコンをクリックすると、パネルアレイモードを起動します。このモードでは、画面が最大 42 分割され、製品に接続された各コンピュータの画面が一度に表示されます。



- ◆ 各パネルは、製品の各ポートに接続されているコンピュータの画面を表示します。左上から右に向かって、ポート 1、ポート 2…という順序で表示されます。
- ◆ 画面に表示されるパネルの数は、パネルアレイツールバーの「Show More Ports」をクリックして増やしたり、「Show Fewer Ports」をクリックして減らしたりすることができます。(p.215 参照)
- ◆ パネルアレイモードが起動すると、ポート選択とフィルター機能(p.128 参照)でオートスキャンの対象にされたポートをスキャンします。現在スキャン中のポートを表示しているパネルの枠は色が強調表示されます。
- ◆ 画面に表示されるのは、ユーザーがアクセスできるポートのみです。アクセスできないポートのパネルは空白で表示されます。
- ◆ パネルにマウスカースールを移動させると、そのポートに関する情報(ポートネーム、オンライン状況、ポートアクセスの状況、解像度)が表示されます。
- ◆ パネルをマウスでクリックすると、「Port Access」タブを使ってポート切替を行ったときと同様、そのポートに接続されているコンピュータにアクセスすることができます。

パネルアレイツールバー

パネルアレイツールバー(Web ブラウザ版、アプリケーション版の各 Java クライアントの画面上部中央へのカーソル移動で表示)を使うことによって、パネルアレイモードの機能を簡単に実行することができます。このツールバーは通常画面上部中央に表示されますが、ドラッグして画面の好きな場所に移動させることもできます。また、アイコンの上にマウスを移動させると、そのアイコンの機能の概要がツールチップで表示されます。各アイコンの機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	ツールバーを常に手前に表示します。
	現在表示中のパネルでスキャンを一時停止します。
	4 つ前のパネルに移動します。
	1 つ前のパネルに移動します。
	次のパネルに移動します。
	4 つ後ろのパネルに移動します。
	Show More Ports : 画面に表示するパネルの数を増やします。
	Show Fewer Ports : 画面に表示するパネルの数を減らします。
	アスペクト比 4:3 に切り替えます。
	パネルアレイモードを終了します。

注意: オートスキャンモードの実行が複数ユーザーの操作に与える影響については p.216 をご参照ください。

マルチユーザーによる操作

本製品はマルチユーザーによる操作に対応しています。複数のユーザーがクライアントコンピューターから同時にアクセスした場合における優先順位に関するルールは下表のとおりです。

操作	ルール
通常操作時	各バスは独立しています。ユーザーをバスに割り当てる方法については次のセクション「ユーザーとバス」をご参照ください。各ユーザーは、別々の GUI メイン画面を開くことができます。
オートスキャンモード実行中	あるユーザーがオートスキャンモード (p.211 参照) を起動し、別のユーザーがログオンして同じバスに割り当てられると、そのバスに割り当てられたユーザーは、最初は GUI のメイン画面が表示されますが、ポートにアクセスすると同時に自動的にオートスキャンモードに切り替わります。これは、最初にオートスキャンモードを起動したユーザーと同じバスを使用していることに起因します。 同じバスを使用しているユーザーであれば、GUI メイン画面を呼び出すことでオートスキャンモードを終了することができます。このとき、オートスキャンモードは停止し、同一バスにいる他のユーザーはオートスキャンモードが停止した際にアクセスしていたポートに切り替わります。
パネルアレイモード実行中	◆ あるユーザーがパネルアレイモード (p.214 参照) を起動し、別のユーザーがログオンして同じバスに割り当てられると、そのバスに割り当てられたユーザーは、最初は GUI のメイン画面が表示されますが、ポートにアクセスすると同時に自動的にパネルアレイモードに切り替わります。これは、最初にパネルアレイモードを起動したユーザーと同じバスを使用していることに起因します。 ◆ パネルアレイモードは、そのモードを最初に起動したユーザーが停止するまで継続しますが、アドミニストレーターはパネルアレイモードの操作を優先的に行うことができます。 ◆ パネルアレイモードを実行したユーザーだけがスキップモード (p.212 参照) を実行することができます。

(表は次のページに続きます)

操作	ルール
パネルアレイモード実行中 (続き)	◆ パネルアレイモードを実行したユーザーのみポートを切り替えることができます。その他のユーザーは、パネルアレイモードの実行ユーザーが選択したポートに自動的に切り替わりますが、そのポートへのアクセス権限のないユーザーはポートを参照することができません。 ◆ 各ユーザーはパネルアレイモードで参照するパネルの数を増減させることができますが、パネルの数を減らすと画質が劣る場合があります。

ユーザーとバス

- ◆ KN2132 および KN2124v/KN2140v でサポートされるリモートバスは 2 です。奇数番目にログインしたユーザーはバス 1 に、偶数番目にログインしたユーザーはバス 2 にそれぞれ割り当てられます。
- ◆ KN4116/KN4132 および KN4124v/KN4140v でサポートされるリモートバスは 4 です。1、5、9…番目にログインしたユーザーはバス 1 に、2、6、10…番目にログインしたユーザーはバス 2 に、3、7、11…番目にログインしたユーザーはバス 3 に、4、8、12…番目にログインしたユーザーはバス 4 にそれぞれ割り当てられます。
- ◆ 本製品は個別バス切替に対応しています。個別バス切替機能を使うと、あるユーザーが別のバスのユーザーが使用しているポートに切り替えた場合、ポートの切替を行ったユーザーだけが新しいポートに移動し、新しいバスに移動します。他のユーザーはポート切替の影響を受けることなく、そのままのバスでポートを操作することができます。

注意: 同じバスのユーザーがオートスキャンモードまたはパネルアレイモードを実行している場合は、個別バス切替機能はご利用いただけません。

- ◆ パネルアレイモードを実行するユーザーは、画面の分割数を 4 以上に設定することを推奨します。これより小さい値に設定すると、他のユーザーの画面では表示されないおそれがあります。

第 12 章

ログサーバー

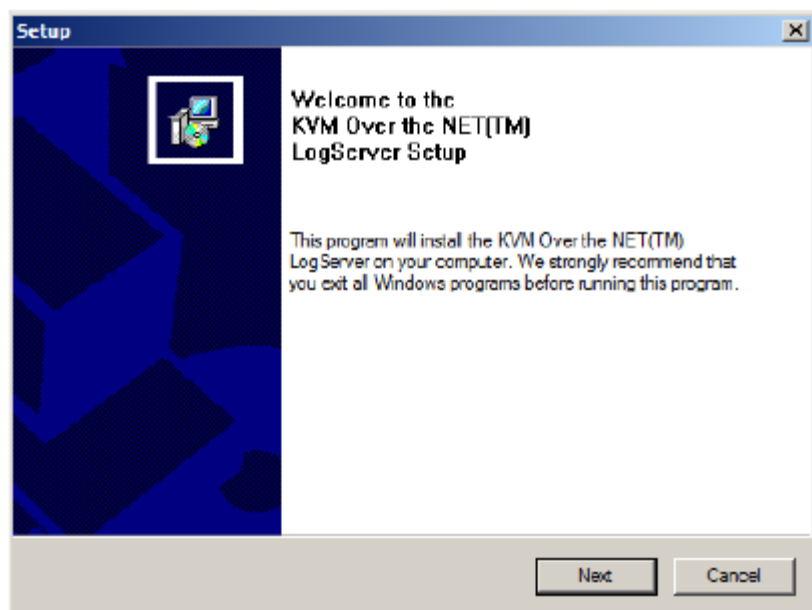
Windows ベースのログサーバーは、製品内部で発生したイベントを記録し、検索可能なデータベースにデータを書き込む管理者向けのツールです。本章ではログサーバーのインストール方法および設定方法について説明します。

インストール

1. ログサーバーとして使用するコンピュータで、Web ブラウザを使って製品にログインしてください。(p.64 参照)
2. 画面左側にある「Log Server」ボタンをクリックして、ログサーバーのインストールプログラムを実行してください。
3. セキュリティに関する警告のメッセージが表示した場合は、そのメッセージを無視して「実行」または「開く」をクリックしてください。

注意: Web ブラウザから直接ファイルを実行できない場合は、そのファイルを一旦ハードディスクに保存してから実行してください。

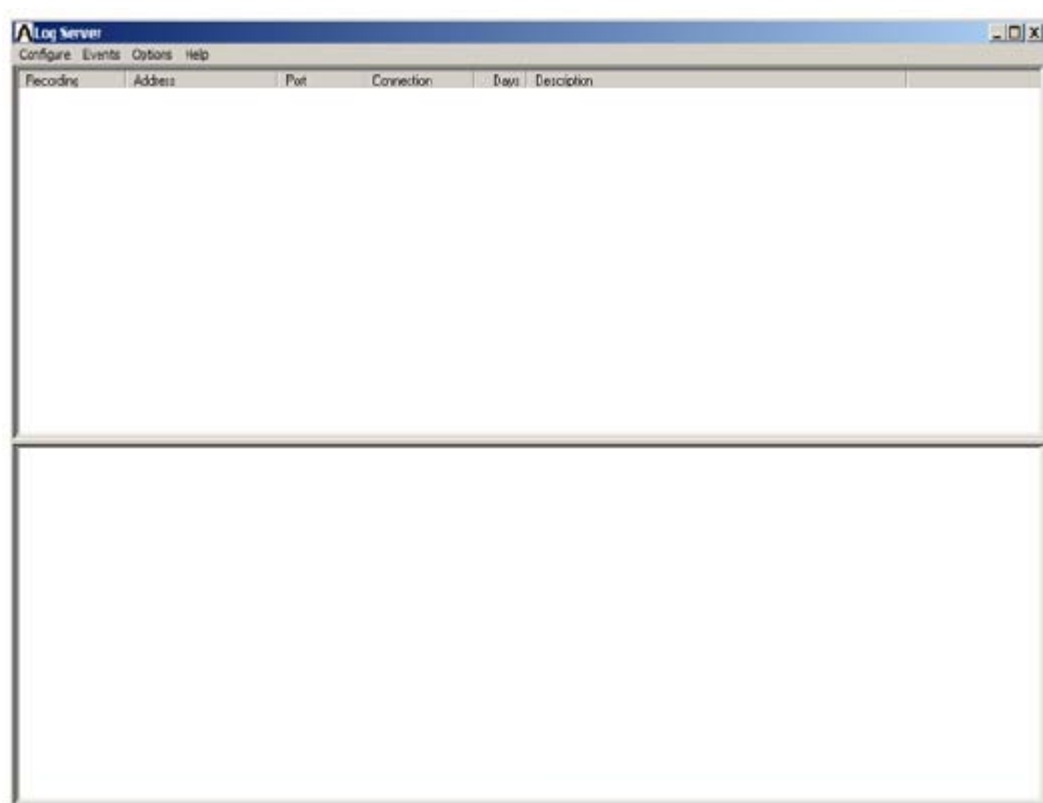
以下のようなログサーバーのインストーラーの画面が表示されます。



4. 「Next」ボタンをクリックし、インストーラーの画面の指示に従ってインストールしてください。インストールが完了すると、ログサーバーのアイコンがお使いのコンピューターのデスクトップ上に作成されます。

ログサーバーの起動

ログサーバーを起動する場合は、ログサーバーのアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインからログサーバーのフルパスを入力して実行してください。ログサーバーを起動すると以下のような画面が表示されます。



注意: ログサーバーとして使用するコンピューターの MAC アドレスは、あらかじめ製品の「Device Management」タブの「ANMS」メニューで設定しておく必要があります。(p.176 参照)

この画面は以下の 3 つの部分から構成されています。

- ◆ 上部のメニューバー
- ◆ 中央の製品一覧表示パネル(p.227 参照)
- ◆ 下部のイベントリストパネル

これらは以下のセクションで詳しく説明していきます。

メニューバー

メニューバーは以下の 4 項目から構成されています。

- ◆ Configure
- ◆ Events
- ◆ Options
- ◆ Help

これらは以下のセクションで詳しく説明していきます。

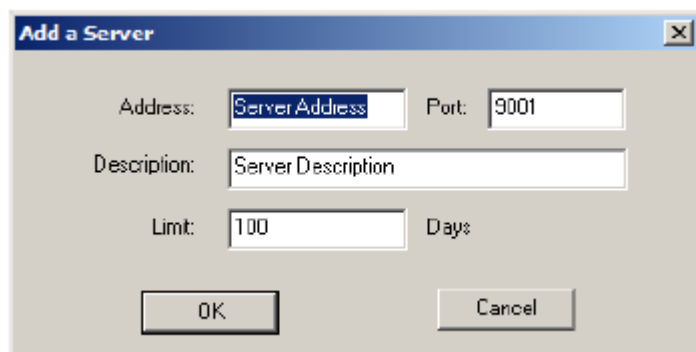
注意: メニューバーが無効になっているように見える場合は、一覧のウィンドウをクリックして手前に表示することで有効にしてください。

Configure

「Configure」メニューは、「Add」、「Edit」、「Delete」の各サブメニューから構成されています。これらのサブメニューによって、リストへの新規ユニットの追加、既にな一覧に追加されているユニット情報の編集、リストからのユニットの削除を行うことができます。

- ◆ 一覧にユニットを追加する場合は「Add」をクリックしてください。
- ◆ 一覧表示されたユニットを編集する場合は「Edit」を、また、削除する場合は「Delete」をそれぞれクリックしてください。

「Add」または「Edit」を選択すると、以下のようなダイアログが表示されます。



The image shows a Windows-style dialog box titled "Add a Server". It has a standard title bar with a close button (X). The dialog contains the following fields and controls:

- Address:** A text box containing "ServerAddress".
- Port:** A text box containing "9001".
- Description:** A larger text box containing "Server Description".
- Limit:** A text box containing "100", followed by the label "Days".
- Buttons:** "OK" and "Cancel" buttons at the bottom.

ダイアログ内における各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Address	ユニットの IP アドレスまたは DNS 名(ネットワーク管理者によって DNS 名が設定されている場合)を入力します。
Port	ログサーバーに割り当てられたポートナンバーを入力します。(p.176 参照)
Description	ユニットに補足説明を設定したい場合は、ここに入力します。
Limit	ログサーバー内にイベントを保管する日数を設定します。ここで設定された日数が経過すると、メンテナンス機能で削除することができます。(p.225 参照)

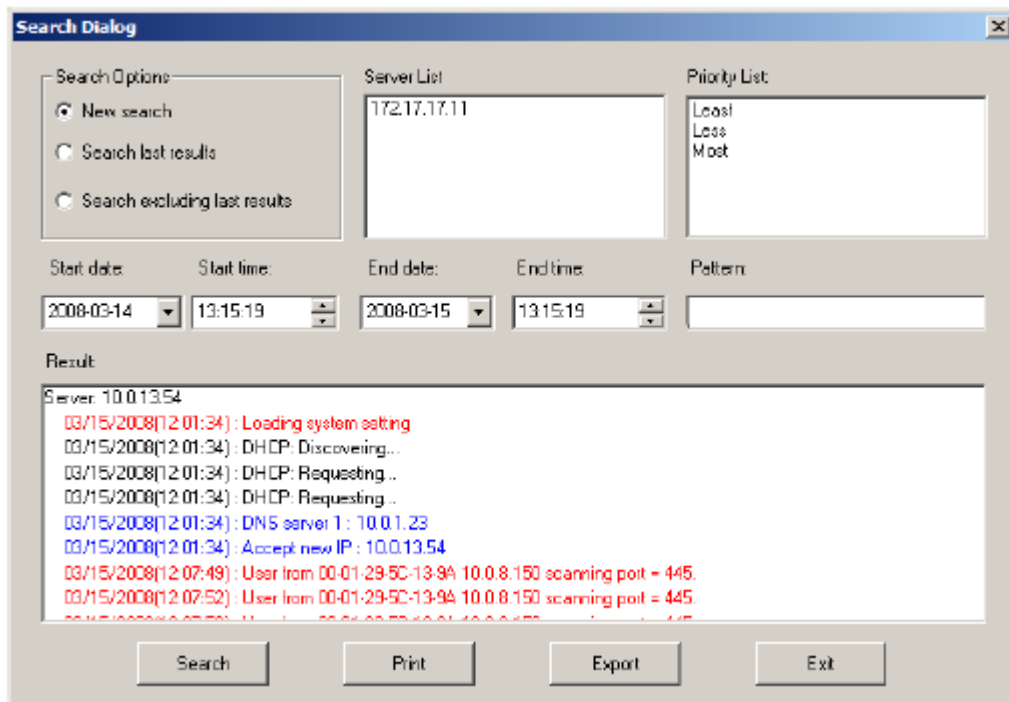
項目の入力または編集が終わった場合は、「OK」ボタンをクリックして操作を終了してください。

Events

「Events」メニューは、「Search」、「Maintenance」の各メニューから構成されています。

Search

「Search」メニューでは、特定の文字列を含むイベントを検索することができます。このメニューを開くと、以下のような画面が表示されます。



画面の各項目の詳細は下表のとおりです。

項目		説明
Search Options		検索範囲のオプションを選択するラジオボタンを提供します。
	New Search	この項目が選択されると、データベース内の全イベントを対象に検索します。
	Search last results	前回の検索結果を対象に二次検索を行います。
	Search excluding last results	前回の検索結果以外を対象に二次検索を行います。
Server List		製品は IP アドレスに従って一覧表示されます。検索の対象となるユニットをこの一覧から選択してください。ここでは複数のユニットを選択することも可能です。ユニットが選択されていない場合は、全ユニットを対象に検索を行います。

(表は次のページに続きます)

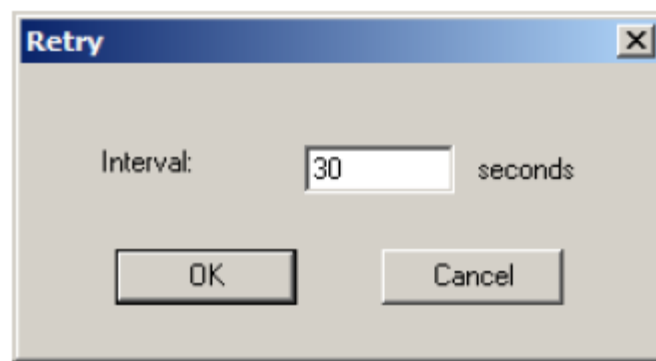
項目	説明
Priority	表示する検索結果の詳細の度合いを設定します。1 を設定すると概要を、3 を設定すると詳細をそれぞれ表示します。
Start Date	検索の対象となる期間の開始日(日付)を設定します。YYYY-MM-DD のフォーマットで入力してください。
Start Time	検索の対象となる期間の開始日(時刻)を設定します。HH:MM:SS のフォーマットで入力してください。
End Date	検索の対象となる期間の終了日(日付)を設定します。YYYY-MM-DD のフォーマットで入力してください。
End Time	検索の対象となる期間の終了日(時刻)を設定します。HH:MM:SS のフォーマットで入力してください。
Pattern	検索したい文字列を指定します。ワイルドカード(%)を使った検索にも対応しています。例えば、「h%ds」という文字列を検索すると、「hands」と「hoods」の 2 件がヒットします。
Results	条件に合致するイベントが一覧表示されます。
Search	検索を開始します。
Print	検索結果を印刷します。
Export	検索結果をファイルに保存します。
Exit	ログサーバーを終了します。

Maintenance

このメニューから、管理者は有効期限内のレコードの削除等のデータベースのメンテナンスを手動で行うことができます。

Options

「Network Retry」の項目では、接続に失敗した場合にログサーバーが再接続を待機しなければならない時間(秒)を設定することができます。この項目をクリックすると、以下のようなダイアログが表示されます。



秒数を入力したら、「OK」ボタンをクリックしてダイアログを終了してください。

Help

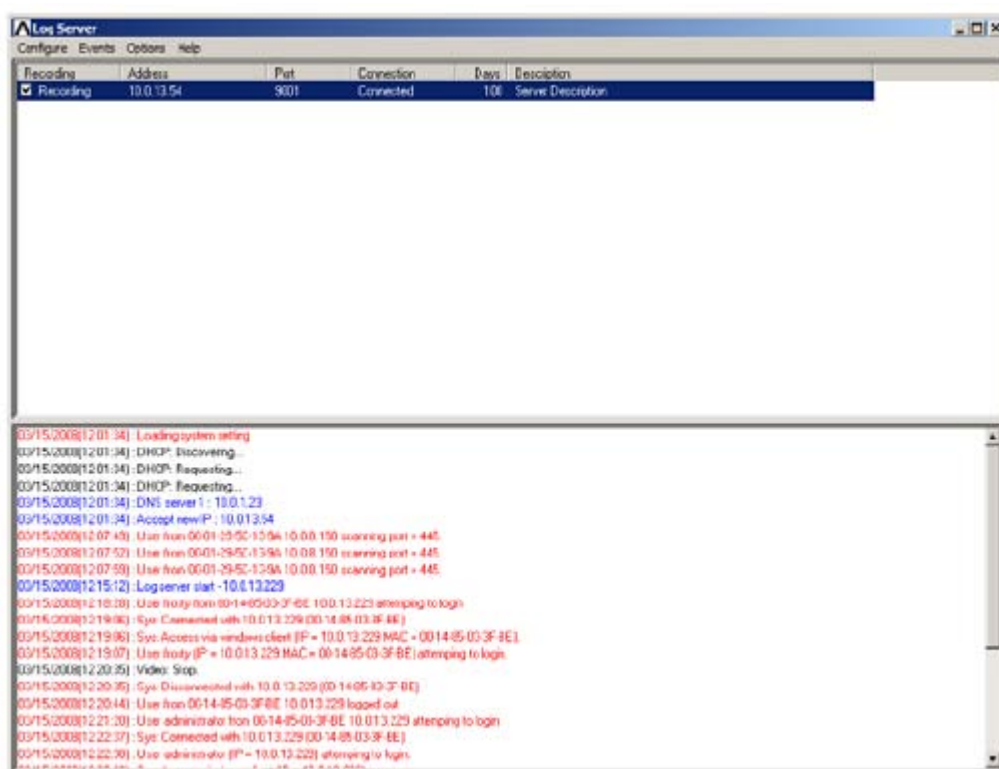
Windows のオンラインヘルプファイルを呼び出す場合は、「Help」メニューの「Contents」サブメニューをクリックしてください。ヘルプファイルには、ログサーバーのセットアップ、操作、トラブルシューティングの各方法について記載されています。

ログサーバーメイン画面

概要

ログサーバーのメイン画面は2つのメインパネルに分かれています。

- ◆ 上部パネル(リストパネル)には、ログサーバーがログの記録対象としているユニットをすべて表示します。(p.222 参照)
- ◆ 下部パネル(イベントパネル)には、現在選択中のユニットに関する情報が表示されます。(複数のユニットがある場合、色が反転しているものが選択されたユニットであることを表しています。)
- ◆ 一覧からユニットを選択する場合は、そのユニットを選択してください。



リストパネル

リストパネルには以下の項目が表示されます。

項目	説明
Recording	ログサーバーがこのユニットのログを記録するかどうかを選択します。チェックボックスにチェックが入っていると、この部分には「Recording」と表示され、ログが記録されます。チェックが入っていないと、この部分には「Paused」と表示され、ログは記録されません。 注意: リスト上で選択されていないユニットであっても、チェックボックスにチェックが入っている場合、そのユニットはログサーバーのログ記録の対象となります。
Address	ユニットがログサーバーに登録された際に設定された IP アドレスまたは DNS 名です。(p.222 参照)
Port	ユニットに割り当てられたアクセスポートナンバーです。(p.222 参照)
Connection	◆ ログサーバーがユニットに接続されている場合、この項目には「Connected」と表示されます。 ◆ ログサーバーが接続されていない場合、この項目には「Waiting」と表示されます。これは、ログサーバーの MAC アドレスが正しく設定されていないことを意味しますので、「Device Management」タブの「ANMS」メニューで正しく設定してください。(p.176 参照)
Days	記録されたイベントログがデータベース内に保存される期間を日数で表示します。(p.222 参照)
Description	ログサーバーへの登録時にユニットに設定された説明が表示されます。(p.222 参照)

イベントパネル

下部パネルには現在選択されているユニットのイベントログが表示されます。複数のユニットをお使いの際に、ログサーバーのリストパネルでは選択されていない(色が反転していない)ものでも、「Recording」にチェックが入っていれば、そのユニットはログサーバーのログはデータベースに記録されます。

第 13 章

LDAP サーバーの設定

はじめに

製品へのログイン認証およびユーザーの権限設定に外部プログラムを使うことも可能です。本章では、Active Directory を使った製品へのログイン認証およびユーザー権限設定の方法について説明します。

ユーザーの認証や権限設定を LDAP または LDAPS で行う場合は、製品の外部属性名「iKVM4140-userProfile」を person クラスのオプション属性として追加して、Active Directory の LDAP スキーマを拡張する必要があります。

注意: 「authentication」は、ログインするユーザーが正しいユーザーであるかどうかを検証することを、また、「authorization」はデバイスの各種機能の操作権限を割り当てることをそれぞれ指します。

LDAP サーバーを設定するためには、以下の手順で操作をする必要があります。

- 1) Windows サーバーサポートツールをインストールする。
- 2) Active Directory スキーマスナップインをインストールする。
- 3) Active Directory スキーマを拡張し、アップデートする。

以下のセクションでは、Windows 2003 Server での LDAP の設定を例に挙げて説明します。

Windows 2003 サポートツールのインストール

Windows 2003 Support Tool をインストールする場合は、以下の手順で操作してください。

1. Windows Server の CD に収録されている、「Support」→「Tools」フォルダーを開きます。
2. 表示されたダイアログの右パネルで、「SupTools.msi」をダブルクリックします。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを行ってください。

Active Directory スキーマスナップインのインストール

Active Directory スキーマスナップインをインストールする場合は、以下の手順で操作してください。

1. コマンドプロンプトを開いてください。
2. コマンドラインからコマンド「regsvr32 schmmgmt.dll」を実行し、お使いのシステムに schmmgmt.dll を登録してください。
3. 「スタート」メニューを開き、「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「mmc /a」を入力して「OK」をクリックしてください。
4. 画面の「ファイル」メニューから「スナップインの追加と削除」をクリックし、表示されたダイアログで「追加」ボタンをクリックしてください。
5. 「利用できるスタンドアロン スナップイン」のリストから「Active Directory Schema」をダブルクリックし、「閉じる」ボタンをクリックした後「OK」ボタンをクリックしてください。
6. 現在開いている画面で「ファイル」メニューを開いて、「名前をつけて保存」ボタンをクリックしてください。
7. 「保存する場所」の項目に「C:\Windows\system32」ディレクトリを指定してください。
8. 「ファイル名」の項目に「schmmgmt.msc」を入力してください。
9. 「保存」ボタンをクリックして、インストールを終了してください。

スタートメニューのショートカット作成

Active Directory スキーマのスタートメニューへのショートカットを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. Windows デスクトップ上の「スタート」ボタンを右クリックし、「開く-All Users」→「プログラム」→「管理ツール」を開いてください。
2. 「ファイル」メニューから、「新規作成」→「ショートカット」を選択してください。
3. 表示されたダイアログで、参照ボタンを押してダイアログを操作、またはパスを入力して、「schmmgmt.msc」(C:\Windows\system32\schmmgmt.msc)を指定し、「次へ」をクリックしてください。
4. 表示されたダイアログで、ショートカットの名前を「Active Directory Schema」に設定し、「完了」をクリックしてください。

Active Directory スキーマの拡張・更新

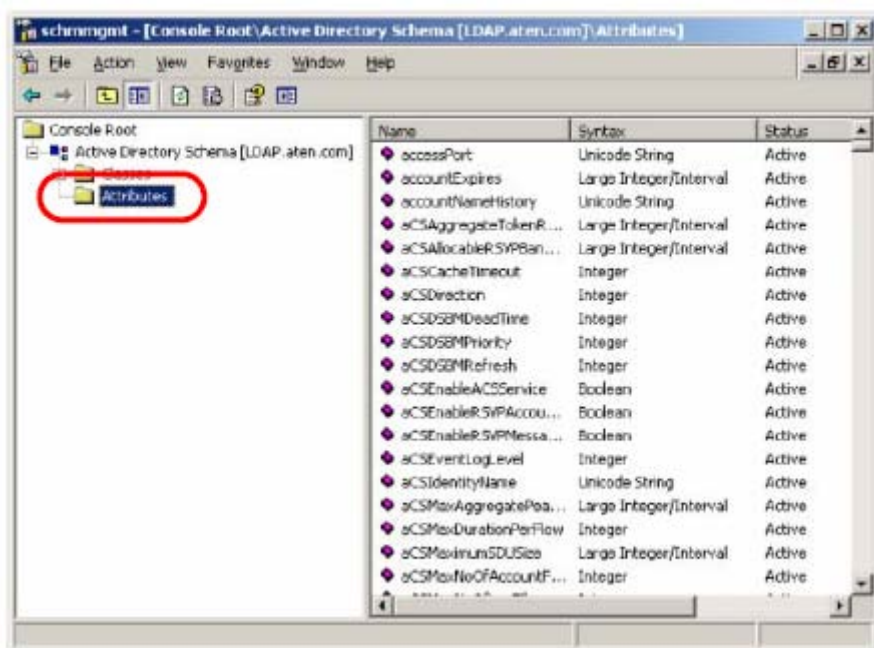
Active Directory の拡張や更新を行う場合は、以下の手順で操作する必要があります。

- 1) 新規属性を作成する。
- 2) 新規属性でオブジェクトクラスを拡張する。
- 3) 拡張されたスキーマで Active Directory ユーザーを編集する。

新規属性の作成

新規属性を作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「スタート」メニューから、「管理ツール」→「Active Directory Schema」を開いてください。
2. 表示された画面の左パネルで、「Attributes」を右クリックしてください。



3. 「New」→「Attribute」を選択してください。
4. 警告メッセージが表示されたら、「Continue」を押して「Create New Attribute」ダイアログを表示してください。

5. 下図の「Description」および「Common Name」に設定されている文字列をダイアログボックスの該当箇所に入力し、「OK」を押して操作を完了してください。

注意： 「X500 Object ID」で使用されている文字は、コンマではなくピリオドです。

The screenshot shows the 'iKVM4140-userProfile Properties' dialog box with the 'General' tab selected. The 'Description' and 'Common Name' fields are both set to 'iKVM4140-userProfile' and are circled in red. The 'X.500 OID' field is set to '1.3.6.1.4.1.21317.1.1.4.25'. The 'Syntax and Range' section shows 'Syntax' as 'Unicode String', 'Minimum' as '1', and 'Maximum' as '255'. Below this, there are several checkboxes: 'Allow this attribute to be shown in advanced view' (unchecked), 'Attribute is active' (checked), 'Index this attribute in the Active Directory' (unchecked), 'Ambiguous Name Resolution (ANR)' (unchecked), 'Replicate this attribute to the Global Catalog' (unchecked), 'Attribute is copied when duplicating a user' (unchecked), and 'Index this attribute for containerized searches in the Active Directory' (unchecked). The 'OK', 'Cancel', and 'Apply' buttons are at the bottom.

Field	Value
Description	iKVM4140-userProfile
Common Name	iKVM4140-userProfile
X.500 OID	1.3.6.1.4.1.21317.1.1.4.25
Syntax	Unicode String
Minimum	1
Maximum	255

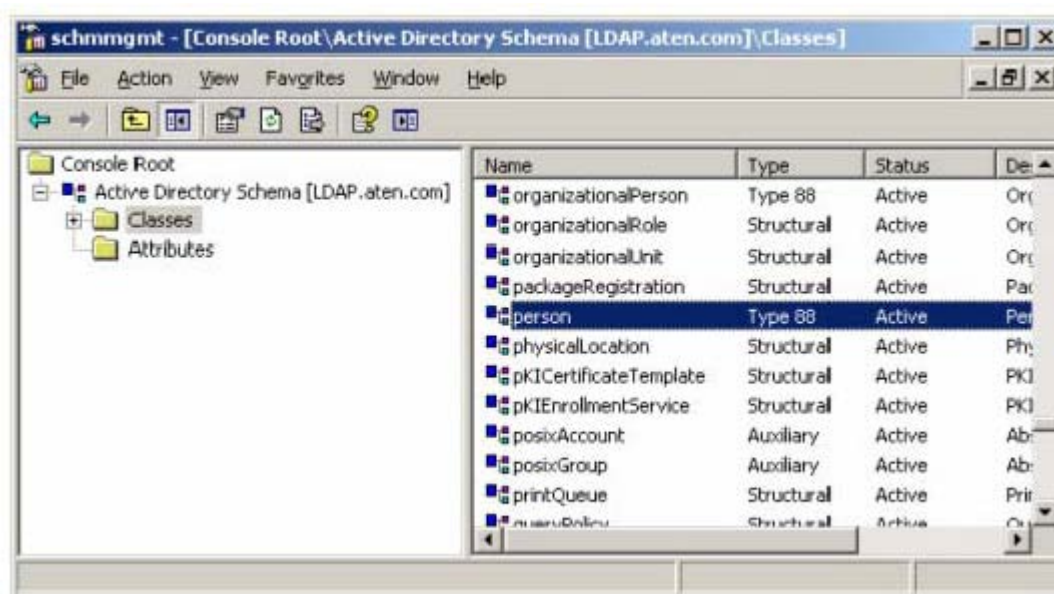
☐ Allow this attribute to be shown in advanced view
☒ Attribute is active
☐ Index this attribute in the Active Directory
☐ Ambiguous Name Resolution (ANR)
☐ Replicate this attribute to the Global Catalog
☐ Attribute is copied when duplicating a user
☐ Index this attribute for containerized searches in the Active Directory

OK Cancel Apply

新規属性によるオブジェクトクラスの拡張

新規属性でオブジェクトクラスを拡張する場合は、以下の手順で操作してください。

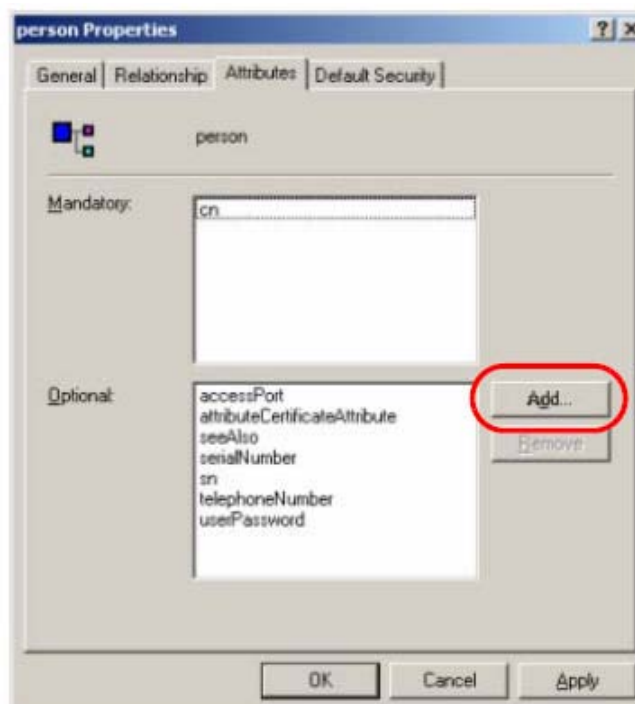
1. 「コントロールパネル」→「管理ツール」→「Active Directory Schema」を開いてください。
2. 表示された画面の左パネルで、「Classes」を選択してください。
3. 右パネルで、「person」を右クリックしてください。



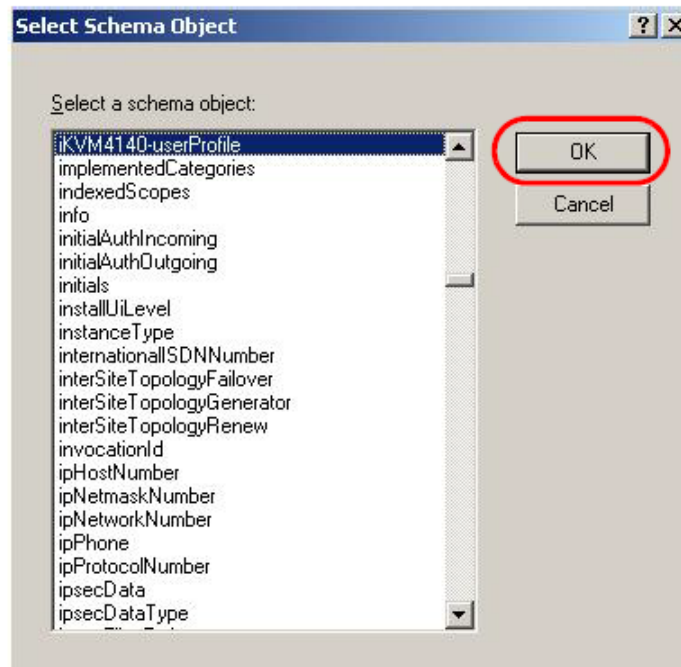
4. 「Properties」を選択すると、「person Properties」ダイアログの「General」タブが表示されます。
このダイアログで「Attributes」タブを開いてください。



5. 「Attributes」タブで、「Add」ボタンをクリックしてください。



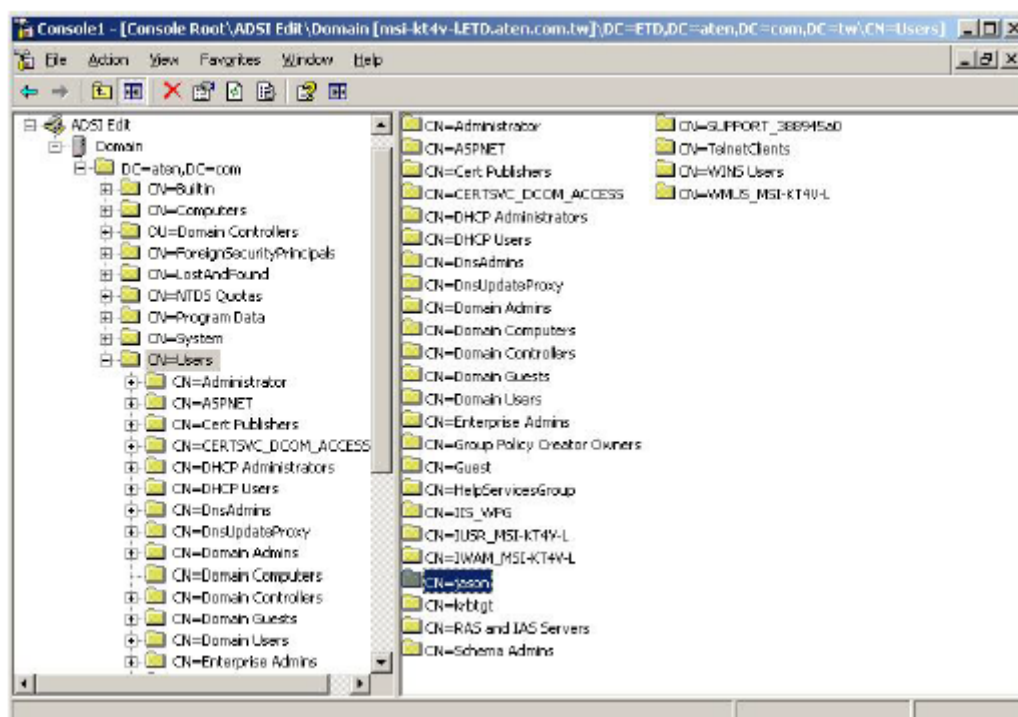
6. 表示されたリストから、「iKVM4140-userProfile」を選択し、「OK」を押して操作を終了してください。



Active Directory ユーザーの編集

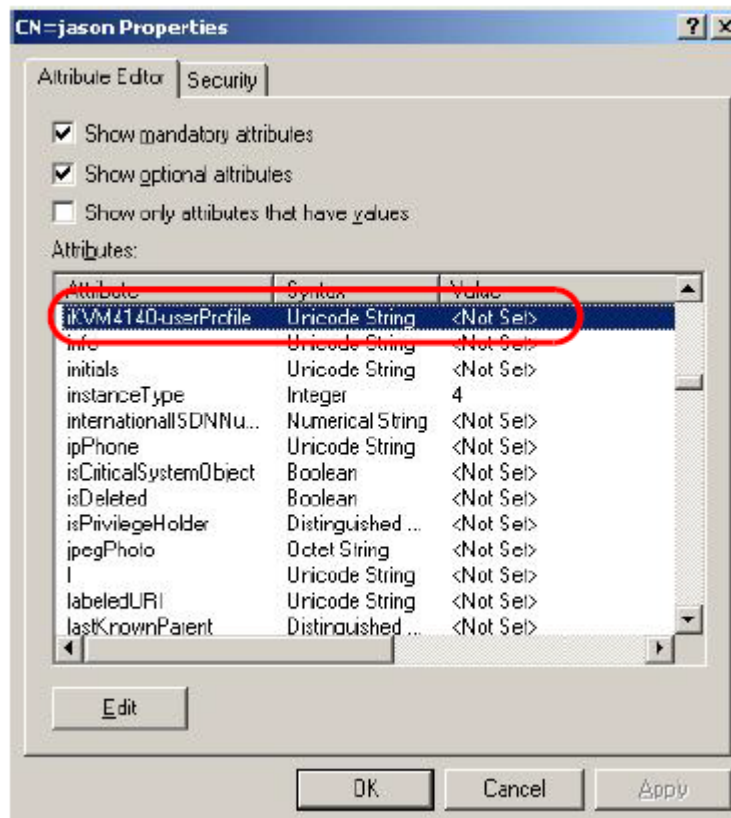
拡張されたスキーマで Active Directory ユーザーを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サポートツールと同時にインストールされた「ADSI Edit」を実行してください。
2. 左パネルから「Domain」を開き、「DC=aten, DC=com CN=Users」ノードに移動します。
3. 右パネルで、編集対象となるユーザーを選択してください。（下図は「jason」を選択した場合の画面の例です。）

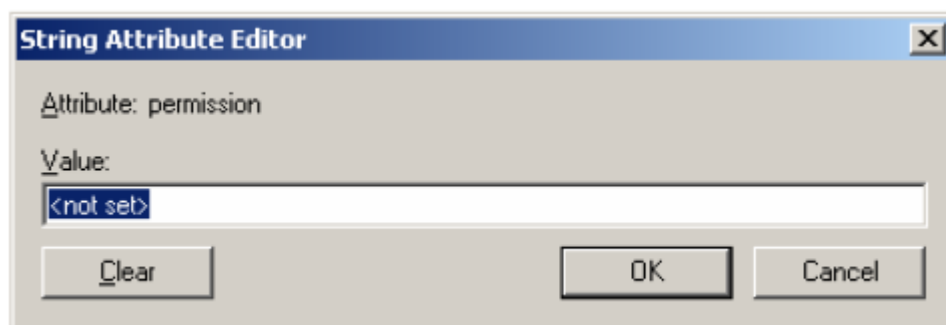


4. 手順 3 で選択したユーザー名を右クリックし、「properties」を選択してください。

5. 表示されたダイアログの「Attribute Editor」タブで、一覧から「KVM4140-userProfile」を選択してください。



6. 「Edit」をクリックして、「String Attribute Editor」ダイアログを起動してください。



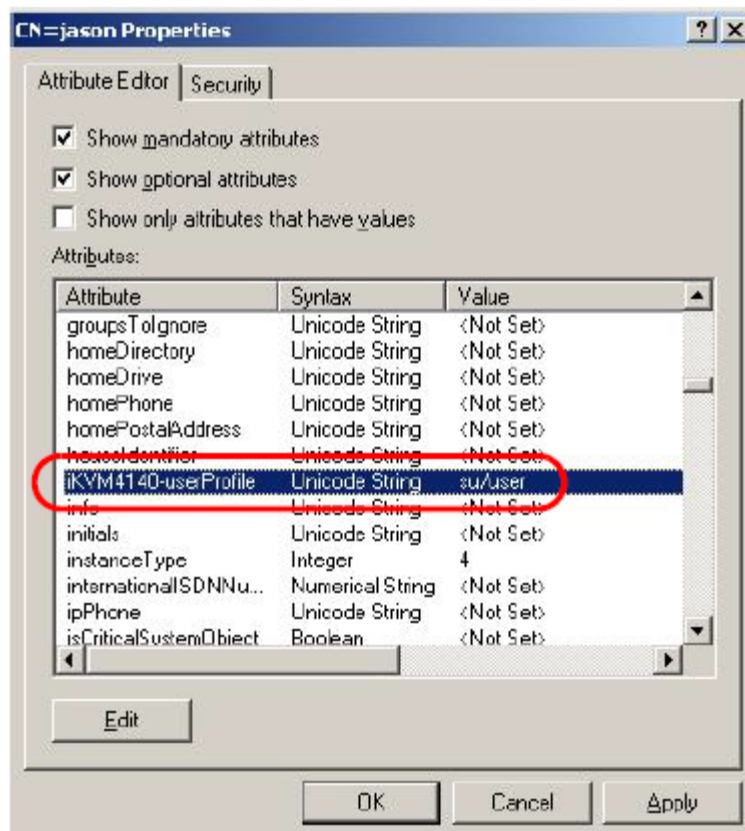
7. 製品の権限属性値を入力してください。下図は入力の一例です。



The 'String Attribute Editor' dialog box shows the attribute 'iKVM4140-userProfile' and the value 'su/user' entered in the 'Value' field. The 'Clear', 'OK', and 'Cancel' buttons are at the bottom.

注意: 上図における「user」は、「Jason」に与える製品上のユーザー権限(user)を表しています。(p.151 参照)

8. 「OK」をクリックしてください。「Attribute Editor」タブに戻ると、「iKVM4140-userProfile」のエントリーには新しい権限の内容が反映されます。



The 'CN=jason Properties' dialog box, 'Attribute Editor' tab, shows a list of attributes. The 'iKVM4140-userProfile' attribute is highlighted with a red circle, showing its value as 'su/user'.

Attribute	Syntax	Value
groupsToIgnore	Unicode String	<Not Set>
homeDirectory	Unicode String	<Not Set>
homeDrive	Unicode String	<Not Set>
homePhone	Unicode String	<Not Set>
homePostalAddress	Unicode String	<Not Set>
homeServer	Unicode String	<Not Set>
iKVM4140-userProfile	Unicode String	su/user
info	Unicode String	<Not Set>
initials	Unicode String	<Not Set>
instanceType	Integer	4
internationalSDN...	Numerical String	<Not Set>
ipPhone	Unicode String	<Not Set>
isCriticalSystemObject	Boolean	<Not Set>

- a. 「Apply」をクリックし、変更内容を反映させてください。これによって、Jason には user の操作権限が与えられました。
- b. 他のユーザーも追加する場合は、「Active Directory ユーザーの編集」(p.236 参照) の手順を繰り返してください。

付録

製品仕様

KN2124v/KN4124v

機能		KN2124v	KN4124v
コンピューター接続数	ダイレクト接続	24	
	最大 (カスケード接続時)	384	
コンソール接続数	ローカル	1	
	リモート	2	4
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル	
	マウス		
コンソール側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB	
	マウス		
ポート選択方法		OSD、ホットキー、プッシュボタン	
コンピューター側 コネクタ	キーボード	RJ-45×24	
	マウス		
	モニター		
コンソール側 コネクタ	キーボード	SPHD オス×1	
	マウス		
	モニター		
	スピーカー	ミニオーディオジャック×1	
	マイク	ミニオーディオジャック×1	
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1	
	ポート選択 (ポートアップ/ダウン)	プッシュボタン×2	
	電源	ロッカースイッチ×2	

(表は次のページに続きます)

機能		KN2124v	KN4124v
LAN ポート		RJ-45×2	
モデムポート		RJ-45×1	
PON ポート		RJ-45×1	
USB2.0 ハブ		USB タイプ A メス×3	
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×2	
LED	オンライン	グリーン×24	
	ポート選択	レッド×24	
	リンク・ 10/100/1000Mbps	レッド/レッド+グリーン/グリーン×2	
	電源	ブルー×1	
キーボード・マウス エミュレーション		PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル	
スキャンインターバル		1～255 秒	
電源仕様		AC100V～240V 50～60Hz	
VGA 解像度		1,600×1,200、DDC2B 準拠	
消費電力	シングル電源	36.4W(110V)/ 37.2W(230V)	43.7W(110V)/ 44.6W(230V)
	デュアル電源	41.8W(110V)/ 42.5W(230V)	49.1W(110V)/ 50W(230V)
ネットワークプロトコル		10Base-T/100Base-T/1000Base-T 自動認識、 TCP/IP、HTTP、HTTPS、DNS、DHCP、PPP、 UDP、APR、ICMP、SMTP、RADIUS、LDAP、 LDAPS	
動作環境	動作温度	0～50℃	
	保管温度	-20～60℃	
	湿度	0～80%RH 結露なきこと	
ケース材料		メタル	
重量		5.99kg	6.04kg
サイズ (W×D×H)		413.5×433.6×44mm	

(表は次のページに続きます)

機能	KN2124v	KN4124v
同梱品	シリアルアダプター×2 接地線×1 接地についての注意書き×1 電源ケーブル×2 コンソールケーブル×1 ラックマウントキット×1 フットパッド(4pcs)×1 ユーザーマニュアル×1 クイックスタートガイド×1	
対応 KVM モジュール	《PS/2 用モジュール》 KA9120 KA7120 《USB 用モジュール》 KA9170 KA7170 KA7175(バーチャルメディア対応) KA7176(バーチャルメディア&オーディオ対応) 《シリアルモジュール》 KA9140 KA7140	
旧 SUN システム専用モジュール (13W3+ミニ DIN8 ピン)	KA9130 KA7130	
新 SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA9170 KA7170	
MAC 用モジュール	KA9170 KA7170	

KN2140v/KN4140v

機能		KN2140v	KN4140v
コンピューター接続数	ダイレクト接続	40	
	最大 (カスケード接続時)	640	
コンソール接続数	ローカル	1	
	リモート	2	4
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル	
	マウス		
コンソール側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB	
	マウス		
ポート選択方法		OSD、ホットキー、プッシュボタン	
コンピューター側 コネクタ	キーボード	RJ-45×40	
	マウス		
	モニター		
コンソール側 コネクタ	キーボード	SPHD オス×1	
	マウス		
	モニター		
	スピーカー	ミニオーディオジャック×1	
	マイク	ミニオーディオジャック×1	
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1	
	ポート選択 (ポートアップ/ダウン)	プッシュボタン×2	
	電源	ロッカースイッチ×2	
LAN ポート		RJ-45×2	
モデムポート		RJ-45×1	
PON ポート		RJ-45×1	
USB2.0 ハブ		USB タイプ A メス×3	
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×2	

(表は次のページに続きます)

機能		KN2140v	KN4140v
LED	オンライン	グリーン×40	
	ポート選択	レッド×40	
	リンク・ 10/100/1000Mbps	レッド/レッド+グリーン/グリーン×2	
	電源	ブルー×1	
キーボード・マウス エミュレーション		PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル	
スキャンインターバル		1～255 秒	
電源仕様		AC100V～240V 50～60Hz	
VGA 解像度		1,600×1,200、DDC2B 準拠	
消費電力	シングル電源	36.8W(110V)/ 37.7W(230V)	49W(110V)/ 50W(230V)
	デュアル電源	42.2W(110V)/ 43W(230V)	54W(110V)/ 56W(230V)
ネットワークプロトコル		10Base-T/100Base-T/1000Base-T 自動認識、TCP/IP、HTTP、HTTPS、DNS、 DHCP、PPP、UDP、APR、ICMP、 SMTP、RADIUS、LDAP、LDAPS	
動作環境	動作温度	0～50℃	
	保管温度	-20～60℃	
	湿度	0～80%RH 結露なきこと	
ケース材料		メタル	
重量		6.08kg	
サイズ (W×D×H)		413.5×433.6×44mm	
同梱品		シリアルアダプター×2 接地線×1 接地についての注意書き×1 電源ケーブル×2 コンソールケーブル×1 ラックマウントキット×1 フットパッド(4pcs)×1 ユーザーマニュアル×1 クイックスタートガイド×1	

(表は次のページに続きます)

機能	KN2140v	KN4140v
対応 KVM モジュール	《PS/2 用モジュール》	
	KA9120	
	KA7120	
	《USB 用モジュール》	
	KA9170	
	KA7170	
	KA7175(バーチャルメディア対応)	
	KA7176(バーチャルメディア&オーディオ対応)	
	《シリアルモジュール》	
	KA9140	
	KA7140	
旧 SUN システム専用モジュール (13W3+ミニ DIN8 ピン)	KA9130	KA7130
新 SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA9170	KA7170
MAC 用モジュール	KA9170	KA7170

KN4116

機能		KN4116
コンピューター接続数	ダイレクト接続	16
	最大 (カスケード接続時)	256
コンソール接続数	ローカル	1
	リモート	4
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル
	マウス	
コンソール側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB
	マウス	
ポート選択方法		OSD、ホットキー、プッシュボタン
コンピューター側 コネクタ	キーボード	RJ-45×16
	マウス	
	モニター	
コンソール側コネクタ	キーボード	ミニ DIN6 ピンメス×1 USB タイプ A メス×1
	マウス	ミニ DIN6 ピンメス×1 USB タイプ A メス×1
	モニター	D-sub 15 ピン メス×1
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1
	ポート選択 (ポートアップ/ダウン)	プッシュボタン×2
	電源	ロッカースイッチ×1
LAN ポート		RJ-45×2
モデムポート		RJ-45×1
PON ポート		RJ-45×1
USB2.0 ハブ		USB タイプ A メス×3
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×1

(表は次のページに続きます)

機能		KN4116
LED	オンライン	グリーン×16
	ポート選択	オレンジ×16
	リンク	グリーン×1
	10/100/1000Mbps	レッド/レッド+グリーン/グリーン×1
	電源	ブルー×1
キーボード・マウス エミュレーション		PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル
スキャンインターバル		1～255 秒(ユーザー設定)/ 5 秒(デフォルト)
電源仕様		AC100V～240V 50～60Hz
VGA 解像度		1,600×1,200@60Hz
消費電力		39.6W(110V)/40.0W(230V)
動作環境	動作温度	0～50℃
	保管温度	-20～60℃
	湿度	0～80%RH 結露なきこと
ケース材料		メタル
重量		5.52kg
サイズ (W×D×H)		413.5×433.6×44mm
同梱品		シリアルアダプター×2 接地線×1 電源コード×1 ラックマウントキット×1 フットパッド(4pcs)×1 ユーザーマニュアル×1 クイックスタートガイド×1

(表は次のページに続きます)

機能	KN4116
対応 KVM モジュール	《PS/2 用モジュール》
	KA7120
	KA9120
	《USB 用モジュール》
	KA7170
	KA9170
	《シリアルモジュール》
	KA9140
	KA7140
旧 SUN システム専用モジュール (13W3+ミニ DIN8 ピン)	KA7130
	KA9130
新 SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170
	KA9170
MAC 用モジュール	KA7170
	KA9170

KN2132/KN4132

機能		KN2132	KN4132
コンピューター接続数	ダイレクト接続	32	
	最大 (カスケード接続時)	512	
コンソール接続数	ローカル	1	
	リモート	2	4
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル	
	マウス		
コンソール側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB	
	マウス		
ポート選択方法		OSD、ホットキー、プッシュボタン	
コンピューター側 コネクタ	キーボード	RJ-45×32	
	マウス		
	モニター		
コンソール側 コネクタ	キーボード	ミニ DIN6 ピンメス×1 USB タイプ A メス×1	
	マウス	ミニ DIN6 ピンメス×1 USB タイプ A メス×1	
	モニター	D-sub 15 ピン メス×1	
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1	
	ポート選択 (ポートアップ/ダウン)	プッシュボタン×2	
	電源	ロッカースイッチ×1	
LAN ポート		RJ-45×2	
モデムポート		RJ-45×1	
PON ポート		RJ-45×1	
USB2.0 ハブ		USB タイプ A メス×3	
電源ソケット		3 極 AC 電源ソケット×1	

(表は次のページに続きます)

機能		KN2132	KN4132
LED	オンライン	グリーン×32	
	ポート選択	オレンジ×32	
	リンク	グリーン×1	
	10/100/1000Mbps	レッド/レッド+グリーン/グリーン×1	
	電源	ブルー×1	
キーボード・マウス エミュレーション		PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル	
スキャンインターバル		1～255 秒(ユーザー設定)/5 秒(デフォルト)	
電源仕様		AC100V～240V 50～60Hz	
VGA 解像度		1,600×1,200@60Hz	
消費電力		33.4W(110V)/ 33.6W(230V)	45.8W(110V)/ 46.3W(230V)
動作環境	動作温度	0～50℃	
	保管温度	-20～60℃	
	湿度	0～80%RH 結露なきこと	
ケース材料		メタル	
重量		5.59kg	5.63kg
サイズ (W×D×H)		413.5×433.6×44mm	
同梱品		シリアルアダプター×2 接地線×1 電源コード×1 ラックマウントキット×1 フットパッド(4pcs)×1 ユーザーマニュアル×1 クイックスタートガイド×1	

(表は次のページに続きます)

機能	KN2132	KN4132
対応 KVM モジュール	《PS/2 用モジュール》	
	KA7120	
	KA9120	
	《USB 用モジュール》	
	KA7170	
	KA9170	
	《シリアルモジュール》	
	KA9140	
	KA7140	
旧 SUN システム専用モジュール (13W3+ミニ DIN8 ピン)	KA7130	KA9130
新 SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170	KA9170
MAC 用モジュール	KA7170	KA9170

トラブルシューティング

製品全般に関するトラブルシューティング

問題	解決法
動作に異常が見られる。	1 台目のステーションは、カスケード接続されたステーションよりも先に電源を入れる必要があります。 1. マスターステーションから順に電源を入れてください。 2. マスターステーションよりも先にカスケード接続されたスイッチの方に電源を入れた場合は、カスケード接続されたステーションをリセットまたは再起動してください。 リセットスイッチを 1 回押してください。(p.33 参照)
製品にログインできない。	1. ユーザーネームとパスワードが正しいことを確認してください。 2. 管理者がそのユーザーに対して設定した権限が正しいことを確認してください。 3. 本製品がデバイス統合管理システム CC2000 と併用されているかどうかを、管理者に確認してください。CC2000 と併用されている場合、CC 管理機能を無効にする (p.176 参照) か、CC サーバーで本製品の選択を解除する (CC2000 のユーザーマニュアル参照) ことで解決する場合があります。
正しい IP アドレスとポート番号を指定しても製品にアクセスできない。	製品がルーターの内部にセットアップされている場合は、ルーター側でポートフォワード(またはバーチャルサーバー)機能を使って設定する必要があります。ポートフォワードに関する詳細は p.268 をご参照ください。
Web ブラウザからログインした際に、「404 Object Not Found」のエラーが発生する。	ログイン文字列が設定されている場合は、Web ブラウザでアクセスする際に、製品の IP アドレスの後ろにスラッシュを続け、その後ろに正しい入力文字列を入力してください。(p.185 参照)

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
突然ネットワークの通信が遮断される。	製品とのセッションを終了し、30 秒程度待機してから再ログインしてください。
クライアントコンピュータでリモートのサーバー画面が表示されない。	サーバーに接続されているコンピューターモジュールのファームウェアのバージョンが、製品のメインファームウェアのバージョンと同じであることを確認してください。コンピューターモジュールのファームウェアアップグレードの詳細については p.200 をご参照ください。 サーバーの解像度を 1,280×1,024 に設定してください。
クライアントコンピュータでリモートのサーバー画面は表示されないが、ローカルコンソールでマウスは表示される。ただし、このマウスをクリックしても何の反応もない。	左[Alt]キーを1度押してから、右[Alt]キーを1度押してください。
クライアントコンピュータの表示に歪みが見られ、自動同期を実行しても解決しない。	解像度の異なるコンピューターが接続されているポートに一旦切り替えてから、元のポートを表示し直してください。 この方法でも解決しない場合は、そのポートに接続されているコンピューターの解像度とリフレッシュレートを変更してください。変更し終わったら、新しい解像度に設定することも、元の解像度に戻すことも可能です。
現在使用しているキーボードのロックキーの状態とコントロールパネルのロックキーLED ランプの状態が一致しない。	初回接続時には、コントロールパネルの LED ランプが実際にお使いのキーボードの状態と一致していない場合があります。この問題を解決するには、お使いのキーボードの状態と合うようにコントロールパネルの LED アイコンをクリックしてください。一度同期すれば、その後はお使いのキーボードの状態に合わせて、コントロールパネルの LED ランプの表示が切り替わります。
ログインすると、Web ブラウザ上に CA ルート認証が信頼されていない、または、認証エラーのメッセージが返ってくる。	証明書の名前が信頼済み証明書リストにないことに起因します。この証明書は信頼できるものですので、これを受け入れてください。詳細については p.281 をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
複数のユーザーで操作している際に、操作中のポートに排他(ないしは専有)の権限を持っていたにもかかわらず、「Port Access」タブを呼び出し、専有していたポートに戻ると、別のユーザーに操作権限が移っていた。なぜこのような現象が起こるのか？	ツリーから再度選択してポートに戻ろうとした場合、製品側では、ユーザーがそのポートに初めてアクセスしようとしていると認識されてしまいますので、別のユーザーがポートの操作を待機していた場合は、そのユーザーが優先的にポートを操作することになります。正常な方法でそのポートに戻りたい場合は、「Port Access」メニューの右上にある「Close」ボタンをクリックしてください。
PON ツールを起動しても、製品に接続されている PN9108 にアクセスできない。	PN9108 は、製品自身が TCP/IP ネットワーク経由でのリモートアクセスに対応していますので、本製品を経由してアクセスする必要はありません。ネットワークアクセスに対応していない電源管理デバイス(例:PN0108)をお使いの場合は、本製品のインターフェースを使ってアクセスすることができます。

マウスに関するトラブルシューティング

問題	解決法
マウスやキーボードの操作に対する反応がない。	コンピューターモジュールのファームウェアのバージョンが製品のメインファームウェアのバージョンと同じであることを確認してください。詳細は p.200 をご参照ください。 コンソールポートからマウスやキーボードのコネクターを一旦外して、接続し直してください。
マウスの動きが極端に遅い。	データの転送量が多いため、接続処理が追い付けない状態になっています。画質を下げる(p.94 参照)と、ビデオデータの転送量を減らすことができます。
サーバーに接続すると、マウスポインターが 2 つ表示される。	ポインターの種類は変更することができます。詳細については p.109 をご参照ください。
マウスポインターがシングルポインターモードの場合、コントロールパネルにアクセスできない。	コントロールパネルの起動直後に、ポインターをデュアルモードに変更してください。
なぜデュアルポインターモードがあるのか？	マウスダイナミックモードでない場合、サーバーとクライアントコンピューターの各マウスポインターの位置を確認するために 2 つのポインターが必要です。ポインターが 2 つ表示されていないと、マウスの操作中にネットワークのタイムラグによってサーバーのポインターがクライアントコンピューターのポインターの位置からずれる可能性があります。
マウスのポインターが混乱する。	ローカルとリモートの 2 つのマウスポインターが表示されて混乱する場合は、マウス表示の切替機能を使って片方のポインターを小さくすることができます。マウス表示の切替機能については p.86 を、また、マウスポインターの種類については p.109 をそれぞれご参照ください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
Windows にログインすると、ローカル、リモートのマウスポインターが同期しない。	1. 「Mouse Sync Mode」の設定状況を確認してください。 (p.110 参照)「Automatic」に設定されている場合は、「Manual」に変更してください。(マウス同期に関する詳細は p.112 を参照) 2. 「Manual」モードの場合は、自動同期機能を使ってローカルとリモートのモニターを同期させてください。(p.94 参照) 3. 上記の方法でも解決しない場合は、マウス調整機能 (p.87 参照)を使ってポインターを同期させてください。 4. 上記の方法でも解決しない場合は、p.275 を参照にしながら、これ以外のマウス同期の方法を試してみてください。
Mac にログインすると、ローカル、リモートのマウスポインターが同期しない。	自動でマウス同期を行うには、「default」または「Mac2」に設定します。「default」ではマウス同期がうまくいかない場合は、「Mac2」に設定してみてください。(p.111 参照)
Sun にログインすると、ローカル、リモートのマウスポインターが同期しない。	自動マウスダイナシンクによる同期は、Windows および Mac(G4 以降)の USB マウスにのみ対応しています。Sun をお使いの環境では、手動でポインターを同期させる必要があります。詳細については、p.110「Mouse DynaSync Mode」、p.112「手動によるマウス同期」をご参照ください。 上記の方法で同期したら、p.275「その他のマウス同期方法」の「Sun/Linux」を参考にして、Sun 用の設定を行ってください。
Linux にログインすると、ローカル、リモートのマウスポインターが同期しない。	自動マウスダイナシンクによる同期は、Windows および Mac(G4 以降)の USB マウスにのみ対応しています。Sun をお使いの環境では、手動でポインターを同期させる必要があります。詳細については、p.110「Mouse DynaSync Mode」、p.112「手動によるマウス同期」、p.111「Mac/Linux をお使いの場合」をご参照ください。 上記の方法で同期したら、p.275「その他のマウス同期方法」の「Sun/Linux」を参考にして、Linux 用の設定を行ってください

バーチャルメディアに関するトラブルシューティング

問題	解決法
バーチャルメディアが動作しない。	サーバーのメインボードが USB に対応していないことに起因しています。サーバーのメインボードのファームウェアまたは BIOS に新しいバージョンのものが提供されており、それらが USB に対応している場合は、サーバーのファームウェアや BIOS をアップグレードしてみてください。
コントロールパネルにバーチャルメディアのアイコンが表示されない。	- KA7175 または KA7176 のコンピューターモジュールを使用したときにのみ、バーチャルメディア機能をご利用いただけます。 - ローカルクライアントコンピューター上で管理者権限が与えられている必要があります(Windows 側の制限事項です)。
バーチャルメディアのドライブからサーバーをブートすることができない。	サーバーの BIOS が USB ドライブからのブートに対応していないことが考えられます。お使いのコンピューターのメインボードの最新のファームウェアと BIOS バージョンを確認し、メインボードの BIOS をアップグレードしてください。
USB フロッピードライブをサーバーに接続すると、サーバーをブートすることができるのに、そのドライブをバーチャルメディアドライブとしてマッピングするとサーバーをリモートからブートすることができない。	USB フロッピーのドライブには、EFI と CBI の 2 種類のフォーマットタイプがあります。これらは両方とも OS レベルの操作でバーチャル機能を使用することができますが、現時点では、ブート等の BIOS レベルの操作に対応しているのは EFI のみです。
フォルダーをバーチャルメディアデバイスとしてマウントできない。	実際のフォルダーが FAT16 ファイルシステムでフォーマットされている場合、サイズが 2GB を超えたものはマウントすることができません。

Web ブラウザに関するトラブルシューティング

問題	解決法
ファームウェアをアップグレードした後、Web ブラウザでログインすると、新しいファームウェアを適応する前のバージョン情報が表示される。	製品には実際に新しいバージョンのファームウェアが適用されていますが、Web ブラウザにはキャッシュされたページが表示されている可能性があります。以下の方法でキャッシュをクリアしてください。 ◆ IE をお使いの場合:[ツール]→[インターネットオプション]→[インターネット一時ファイル]→[ファイルの削除] ◆ Firefox をお使いの場合:[ツール]→[プライバシー情報の消去]→「キャッシュ」を選択→[今すぐ消去]
Firefox では Java アプレットビューワーしか開くことができず、Windows クライアント Active X ビューワーを開くことができない。	Windows クライアント Active X ビューワーの動作環境には Active X が必要です。Firefox では Active X がサポートされていないので、Java アプレットビューワーをお使いください。

Windows クライアントに関するトラブルシューティング

問題	解決法
Windows クライアントアプリケーションを起動すると、製品がサーバーリスト画面に表示されない。	「Device Management」タブの「Service Ports」セクションの「Program」(p.172 参照)で設定されているポートと、このダイアログの「Server」欄にある「Port」の項目の値が同じであるユニットだけが、サーバーリストに表示されます。この 2 つの項目の値を確認してください。
Windows クライアントの Active X ビューワーと Windows クライアントアプリケーションが製品に接続できない。	Direct X (8.0 以降のバージョン)がお使いのコンピュータにインストールされている必要があります。
ファームウェアのアップグレード後に、Windows クライアント Active X ビューワーや Windows クライアントアプリケーションが起動しない。	この現象は、.ocx ファイルの古いバージョンが削除されていないことに起因するため、古いファイルを削除する必要があります。ファイルを削除するには、以下の 2 種類の方法があります。 1. Active X ビューワーを使用している場合:IE を起動→[ツール]→[アドオンの管理]を選択し、Windows クライアントに一致するものをすべて無効にするか削除してください。 2. Windows クライアントアプリケーションを使用している場合:エクスプローラーを起動し、「WinClient.ocx」を検索し、一致するものをすべて削除してください。
リモートウィンドウの一部がモニターに表示されない。	1. 自動同期を実行してください。(p.82 参照) 2. 「Keep Screen Size」の項目にチェックが入っていない場合(p.114 参照)は、自動同期機能(p.82 参照)を使ってローカルとリモートのモニターを同期してください。 3. 「Keep Screen Size」の項目にチェックが入っている場合は、画面からはみ出している部分もスクロールすることで表示できます。
リモート画面が 90° 回転している。	「Keep Screen Size」の項目にチェックを入れてください。(p.114 参照)

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
Windows クライアントを起動していると、Net Meeting を起動できない。	「Keep Screen Size」の項目にチェックを入れてください。 (p.114 参照)

Mac に関するトラブルシューティング

問題	解決法
Safari を使って製品にログインした際に、スナップショット機能を使用するとブラウザが応答なしになる。	Safari を強制終了し、再起動してください。この場合、スナップショット機能は使用しないでください。
	Safari でスナップショット機能を使用する場合は、Mac OS 10.4.11、Safari3.0.4 にアップグレードしてください。

Java クライアントに関するトラブルシューティング

問題	解決法
製品に接続することができない。	1. お使いのクライアントコンピューターに最新バージョンの Java をインストールしてください。 2. アクセスに使用する IP アドレスとポート番号が正しいことを確認してください。(詳細は p.70 参照) 3. Java を再起動して、操作をもう一度やり直してください。
最新バージョンの Java JRE をインストールしたにもかかわらず、パフォーマンスと安定性の面に問題がある。	まれに最新のバージョンの Java の使用時に、製品の動作が安定しない場合がありますので、この場合はバージョンが 1 つ、ないし 2 つ古いものをインストールしてみてください。
ファームウェアのアップグレード後に、Java アプレットビューワーや Java クライアントアプリケーションが起動しない。	ログアウトしてから、以下の手順に従って Java の一時インターネットファイルを削除してください。 1. コントロールパネルから「Java」メニューを開いてください。 2. 「インターネット一時ファイル」パネルから、「設定」ボタンをクリックしてください。 3. 「ファイルの削除」ボタンをクリックしてください。 4. 「一時ファイルの削除」ダイアログで、「了解」ボタンをクリックしてファイルを削除してください。
英語以外の言語を入力すると文字が表示されない。	お使いのコンピューターのキーボード言語を「英語-イギリス」に設定してください。
	本製品が提供しているオンスクリーンキーボード機能を使って、オンスクリーンキーボードの言語を他のシステムが使用している言語と同じになるように設定してください。
Java のパフォーマンスが悪い。	プログラムを一旦終了し、再起動してください。
Windows の「メニュー」ボタンを押しても反応しない。	Java では Windows のメニューキーはサポートされていません。

Sun に関するトラブルシューティング

問題	解決法
D-sub15 ピンのコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。(例: Sun Blade 1000 Server)	ディスプレイの解像度は 1,024×768@60Hz に設定する必要があります。 テキストモードの場合: - OK プロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> XWindow の場合: - コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> - ログアウトします。 - もう一度ログインします。
13W3のコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。(例: Sun Ultra Server)*	ディスプレイの解像度は 1,024×768@60Hz に設定する必要があります。 テキストモードの場合: - OK プロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> XWindow の場合: - コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>fbconfig -res 1024x768x60</pre> - ログアウトします。 - もう一度ログインします。
既に購入している USB タイプのコンピュータモジュール KA9131 は本製品でも使用可能か？	使用できます。基本的には KA7170、KA9170 を新規に購入して使用されることを推奨しますが、KA9131 を既にお持ちの場合は、これを KA7170 や KA9170 の代わりに使用することができます。

* Sun VGA カードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決することが可能です。上記の手順で対応しても解決しない場合は Sun VGA カードのマニュアルを一度ご覧ください。

ログサーバーに関するトラブルシューティング

問題	解決法
ログサーバープログラムが動作しない。	ログサーバープログラムがデータベースにアクセスするためには、Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーが必要です。 このドライバーは Windows ME、2000、XP には標準で搭載されていますが、Windows 98 や NT をご使用になっている場合は、Microsoft 社のサイトからダウンロードしてインストールする必要があります。 http://www.microsoft.com ダウンロードページで以下のファイルを検索し、入手します。 MDAC 2.7 RTM Refresh (2.70.9001.0) このドライバーは Windows Office Suite でも使用されており、Windows Office Suite をインストールしてもログサーバープログラムが実行可能になります。

パネルアレイモードに関するトラブルシューティング

問題	解決法
パネルアレイモードが低解像度で表示される。	この現象は、画面がパネルに合うように縮小されることに起因します。画面に表示されるパネル数を増やしてください。
複数のリモートユーザーが同時ログインした場合、一部のユーザーのモニターは画面の一部しか表示されない。	最初にパネルアレイモードを起動したユーザーは、画面表示の設定を最低でも 4 分割に変更してください。
1 つ前、または 1 つ後ろのポートに移動しようとする、画面が 2 つ前のポートに移動したり、ポートが移動しなかったりする場合があります。	ネットワークのタイムラグが原因でこのような現象が見られる場合があります。パネルは、一定の時間間隔でポートを自動的に表示していきますが、ユーザーからの入力がある前に、製品は 1 つ後ろのポートに移動しているものの、表示処理が追いついていない場合は、ポートが切り替わっていないように見える場合があります。 したがって、ユーザーがポートを切り替えると、自動的に切り替えられたポートからさらに 1 ポート先に進みますので、2 ポート先に移動したように見えたり、自動的に切り替えられたポートから 1 ポート後ろに戻るので移動していないように見えたりするという現象が発生することになります。

IP アドレスの設定

管理者として最初にログインした場合には、他のユーザーが TCP/IP ネットワーク経由でログインできるように製品に IP アドレスを設定する必要があります。設定方法は全部で 3 種類ありますが、どの方法でも設定に使用するコンピューターは製品と同一のネットワークセグメントにセットアップされていなければなりません。製品に接続し、ログインすると、製品に固定 IP アドレスを設定する必要があります。(p.172 参照)

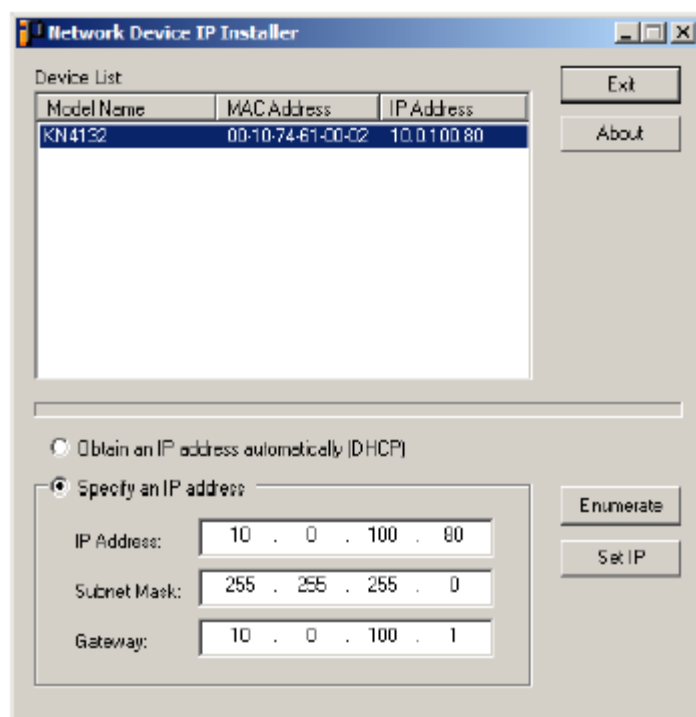
ローカルコンソール

最も簡単な IP アドレスの設定方法はローカルコンソールから設定する方法です。設定方法の詳細については p.56 をご参照ください。

IP インストーラー

Windows がインストールされたコンピューターをお使いの場合は、IP インストーラーというツールを使用して製品に IP アドレスを設定することができます。IP インストーラーは弊社 Web サイトのダウンロードページからダウンロードすることができます。ダウンロードページの「ドライバー & ソフトウェア」のリストから、お使いの製品の型番を選択してください。IP インストーラーをお使いのコンピューターにダウンロードしたら、以下の手順に従って製品に IP アドレスを設定してください。

1. ダウンロードしたファイル「IPInstaller.zip」をお使いのコンピューター上の適当なフォルダーに解凍してください。
2. 手順 1 で IP インストーラーを解凍したフォルダーに移動し、IP インストーラーの実行ファイルを起動してください。以下のようなダイアログが表示されます。



3. 「Device List」から IP アドレスを設定する製品を選択してください。

注意:

1. 一覧に何も表示されない、また、対象となる製品が表示されない場合は、「Enumerate」をクリックして、「Device List」を更新してください。
2. 一覧に複数のデバイスが表示されている場合は、製品に記載されている MAC アドレスを使って識別してください。製品の MAC アドレスは製品の底面に張られているラベルに記載されています。

4. DHCP を使って IP アドレスを自動的に取得する場合は「Obtain an IP address automatically (DHCP)」を、固定 IP アドレスを設定する場合は「Specify an IP address」をそれぞれ選択してください。後者を選択した場合は、製品がセットアップされているネットワークで有効な IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイをそれぞれ該当欄に入力してください。
5. 「Set IP」ボタンをクリックしてください。
6. IP アドレスが「Device List」に表示されたら、「Exit」ボタンをクリックしてください。IP インストーラーについての詳細は p.177 をご参照ください。

ブラウザ

1. お使いのコンピューターの IP アドレスを「192.168.0.XXX」に設定してください。
「XXX」の部分には、1～255 の範囲の任意の整数値を使用してください。ただし、60 は製品のデフォルトの IP アドレス(192.168.0.60)に使用されていますので、これ以外の値を使用してください。
2. Web ブラウザのアドレスバーに製品のデフォルト IP アドレス(192.168.0.60)を指定し、製品にアクセスしてください。
3. 製品がセットアップされているネットワークで有効な固定 IP アドレスを設定してください。
4. 必要であれば、手順 1 で設定を変更したコンピューターの IP アドレスをログアウト後に元の値に戻しておいてください。

ポートフォワード

製品がルーターの内側にセットアップされている場合、指定されたポートとデバイス宛に送信されたデータをルーターが転送できるように、ルーター側でポートフォワードの設定をする必要があります。ポートフォワードのパラメーターを設定することによって、特定のポートに送信されたデータをどのデバイスに転送すればよいのかを、ルーターに判別させることができます。

例えば、特定のルーターに接続された製品に「192.168.1.180」という IP アドレスが設定されている場合、ルーターの設定プログラムにログインした後、ポートフォワード(場合によってはバーチャルサーバー)の設定画面にアクセスし、先ほどの IP アドレス「192.168.1.180」および開放したいポート(例えばインターネットアクセスでは 9000 番を使用)を設定します。

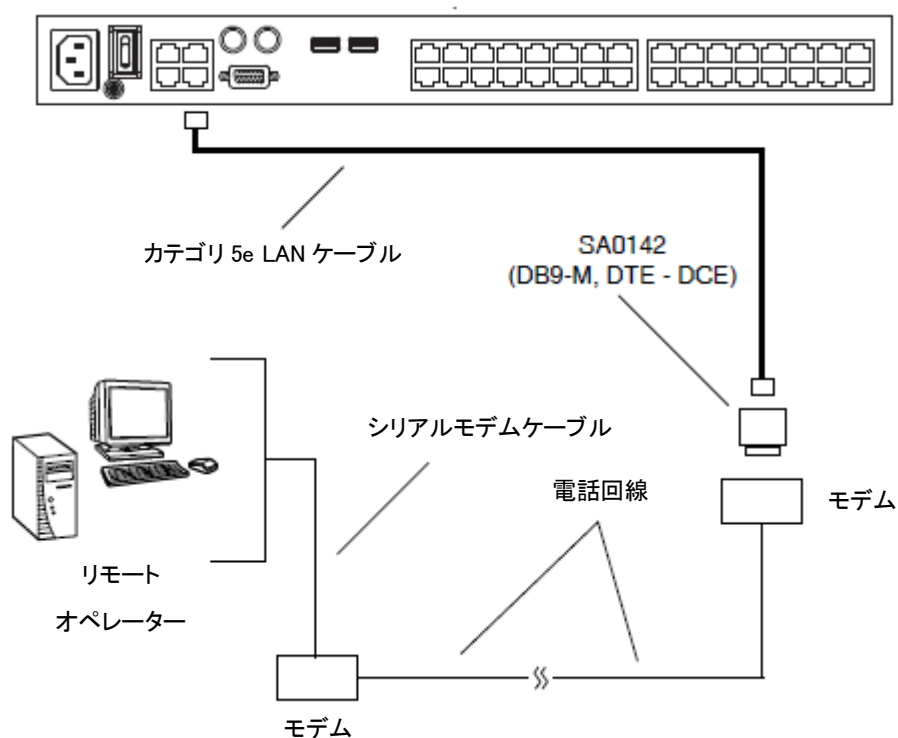
ルーターの設定方法は、製品ごとに異なりますので、ポートフォワードの詳細についてはお使いのルーターのユーザーマニュアルをご参照ください。

PPP モデム操作

基本セットアップ

Webブラウザや専用アプリケーションを使用したアクセス方法の他に、製品はPPPダイヤルイン接続を使った RS-232 ポート経由でのアクセス方法にも対応しています。この方法で接続する場合は、以下の手順で操作してください。

1. お使いの製品および関連機器を下図のようにセットアップしてください。



2. お使いのコンピューターから、モデムダイヤルインプログラムを使って製品のモデムにダイヤルイン接続してください。

-
- 注意:**
1. 製品のモデムに設定されているシリアル関連のパラメーターがご不明な場合は、製品の管理者にお問い合わせください。
 2. Windows XP でのダイヤルインプログラムの設定例は次のページをご参照ください。
-

3. 接続が確立したら、Web ブラウザを立ち上げ、アドレスバーに「192.168.192.1」を入力し、アクセスしてください。

注意: デフォルトでは、モデム接続のユーザーネーム、パスワードともに空白で設定されています。

これ以降の操作は、Web ブラウザや専用アプリケーションを使用した操作方法と同じです。

ダイヤルイン接続 セットアップ例(Windows XP)

Windows XP からの製品へのダイヤルイン接続の設定は、以下の手順で操作してください。

1. Windows 上で、[スタート]→[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]を開き、「新しい接続を作成する」をクリックしてください。
2. 「新しい接続ウィザードの開始」ダイアログが表示されたら、「次へ」ボタンをクリックしてください。
3. 「ネットワーク接続の種類」画面で、「職場のネットワークへ接続する」のラジオボタンを選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
4. 「ネットワーク接続」画面で、「ダイヤルアップ接続」のラジオボタンを選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
5. 「接続名」画面で、この接続につける名前(例:TPE-KN4132-01)を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
6. 「接続の利用範囲」画面で、ダイヤル接続を全ユーザーに許可する場合は「すべてのユーザー」を、現在操作しているユーザーのみに許可する場合は「自分のみ」を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

注意: お使いのコンピューターに現在ログインしているユーザーしか登録されていない場合は、このダイアログは表示されません。

7. 「ダイヤルする電話番号」画面で、製品に接続されているモデムの電話番号(必要であれば国番号や市外局番をつけること)を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
8. 「新しい接続ウィザードの完了」画面で、「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」のチェックボックスにチェックを入れて、「完了」ボタンをクリックしてください。

以上で接続に必要なセットアップは完了です。PPP 接続で製品にアクセスする場合は、デスクトップに作成したショートカットアイコンをダブルクリックしてください。

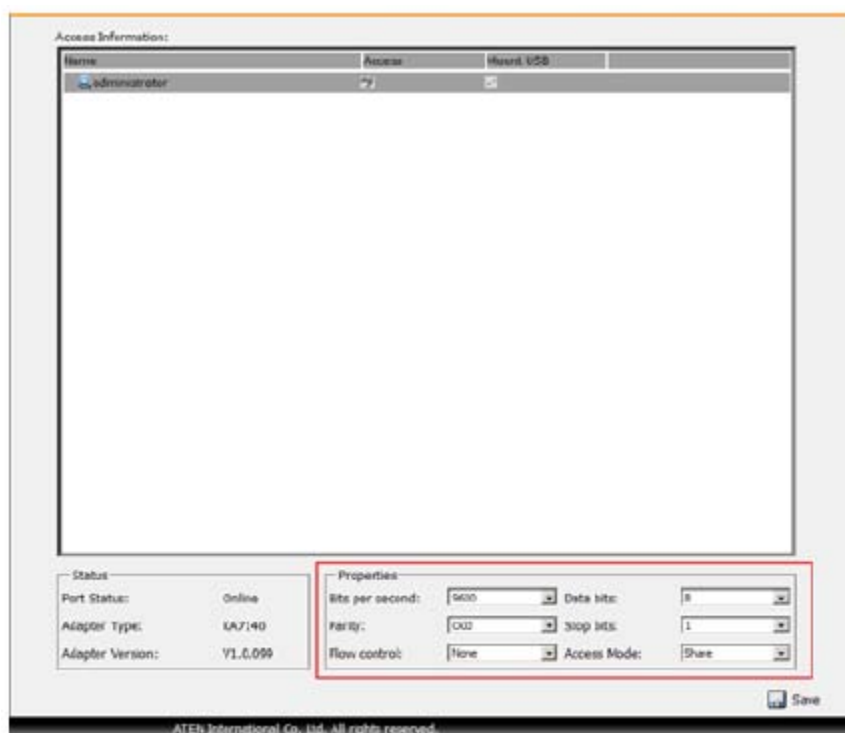
KA7140 の設定および操作

KA7140 は製品とシリアルデバイスの接続に使用するコンピューターモジュールです。

設定方法

KA7140 を使ってシリアルデバイスを接続する場合は、そのシリアルデバイスのパラメーターと同じ値を製品側で設定する必要があります。以下の手順に従って設定を行ってください。

1. 「Port Access」タブのサイドバーで、KA7140 が接続されているポートを選択し、右クリックしてください。
2. メニューバーから「Access」メニューを選択してください。



3. 「Properties」セクションで、各リストをドロップダウンさせ、接続されているシリアルコンソールデバイスで使用している値になるようにポートプロパティの値を選択してください。KA7140 で設定できるポートプロパティの項目は下表のとおりです。

項目	説明
Bits per second (Baud Rate)	ポートのデータ転送速度を設定します。ドロップダウンで提供している 300～38400 の範囲の項目のうち、お使いのシリアルコンソールデバイスの環境に適した値を選択してください。デフォルトでは 9600 に設定されています。(この値は大半のシリアルコンソールデバイスにおける基本的な設定値です。)
Data Bits	データ 1 文字を転送する際に使用するビット数を設定します。お使いのシリアルコンソールデバイスのデータビットの設定に合うように、7 または 8 を設定してください。デフォルトでは 8 に設定されています。(この値は大半のシリアルコンソールデバイスでのデフォルト値として設定されています。)
Parity	転送されたデータの整合性を確認する際に、この項目で設定されたパリティビットを使用します。設定できる値は、「None」、「Odd」、「Even」です。お使いのシリアルコンソールデバイスの環境に適した値を選択してください。デフォルトでは「Odd」に設定されています。
Stop Bits	文字が転送されたことを表すストップビットを設定します。お使いのシリアルコンソールデバイスのストップビットの設定に合うように、1 または 2 を設定してください。デフォルトでは 1 に設定されています。(この値は大半のシリアルコンソールデバイスでのデフォルト値として設定されています。)
Flow Control	データフローの制御方法を設定します。設定できる値は、「None」、「Hardware」、「XON/XOFF」です。お使いのシリアルコンソールデバイスの環境に適した値を選択してください。デフォルトでは「None」に設定されています。 注意:「None」はボーレートが 9600 以下に設定されたときにのみ有効な値です。ボーレートが 9600 を超える値に設定されている環境では、この項目を「Hardware」、または「XON/XOFF」に設定してください。
Access Mode	シリアルコンソールデバイスのアクセスモードを設定します。設定できる値は、「Share」、「Occupy」、「Exclusive」です。デフォルトでは「Share」に設定されています。この機能に関する詳細は p.124「Access Mode」をご参照ください。

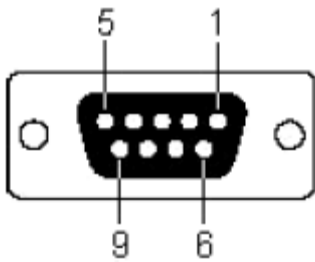
4. 各項目の設定が終わったら、「Save」ボタンをクリックしてください。

操作方法

ポートに接続されたデバイス进行操作する場合は、「Port Access」タブでそのポートをダブルクリックし、ポートが切り替わったらそのデバイス呼び出すコマンドを実行してください。

KA7140 ピンアサイン

KA7140 のピンアサインの詳細は下表のとおりです。

ピン	ピンアサイン	
1	DCD	 DB9 ピン メス
2	RXD	
3	TXD	
4	DTR	
5	GND	
6	DSR	
7	RTS	
8	CTS	
9	N/A	

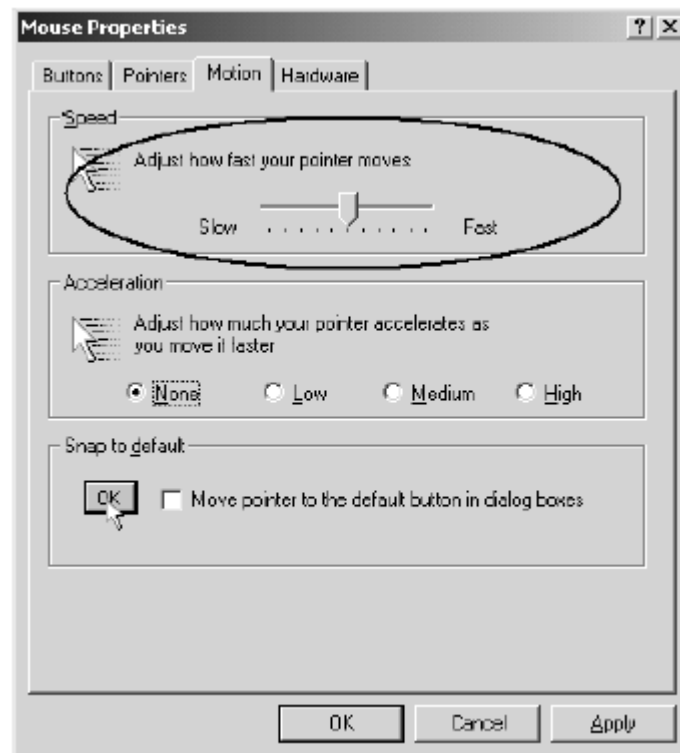
その他のマウス同期方法

手動でマウスを同期させた場合は、製品に接続されているリモートサーバーで以下の操作を実行する必要があります。

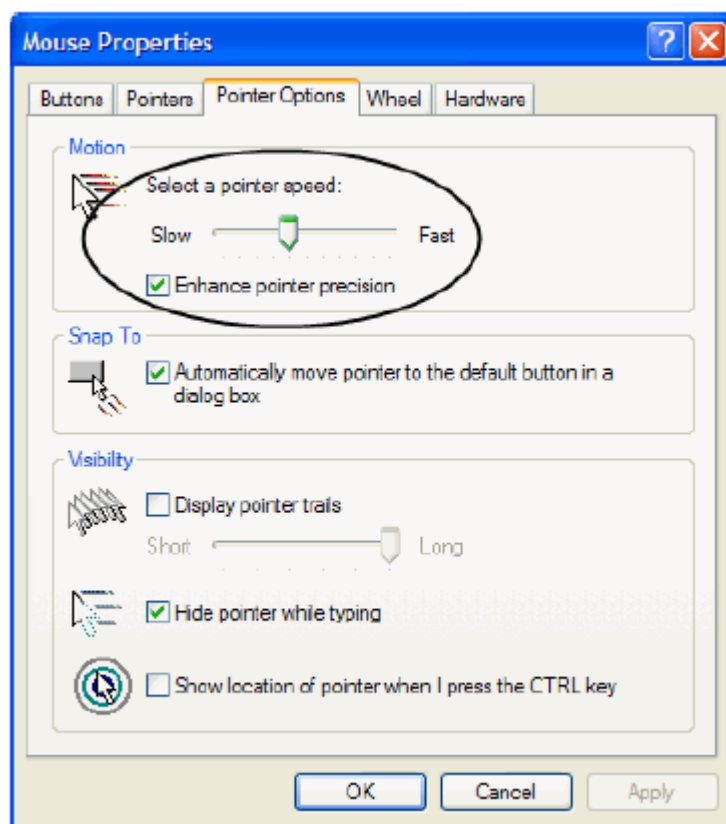
-
- | | |
|------------|--|
| 注意: | <ol style="list-style-type: none">1. 以下の操作は、製品のポートに接続されているコンピューター側で実行してください。このコンピューターは、製品へのアクセスに使っているコンピューターとは異なりますので、ご注意ください。2. ローカルおよびリモートのマウスを同期させる場合は、Microsoft の OS に付属されているマウスドライバを使用する必要があります。従って、マウスに付属されているドライバー等サードパーティーのドライバーを使用している場合は、これを削除しなければなりません。 |
|------------|--|
-

Windows

1. Windows2000 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、以下の手順で設定を行ってください。
 - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログを表示してください。([コントロールパネル]→[マウス]→[マウスのプロパティ])
 - b) 「マウスのプロパティ」ダイアログから、「動作」タブを開いてください。
 - c) マウスの速度のスライダーを中間に移動させてください。
 - d) 「ポインタの加速」で、「いいえ」のラジオボタンを選択してください。



2. Windows XP または Windows Server 2003 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、以下の手順で設定を行ってください。
 - e) 「マウスのプロパティ」ダイアログを表示してください。([コントロールパネル]→[マウス])
 - f) 「ポインタオプション」タブを開いてください。
 - g) マウスの速度のスライダーを中間に移動させてください。
 - h) 「ポインタの精度を高める」の項目のチェックを外してください。



3. Windows ME がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、マウスの速度を中間に設定し、マウスの加速機能を無効にしてください。(この設定を行う場合は、ダイアログから「詳細…」ボタンをクリックする必要があります)
4. Windows NT、Windows 98 または Windows 95 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、マウスの速度を中間に設定してください。

Sun/Linux

ターミナルセッションを開き、以下のコマンドを実行してください。

Sun の場合: `xset m 1`

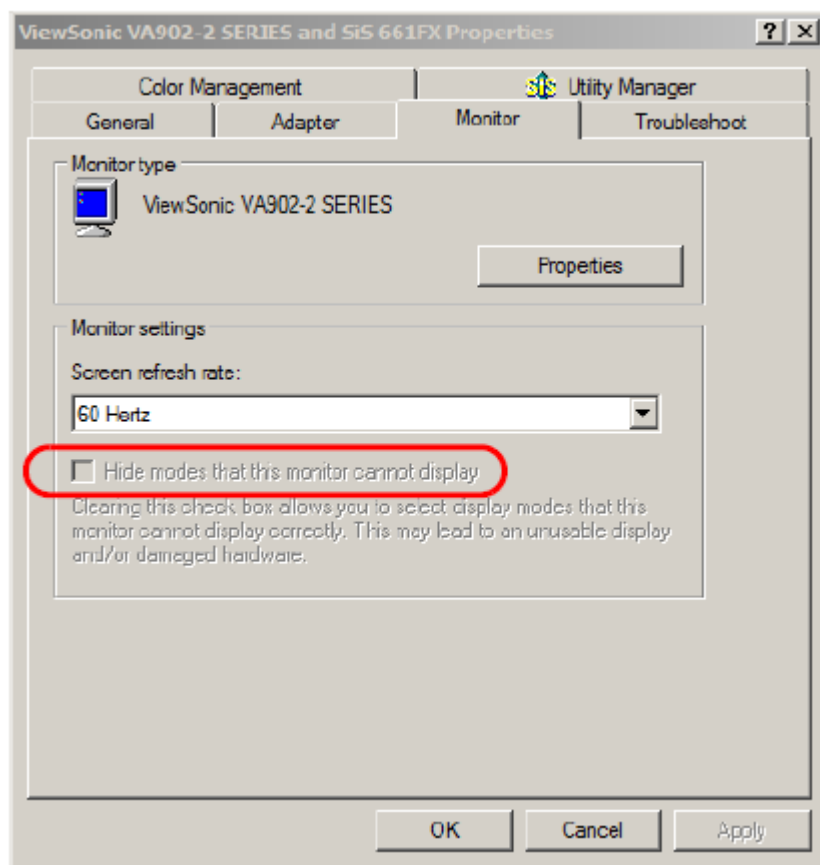
Linux の場合: `xset m 0`

Linux (Red hat AS3.0 マウスモードを使用) の場合: `xset m 1`

その他のビデオ解像度の設定

Windows がインストールされたコンピューターをお使いで、なおかつ、特殊なリフレッシュレートに設定してご利用になる場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1. [コントロールパネル]→[画面]→[設定]→[詳細設定]→[モニタ]を開いてください。
2. 表示されたダイアログで、「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックボックスにチェックが入っていないことを確認してください。



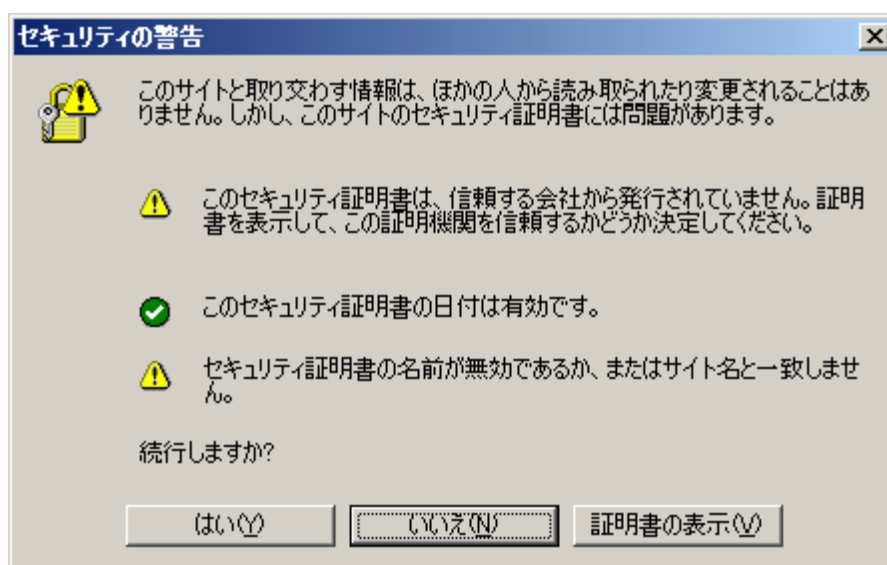
3. 「画面のリフレッシュレート」リストの右端の矢印ボタンをクリックして、お使いの環境で使用するリフレッシュレートをリストから選択してください。

注意: 選択されたリフレッシュレートがお使いのモニターで対応していることをご確認ください。サポート外の解像度を選択すると、お使いのモニターに深刻なダメージを与えることがあります。

信頼された証明書

概要

ブラウザ経由で製品にログインすると、以下のようなセキュリティ警告ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



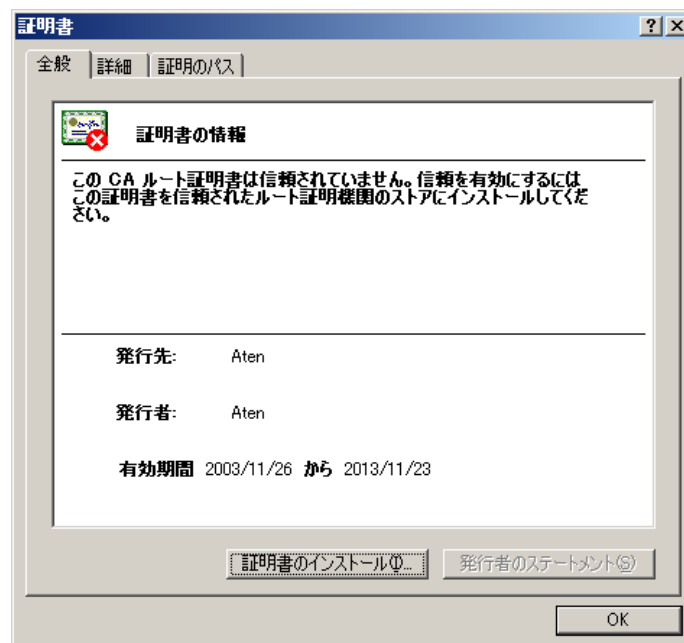
この証明書は信頼できるものですが、証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログが表示されます。このダイアログには以下のいずれかの方法で対応してください。

- 1) ダイアログの警告を受け入れず、「Yes」ボタンを押して、処理を続行する。
 - 2) 証明書をインストールし、信頼できるものと認識させる。
- ◆ 別のユーザーのコンピューターから操作している場合は「Yes」ボタンを押して、この証明書を現在のセッションのみ受け入れてください。
 - ◆ ご自身のコンピューターから操作している場合は、証明書をお使いのコンピューターにインストールしてください。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。方法の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

証明書のインストール

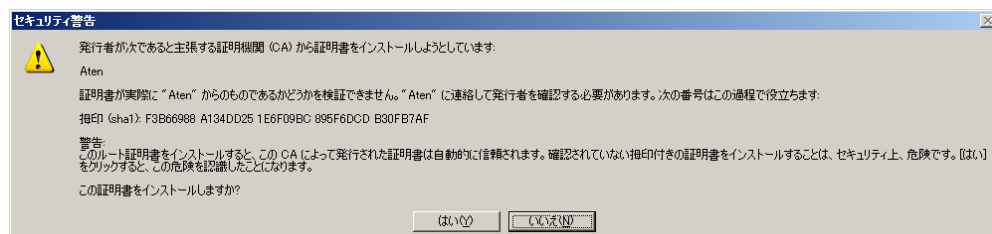
証明書のインストールは以下の手順で作業してください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「**証明書の表示**」ボタンをクリックします。これをクリックすると以下のような「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



注意: 上図内の赤い枠で囲まれている「×」の印は、この証明書は信頼できないと認識されていることを表しています。

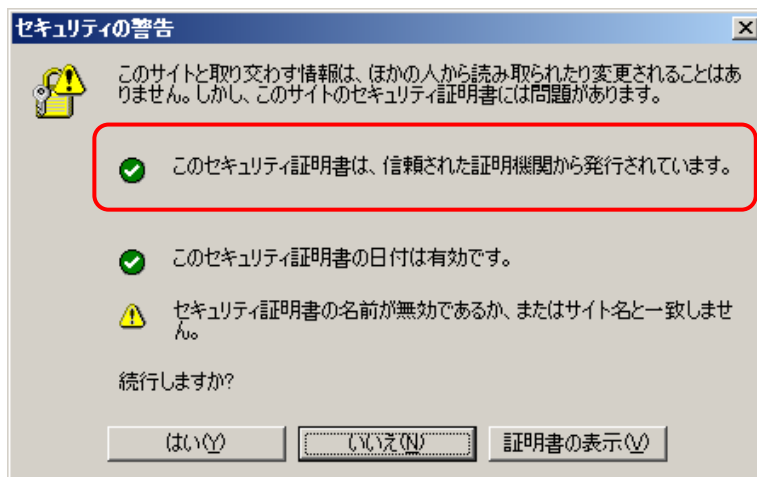
2. 「**証明書のインストール**」ボタンをクリックします。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めていきます。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールをしてください。
4. 以下のような警告ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンを押してください。



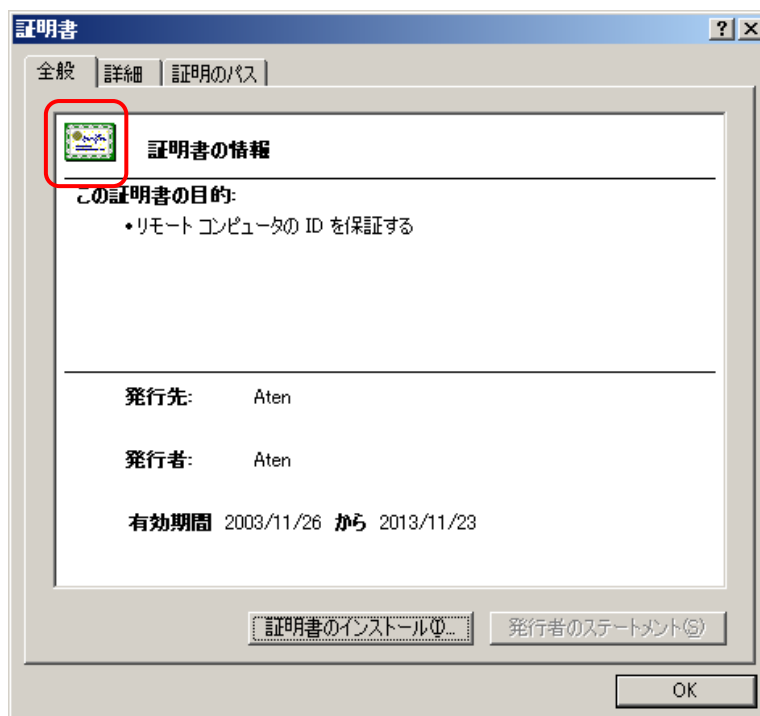
5. ダイアログから「**完了**」ボタンを押してインストール作業を完了させてください。「OK」ボタンを押すとダイアログが閉じられます。

証明書のインストール完了

この作業により、証明書は信頼できるものに変更されました。



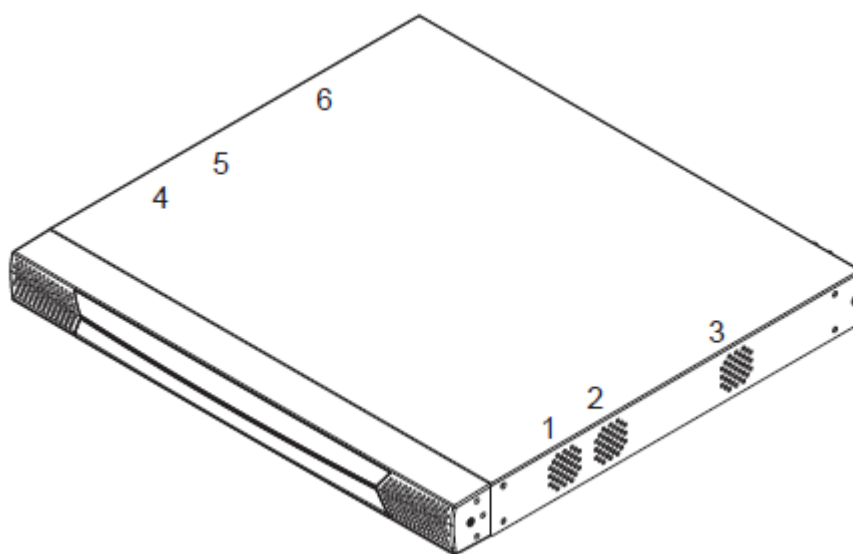
「証明書の表示」ボタンをクリックすると、インストール前に見られた「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



ファンの位置と速度

ファンの位置

本製品にはファンを6基搭載し、ファンスピードに関する情報を、リアルタイムで Windows クライアント/Java クライアントの「Device Management」タブに表示します。



上図が示しているファンの位置(1～6)は、「Device Management」タブの「Device Information」メニューにおける「Fan Speed」で表示される番号に対応しております。詳細は p.168 をご参照ください。

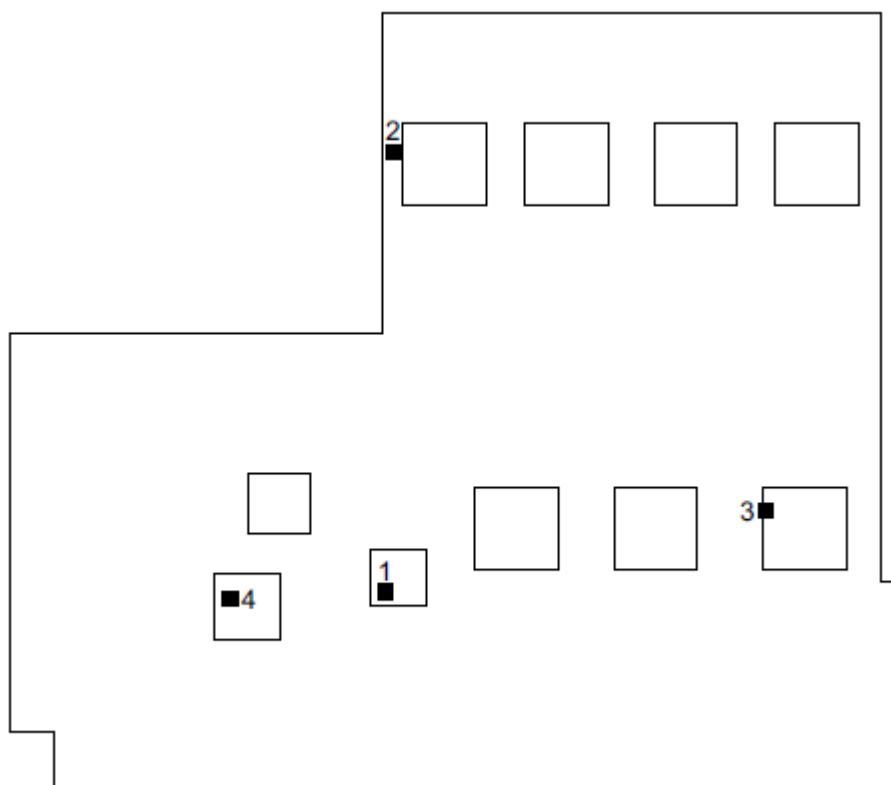
ファンの速度

ファンの速度は計測された温度によって自動的に調節されます。以下は、その調節方法です。

- ◆ 計測温度が 32℃を超えるセンサーが 1 つ以上ある場合、全ファンはフルスピード時の 50%の速度で回転します。
- ◆ 計測温度が 45℃を超えるセンサーが 1 つ以上ある場合、全ファンはフルスピードで回転します。
- ◆ 全センサーの計測温度が 40℃を下回った場合、全ファンはフルスピード時の 50%の速度で回転します。
- ◆ 全センサーの計測温度が 30℃を下回った場合、全ファンは停止します。

温度センサーの位置

本製品は、メインボードに温度センサーを 4 基搭載し、このセンサーで計測した温度はリアルタイムで Windows クライアント/Java クライアントの「Device Management」タブに表示されます。



上図が示しているセンサーの位置(1～4)は、「Device Management」タブの「Device Information」メニューにおける「Temperature」で表示される番号に対応しております。詳細は p.171 をご参照ください。

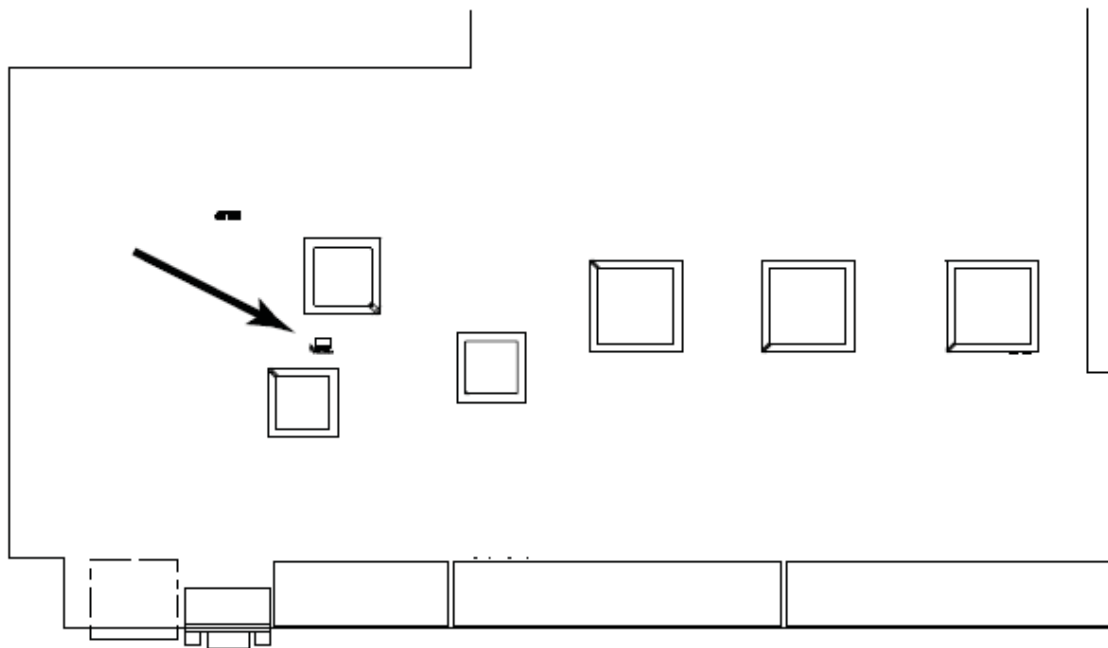
ログイン情報の消去

ユーザーネームやパスワードを忘れた等の理由でアドミニストレーターとしてログインできなくなった場合は、以下の方法でログイン情報を消去することができます。

注意： 以下の操作を行うと、すべての設定項目が工場出荷時のデフォルト値に戻ってしまいますので、ご注意ください。

ログイン情報をクリアし、すべての設定項目を工場出荷時のデフォルト値に戻す場合は、以下の手順で操作してください。

1. 製品の電源を切り、本体のケースを外してください。
2. ジャンパーキャップを使ってメインボード上の「J23」と記載されているジャンパーをショートさせてください。



3. 製品に電源を入れてください。

4. リンク LED ランプ、10/100 Mbps LED ランプがそれぞれ点滅したら、製品の電源を切ってください。
5. J23 のジャンパーからジャンパーキャップを外してください。
6. ケースを本体に取り付け、製品に電源を入れてください。

製品に電源が入ると、デフォルトのアドミニストレーターのユーザーネームとパスワードでログインできるようになります。(p.56 参照)

工場出荷時のデフォルト設定

OSD メニューの各項目の工場出荷時におけるデフォルト値は以下の通りです。

設定	デフォルト値
Language	英語
OSD Hotkey	[Scroll Lock]キー2 度押し
Port ID Display	ポートナンバー + ポートネーム
Port ID Display Duration	3 秒
Scan/Skip Mode	すべて
Scan Duration	5 秒
Screen Blanker	0 分（無効）
Beeper	ON
Viewer	自動検出
Welcome Message	非表示
Accessible Ports	◆ スーパーアドミニストレーター - 全ポートに対しフルアクセス ◆ その他のユーザー - 全ポートに対しアクセス不可

シリアルアダプターのピンアサイン

SA0142 : RJ-45 メス - DB9 オス(黒) DTE - DCE

スイッチ (RJ-45)	ピン(8)		モデム/デバイス (DB9)
RTS	1	⇔	7
DTR	2	⇔	4
TXD	3	⇔	3
CTS	4	⇔	8
GND	5	⇔	5
RXD	6	⇔	2
DCD	7	⇔	1
DSR	8	⇔	6
9 NC 未使用			

対応 KVM スイッチ

本製品には以下の機種をカスケード接続して使用することができます。

- ◆ KH88
- ◆ KH98
- ◆ KH1508
- ◆ KH1516
- ◆ CS-9134
- ◆ CS-9138

注意: 製品は 3 段階以上のカスケード接続には対応していません。

バーチャルメディア対応

Windows クライアント (Web ブラウザ版、アプリケーション版共通)

- ◆ IDE CD-ROM/DVD-ROM ドライブ - 読取専用
- ◆ IDE ハードディスクドライブ - 読取専用
- ◆ USB CD-ROM/DVD-ROM ドライブ - 読取専用
- ◆ USB ハードディスクドライブ - 読込/書込対応
- ◆ USB フラッシュメモリ - 読込/書込対応
- ◆ USB フロッピードライブ - 読込/書込対応

* これらのドライブは、ドライブまたはリムーバブルディスクとしてマウントすることができます。(p.102「Virtual Media」参照) リムーバブルディスクとしてマウントした場合、そのディスクにブート可能な OS が含まれていれば、そこからリモートサーバーをブートすることができます。さらに、そのディスクが複数のパーティションに分かれている場合は、リモートサーバーはすべてのパーティションにアクセスすることもできます。

- ◆ ISO ファイル - 読取専用
- ◆ フォルダー - 読込/書込対応

Java クライアント (Web ブラウザ版、アプリケーション版共通)

- ◆ ISO ファイル - 読取専用
- ◆ フォルダー - 読込/書込対応